

(春)	全学総合講座（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）	担当者	青柳 多恵子
講義目標		授業計画	
「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史の変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生みより進化発展してきたといえる。 現代では、科学技術の発達が大きく生活を変容させている全世界的に問題化されている「食」の安全・安心が個人の判断を超えたところに存在し、「食」作ることから「食」を買う時代になりつつあることが、今一度「食文化」として伝承されてきたことを検証してみることが必要と思われる。		① 4/7 青柳多恵子「ガイダンス：食のもたらす意味」 ② 4/14 後藤加寿子「茶道と懐石料理」 ③ 4/21 講師未定「和菓子と行事」 ④ 4/28 井上一郎「インドのカレー・日本のカレー」 ⑤ 5/12 講師未定「食の安全・栄養と疾病・食材の自給率」 ⑥ 5/19 戸邊秀明「食文化から見える沖縄の歴史：『長寿県沖縄』の危機はなぜ起こったか？」 ⑦ 5/26 柳原一成「日本料理の膳組と作法：日本料理の彩り」 ⑧ 6/2 朝倉敏夫「韓国人と食」 ⑨ 6/9 講師未定「現代日本の食育について：味覚の育成と家庭料理」 ⑩ 6/16 辻 康吾「中国の食文化の影響」 ⑪ 6/23 高橋 敏「近世食をめぐる社会史：江戸のグルメ」 ⑫ 6/30 和田 智「災害時の食・安全・健康・自給率」 ⑬ 7/7 講師未定：「現代日本の食育について：給食の影響（栄養とマナー）」 ⑭ 7/14 青柳多恵子「まとめ」	
講義概要		人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多様な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学を生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかつては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。	
受講生への要望		テーマと講義順については、変更の可能性あります。	
評価方法			
毎回調査アンケート。 出席重視			
テキスト、参考文献			
プリント適宜配布			

(秋)	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	青柳 多恵子
講義目標		授業計画	
「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史の変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。		① 9/29 青柳多恵子「ガイダンス：動物の食と人間の食事の違い」 ② 10/6 磯淵 猛「食と茶の文化伝導」 ③ 10/13 後藤加寿子「食事作法の背景にあるもの」 ④ 10/20 井上一郎「香辛料の歴史と食文化」 ⑤ 10/27 講師未定「子どもと食」 (2008年度講師：葛 恵子) ⑥ 11/10 佐藤勘治「トルティーリャかパンか？：メキシコにおける食の歴史」 ⑦ 11/17 講師未定「暮らしと時代変容」 (2008年度講師：高橋 敏) ⑧ 11/24 講師未定「発酵食品の意義」 (2008年度講師：柳原尚之) ⑨ 12/1 辻 康吾「中国の食と文化」 ⑩ 12/8 講師未定「故郷の家庭料理と地域の食材」 ⑪ 12/15 講師未定「最近話題となった食の安全を考える」 ⑫ 12/22 和田 智「食と体のエコロジー」 ⑬ 1/12 青柳多恵子「まとめ」	
講義概要			
人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多様な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかつては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。		テーマと講義順については、変更の可能性があります。	
受講生への要望			
我が家の味・おふくろの味を調査（写真・レシピ）を提出			
評価方法			
毎回調査アンケート。 出席			
テキスト、参考文献			
プリント適宜配布			

(春)	全学総合講座 (獨協学)	担当者	新井 孝重
講義目標		授業計画	
「獨協学」は獨協学園の歴史を学ぶ講座である。学園は時代の変遷のなかで、幾多の試練に耐えて 120 年余の歴史を重ね、総じて教育の大道を歩んできた。 この講座の聴講を通じ、学生諸君が自己の学ぶ学園の歴史とその社会的地位を把握し、もって獨協大学で学ぶことの意味や、未来にむかう自己の可能性についての展望を得ることを願っている。		1 「獨協学」についてのガイダンス 新井孝重(経済学部経済学科教授) 2 法律学校としての獨逸学協会学校 担当：新宮譲治(元非常勤講師) 3 西周と加藤弘之 ——明六社(明治啓蒙思想家の組織)に参加していた二人の校長 担当：新宮譲治 4 専修科廃止後、市民的広がりを遂げた獨逸学協会学校 担当：新宮譲治 5 大村仁太郎校長の先駆的教育論 (その 1) 担当：新井孝重 6 同 (その 2) 担当：新井孝重	
講義概要		7 獨協とナチス ——ヒトラーユーゲント来校の頃 担当：新宮譲治 8 天野貞祐の校長就任から獨協大学創設の頃 担当：新宮譲治 9 獨協学園と自由学園——天野教育の二つの現場 担当：雪山伸一(元朝日新聞ボン支局長) 10 天野貞祐 Who?——思想をどう生かすか 担当：雪山伸一 11 特別講義 「日本近現代の私学——獨協を中心に」 担当：寺崎昌男(東京大学名誉教授) 12 獨協大学創立期の回顧 担当：下川 浩(外国語学部ドイツ語学科教授)	
受講生への要望		13 獨協大学の教育理念——教養主義について 担当：新井孝重	
評価方法		14 シンポジウム 「天野理念を現代社会にいかにかすか」 司会：新井孝重 講師：下川浩・新宮譲治・雪山伸一	
テキスト、参考文献		『目でみる獨協百年』(獨協学園)。 『獨協学園史 1881-2000』(獨協学園)。 堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。 新宮譲治『獨逸学協会学校の研究』(校倉書房)。 (上記文献は図書館に所蔵)、その他「講義のレジュメ」。	

(春) (秋)	全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)	担当者	有吉 秀樹
講義目標		授業計画	
皆さんは、大学という場をどのように捉えているだろうか。高校までは、考査や模擬試験、受験勉強に代表されるように、与えられた正解をどれだけ多く覚えているかが試されてきた。しかし社会人は、正解が必ずしも一つではない、あるいは正解を誰も知らないような応用問題の連続である。そのように考えると、大学は決して「高校の延長」などではなく、むしろ、「社会への入り口」と考えられるはずである。本講座を受け、各分野で活躍する社会人の諸先輩の講話を通して、自分が将来社会人になるにあたって必要な要素は何か、そのためには大学生活をどのように送るべきなのかを考えてもらいたい。		1. オリエンテーション 2. 企業で働く (企業が学生に求めるもの) 3. 公共部門で働く (教員・公務員・NPO) 4. 男女共同参画社会 5. 労働市場と雇用はどのように変化してきたか 6. ベンチャー企業を起業する 7. 正社員とフリーター 8. 仕事と適性 (仕事をどのように選ぶか) 9. 自己理解・自己表現 10. 社会の求める人材とは (グローバルに活躍できる社会人になるために) 11. 活躍する OB・OG 12. 仕事と私事 13. キャンパスライフと仕事 (内定者によるパネルディスカッションを予定) 14. まとめ 都合により、講義の順番が変わることがあります。	
講義概要			
上記に同じ			
受講生への要望			
受講生のために大切な時間を割いて来校される社会人の方に失礼のないような行動をとること			
評価方法			
出席と必要があればレポートを課すこともある			
テキスト、参考文献			
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。講義の中で参考文献を紹介することもある。			

(春)	全学総合講座(環境学1)(環境基礎学－自然を見つめる)	担当者	環境共生研究所提供講座 犬井 正
講義目標		授業計画	
20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホール拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。 本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。		1. 環境とは何か 2. 最近の地質時代の環境変動 3. 海水面変化と地盤運動 4. 平野の形成 5. 地表プロセスと災害 6. 土壌の生成と人為的改変 7. 地球大気の構造 8. 大気とエネルギー循環 9. 気候の時間・空間スケール 10. 気候環境の地域性 11. 植物とエネルギー循環 12. 植物分布と地理的環境 13. 植物と動物 14. 人類と環境	
講義概要			
春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について検討する。 本講座は、環境共生研究所長経済学部犬井正教授がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員加藤国際教養学部教授および松本経済学部非常勤講師（元筑波大学地球科学系教授）ほかが担当する。			
受講生への要望			
環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。			
評価方法			
定期試験と出席状況を総合的に評価します。 なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。			
テキスト、参考文献			
各担当教員より指示されます。			

(秋)	全学総合講座（環境学2）（環境応用学－環境と社会）	担当者	環境共生研究所提供講座 犬井 正
講義目標		授業計画	
20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホール拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。 本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。		1 地球・地域環境問題の諸相（1） 人口と食糧 2 地球・地域環境問題の諸相（2） 大気汚染と酸性雨 3 地球・地域環境問題の諸相（3） 熱帯林の破壊 4 地球・地域環境問題の諸相（4） 地球温暖化 5 地球・地域環境問題への対応 環境経済・政策（1） 6 地球・地域環境問題への対応 環境経済・政策（2） 7 地球・地域環境問題への対応 企業と環境 8 地球・地域環境問題への対応 環境と法 9 地球・地域環境問題への対応 環境教育 10 地球・地域環境問題への取り組み（1） 11 地球・地域環境問題への取り組み（2） 12 地球・地域環境問題への取り組み（3） 13 地球・地域環境問題への取り組み（4）	
講義概要			
秋学期は、地球・地域環境問題の現状とそれに対するさまざまな主体の対応を具体的に検討するとともに、環境共生社会へ向けた具体的な取り組みについて検討する。 本講座は、環境共生研究所研究長経済学部犬井正教授がコーディネーターとする、環境共生研究所研究員および何人かの外部講師による連続講義である。			
受講生への要望			
環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。			
評価方法			
定期試験に出席状況を総合的に評価します。 なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。			
テキスト、参考文献			
各担当教員より指示されます。			

(春)	全学総合講座（多文化社会のメディア・リテラシー）	担当者	岡村 圭子
講義目標		授業計画	
現代社会は多メディア社会と言われている。なおかつ、さまざまな文化が混在する社会（多文化社会）でもある。そこで生きる私たちは、つねに膨大な量の情報に囲まれており、そのなかから自分に必要な情報を取捨選択し、自分なりにその情報を解釈していかなければならない。なおかつ、自分自身もまた情報の発信者であることも忘れてはならない。 そういった状況のなかで私たちがメディアに接するとき、絶えず考えておくべきことは何か？ どのようにメディアを使いこなせばよいのだろうか？ マスメディア業界ではいまなにが問題になっているのか？ なぜ、今メディア・リテラシーについて考えなくてはならないのか？ これらの問いには明確な答えはないかもしれない。しかし、そう問いかける営みこそが、他者とともに生きる社会をみつめ、大学生としての「知」のあり方を考える絶好の機会となる。その機会を提供するのが本講義の大きな目標である。		1. オリエンテーション 岡村圭子 2. インターネット利用とメディア・リテラシー 立教大学大学院 首藤天信 3. テレビにおけるトランスジェンダーと表象(1) 早稲田大学ジェンダー研究所客員研究員 三橋順子 4. テレビにおけるトランスジェンダーと表象(2) 同上 5. 広告からメディアを読み解く(1) ——ブームは『見えない広告』で作られる マーケティング・プランナー 谷村智康 6. 広告からメディアを読み解く(2) ——メディアを『金儲けのしくみ』として透かしてみる 同上 7. メディア産業と表現の自由(1) ——日英比較 NHK と BBC をとおして ジャーナリスト 島賀陽弘道 8. メディア産業と表現の自由(2) ——「自発的」規制について考える 同上 9. 国際協力とメディア ——報道されない人道危機 MSF（国境なき医師団）関係者 10. ドキュメンタリーという手法 ——世界を信じるためのメソッド ドキュメンタリー作家 森 達也 11. ドキュメンタリー制作とメディア産業 ——自由な「知」の崩壊 同上 12. 「報道番組」制作の現場から フジテレビ番組制作部 「とくダネ」チーフプロデューサー 宗像 孝 13. 情報化時代の国際NGO ——グローバルな人権問題の解決にむけたアドボカシー 国際NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ 日本駐在員・弁護士 土井香苗 14. まとめ——大学生にとってのメディア・リテラシー	
講義概要		本講義では、できるだけ多様な視点・論点からメディア・リテラシーについて考えてみたい。 それぞれまったく異なった経歴を持つ講師たちが、それぞれの立場・観点から、またそれぞれのご経験をもとに「多文化社会におけるメディア・リテラシー」について講義する。履修者は、講師の語ることのなかから、現代社会のメディアの姿をとらえ、それを使いこなすにはどうすればよいのか、身近な問題として考えていってほしい。とくに、かれらがどのように現代のメディアを、またその将来を考えているのか、かれらにとっての「メディア・リテラシー」とはなにか、学生になにを伝えようとしているのかについて、しっかりと耳を傾けたい。	
受講生への要望		① 受講にあたっての諸注意や課題の説明があるので、第1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。 ② 講師の方々は皆、激務の合間をぬってわざわざ足を運んでくださるということを忘れないように。	
評価方法		2～13に関しては、講師の都合で順番が入れ替わることもあります。	
出席と期末試験			
テキスト、参考文献		第1回目のオリエンテーションでリストを配布する。 受講前に各講師からの課題図書を読んでおくこと。	

(春)	全学総合講座(経営者が語る現代企業論 1)	担当者	上坂 卓郎
講義目標		授業計画	
この講義は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。 この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て「働くことを通じて社会に貢献することとは何か」をつかんでもらうことも意図している。 なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの少ない外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。		第1回 科目ガイダンス 経営者とは 第2回 会社のしくみ 第3回 トヨタの強みーカンバン方式とは 第4回 農場から食卓まで一食の安全を求めて 第5回 医療産業の難しさ・面白さー日本製薬企業のビジョンと課題 第6回 花王の成長戦略ーアジェンダ成功の秘密 第7回 ファッションビジネスとはーアパレル産業の周辺 第8回 リース業と不動産ビジネスの概要 第9回 日本の海運業 第10回 国際物流の現場 第11回 アサヒビールの海外事業戦略 第12回 精密電子部品の世界 第13回 保険ビジネスとは 第14回 帝人の国際戦略 オランダでのビジネスの実際 注意・・・開講日程は前後することがある。第1回ガイダンスで説明するのでかならず出席すること	
講義概要			
講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれる。 1年生でも理解できるように平易な説明が行われるが、講義と平行して企業を勉強し理解を深めることを期待する。 毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。 講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。			
受講生への要望			
・ 「ものづくりの現場、ものづくりの現場 1」の受講者は受講できない ・ 1年でもよいが出来れば2年次以降の受講がベター ・ 15分以上の遅刻は認めない ・ ノートを必ずとること。試験に不可欠である ・ 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する			
評価方法			
出席状況 (1/3) と定期試験 (2/3) を総合して行う。追試、レポートはないので4年生は注意すること			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する）。			

(秋)	全学総合講座(経営者が語る現代企業論 2)	担当者	上坂 卓郎
講義目標		授業計画	
経営者が語る現代企業論 1 に続く講義である。講師は春学期とは異なる この講座は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て「働くことを通じて社会に貢献することとは何か」をつかんでもらうことも意図している。		第 1 回 科目ガイダンス、会社で働くこととは 第 2 回 外食産業の動向ーレストランビジネスの現状と課題 第 3 回 ヤマト運輸躍進の背景 第 4 回 ブリヂストン強さの秘密 第 5 回 鉄鋼業界ー原料確保の世界戦略 第 6 回 目覚める巨大産業ーツーリズムと航空ビジネスの課題 第 7 回 信託銀行のすべて 第 8 回 総合商社からみた日米経営比較 第 9 回 出版業界の最近の動向ー売れる本の作り方 第 10 回 総合スーパー イトーヨーカ堂の強さ 第 11 回 IT 社会におけるリスクマネジメント 第 12 回 非鉄金属のリサイクルビジネスーアルミ缶リサイクル 第 13 回 銀行のすべて 第 14 回 秋学期のまとめ 注意・・・開講日程は前後することがある。第 1 回ガイダンスで説明するのでかならず出席すること	
講義概要			
講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。 1 年生でも理解できるように平易な説明が行われるが、講義と平行して企業を勉強し理解を深めることを期待する。 毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。 講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。			
受講生への要望			
・ 「ものづくりの現場、ものづくりの現場 2」の受講者は受講できない ・ 1 年でもよいが出来れば 2 年次以降の受講がベター ・ 15 分以上の遅刻は認めない ・ ノートを必ずとること。試験に不可欠である ・ 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する			
評価方法			
出席状況 (1/3) と試験 (2/3) を総合して行う。追試、レポートはないので 4 年生は注意すること			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する）。			

(春)	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村 肇
講義目標		授業計画	
教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。 また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。		第0回 ガイダンス 第1回 ビデオ『星空の中学生とともに』鑑賞（川村） 第2回 学校という職場・教師という仕事 第3回 草加の小学生（小学生の文化活動） 第4回 草加の中学生（合唱祭の取り組み） 第5回 草加の高校生（三者協議会） 第6回 父母との関わり合い（小学校） 第7回 社会科を教える 第8回 英語を教える 第9回 小学校の集団づくり（一年間の構想） 第10回 中学校の集団づくり 第11回 いじめと不登校 第12回 生徒の自治 第13回 まとめ（川村）	
講義概要			
教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。 お招きするのは、埼玉県の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生を予定しています。総勢10名の先生方を予定しています。 それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。 みなさんの考える素材を提供する科目にしたいと考えています。			
受講生への要望			
教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。 積極的、意欲的に参加してください。			
評価方法			
毎回の授業レポート（学んだこと、10行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4判用紙で2～4枚）と併せて評価します。			
テキスト、参考文献			
テキストは使用しません。代わりに毎回、資料を配付します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。			

(秋)	全学総合講座(平和と人権ーアジア地域の紛争と私たち)	担当者	古関 彰一
講義目標		授業計画	
アジアを中心に最近の戦争・紛争そして平和構築の現状を講師から報告していただくことによって、私たちが、現状をどうとらえ、何をしなければならないのかを考えることを目標にします。		ビルマ（ミャンマー）、アフガニスタン、東チモール、カンボジア、イラク、スリランカ、日本（中国残留孤児、難民認定）などの現状を新聞記者、NGO、弁護士、研究者に報告して頂きます。 （現時点で、おいでいただく講師の方々と日程を確定することは困難ですので、最初の授業で担当者が、日程の入った授業計画を配布します）	
講義概要			
毎回、アジアを中心に戦争、紛争そして平和構築の現状を調査し、取材し、あるいは平和構築に参加されてきた方々を講師に招き、講義して形式で授業を進めます。			
受講生への要望			
講師に方々は、忙しい中を、ときには遠路をお越しいただきますので、雑談、居眠りなどは堅く禁じます。約束を守れない受講生は教室から出ていただきます。			
評価方法			
出席と秋学期の終わりに課すレポートで評価します。			
テキスト、参考文献			
その時々指示します。			

(春)	全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）	担当者	斉藤 美彦
講義目標		授業計画	
アメリカのサブプライムローン問題に端を発する金融混乱は世界的に波及し世界金融危機といわれるようになってきた。危機は金融機関に留まらず実体経済にも及んでおり、日本経済も大きな影響を受けている。このような経済状況は雇用情勢にも大きな影響を与えており、派遣切り、正社員リストラ等のニュースが伝えられている。大学生においても内定取り消しも多くなってきている。 本講義においては労働をめぐる種々の問題について多様な切り口から接近し、私たちの暮らし・生き方と労働がどのように関わっているかについて考えていくこととする。		1. ガイダンス 斉藤美彦 2. 働くことの意味－労働観の変遷 全労済協会理事長 鷺尾悦也 3. 労働法の基礎知識（1） 上智大学名誉教授 花見 忠 4. 労使関係とは（1）－労働組合からみて 連合会長 高木剛 5. 労使関係とは（2）－経営からみて 元日本経団連専務理事 紀陸隆 6. 賃金・労働時間制度 全労済協会理事長 鷺尾悦也 7. 国際労働基準とILO ILO労働側理事（連合・国際代表）中嶋滋 8. 多様化する雇用制度 全労済協会理事長 鷺尾悦也 9. 労働法の基礎知識（2） 上智大学名誉教授 花見 忠 10. 労働安全衛生－メンタルヘルスを含む 中央労働災害防止協会理事長 澤田陽太郎 11. 社会保障のあり方 連合生活福祉局長 小島茂 12. 労働組合の役割 全労済協会理事長 鷺尾悦也 13. 公序・共助・自助 全労済協会理事長 鷺尾悦也 14. 働くための基礎知識（まとめ） 全労済協会理事長 鷺尾悦也	
講義概要			
講義は授業計画のとおり毎回ゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係者だけではなく、経営者団体代表・国際労働機関（ILO）代表・労働法学者と多彩な一流の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。			
受講生への要望		講義の順番は変更になることがある。	
労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、現在何が問題となっているかを自分なりに把握しておくこと。真摯な態度で受講すること。			
評価方法			
レポートによる。			
テキスト、参考文献			
各回の講義において指示する。			

(春)	全学総合講座 (現代世界論)	担当者	佐藤 勘治
講義目標		授業計画	
この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。 現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。		1 佐藤勘治： <u>総論 現代世界の歴史的的位置</u> (4/6) 2 酒井美直（ゲストスピーカー）：<u>アイヌレプルス代表 アイヌとして生きる選択</u> (4/13) 3 岡村圭子： <u>グローバル社会と文化</u> (4/20) 4 陳天璽（ゲストスピーカー）：<u>国立民族学博物館「無国籍」を生きるとは？</u> (4/27) 5 佐藤勘治： <u>南北アメリカの人種・先住民</u> (5/11) 6 臼井芳子： <u>日本における英語教育の未来</u> (5/18) 7 伊勢崎賢治（ゲストスピーカー）：<u>東京外国語大学 論題未定</u> (5/25) 8 工藤律子（ゲストスピーカー）：<u>ジャーナリスト「格差のない社会」は可能か？ 革命勝利50周年のキューバをみる</u> (6/1) 9 未定（ゲストスピーカー）： (6/8) 10 依田珠江： <u>社会的弱者のスポーツする権利</u> (6/15) 11 二宮哲： <u>ヨーロッパの言語政策</u> (6/22) 12 山中千恵（ゲストスピーカー）：<u>仁愛大学講師 東アジアにおける『はだしのゲン』</u> (6/29) 13 川村肇： <u>共和国という考え方と近代</u> (7/6) 14 松丸壽雄： <u>現代世界と私たち</u> (7/13)	
講義概要			
言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、哲学、言語学、歴史、社会学、平和構築など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。 ゲストスピーカーには、アイヌレプルス代表として音楽活動を始めた酒井美直氏、ラテンアメリカ、アジアを中心に幅広い取材経験をもつ工藤律子氏、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏、アフガニスタンの武装解除を指揮した伊勢崎賢治氏などを予定している。 なお、テーマと順番については、変更の可能性がある。			
受講生への要望			
各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。			
評価方法			
各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。			
テキスト、参考文献			
陳天璽『無国籍』（新潮社）2005年・工藤律子『子どもは未来の開拓者：ストリートチルドレンのいない国キューバ』（JULA出版局）2005年・伊勢崎賢治『武装解除－紛争屋が見た世界』（講談社現代新書）など			

(春)	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松 和幸
講義目標		授業計画	
この講義は、地域活性化をキーワードに、地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面、社会資源的な面などから視てのプログラムである。地域活性化システム論では、地域や街の潜在力とは何かについて考え、それぞれの取組を事例を含めて分かりやすく解説するとともに、各都道府県の市町村毎にどのような取組が行われているのか、いずれも地域の創意工夫にあふれた取り組みであり、それを支援するという意味では共通しており、それぞれの地域がこれらの枠組みを利用して、地域活性化のために活用することが期待して展開する。 本講義では、こうした取り組みについて、講師を招いて開催する。今後の地域活性化の方向が学べるように工夫している。		1. ガイダンス 高松和幸 2. 日本における特区の方向性 内閣府地域再生事業推進室企画官 木村俊昭 3. 起業家支援策 大田区 産業振興課 課長 石井芳明 4. 中心市街地の活性化 内閣官房 地域活性化総合本部 水谷朋之 5. 震災後の地域活性のための施策（仮題） 神戸防災技術者の会 片瀬範雄 6. 地域における NPO の役割 FUSION 長池 理事長 富永一夫	
講義概要		7. 世界の食料事情と環境との関係（仮題） 農林水産省大臣官房 食料安全保障課 課長 末松広行 8. 持続可能な“手法としての共通ポイント” サービス (株)サイモンズ 代表取締役 斉川 満 9. テーマ：未定 株式会社三井物産戦略研究所 業務管理室 園田正彦 10. 高齢者に優しいまちづくり 国土交通省 住宅局 総務課長 桑田俊一 11. 紙製飲料容器「カートカン」が、地球温暖化防止に貢献 森を育む紙製飲料容器普及協議会 チーフ・プロデューサー 世木田大介	
受講生への要望		12. ソーシャル・キャピタルについて (株)日本総合研究所 研究員 前田直之 13. 震災後の都市の復興について 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究主幹 博士 越山健治 14. テーマ：未定 埼玉県東京事務所長 加藤ひとみ	
評価方法		平常点（出席・質問など） 70% レポート 30%	
テキスト、参考文献		上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。	
その都度、指示する。			

(秋)	全学総合講座 (NPO 論一人を変える・地域を変える・世界を変える)	担当者	高松 和幸
講義目標		授業計画	
講義では、企業や NPO の社会貢献活動を中心に、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。 解題:「どのような状況(条件下)で企業とNPOのパートナーシップが崩れてしまうのか、逆にどのようにすれば不均衡な関係を脱することができるのか(良好な関係が維持できるのか)」 企業は、自社のCSR活動がもたらす戦略的な行為としてなされるべきではなく、公共的な空間(場)に根ざしたものとして追求される必要がある。		1. ガイダンス 高松和幸 2. テーマ:未定 川口市民防災ボランティアネットワーク 副代表 小田恒雄 3. 埼玉県のNPOの状況 さいたまNPOセンター 専務理事 越河澄子 4. 埼玉県の NPO 推進について 埼玉県県民生活部NPO活動推進課 副課長 沓澤俊夫 5. テーマ:未定 とよあしはら 事務局長 山本裕隆 6. テーマ:未定 大阪大学NPO研究情報センター研究員 奥山尚子 7. テーマ:未定 富士ゼロックス(株) CSR 部 端数倶楽部事務局長 清水あつ子 8. テーマ:未定 オペラ彩 和田タカ子 9. ちよだボランティアチケット 千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター 主任主事 宇治野和希 10. ふじみの国際文化センターの活動 ふじみの国際交流センター 理事長 石井ナナエ 11. 地球環境パートナーシッププラザ CSR・関東 EPO 事業担当 平田裕之 12. 企業人も地域社会との関わりを求めている 小中高校生世代向キャリア教育プログラムを通しての実践例から NPO法人 キーパーソン 21 代表理事 朝山あつこ 13. 企業から実施までのプロセスを通じた協働のあり方 NPO 法人 プラス・アーツ 理事長 永田宏和 14. 未定	
講義概要			
ドロッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてNPOは経営学的にも注目される対象であるとして、NPOの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。 その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のNPOが直面する危機があったが、NPOが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。 企業にとってもCSRを果たすべきことが求められ、その流れの中で、NPOと共にコミュニティ支援活動に乗り出す事例が増えてきた。 もとよりNPOはその組織使命の遂行のために企業と協力するのであるが、NPOにとって不足しがちな経営資源(資金・人材など)を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。 企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとって都合のように利用される可能性が増すことになるが、これらもなおさず公共的な使命をもつNPOにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを意味する。 これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。			
受講生への要望			
- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。 15分以上の遅刻は認めない。 - ノートは必ずとること。			
評価方法			
平常点(出席・質問など) 70% レポート 30%			
テキスト、参考文献			
その都度、指示する。		上記授業計画は講師の都合により変更することもあります。	

(春) (秋)	全学総合講座(国家と国境を考える：地域・民族・国家)	担当者	古川 堅治
講義目標		授業計画	
本講座では、これまで当たり前のように考えられてきた「国民国家の集合体としての現代世界」の構造が揺らぎ始め、経済のグローバル化（地球規模化）と社会の多文化傾向の進展に伴い、国家に対する見方自体もまた変化を見せていることを、さまざまな地域と視点から具体的に考えることを目的としています。 現在、日本では、近隣諸国と国境問題をはじめとするさまざまな問題を抱えていると同時に、国内的にはこれまでの定住外国人に加えて、他の多くの国家と同じように、いろいろな地域から、あるいは労働者として、あるいは留学生として、さらには国際結婚のパートナーなどとして多くの外国人が訪れ、隣人として私たちの身近に暮らしています。その結果、今では日本においても多文化共生社会の建設の必要性に迫られています。その意味で、ここに掲げるテーマは極めて今日的課題であると考えられます。それゆえに受講生の皆さんには、自らの問題として、この国家と国境をめぐる諸問題を考えてもらいたいと思います。		(春学期) - 古川堅治：問題提起（講座の目的と概要など） - 平田由紀江：韓国から見た民族と文化 1 - 小島優生：韓国から見た民族と文化 2 - 櫻井悠美：多文化共生社会カナダ 1 - 櫻井悠美：多文化共生社会カナダ 2 - 浦部浩之：南アメリカにおける国家と国境 1 - 浦部浩之：南アメリカにおける国家と国境 2 - 辻 康吾：中国における国家と国境 1 - 辻 康吾：中国における国家と国境 2 - 上野直子：国境を越える言葉 1 - 上野直子：国境を越える言葉 2 - 戸邊秀明：沖縄人の南洋体験 - 戸邊秀明：戦後沖縄の境界 - 古川堅治：まとめ（総括とテスト） (秋学期) 同上	
講義概要		各講師の方々には右に掲げるテーマで原則2回ずつ講義をお願いしています。初回はコーディネーターにより問題提起がなされ、2回目以降に各地域からの報告がなされます。韓国は、緊張する朝鮮半島情勢の中で独特の民族性と文化を育んできましたが、日本との関係でその特徴が浮き彫りにされるでしょう。また、カナダは多文化社会を標榜する国家ですが、そこでは民族共生のためのさまざまな取り組みがなされ、新たな国家像が示されつつあります。 国家が問題になるのは、政治や経済という分野だけではありません。文学に見られる言葉の越境性について考えることは私たちに新たな視点を与えてくれるでしょう。さらに、経済成長の著しい世界の大国としての中国の今後の動向からも依然として目が離せません。また、南米各国のアメリカ合衆国離れの進む中での今後の目指す方向性も注目されます。そして何よりも私たちの身近な日本の中においても、過去の歴史の重い負の遺産を負ってきた沖縄から日本の抱える国家と国境の問題を考えることで自らもそれに深く関わっていることを実感することでしょう。最後に、まとめとして総括と今後の展望が示されます。	
受講生への要望		各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにします。受講生の積極的な発言を期待しています。なお、授業中の中途退席や私語が厳禁です（授業環境を大切にしたいからです）。	
評価方法		各回授業後に感想を含む小レポートが出されます。また、最終回には全体に関わるテストを行いません。評価は、それらの結果と出席点を含めて総合的に判断します。	
テキスト、参考文献		全体にわたるテキストはありません。参考文献については、各担当者がその都度提示します。	

(春) (秋)	全学総合講座 (あなたのキャリアデザインを考える)	担当者	町田 喜義
講義目標		授業計画	
本講座は、2006度から開講された本学卒業生による毎回完結の連続講義です。例えば、 ① 自分自身の内面を探索する：自己発見 ② 異なった環境で如何に生きるか：適応力 ③ 近未来を考える：職業選択 ④ 人間関係を構築する：個と集団の均衡を図る ⑤ 自己の物差しの構築：理論と実践 ⑥ 大学生活をどの様に過ごすか：今、ここで ⑦ 外国語学習にどう立ち向かうか：継続は力 ⑧ その他、諸君の今後の学生生活に役立つ話題満載		(春学期) 1. 講義概要説明：キャリアデザイン序章 2. 人生の経営数学 3. 大学で学んだこと 4. グレーゾーンの美学：ムリに決めなくたっていい 5. 人生の転機で考えたこと 6. 今でも生きている学生時代の『志』 7. 東京ディズニーランドの歴史 8. 女性が仕事を続けるということ：仕事と家庭の両立とは?? 9. コーミュニの仕事：“住むまちに誇りを持つ” 10. 一華僑子弟として 11. 自分次第でどうにでも変わる：若いて素晴らしい 12. 教員の仕事：やっぱり人間形成の場 13. 生きることと働くこと (秋学期) 1. 講義概要説明：キャリアデザイン序章 2. 文系出身でも何とかなるって・・・? : SEの話 3. やりたい仕事を見つけるために 4. 40代の目から見た世の中の実相 5. 経験の質と量 6. 客室乗務員の仕事 7. 出会いが人をつくる 8. 「本づくり」という仕事と、編集者の経験から考える後悔しない学生生活と就職 9. 経営革新から学ぶ激動の時代：変化への順応性 10. キャリア形成は、Planned Happenstance：計画された偶発性 11. ホテル業界で働くこと 12. 私の学生時代 13. 楽しく生きる ※昨年度までは各学期13回の講義でしたが、今年度より14回となります。	
講義概要			
実業界、学会、法曹界、教育界、官界、芸能界、政界など各分野・社会、地域（外国を含む）で活躍している卒業生が、後輩諸君へ語る熱きメッセージに傾聴し、同じキャンパスで過ごした学生生活を共有しながら、先輩達との絆を感じ取ってください。皆さんの今後のキャリアデザインに役立つ講義が満載です。 このシラバスでは2008年度の講義題目を掲載しておきますので（本稿執筆時では未決定部分が多いので）参考にしてください。			
受講生への要望			
・全て出席する覚悟で登録すること。 ・遅刻：開始後15分（11：00）以降の入場は欠席とする。 ・初回から出欠を取る。 ・教室内は脱帽 ・（当然だが）私語厳禁			
評価方法			
・各講師の課題レポートの中から3題選択。 ・レポートの提出条件は、10/14の出席を要する。			
テキスト、参考文献			
・各担当者の指示による。			

(春)(秋)	全学総合講座(健康をスポーツを世界を考える)	担当者	松原 裕
講義目標		授業計画	
基本的には、第1学期・第2学期に所属している学生が対象の授業ですので、健康・スポーツ・世界という言葉キーワードとして知的刺激を与え、今後の大学生生活や生きて行く上でのヒントを与えることが目標です。 多くのゲストの方を通して、感じたり、考えたりして、各々が正解を求めて考えてください。		第1週 ガイダンスと骨盤調整講義(松原) 第2週～第14週 ゲストによる講義 ゲスト予定(順不同・複数回あり) 応急処置の理論と実技(音海) 薬(南) 栄養(河野) 障害者(亀田) パレスチナ(今) ヒッピー(シギー吉田) 総合型地域スポーツクラブ(黒田・中塚) スポーツビジネス(田口) 第2週に受講票を配布し、写真を貼って提出 第14週に課題を出し、教務課にレポートを提出	
講義概要			
基本的に、ゲストの方の話を聞くという形になります。 1回だけ救急法と骨盤調整の実技があります。 毎回の授業中に感じた、考えたことを出席用紙に記入して提出してもらいます。 顔写真1枚と受講票の提出をお願いします。 講義の内容は、骨盤調整、応急処置、薬、栄養、スポーツビジネス、総合型地域スポーツクラブ、パレスチナ問題、ヒッピー文化、障害者などなど・・・ゲストにより、多岐にわたります。			
受講生への要望			
毎回の出席と好奇心、柔軟な思考力、積極的な発言などなど・・・を期待します。 三角巾は各自で必ず用意してください。			
評価方法			
出席用紙の内容、最終レポートの内容、担当者・ゲストとのコミュニケーション、以上を総合して評価をします。			
テキスト、参考文献			
その都度、紹介したり、プリントを配布したりします。			

(秋)	全学総合講座(童話(メルヒェン)の可能性をめぐって)	担当者	矢羽々 崇
講義目標		授業計画	
皆さんにとって、昔話・メルヒェンとはどういうものでしょうか？ 子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？ これらの物語の形式は、その単純さのせいで軽視されたりもしますが、実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく、テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に、私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり、男性であれば自分の中の「おかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。		詳しい内容については、第1回の授業で紹介します。 1. オリエンテーション 2. 昔話を聞く 3. メルヒェン・昔話の法則性 4. グリム・メルヒェンの舞台 5. 昔話の語り口 6. 昔話のメッセージ 7. グリム・メルヒェンの成立 8. 昔話の国際比較 9. メルヒェンの展開 1 10. メルヒェンの展開 2 11. メルヒェンの映像化 1 12. メルヒェンの映像化 2 13. 現代日本におけるメルヒェンの受容 14. パネル・ディスカッション	
講義概要			
この講座が目標とするのは、皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン、そして文学を意識し、できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である19世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた20世紀の様相。さらに今の私たちが生きる21世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら、21世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば、この講座はその役割を果たすことになります。講座は基本的に約1時間の講師による講義、残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。「対話」は学問の土台です。ぜひ積極的に質疑に参加してください。			
受講生への要望			
積極的に参加してくれることを期待します。 私語や遅刻など、他の学生にも、(とりわけ外部からの)講師の方々にも迷惑をかける行為は厳に慎むように。			
評価方法			
出席(約20%)および学期末に行う試験(約80%)によって決定します。欠席が4回以上は評価の対象としません。			
テキスト、参考文献			
授業時にコピーを配布します。参考文献はそれぞれの先生から指示があります。			

(秋)	全学総合講座 (自由時間の達人)	担当者	和田 智
講義目標		授業計画	
自由時間の大切さに気づいていない人が多い。 私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえは7万時間のためのものが多かったのではないのでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちを紹介します。 「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。 春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。		1 オリエンテーション あなたの自由時間の現状 和田 智 獨協大学准教授 2 ライブアンケート 私たちのライフスタイル 和田 智 獨協大学准教授 3 自由時間の達人① 「学生時代に行ったシルクロード自転車の旅と現在」 佐々木拓司 本学卒業生 Think the Earthプロジェクト 4 自由時間の達人② 「私にとっての世界一周の旅」 下重健児 本学卒業生 5 自由時間の達人③ 「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」 多胡光純 本学卒業生 エアーフォトグラファー 6 自由時間の達人④ 「学生時代に考えたことと現在」 講師交渉中 7 自由時間の達人⑤ 「からだの不自由だからできることが増えた」 濱田美穂 NHKサービスセンター 8 自由時間の達人⑥ 「バリアフリースクーバダイビングを推進する」 椎名克巳 株式会社東京ダイバーズ代表取締役 9 自由時間の達人⑦ 「高齢者のためのレジャー」 山崎律子 (株) 余暇問題研究所代表取締役 10 自由時間の達人⑧ 講師交渉中 11 自由時間の達人⑨ 講師交渉中 12 自由時間の達人⑩ 講師交渉中 13 あなたの自由時間について考えよう 和田 智 獨協大学准教授 14 自由時間を「自由時間をレジャーとするために」 和田 智 獨協大学准教授 講師の都合により、予定が変わることがあります。	
講義概要			
第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。第2回目の授業では、受講生がどのような考え方を持っているかについて、皆さんの携帯電話から投票していただくライブアンケートを行います。 第3回目の授業から、それぞれの講師がどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。 最後2回の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。			
受講生への要望			
講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。			
評価方法			
授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。			
テキスト、参考文献			
授業で紹介する。			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 a) 言語学 a (個別言語学－英語)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論などがある。随時、日本語との対照学習を取り入れ、外国語としての英語学習が容易になるよう試みる。それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後、実際に当該項目が習得されるよう練習課題を行う。授業内外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる。		第 1 回 英語の文法理論 (第 6 章) 第 2 回 音声学 (第 7 章) 第 3 回 音韻論 (第 8 章) 第 4 回 強勢・イントネーション (第 8 章) 第 5 回 形態論・語形成 (第 9 章) 第 6 回 統語論 (1) (第 10 章) 第 7 回 統語論 (2) (第 10 章) 第 8 回 統語論 (3) (第 10 章) 第 9 回 意味論・語用論 (1) (第 11 章) 第 10 回 意味論・語用論 (2) (第 11 章) 第 11 回 テキスト言語学 (1) 第 12 回 テキスト言語学 (2) 第 13 回 ディスカース (1) 第 14 回 ディスカース (2) 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
石黒昭博他、『現代英語学要説』(南雲堂、1987; ISBN: 4-523-30047-X) 高橋作太郎、『英語教師の文法研究』(大修館書店、1983; ISBN: 4469141526) 高橋作太郎、『統・英語教師の文法研究』(大修館書店、1985; ISBN: 4469141542) 橋内武、『ディスコース：談話の織りなす世界』(くろしお出版、1999; ISBN: 4-87424-172-7) M. A. K. Halliday & R. Hasan, <i>Cohesion in English</i> (Longman, 1976; ISBN: 978-0582550414) http://home.eserver.org/danzico/Discourse/hallidaysummary.html		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 b) 言語学 b (個別言語学－英語)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。 後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照を前提とする。		第 1 回 英語以前 (1): 印欧語族の成立 第 2 回 英語以前 (2): ゲルマン語族の成立 第 3 回 伝説時代の英語: 古英語とその社会 第 4 回 英語の夜明け: 中世とは?そしてその英語 第 5 回 英語の充実: 初期近代英語とイギリス社会の発展 第 6 回 英語の黄金期: 近代英語とヴィクトリア朝文化 第 7 回 英語の多様性: イギリスの英語から世界の英語へ(地理的変異) 第 8 回 英語の現状: アメリカ英語・オーストラリア英語・第 3 世界の英語 第 9 回 語彙・語源: 本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング 第 10 回 英語の文法の特徴: 語順・修飾・統御 第 11 回 英語の発音と綴り: 大母音推移・発音・文字・正書法 第 12 回 英語の談話構造: パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 第 13 回 社会的変異: 社会階層・レジスター・ジャンル 第 14 回 英語使用の現状: 公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of the English Language</i> , 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, <i>English: History, Diversity and Change</i> (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. MacNeil, <i>The Story of English: Special Complete Edition</i> (マクミランラングージハウス、1989; ISBN: 4895850242) 石黒昭博他、『現代英語学要説』(南雲堂、1987; ISBN: 4-523-30047-X) 宇賀治正明、『英語史』(開拓社、2000; ISBN: 4 7589 0218 6)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想 1（英語圏の社会と思想 a） ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 a）	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。		1. ガイダンス（父性神と母性神） 2. ヘレニズムとヘブライズム 3. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 4. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 5. イングランドのキリスト教化 6. デーン人とアルフレッド大王 7. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 8. グレゴリウス 7 世の教会改革 9. イングランドの教会改革 10. 中世の異端 11. 地獄堕ちへの恐怖 12. 黒死病と農民一揆 13. 教皇権の栄光と下降 14. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想 1（英語圏の社会と思想 b） ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 b）	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー 8 世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス 1 世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代 12. 19 世紀以降現代 13. アメリカの場合 14. まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1（応用言語学） 言語学a（応用言語学）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～4週：言語習得 －言語習得 －言語喪失 －言語維持 －コミュニケーション能力 第5～7週：言語と社会 －バイリンガリズム －言語とアイデンティティ、文化 －マイノリティ言語 第8～10週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第2言語習得 －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第11～14週：言語研究	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		レポート(40%)、期末テスト(60%)	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1（第二言語習得） 言語学b（第二言語習得）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 言語学a（応用言語学）を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～6週：SLA理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第7週：中間言語 第8～11週：学習者要因 －年齢 －動機・態度 －学習ストラテジー・学習スタイル －社会文化的要因 －性格・情緒要因 －適正 －多重知能理論 －第一言語（既習言語） －自律など 第12～14週：指導方法 －communicative approach －TBLT (task-based language teaching) －CBT (content-based teaching) －focus-on-form vs. focus-on-forms 他	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(15%)、レポート(25%)、期末テスト(60%)	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学 a) 言語学 a (一般言語学)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、必要に応じて他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域（考古学・医学・物理学・電子工学・数学）における言語研究にも言及する。		第 1 回 話し言葉と書き言葉 一言葉は約束事 ～言語学の研究対象、記号論、ローマ字表記 第 2 回 動物の言語と人間の言語 ーチンパンジーも言葉が話せる？ ～動物のコミュニケーション 第 3 回 言語と脳 ー失われた言葉を取り戻す ～心理言語学と脳生理学 第 4 回 子供の言葉の発達 ーどのようにして言語を習得するか？ ～第 1 言語の発達過程 第 5 回 外国語の上達 ーどのようにしたらうまく話せるようになるか？ ～第 2 言語の習得理論 第 6 回 音と音声 (1) ーカテゴリーができるまで ～調音音声学と音韻論 第 7 回 音と音声 (2) ー音声はどのように聞こえるか？ ～音響音声学と聴覚音声学 第 8 回 統語論 ー「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述 ～構造主義文法、生成文法、その他の文法 第 9 回 形と意味 ー発話に意味を込める ～意味論、語用論 第 10 回 会話の原則 ー言葉の適切な使い方 ～談話分析 第 11 回 言語と社会 ー言葉の多様性と普遍性 ～社会言語学 第 12 回 世界の言語とその系統 ー言語の系統と分類 ～歴史言語学 第 13 回 言語の進化 ー言語と人類の発達 ～言語考古学 第 14 回 コンピューターと言語 ー近未来の言語研究 ～人工知能、機械翻訳、コーパス言語学 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳 『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田健 『言語学が好きなになる本』(研究社出版, 1999; ISBN: 4-327-37674-4)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学 b) 言語学 b (一般言語学)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号 (デジタル信号) に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。		第 1 回 この授業について 形態論 (1) 形態素の同定 (ハンガリー語, スペイン語) 第 2 回 形態論 (2) 形態素の同定 (現代ヘブライ語, マレー・インドネシア語, ペルシア語) 第 3 回 形態論 (3) 形態素の同定 (ラテン語, ラコタ語) 第 4 回 音声学・音韻論 (1) 発音記号, 音素・異音 (英語) 第 5 回 音声学・音韻論 (2) 音韻の同定 (ウィチタ語, 古典ヘブライ語, ラコタ語) 第 6 回 音声学・音韻論 (3) 音素の同定 (スペイン語, ヒンディー語, 日本語) 第 7 回 音声学・音韻論 (4) 超分節音素の同定 (中国語, アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語) 第 8 回 音声学・音韻論 (5) 音韻現象, 生成音韻論 (トルコ語, 英語) 第 9 回 統語論 (1) 直接構成素分析, 句構造規則 (英語) 第 10 回 統語論 (2) 句構造規則 (英語, イタリア語・ギリシア語) 第 11 回 統語論 (3) 構造成形, 語順, 格 (英語, 中国語, ドイツ語, クリンゴン語) 第 12 回 意味論 上位概念・下位概念, 同意語・反意語 (英語, 日本語, ペルシア語) 第 13 回 語用論 新旧情報, 言語行為, 話題化 (英語, 中国語) 第 14 回 書記法 (英語, イタリア語, ギリシア語, ヘブライ語) 第 15 回 歴史言語学 (古英語, スペイン語・イタリア語・フランス語)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics</i>, 4th ed. (Heinle, 2007; ISBN: 978-1413030853) Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics</i>, 4th ed. [e-textbook] (CourseSmart, http://www.coursesmart.com/9781413030853) Edward Finegan, <i>Language: Its Structure and Use</i>, 5th ed. (Wadsworth, 2007; ISBN: 978-1413030556) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅰ（国際語としての英語） ことばと思想Ⅲ（国際語としての英語）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとジャーナルなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2週：英語の普及 －Kachruの3つの円 －ディアスポラ 第3～4週：英語の多様化 －ピジンとクレオール －方言と標準語 第5～7週：世界英語－英語圏における多様化 －アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など －Hawaii Creole English －Ebonics －Spanglish など 第8週：世界英語－準英語圏における多様化 －インド英語 －Singlish 第9～10週：世界英語－非英語圏における多様化 －ヨーロッパと英語、ロシアと英語 －中国と英語、韓国と英語 第11～14週：日本人における英語とは何か －日本での英語使用 －日本の英語教育史 －現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など －まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題（30%）、フィールドワークに基づいたレポート（20%）、 期末テスト（50%）	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅰ（多言語環境と英語） ことばと思想Ⅲ（多言語環境と英語）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」（教育、サービス含む）の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのかを考える。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとジャーナルなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2週：言語権とは。言語サービスとは。 第3～5週：理論 第6～9週：日本の中の多言語と英語 －日本の中の多言語 －政策と教育 －言語サービス 第10～13週：世界の言語政策と英語の位置づけ －アメリカ －オーストラリア －ヨーロッパ諸国 －アジア諸国 第14週：多言語環境と英語 －英語は普遍語になるのか。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題（30%）、フィールドワークに基づいたレポート（20%）、 期末テスト（50%）	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅰ（こころの世界） ことばと思想Ⅲ（科学としての心理学とこころの世界）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学とは・ 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格理論 8. 性格の形成 9. ストレス①：ストレスと性格 10. ストレス②：ストレス・コーピング 11. ストレス③：ストレスの生理心理学 12. 現代社会とこころの病① 13. 現代社会とこころの病② 14. 生きがいとこころの健康	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		出席、小レポート、試験により評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(社会思想史1)(市民的社会像の黎明期) 社会思想史a(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社會観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期(a)では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という觀念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「社会というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。		1)「社会」とは何だろうか 2)「市民社会」の原型と近代的再生 3)ルネッサンス思想と古典古代文化 4)マキャベリと『君主論』 5)マキャベリと近代政治理論 6)ユートピアという思想 7)トマス・モアと『ユートピア』 8)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 9)ルターの改革運動と神学 10)ルターの政治思想 11)ルターの聖職思想と勤勉の倫理 12)カルヴィニズムの宗教思想 13)カルヴィニズムと近代的エートス 14)まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『社会思想の歴史』 渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示		期末の試験による。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的社会像の確立期) 社会思想史b(市民的社会像の確立期)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
西欧では17世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るために契約という行為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という觀念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて19世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「社会というまとまり」が隠れた主題となる。		1) 西欧自然法思想の源泉 2) 自然法思想の近代的転回 3) 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 4) 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 5) 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 6) 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 7) 文明化という課題……フランス啓蒙思想(ヴォルテール、ディドロ) 8) 風土と社会……モンテスキューの権力論 9) 個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 10) 個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 11) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 12) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社會思想 13) 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 14) 社会的に生きる(2)……マルクスの思想	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『社会思想の歴史』 渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示		期末の試験による。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古代から近世まで) 社会思想史a(東洋古代から近世まで)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。		1. (インド) アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド) ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド) ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド) 仏教とヒンドゥー教の思想 5. (中国) 孔子と論語の思想と墨子の兼愛 6. (中国) 老荘思想と荀子、韓非子 7. (中国) 儒教の革新—宋学の勃興 8. (中国) 宋学の大成—朱子とその周辺 9. (日本) 古事記、日本書紀と神道 10. (日本) 仏教の伝来と鎌倉仏教思想 11. (日本) 道元と親鸞 12. (日本) 宣長 13. (日本) 仁斉と徂徠 14. まとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで) 社会思想史b(東洋近世から現代まで)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。		1. (インド) 回教の侵入と伝統的インド思想の変化 2. (インド) 近代西洋とインド文化 3. (インド) ガンジーとタゴール 4. (中国) 明学と清学 5. (中国) 資本主義と共産主義 6. (中国) 現代と儒教思想、 7. (日本) 江戸期の思想 8. (日本) 明治維新期の思想 9. (日本) 福沢諭吉、西周、中江兆民 10. (日本) 京都学派の哲学 11. (日本) 現代の思想状況と西欧との関係 12. 東洋思想史の現代的意義 13. 東洋思想史の現代的意義 II 14. まとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1（心理学）（知覚・認知） 心理学a（知覚・認知）	担当者	増田 直衛
講義目的、講義概要		授業計画	
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思いますが、もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。 心理学（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。		1.ガイダンス 心をどのように理解するか 2.科学としての心理学 3.個体と環境 心理学のもののとらえ方 4.物理的環境と心理学的環境 5.感覚の世界 6.主観のもののさし 7.知覚の世界(1) 8.知覚の世界(2) 9.認知の形成 10.認知的判断 11.判断と意志決定 12.態度形成とダイナミクス 13.社会的現実の構築 14.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。講義に使用したスライドは講義終了後、講義支援システムに pdf ファイルにしてアップロードします。		定期テスト(80%)と随時行う出席調査を兼ねる小レポートなど(20%)によります。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1（心理学）（行動・個性） 心理学b（行動・個性）	担当者	増田 直衛
講義目的、講義概要		授業計画	
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思いますが、もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミクスを講義します。また、個性はどのように理解され、それはどのように測定されてきたかを考えます。 心理学（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。		1.ガイダンス 行動を理解するために 2.環境への適応様式 3.生得的行動・獲得的行動 4.遺伝的に規定された行動 5.行動の変容（1）レスポナント行動 6.行動の変容（2）オペラント行動 7.行動分析学とその応用 8.個性をどのように理解してきたか 9.パーソナリティの測定 10.パーソナリティのダイナミクス 11.個性はどのように発達・形成されるのか 12.知能とテスト 13.成熟と老化 14.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。講義に使用したスライドは講義終了後、講義支援システムに pdf ファイルにしてアップロードします。		定期テスト(80%)と随時行う出席調査を兼ねる小レポートなど(20%)によります。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学) (人間の行動・認知・動機的一般法則) 心理学 a (人間の行動・認知・動機的一般法則)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、1) 心理学の研究テーマ、2) 研究方法、3) 研究成果と日常生活との関わりについて紹介します。 心理学の視点で、学生をみていると、1) 自分や仲間の個性や価値を認め、自信と自発性を持つこと。2) 友人関係や異質な人とのコミュニケーション (心理学ではソーシャル・スキルと言います) を大切にしたいと思っています。 また、自己を知るは心理学の研究目的の 1 つですが、自己を知り／他者を知ること、ましてや自己を制御することは簡単ではありません。教科書の構成は、各章共に、節の最後が「〇〇研究の生活・仕事への展開」で結ばれています。執筆時点 (2004 年時点) でのトピックスを扱っていますが、変化が激しく、ここのテーマは 2009 年時点の題材に入れ替える予定です。 この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 心理学の視点から、自分の専攻領域 (所属する学科の学問) をとらえ直すこと、3) 心理学から考えた、卒業後の将来の自分、例えば、27 歳の自分を想定してみて、必要な力量を考えると、職業 (仕事) と生活のバランスについて学ぶことが、授業の到達目標と考えています。 前期の「心理学 a」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モチベーションの 3 側面に焦点を当てて、心理学から見た人間の共通法則を軸に学ぶ予定です。		1. 導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学 2. 感じる／考える (感覚と知覚・認知)：人間の感覚受容器と脳、感覚と知覚の仕組みと特徴 3. 感じる／考える (つづき)：顔や原因の認知 (原因帰属) 4. 感じる／考える (つづき)：記憶の情報処理モデル、潜在認知 5. 感じる／考える (つづき)：アフォーダンス、都市のイメージ、ユニバーサル・デザインなど 6. 動く／変わる (行動と行動獲得・変容)：条件づけ、強化に伴性、モデルによる観察学習 7. 動く／変わる (つづき)：進化と人間行動、利他行動や協力、生物進化と文化のカップリング 8. 動く／変わる (つづき)：教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習、学習環境デザイン 9. 動く／変わる (つづき)：大学における学びの内容と方法、卒業時に必要な力量 (学士力、社会人基礎力とは) 10. もえる／動かす (モチベーション)：動機づけの基礎 11. もえる／動かす (つづき)：達成動機と対人社会性動機、対人行動、知識基盤社会と学び、社会的構成主義の学習観 12. もえる／動かす (つづき)：欲求不満、葛藤、ストレス。無気力 (学習性無力感) 13. もえる／動かす (つづき)：内発的動機づけと意欲を高める、自己原因性、有能感。 14. まとめと残された問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇 (編)『ヒューマン・サイエンス心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		出席 (15%)、レポート (40%)、試験 (45%) で評価する。出席は学生の権利だが、話を聴いてくれないことには始まらない。レポートは高校の作文とは違う視点を学んでいただく必要のため。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学) (人間の個性・多様性理解) 心理学 b (人間の個性・多様性理解)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、1) 心理学の研究テーマ、2) 研究方法、3) 研究成果と日常生活との関わりについて紹介します。 心理学の視点で、学生をみていると、1) 自分や仲間の個性や価値を認め、自信と自発性を持つこと。2) 友人関係や異質な人とのコミュニケーション (心理学ではソーシャル・スキルと言います) を大切にしたいと思っています。 また、自己を知るは心理学の研究目的の 1 つですが、自己を知り／他者を知ること、ましてや自己を制御することは簡単ではありません。教科書の構成は、各章共に、節の最後が「〇〇研究の生活・仕事への展開」で結ばれています。執筆時点 (2004 年時点) でのトピックスを扱っていますが、変化が激しく、ここのテーマは 2009 年時点の題材に入れ替える予定です。 この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 心理学の視点から、自分の専攻領域 (所属する学科の学問) をとらえ直すこと、3) 心理学から考えた、卒業後の将来の自分、例えば、27 歳の自分を想定してみて、必要な力量を考えると、職業 (仕事) と生活のバランスについて学ぶことが、授業の到達目標と考えています。 後期の「心理学 b」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当てて、人間の多様性、可変性を軸に学ぶ予定です。		1. 後半の導入：前期のまとめと導入、後期の視点について 2. きわだつ／できる (パーソナリティ)：性格検査から何が言えるか。何故そう言えるか。 3. きわだつ／できる (つづき)：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデル 4. きわだつ／できる (つづき)：Big Five、標準性格検査。 5. きわだつ／できる (つづき)：知能とは。創造性 (課題解決)、対人関係の社会的スキル。 6. 育つ／育てる (発達)：big name の発達理論。生涯発達視点 7. 育つ／育てる (つづき)：生育初期。アタッチメント 8. 育つ／育てる (つづき)：青年期のアイデンティティ、発達支援、世代間伝達 9. 育つ／育てる (つづき)：高齢化社会、生き甲斐と有能感 10. かかわる／競う (社会)：社会心理学的自己。自己開示／自己提示 11. かかわる／競う (社会)：集団圧力、権威者への服従、印象形成 12. かかわる／競う (つづき)：態度と態度変化。説得的コミュニケーション 13. かかわる／競う (つづき)：集団と個人、変革期のリーダーシップ 14. まとめ：各人の違いを認めようとして、健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、残された課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇 (編)『ヒューマン・サイエンス心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		出席 (15%)、レポート (40%)、試験 (45%) で評価する。出席は学生の権利だが、話を聴いてくれないことには始まらない。レポートは高校の作文とは違う視点を学んでいただく必要のため。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（生と死の意味の哲学 1） ことばと思想（Ⅲ）（生と死の意味の哲学 1）	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、癌の場合の治療方針など、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。 また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は孤絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。 このような状況を踏まえた上で、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 われわれは意味の世界に生きています。したがって、われわれに与えられた課題は、まずわれわれ自身の世界を広げることです。知識がない物に対して意味を見出すことはできませんから、受講生の皆さんにはいわゆる雑学的な知識をたくさん持っていただきたいと考えています。さまざまな宗教・文化・時代についての知識を豊かにすることで、さまざまな価値観が見えてくるからです。 春学期は、死から生を見るという方法で、生について考えます。 《受講生への要望》 著名かつ平易な文献を取り上げ、それについて考える講義スタイルですから、傍観者として講義に出席するのではなく、自らの問題として考える姿勢で臨んでもらいたいと思います。		1. モンテーニュの『エッセー』を取り上げます 2. ジャンケレヴィッチ『死』 3. キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』を取り上げます 4. 前回の続き 5. エリアス『死に逝く者の孤独について』 ここまでのテーマは「死の準備」の可能性です 6. パスカル『パンセ』 7. 前回の続き 8. 引き続き『パンセ』 9. ランツバーク『死の経験』 10. ランツバーク『自殺の道徳的問題について』 ここまでのテーマは「運命」です 12. パウル・ティリッヒ『生きる勇気』 13. 前回の続き 14. 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットからダウンロードできるようにします		各学期末に試験を行ないます	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（生と死の意味の哲学 2） ことばと思想（Ⅲ）（生と死の意味の哲学 2）	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、癌の場合の治療方針など、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。 また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は孤絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。 このような状況を踏まえた上で、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 われわれは意味の世界に生きています。したがって、われわれに与えられた課題は、まずわれわれ自身の世界を広げることです。知識がない物に対して意味を見出すことはできませんから、受講生の皆さんにはいわゆる雑学的な知識をたくさん持っていただきたいと考えています。さまざまな宗教・文化・時代についての知識を豊かにすることで、さまざまな価値観が見えてくるからです。 秋学期は、直接的に生を意味あるものにするとはどういうことなのかについて考えます。 《受講生への要望》 著名かつ平易な文献を取り上げ、それについて考える講義スタイルですから、傍観者として講義に出席するのではなく、自らの問題として考える姿勢で臨んでもらいたいと思います。		1. 講義テーマに関連した映画をごらんいただく予定です 2. フランクフル『夜と霧』——これは名著です 3. 前回の続き 4. フランクフル『死と愛』 5. 前回の続き 6. アドラー『人生の意味の心理学』 ここまでのテーマは《意味》です 7. ベッカー『死の拒絶』 8. アルベール・カミュ『シーシュポスの神話』 9. フロム『自由からの逃走』を使いながら、 《時代・使命・自己》などの問題について考えます。 10. 前回の続き 11. フロム『正気の世界』を取り上げます ここまでのテーマは《自己実現》です 12. 自殺は現代社会においてきわめて重要な問題です。 春学期にも取り上げましたが、現代の状況を考慮しながら、『生の意味』について考えます。 13. 前回の続き 14. 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットからダウンロードできるようにします		各学期末に試験を行ないます	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想 1（通訳・翻訳論） ことばと思想（Ⅲ）（通訳・翻訳論）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 授業ではビデオやDVDを多く利用しますので、欠席しないようにしてください。		第1回 ガイダンス 第2回 通訳の実例研究（香港返還記念式典） 第3回 会議通訳の実際 第4回 司法通訳（外国人の人権を守る） 第5回 放送通訳とコミュニティ通訳 第6回 ガイド、芸能・スポーツの通訳 第7回 通訳訓練法 通訳の原理 第8回 学期前半のまとめ 第9回 日本における翻訳通訳の歴史（1） 第10回 日本における翻訳通訳の歴史（2） 第11回 日本における翻訳通訳の歴史（3） 第12回 翻訳と通訳の理論（1） 第13回 翻訳と通訳の理論（2） 第14回 通訳と翻訳の理論（3）	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料はインターネット上からダウンロードしてください。昨年度と同じものを使用します。 http://nikka.3.pro.tok2.com/dokkyo/dokkyo08a.html		平常点（出席率）50%、期末試験 50%で評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（哲学の諸問題 1） 哲学 a（哲学の諸問題 1）	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのとはどういうことなのか」、「なぜ人を愛するのか」、「自己自身であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」などという問題だからです。 春学期は特にこれらの問題について考えたいと思います 著名であり、なおかつ比較的易しい哲学文献を読みながら、ともに考えるという講義形式をとりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。		1. 哲学入門 2. プラトンの『饗宴』における《エロース》の概念について 3. 引き続き、エロースについて 4. 「愛」に関するイエス＝キリストの教え 5. フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます 6. 前回の続き 7. ワルター・トロビッシュ『自分自身を愛する』を取り上げます 8. 前回の続き 9. サルトルの『実存主義とは何か』を取り上げ、「主体的であること」「自由であること」などについて考えます 10. 上の問題を時代とのかかわりに重点を置いて考える予定です 11. 前回の続き 12. フロムの『愛するということ』を取り上げます。 13. 前回の続き 14. 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットからダウンロードできるようにします		各学期末に試験を行ないます	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（哲学の諸問題 2） 哲学 b（哲学の諸問題 2）	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのとはどういうことなのか」、「なぜ人を愛するのか」、「自己自身であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」などという問題だからです。 秋学期は「歴史」に注目して、「今を生きる」とはどういうことかを考えます。ヨーロッパの思想を取り上げますので、ユダヤ・キリスト教的歴史観から説き起こし、近代の啓蒙思想、ヘーゲルの歴史哲学、マルクスの唯物史観、ニーチェのニヒリズムの克服について紹介していきます。ただし、全体を通じて問われているのは、私たちはどう考えているのか、ということです。		1. ユダヤ・キリスト教的歴史観について 2. ホッブスの社会契約論 3. ロックの社会契約論 4. ルソーの社会契約論 5. ヘーゲルの歴史哲学[1] 6. ヘーゲルの歴史哲学[2] 7. マルクスの唯物史観[1] 8. マルクスの唯物史観[2] 9. ニーチェの生涯 10. ニーチェの思想——神の死 11. ニーチェの思想——ニヒリズムの問題 12. 前回の続き 13. ニーチェの思想——永遠回帰と超人 14. 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットからダウンロードできるようにします		各学期末に試験を行ないます	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅰ（日本語教育概説） ことばと思想（Ⅲ）（外国語としての日本語教育）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
将来、日本語教師を目指す人への授業と限定するのではなく、外国語としての日本語・日本語教育の環境と現状、語学教育全般、等にわたって広く興味を持っている学生のためのものである。日本語教師養成課程を履修する人にとっては、教授法Ⅰとある程度の重なりがあるが、具体的な教育・指導について学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでほしい。 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 3. 日本語教育の歴史と現状 4. さまざまな外国語教授法の紹介 5. 日本語を外国語として概観する。 6. 日本語教師の役割 日本語を外国人に教える、とはどういうことかを知る。 7. 基本的な日本語の仕組みと直接法による指導法 授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。		1. 講義の概要と日本語教育の1例を紹介する（ビデオ） 2. 日本語教育とは？ ①日本語教育と国語教育の違いについて ②日本語教育の歴史 3. 国内・海外における日本語教育の現状(1) 4. 国内・海外における日本語教育の現状(2) 5. 第二言語習得と学習理論 6. 外国語教授法の歴史と紹介(1) 7. 外国語教授法の歴史と紹介(2) 8. 日本語能力をどのように 捉えるのかー認定基準 9. コースデザインとシラバス(1) ニーズ分析とレディネス分析 10. コースデザインとシラバス(2) さまざまなシラバス 11. 日本語のしくみとその指導のポイント(1) 12. 日本語のしくみとその指導のポイント(2) 13. 日本語学校での教室活動とボランティア教室活動の活動例 14. 講義のまとめ 上記のコマ配分は、その時点での進捗状況に合わせる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：佐々木康子 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房、2007 参考文献：中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版		期末定期試験	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降	ことばと思想 1（日本語文法形態論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 形態論としての日本語文法を講ずる。ここで対象とする形態論としての文法とは、発話される実際の形式としての「文」を規制している規則のセットとしての文型文法である。この文法は、日本語教育に即して言えば、学習者が初級段階の学習において対象とする学習項目でもある。学習者の初級段階での目標は、この文法を獲得することによって、「文」をつくりだせるようになることである。 本授業では、そうした意味をもつ文法について、体系的に理解し、さらに文法的に言語を分析する方法を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。それを、毎回、授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と、その内容に対する課題をクラスで議論し、発表することによる。文法上の問題をたて、データから解答をつくり、それを解釈して理論とする、ということを実践したい。 また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。		第1回 文型文法と形態論 第2回 語の認定と形態素 第3回 名詞と格 第4回 動詞と活用 第5回 形容詞と活用 第6回 動詞の複語尾（1） 第7回 動詞の複語尾（2） 第8回 判定詞 第9回 副詞 第10回 副助詞 第11回 文の型（1） 第12回 文の型（2） 第13回 文型文法 第14回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

08 年度以降	ことばと思想 1（日本語文法統語論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 統語論を日本語について講ずる。基本的には理論言語学の架構によるが、生成文法そのものを講義対象とするものではなく、あくまで日本語の「句」について、その統語的なありかたを理解することを中心的な目標とする。 日本語教育に即して言えば、春学期の形態論が、文型という学習項目と同一視できる表面上の構造をあつかっているのに比較して、実際の発話される形式の基礎にある構造規則をあつかう点で、やや直接的ではないようにおもわれる可能性がある。しかし、学習者が脳内に形成するであろう第2言語体系は、やはりなんらかの言語としての構造をもつはずであり、その知見なくしては下の教育も成立しないはずである。 より普遍的な言語理論への階梯として、日本語を資料とした統語論の基本的なかんがえかたを理解する。 〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。それを、毎回、授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と、その内容に対する課題をクラスで議論し、発表することによる。また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。		第1回 統語論概説 第2回 句構造 第3回 項 第4回 意味役割 第5回 格表示（1） 第6回 格表示（2） 第7回 時制 第8回 主語 第9回 疑問 第10回 語順変換 第11回 補文（1） 第12回 補文（2） 第13回 統語論と言語学習 第14回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1 (倫理学 a) 倫理学 a(倫理学と人間性)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 本講義では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。		1. 古代中国の倫理思想 (老子、荘子、孔子、孟子) 2. 古代中国の倫理思想 (告子、墨子、荀子、韓非子) 3. 古代ギリシャの倫理思想 (ソクラテス、プラトン、アリストテレス) 4. 古代ギリシャ、ローマの倫理思想 (エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス) 5. 中世の倫理思想 (アウグスチヌス、アベラール、トマス・アキナス、オッカム、ドンス・スコトゥス) 6. ディスカッション (人間とは何か) 7. 宗教と倫理 (仏教倫理と儒教倫理) 8. 宗教と倫理 (キリスト教倫理とイスラム倫理) 9. 近世の倫理思想 (デカルト、ホッブス、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン) 10. 近世の倫理思想 (ヒュームとカント) 11. 近世の倫理思想 (カント) 12. 均整の倫理思想 (ヘーゲルとキェルケゴール) 13. ディスカッション (人間として何をすべきか、幸福と自然) 14. まとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1 (倫理学 b) 倫理学 b(現代倫理学の諸問題)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもたらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理についての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。		1. 日本の倫理思想 (儒学と明治思想と和辻哲郎) 2. 進化論と倫理思想 (ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス) 3. ニーチェとニヒリズム 4. 私と汝 (ブーバーと西田幾多郎) 5. 社会主義倫理と資本主義倫理 6. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 7. 自然科学と倫理 8. 技術と倫理 9. 医療と倫理 10. 環境と倫理 11. 環境と倫理 II 12. 自然と人間 13. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 14. まとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1（倫理の基本について考える） 倫理学a（倫理の基本について考える）	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし、倫理への問いは最近再び脚光を浴びてきている。良識が揺らいでいるのである。 講義では、倫理における「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。		1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という言葉 4)倫理と道徳 5)規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6)規範としての倫理(2)……法と倫理 7)価値としての倫理(1)……欲求から善へ 8)価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9)行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10)行為への問い(2)……他者からの問いかけ、動機主義と結果主義 11)功利主義の倫理(1)……ベンサム 12)功利主義の倫理(2)……功利主義の今日的展開 13)自由主義の倫理(1)……カントとミル 14)自由主義の倫理(2)……リベラリズムの平等論	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。参考書は講義で指示。		期末の試験による。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(環境と生命の倫理) 倫理学b（環境と生命の倫理）	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境論理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。		1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況(1)……「医療化社会」批判 3)生命をめぐる状況(2) 所有の身体観と生命の微細化・局在化 4)生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 5)生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 6)生命倫理の前線(3) 安楽死問題 7)生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 8)ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9)環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか 10)環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心とする思想 11)環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想 12)環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義 13)環境倫理の世界(5) 環境的不正義に関する倫理的言説 14)環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。参考書は講義で指示。		期末の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (アラブ文化・芸術 a) 歴史と文化 (Ⅲ) (アラブ文化・芸術 a)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラム教（イスラーム）は西暦 7 世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約 1 3 億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、 （１）テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読 （２）イスラム世界のビデオ紹介 の 2 部構成とする。 なお、テキストはコピーを配布する。		1 セム族と唯一神教 2 預言者モーゼの「十戒」と律法主義 3 偶像崇拝の禁止とキリスト教 4 「最後の預言者」ムハンマド 5 信仰告白、「アッラー以外に神なし。ムハンマドはアッラーの使徒である」 6 アッラーの啓示、メッカ啓示とメディナ啓示 7 預言者ムハンマドのメッカからメディナへのヒジュラ（聖遷）とイスラム暦 8 ウンマ（信仰共同体）とスンナ（預言者の聖行） 9 カリフ（預言者ムハンマドの後継者）の選出とイスラム的民主主義シューラー（相談・協議） 10 第二代正統カリフ、ウマルの称号「信徒の司令官」 11 第四代正統カリフ、アリーとシーア派の誕生 12 シーア派教義「アリーはアッラーのワリー（友）」 13 預言者ムハンマドの孫フセインの「カルバラ殉教」 14 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのかー中東イスラム世界の反ユダヤ主義』（ミルトス, 2008 年）		出席率（50%）、授業態度（10%）試験（40%）による	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (アラブ文化・芸術 b) 歴史と文化 (Ⅲ) (アラブ文化・芸術 b)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラム教（イスラーム）は西暦 7 世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約 1 3 億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、 （１）テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読 （２）イスラム世界のビデオ紹介 の 2 部構成とする。 なお、テキストはコピーを配布する。		1 シャリーア（イスラム法）は「水場に至る道」 2 四法源、コーランとハディース（預言者の言行録） 3 イジュマー（合意）とキヤース（類推） 4 「五行」（信仰告白、礼拝、喜捨、ラマダン月の断食、メッカ巡礼） 5 義務の二範疇、「集団的義務」とメッカ巡礼 6 「個人的義務」と「防衛的ジハード」 7 伝統的世界観、「イスラムの家」と「戦争の家」 8 イスラム教の“聖職者” ウラマーとファキーフ（法学者） 9 ホメイニ師のベラヤティ・ファギ（ファキーフによる支配）論 10 四法学派とワッハーブ派 11 律法主義とスーフィズム（イスラム神秘主義） 12 イブン・アラビーの「存在一性論」 13 トルコの神秘主義教団、ナクシバンディーヤ 14 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのかー中東イスラム世界の反ユダヤ主義』（ミルトス, 2008 年）		出席率（50%）、授業態度（10%）試験（40%）による	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（異文化間コミュニケーションb） 歴史と文化（Ⅲ）（異人種共生の試練＜アメリカ編＞）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認める社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われた。 前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。 後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。		☆ ガイダンス ☆ モザイク国家アメリカ ☆ 民族混合のジレンマ ☆ 奴隷制下の人種共存 ☆ 黒人の地位向上運動 ☆ 共存のパラダイム転換 ☆ 公民権運動の共生理念 ☆ 急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 ☆ ロス暴動に見る共生の現実 ☆ 映像 ☆ 多民族混合社会ハワイ ☆ ハワイの経験ー多民族の取り込みー ☆ 日系、アジア人の同化体験 ☆ 異人種間共生の手がかり	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカ黒人の歴史』 本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』 上坂昇 講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』 山本英政 明石書店		期末試験、自由課題 受講希望者は初回の授業に必ず出てください	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (異文化社会の認識と世界観 a) 歴史と文化(Ⅲ) (未開人の認識 a)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。		詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を少しは客観化して考えることができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (異文化社会の認識と世界観 b) 歴史と文化(Ⅲ) (未開人の認識 b)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。		「世界観」を頭において話をしてゆく。詳細な内容も回数も明示できないが、「創世神話」「祖先崇拜」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（英語圏の小説 a） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 a）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 イギリスを中心とした英語圏の小説に親しんでもらうことがねらいです。だれもが知っている有名なものから問題作まで、原則として一回一作品ずつ、できるだけ幅広く、年代順に取り上げます。また、少しずつですが、原文も味わいます。 講義概要 毎回課題が出ます。作品の一部を和訳してもらう課題です。受講者には、知らない単語を自分で調べ、自分なりの訳を作って提出してもらいます。授業では、課題の答え合わせのあと、作者がどんな人で、作品のあらすじと読みどころはどこにあるのか、文化的背景はどんなものだったかを、担当者が解説します。一部映像を使用します。 ***注意事項*** ・ TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、課題に時間をかけて取り組んでください。 ・ 作品の選択は、若干変更する可能性があります。 ・ 辞書を持参してください。電子辞書でもかまいません。 ・ 欠席が 4 回を越える場合は評価の対象外とします。		1. Introduction: English literature? Literature in English? 2. Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> (1719) 3. Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> (1813) 4. Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (1837-39) 5. Charlotte Bronte, <i>Jane Eyre</i> (1847) 6. Lewis Carroll, <i>Alice in Wonderland</i> (1865) 7. Arthur Conan Doyle, <i>A Study in Scarlet</i> (1886) 8. J.M. Barrie, <i>Peter Pan</i> (1911) 9. E.M. Forster, <i>A Passage to India</i> (1924) 10. Virginia Woolf, <i>Orlando</i> (1928) 11. D.H. Lawrence, <i>Lady Chatterley's Lover</i> (1928) 12. Alan Sillitoe, <i>The Loneliness of the Long Distance Runner</i> (1959) 13. A.S. Byatt, <i>Possession</i> (1990) 14. Nick Hornby, <i>About a Boy</i> (1998)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。		毎回の課題と学期末試験（英文和訳等を出題）。 欠席が四回を越える場合は評価の対象としません。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（英語圏の小説 b） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 b）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 授業の概要 まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。		- 第 1 回：序論（gender/race/class） - 第 2 回：アメリカ小説の概略 1（歴史） - 第 3 回：アメリカ小説の概略 2（文化・社会） - 第 4 回：リアリズム小説 1（第一世代と第二世代のリアリストたち） - 第 5 回：リアリズム小説 2（Mark Twain） - 第 6 回：リアリズム小説 3（The Adventures of Huckleberry Finn） - 第 7 回：モダニズム小説 1（アメリカ小説のモダニストたち） - 第 8 回：モダニズム小説 2（William Faulkner と 'That Evening Sun'） - 第 9 回：モダニズム小説 3（William Faulkner と The Sound and the Fury） - 第 10 回：モダニズム小説 4（William Faulkner の世界） - 第 11 回：多文化主義小説 1（多文化主義とアメリカ小説） - 第 12 回：多文化主義小説 2（黒人作家とユダヤ系作家） - 第 13 回：多文化主義小説 3（Bernard Malamud と "The First Seven Years"） - 第 14 回：多文化主義小説 4（「寓話」としての "The First Seven Years"）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する		定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（英語圏の文化） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の文化）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
年間、50万人もの移民を受け入れているアメリカ。現在、その総数は3,500万にも達し、総人口の12%も占めている。白人の割合は減る一方で、2050年には5割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP<White Anglo-Saxon Protestant>）社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れた同国は多民族社会へと急速に変貌していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を明らかにする。		1. ガイダンス 2. 国家建設とワスプ主義 3. 工業化と新移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. 50年代のアメリカ 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー 10. // 11. 映像 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義	
参考文献		評価方法	
授業で紹介する		学期末試験 自由課題 受講希望者は初回の授業に必ず出てください	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（英語圏事情） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏事情）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化の理想は、多国間の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響下に圧迫されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なもの」を発信しつつ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。		☆ ガイダンス ☆ 銃社会アメリカ ☆ // ☆ ベトナム戦争 ☆ ベトナム戦争 ☆ 9.11 ☆ イラク戦争 ☆ // ☆ もうひとつの9.11 ☆ ポップカルチャー ―善なるアメリカの演出― ☆ ソフトパワー ☆ // ☆ // ☆ 議論 どうアメリカに対応するか？	
参考文献		評価方法	
『グローバリゼーションの文化政治』吉見俊哉 平凡社 『ソフト・パワー』ジョセフ・ナイ 日本経済新聞社		学期末テスト 自由課題 受講希望者は初回の授業に必ず出てください	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (英語圏の文学) 歴史と文化 (Ⅲ) (英語圏の文学文化)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 今は、宇宙から地球を眺め、その地球をだんだんズームインして、日本へ、そして自分の住んでいる地域の番地をパソコンに打ち込むと見事に自分の家までピンポイントの正確さでヒットすることができるようになりました。「英語圏の文学・文化」という題目は私にとってこの地球に相当するほどの巨大かつ膨大なものです。私のやってきたことはその針の先端になります。それでも、時々その針の先端を少し前後左右に動かして他の場所をクローズアップしてみるの楽しいことです。その針の先端を少しずつ動かして何が見えるかを案内してみること、そしてその中にもっと深く入り込んで見てみたいという興味を引き起こすことがこの授業の目標と考えています。 概要 文学は言葉によって表現される代表的な表象です。書かれたものの、すなわち物語作品はその言葉が紡ぎ出す見事な織物です。この授業では、その言葉の色彩や織り方、できあがった織物がどんなものになるかを見ていくことです。織物は織り上げる人の心が込められ、また優れた技によって織られていますから、その心と技を理解することがないと織物の本質や良さが分かりません。しかも織られた作品一つ一つは生きています。それは作品全体が一つの生き物ですから、小さな部分にも血が通っています。どんな血が流れているのかはその作品が生まれた時代的、文化的背景によって違いますが、一つだけ共通しているのはどの作品にも私たちと同じ人間性の不思議さと驚異に気づくことが大切です。		授業計画 授業によっては以下に示された通りには進まない時があるかも知れませんが、この点を承知しておいてください。 半期完結授業： 1.2.Introduction： 文学と言葉について：言葉の意味とその文学的広がり、あるいは変を化、Simplicity、Freshness、Precision、Vigorなどを以下のProseから見ます。 3.4.5.上記の例証としての文体を多様な作品を通して比較します。 (1) <i>The Kitchen at Harmony</i> (2) <i>Life in America</i> (3) (4) <i>The Journal of the Plague Year</i> (5) <i>The Shadow of the Glen</i>, (6) <i>Soldiers in the Train</i> (7) <i>The Helmsman</i> (8) and Others 6.7.8.英語圏の文学と社会について、特にVerseを例にその特徴を見ます。Herrick, Jonson, Marvel, Auden, Milton, Shakespeare次にいくつかのVerseから見ます。 9.10.11.Dramaの基本についてShakespeareの<i>Macbeth</i> <i>Julius Caesar</i>, <i>Murder in the Cathedral</i>などを通して主題と言葉の使い方を見ていきます。VTRを使う場合があります。 12.13.前に授業の続き、14. その構造について (1) プロットとストーリーの重要性について (2) プロットの構成と展開 (3) 登場人物の設定 14.15.その内容について：言葉と修辞(レトリック)の重要性について、Metaphor, Metonymy, Repetition, Paradox, Irony, synecdoche, Imagery、その他のレトリックの面白さを見ます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：今年をもっと指定したテキストに基づいて講義を進めます。それを予習してくると授業の内容が一段とよく理解できるでしょう。Laurence D. Lerner. <i>English Literature: An Interpretation for Students Abroad</i>, OUP, London and The Eihōsha Ltd. Tokyo. 上記のテキストは非常に良く、分かりやすく書かれています。言葉がどんな風に使われ、語られているか、その意味の変化を知ることでもできる効果的な教材です。		評価方法： 3分の2以上の出席がないと試験を受けても単位は出しません。短い感想文(レポート)の提出があるかもしれませんが。その場合はそれを評価しますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。受講生に対する要望等：真面目に授業に臨むこと。大切なことはしっかりとノートテキングすること。また文学・文化、ものの見方、考え方に興味を持つこと。	

08 年度以降	歴史と文化 1 (科学技術交流史 a)	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。 講義概要 生態学的大国と称せられている日本の自然は他国と共通の種類が多数生息している一方、日本独特の生物（固有種）も多数いる。 本講義ではその日本の自然の特色を紹介しながら我々日本人が自然をどう捉えてきたかを、時代をおって説明する。 履修者の資格 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。		次の内容の講義を数回ずつ行う。 1 世界における日本の地理的位置（基礎的な歴史・地理の試験をします） 2 中国から学んだ博物学 1 3 中国から学んだ博物学 2 4 普遍種（北半球に共通の種類） 1 5 普遍種（北半球に共通の種類） 2 6 普遍種（北半球に共通の種類） 3 7 産業革命以後の博物学 1 8 産業革命以後の博物学 2 9 進化論 1 中世の博物学 10 進化論 2 ダーウィンの役割 11 19 世紀は探検の時代 12 Plant Hunter の活躍と日本 13 江戸の園芸 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト（随時行う）、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

08 年度以降	歴史と文化 1 (科学技術交流史 b)	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。 講義概要 日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。 履修者の資格 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。		次の内容の講義を数回ずつ行う。 1 日本にきた欧州人 1（日本の紹介） 2 日本にきた欧州人 2（Kaempfer 以前） 3 日本にきた欧州人 3（Kaempfer） 4 日本にきた欧州人 4（Thunberg） 5 江戸時代の科学 1（平賀源内） 6 江戸時代の科学 2（化政期の同好会） 7 出島にきた博物学者（シーボルト 1） 8 出島にきた博物学者（シーボルト 2） 9 出島にきた博物学者（ビュルガーほか） 10 シーボルトの弟子たち（伊藤圭介） 11 シーボルトの弟子たち（大河内存真） 12 蘭学者の系譜 13 蘭学と獨協学園 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト（随時行う）、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（韓国文化各論c） 歴史と文化（Ⅲ）（韓国文化各論c）	担当者	金 貞我（キム・ジョンア）
講義目的、講義概要		授業計画	
今学期の韓国文化論のテーマは「風俗画のなかの朝鮮文化―描かれた朝鮮文化を読む」である。14世紀末から20世紀初頭まで続いた朝鮮時代の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。 授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚（図像）資料からアプローチすることが主な内容である。		1、韓国の時代区分と歴史の概要 2、姿の朝鮮文化 ・ 女性の表象―封建社会の理想の女性像 ・ 立身出世の表象―寺小屋と科挙 ・ 妓女の姿と上流社会 ・ 装身具と服飾が象徴する身分社会 3、しぐさの朝鮮文化 ・ 食文化と食事作法 ・ 片立膝と正座 ・ 顔を隠す女性・扇子越しにみる男性 ・ いただく女・背負う男―労働する庶民 4、儀礼の朝鮮文化 ・ 通過儀礼と士大夫文化 ※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に配布する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。出席と平常点（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（教育の歴史1） 歴史と文化（Ⅲ）（教育の歴史a）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点をを得ることを目的とします。 本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（2では近代以降になります）、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（教育諸機関、子育て習俗等）および教育思想を扱います。 江戸時代には、現代とは全く異なった知的枠組みで思想的営為が行なわれていたため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。		0 ガイダンス 1 前近代における「教育」という営み 2 子育ての習俗 3 江戸時代の二つの知 4 江戸時代の教育諸機関とその研究（1） 5 江戸時代の教育諸機関とその研究（2） 6 日本文化と日本の思想の特質 7 キリスト教伝来と日本人の対応 8 朱子学と日本の儒学 9 江戸時代の思想の流れ 10 貝原益軒の儒学と教育思想 11 民衆の儒学と民衆の教育 12 「学制」による知の統合 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文などを勘案します。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（日本思想史2） 歴史と文化（Ⅲ）（日本思想史b）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
扱う範囲と対象 テーマは、「日本の近代と平和に関する思想」とします。 近代（明治維新～戦後）思想の概略と、いくつかの思想（家）を扱います。 概略のみならず思想家等が実際に書いたものを読んで、その今日的な意味を考えます。		0回 ガイダンス 1回 近代以降の概略の説明 2回 近代とはどういうものか——フランス革命の到達点 3回 近代日本の思想配置（戦前まで） 4回 現代の近代批判 5回 日本における近代思想——国民主義（1） 6回 日本における近代思想——国民主義（2） 7回 社会の動きと平和思想の系譜 8回 中江兆民『三酔人経綸問答』を読む（1） 9回 中江兆民『三酔人経綸問答』を読む（2） 10回 福沢諭吉「脱亜論」を読む 11回 近代日本の思想配置（戦後） 12回 現代の思想的展開 13回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		出席と、最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文などを総合的に勘案します。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（恐怖の日本文学） 文学a（恐怖の日本文学）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目標） 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 （講義概要） 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 （受講生への要望） 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 恐怖の現代文学のアウトライン 第2回 ①伝統的手法による恐怖の造形 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 第5回 ①超自然的事象の題材からの造形 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 第8回 ①心理学的な題材からの造形 第9回 ② 同上 第10回③ 同上 第11回①社会派ミステリーからの造形 第12回② 同上 第13回その他のジャンル 第14回 まとめ（総集編）	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席。レポート（定期試験）。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（日本文学現代） 文学b（癒しの日本文学）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目標） 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する （講義概要） 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 （受講生への要望） 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回①原作を映像で見る 第13回② 同上 第14回 まとめ（総集編）	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席。レポート（定期試験）。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（グローバル化とイスラーム-公と私） 歴史と文化（Ⅲ）（グローバル化とイスラーム-公と私）	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
現在、世界にはイスラームを信じて生きている人々が約13億人います。本講義では、そのイスラーム社会と欧米社会の暮らし方の違いを考察します。さらに、そのことを通して、多文化共生について考えを広げていきます。 特に、公（おおやけ）と私（わたし）という二分法による社会の考え方から、公、公共、私という三分法にもとづく社会がどのように生成されつつあるかに力点を置いて検討していきます。		1 異文化接触と文化変容 2 イスラーム社会の誕生 3 イスラームの生活規範 4 イスラームの統治論 5 小まとめ：イスラーム社会をどう認識したか 6 ムスリムとヨーロッパの出会い 7 ヨーロッパから見たイスラーム 8 ヨーロッパに暮すムスリム 9 アメリカのムスリム 10 小まとめ：文明の衝突をどう認識したか 11 公共性と秩序 12 公共精神と民主主義 13 公共精神と市場 14 まとめ：グローバル化とイスラーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『イスラーム世界はなぜ没落したか？』日本評論社、『公共哲学とはなんだろう』勁草書房		出席とレポートを2：8の割合で評価する。 なお、出席確認として400字程度の短文を提出してもらうことがあります。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（移民・交易に見る文化変容） 歴史と文化（Ⅲ）（移民・交易に見る文化変容）	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は古くから移住や交易を通し、物や情報を交換し、文化を形成してきました。本講義では、歴史的な交易と文化圏のあり方を確認しながら人口移動について考察します。特に、国際移民と国民国家の経済発展のかかわり合いについて考察の重点をおきます。 さらに、そのことを通し、少子高齢化社会を迎えている日本の外国人受け入れ問題についても視野を広げてみたいと考えています。		1 交易と交流 2 地中海交易 3 絹の道 4 インド洋交易と歴史 5 小まとめ：異文化間交易と文化圏 6 移民過程とエスニック・マイノリティ 7 1945年以前の移民 8 高度成長期の移民 9 世界経済再編期と移民 10 小まとめ：労働力としての移民と経済発展 11 ネーションとナショナリズム 12 合法移民 13 グローバル都市の発展 14 まとめ：国民国家における移民が抱える問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『国際移民の時代』名古屋大学出版会、『移民の一万年史』新評論		出席とレポートを2：8の割合で評価する。 なお、出席確認として400字程度の短文を提出してもらうことがあります。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（スペイン研究入門） 歴史と文化（Ⅲ）（スペイン研究入門）	担当者	二宮、佐藤、浦部
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、前半から9回の授業分、主にスペインの言語・地理・文化に関する授業を二宮が行い、後の5回を佐藤と浦部が担当し、近現代のスペインの歩みに関する授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、各自の専門分野にそって、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「ラテンアメリカ研究入門」と関連性・連続性が強いので、秋学期には下記授業を選択することが望ましい。		1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. 1492 8. フラメンコ 9. 闘牛 10. コンキスタ：スペインの「新大陸」支配 11. 18、19世紀のスペイン 12. ここまでのまとめ 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（ラテンアメリカ研究入門） 歴史と文化（Ⅲ）（ラテンアメリカ研究入門）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。佐藤と浦部で担当する。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。		佐藤担当 1 導入：「ラテンアメリカ」とは：そのイメージを問う 2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況 3 ラテンアメリカ史入門 4 カリブ海地域の概要 歴史と社会 5 メキシコ・中米地域の概要 歴史と社会 6 現代のラテンアメリカの文化：文学、音楽、絵画 浦部担当 7 環境と生活1：アンデスの自然環境と食料生産 8 環境と生活2：アマゾンの自然環境と資源利用 9 人と社会1：宗教・価値規範と人間関係 10 人と社会2：家族・大土地所有制と社会格差 11 政治と経済1：政治体制と人権・民主主義 12 政治と経済2：経済政策と貧困・社会公正 佐藤担当 13 米国のラテンアメリカ系住民	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）		期末テスト、出席・発言など	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1(スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目標は、第一に、ラテンアメリカの社会と文化の特徴について、文化と国家との関係を中心に学ぶことにある。そして、ラテンアメリカとは何かについて学ぶとともに、ラテンアメリカと呼ばれる地域の差異についても学ぶことを目標とする。 この講義では、ラテンアメリカの社会と文化について、文化と国家との関係を中心に学んでいく。毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画のトピックスについて講義する。 《受講生への要望》 スペイン語の知識は必ずしも必要ではない。むしろ、ラテンアメリカにおけるそれぞれの国の位置と基本的な知識が必要である。		1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカとは何か 3. ラテンアメリカの特徴とラテンアメリカ諸国について 4. ラテンアメリカの社会と文化 5. ラテンアメリカ社会における男と女 6. ラテンアメリカにおける国家の概念 7. ラテンアメリカの社会構造 8. ラテンアメリカ社会における人種の構造 9. 先住民文化と国民文化 10. 国家と国民 11. 国民国家の形成 12. 国家の統合とは何か 13. ラテンアメリカの今後 14. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ(大衆文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製芸術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、主に 20 世紀のポピュラー音楽と隣接領域を対象に、文化、社会の動態について考察を深めていく。講義の軸は社会学である。		1 イントロダクション 2 20 世紀のサブカルチャー1: ロックと対抗文化 3 20 世紀のサブカルチャー2: ロックの成熟化 4 20 世紀のサブカルチャー3: ヒップホップの時代 5 サブカルチャーとグローバリゼーション 1: 日本のロック (流入期～) 6 サブカルチャーとグローバリゼーション 2: 日本のロック (その後～) 7 サブカルチャーとグローバリゼーション 3: 日本のヒップホップ (流入期～) 8 サブカルチャーとグローバリゼーション 4: 日本のヒップホップ (その後～) 9 産業と文化 10 ヤンキー文化とオタク文化 1 11 ヤンキー文化とオタク文化 2 12 複合メディア社会とサブカルチャー1 13 複合メディア社会とサブカルチャー2 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
木本玲一、2009『グローバリゼーションと音楽文化』勁草書房		レポートにより評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（中国史a） 歴史学a（中国近代史概説－清朝国家の黄昏）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向かいますが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		1 講義の概要 2 清朝体制の光と影 3 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 4 太平天国 5 体制の反撃 6 洋務運動 7 中体西用の諸相 8 開港場の社会と経済 9 農村社会の変容 10 周辺地域宗主権の喪失 11 日清戦争 12 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 13 植民地期の台湾 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫S22-19）中央公論新社、2008年。		期末定期試験による。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（中国史b） 歴史学b（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 またこの時期のモンゴル・チベットにおける独立運動についても検討します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向かいますが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		1 講義の概要 2 変法改革 3 戊戌の政変 4 キリスト教布教と仇教運動 5 義和団の蜂起 6 纏足問題と天足運動 7 革命派の台頭 8 地方自治の試み 9 王朝体制の崩壊と中華民国の成立 10 第二革命と袁世凱政權の成立 11 モンゴル・チベットの独立運動 12 第三革命と軍閥混戦 13 五四運動 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫S22-19）中央公論新社、2008年。		期末定期試験による。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（東西の文化を結ぶもの） 比較文化論a（東西の文化を結ぶもの）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義の目的） 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は、西洋側の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、それぞれ3回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		1 A；ユダヤ教世界とキリスト教のひろがり。 その1 2 同 その2 3 同 その3 4 B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その1 5 同 その2 6 同 その3 7 C；十字軍・レコンキスタとその時代。 その1 8 同 その2 9 同 その3 10 D；イスラエルの歴史からみた、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教。その1 11 同 その2 12 同 その3 13 まとめ1 14 まとめ2	
テキスト、参考文献		評価方法	
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		レポートによる	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（東西文化と近代化） 比較文化論b（東西文化と近代化）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が東洋における近代化であった点、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、それぞれ3回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		1 E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。 その1 2 同 その2 3 同 その3 4 F；アジアにおけるさまざまな近代化。 その1 5 同 その2 6 同 その3 7 G；帝国主義とイスラーム世界。イスラエルにおける中東問題。その1 8 同 その2 9 同 その3 10 H；現在のイスラエル、旧ソ連諸国、旧ユーゴスラビア諸国などにおける民族・宗教意識の関連。 その1 11 同 その2 12 同 その3 13 まとめ1 14 まとめ2	
テキスト、参考文献		評価方法	
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		レポートによる	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（都市と建築） 歴史と文化（Ⅲ）（都市と建築）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
木の文化に対して石の文化とも言われるように、ヨーロッパでは我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきました。本講義は建築の歴史を通してヨーロッパの文化の一面を知ることが目的とします。 ヨーロッパの建築の歴史は、過去の過去の文化として記録の中に記されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して、直接見ることもできます。本講義では、古代および中世のヨーロッパの建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆきます。 なお、スクリーンに詳細な画像資料を提示しながら授業を進める必要から、受講生の定員を150名とします。		1 概要説明 2 古代ギリシャの建築 3 古代ギリシャの建築 4 古代ローマの建築 5 古代ローマの建築 6 古代ローマの建築 7 小括 8 中世ロマネスクの建築 9 中世ロマネスクの建築 10 中世ロマネスクの建築 11 中世ゴシックの建築 12 中世ゴシックの建築 13 中世ゴシックの建 14 総括 以上の計画には多少の変更がありえます	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは用いない。毎回の授業に関する資料を配布し、参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。		中間および学期末の試験によって評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（日韓交流史） 歴史と文化Ⅲ（日韓交流史）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。		1. 韓国の歴史の流れ 2. 王仁博士と漢文 3. 日本の中の百済文化 4. 高麗時代の社会状況 5. 『三国史記』と『三国遺事』 6. 朝鮮通信史① 7. 朝鮮通信史② 8. 豊臣秀吉と李舜臣 9. 申叔舟と雨森芳洲 10. 安重根と伊藤博文 11. 日韓併合 12. 浅川巧と韓国 13. 朝鮮戦争と日本 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（日本事情とコミュニケーション教育） 歴史と文化（Ⅲ）（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
日本文化や時事問題について、異文化理解の視点から考察する。授業では、まず、異文化コミュニケーションの基礎概念と学問的なアプローチについて学習する。これらを通じて、日本社会において現実に起こっているコミュニケーション上の問題を分析できるようになることが一つの到達目標である。 また、授業においては、日本社会での異文化理解に関する諸問題を扱った発表を課す予定である。発表は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。		1 オリエンテーション 2 異文化コミュニケーションの基礎概念① 3 異文化コミュニケーションの基礎概念② 4 日本社会と異文化コミュニケーション① 5 日本社会と異文化コミュニケーション② 6 日本における異文化理解の実践例①（講義） 7 日本における異文化理解の実践例②（発表） 8 日本における異文化理解の実践例③（発表） 9 日本における異文化理解の実践例④（発表） 10 日本の国際交流①（講義） 11 日本の国際交流②（講義） 12 日本の国際交流③（発表） 13 日本の国際交流④（発表） 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：石井敏他（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣 1997年 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』ひつじ書房 2004年 その他、授業中に指示する。		出席(10%)、クラスへの貢献(10%)、クラスでの課題(20%)、および定期試験(60%)による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（日本文化論） 歴史と文化（Ⅲ）（日本文化論）	担当者	崔 世廣
講義目的、講義概要		授業計画	
文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみをいうのではない。また、言うまでもなく、文化は単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけでもない。 この講義では、日本文化の特徴を「歴史的な重層性と内面的統一性」ととらえ、歴史形成論と形態論という両手法を使って日本文化を探究する。具体的には、古代から近代までの日本文化史を整理し、そのうえで、風土と日本文化、感受性と美意識、振舞いと倫理感覚、暮らしと死生観、日本文化と世界文化などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。		1 オリエンテーション・導入 2 日本文化の歴史的な重層性と内面的統一性 3 「日本」の成立と日本文化の原型 4 大陸文化の輸入と律令国家の成立 5 国風文化の興隆及びその意味 6 鎌倉文化と仏教の日本化 7 近世社会・文化をどう捉えるべきか 8 近代化と近代日本文化の変容 9 風土と日本社会・文化 10 日本人の感受性と美意識 11 日本人の振舞いと倫理感覚 12 日本人の暮らしと死生観 13 日本文化は特殊かー比較文化論の視点から 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）。		学期末試験（論述式）の成績による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（日本文学古典） 文学a（日本文学－奈良時代の文学を読む）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」についても扱うことを予定している。		1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 日本人遙かな旅を見る① 6 日本人遙かな旅を見る② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 11 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 12 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る③ 14 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験・レポート・出席の総合点によって決める。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（平安時代の文学を読む） 文学b（日本文学－平安時代の文学を読む）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テキストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。		1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 3 伊勢物語を読む② 4 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験・レポート・出席の総合点によって決める。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化 1（能楽論） 歴史と文化（Ⅲ）（能楽論）	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に説明していきます。 また、一作品を教材として、他の芸能にどのような影響を与えたかを考察します。 春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。 「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。		① 能楽の紹介 ② 能楽の概説 ③ 能楽の流れ ④ 能楽を演じる各役 ⑤ 能舞台について ⑥ 能の演技について（実演） ⑦ 能の演目について I ⑧ 能の演目について II（実演） ⑨ 新作能について ⑩ 夢幻能と現在能 ⑪ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 I ⑫ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 II ⑬ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 III ⑭ まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化 1（能楽における中世武士の諸像） 歴史と文化（Ⅲ）（能楽における中世武士の諸像）	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
平安時代の末期に生き、悲劇のヒーローとして膾炙されている「源義経」のその生涯は能の作品に多く取り上げられています。そのうちの「安宅」を教材として、作品の解釈・鑑賞、さらに他の芸能（歌舞伎・映画）にどのように転化していったかを、ビデオ鑑賞を取り入れ比較・検討します。 秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。		① 源義経の生きた時代 I ② 源義経の生きた時代 II ③ 能のなかの源義経 I ④ 能のなかの源義経 II ⑤ 能「安宅」の解釈と鑑賞 I ⑥ 能「安宅」の解釈と鑑賞 II ⑦ 能「安宅」の解釈と鑑賞 III ⑧ 歌舞伎「勧進帳」の作品鑑賞 I ⑨ 歌舞伎「勧進帳」の作品鑑賞 II ⑩ 黒澤明監督作品における「安宅」 ⑪ 映像のなかの能 ⑫ 「安宅」と「勧進帳」の比較 I ⑬ 「安宅」と「勧進帳」の比較 II ⑭ まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（文化史入門） 歴史と文化（Ⅲ）（文化史入門）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらの文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとって、いかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 <講義概要> 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。授業は概説的に進め、2回ほど小報告を挟み、映像などを駆使して理解に資したいと思います。		1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 技術文化（その1）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？ 3 技術文化（その2）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 4 運送手段（その1）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫓船」の脅威 5 運送手段（その2）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 6 造形芸術：建築と彫刻 クーロス像の「左足」の謎 7 文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 8 宗教と祭祀：アスクレピオス信仰の普及 ギリシア人は「神話」を信じていたか？ 9 性愛の諸相（男と女）（その1）：同性愛 10 性愛の諸相（男と女）（その2）：異性愛 11 競技的（アゴン）人間類型 理想的人間とは？ 12 クリエンテラ・パトロネジ関係（親分と子分） 13 民主主義：古代と現代（現代民主主義への視座） 14 まとめ（総括と展望）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化人類学 a) 文化人類学 a (未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された (日本では、おおむね「未開」と表現されてきた)、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。 注：右に書いた授業計画の前半部は若干回数が多くなることもありえます。		1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで (1) 4 同上 (2) 5 対象としての「文化」の概念 6 歴史的視点と現在の視点 7 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化人類学 b) 文化人類学 b (未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
a で話したことを基礎に、まず「異文化」(「未開」文化)を明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。		1 方法としての実地調査 (1) 2 同上 (2) 3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をするが、具体的に話す事例は、流れのなかで決めてゆく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（民俗学） 歴史と文化（Ⅲ）（民俗学）	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
民俗とは民間に伝承されてきた生活文化であり、日本民俗学は、その歴史の変遷、もしくは、民俗を資料として日本文化の構造などを明らかにし、研究成果を現在に活かすことを目的としている学問である。 したがって、本講義では、民俗学の基礎的な理論と日本文化の多様性の把握を目的として、人間が生きていくために最も切実な問題である食の確保、すなわち、生業を基盤として、そこから設定された文化類型に沿って、ヒトとヒト・ヒトとカミ・ヒトと自然との関わりを、文献や音声・映像などの具体的資料を提示しながら講義したい。		1 ガイダンス 2 民俗学とは／日本人の民俗的世界概念 3 海上の道／稲を選んだ日本人 4 海民の生活と文化 5 稲作民の生活と文化 6 餅なし正月と雑穀・畑作文化 7 山民の生活と文化 8 山と海の交流 9 都市の民俗文化 10 学校の怪談／妖怪と幽霊 11 カミとヒト／アニミズム 12 女性と子どもと老人の民俗文化 13 まとめ 14 授業時試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（地域文化） 歴史と文化（Ⅲ）（地域文化）	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
正月には神社に参拝をし、盆に寺で死者供養を行ない、クリスマスイベント化している日本人の姿は、成立宗教をあつく信仰している人びとに奇異なものとして映じているであろう。しかし、仏教を帰化させ、さまざまな仏を「神」として信仰してきた日本人にとっては、そういった信仰のあり方はむしろ当たりマエなのであり、「神」という語から想起されるイメージも一様ではない。 本講義では、そうした信仰のあり方の表象として儀礼・芸能を捉え、それらを通して日本人の信仰の在り方を把握することを目的として、文献や音声・映像などの具体的資料を用いて、日本の民間信仰を、それが伝承されている地域との関わりから把握し、検討したい。		1 ガイダンス 2 祭り・儀礼・芸能の概念と構造 3 神懸かりと巫女神楽 4 山伏神楽と修験道 5 宗教者と芸能 6 予祝儀礼①—小正月の訪問者 7 予祝儀礼②—モノマネ・モノヅクリ 8 田植え儀礼 9 災厄防除儀礼／鎮送呪術 10 収穫祭と田の神送り 11 宴会と芸能 12 特定小地域での祭り・儀礼・芸能の在り方 13 まとめ 14 授業時試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 a (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。		1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 魅る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. まとめ 14. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年 集英社新書 680 円） 『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行（2001 年 ダイアモンド社 1700 円）		評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 5 択 20 問の Quiz 形式	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 b (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。		1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 ー1290 年のイングランドー 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. まとめ 14. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年 集英社新書） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書 1600 円）		春学期と同じ。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 a (イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。		1 イスラームの基本を説明する。 2 イスラーム誕生以前の西アジア世界について考える。 3 預言者ムハンマド (マホメット) の出現と時代背景。 4 最初の 4 人のカリフ (正統カリフ) の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7 聖典コーラン。預言者の言行録ハディースと解釈。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11 同その 2 12 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13 同その 2 14 まとめをおこなう	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 b (イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるようにしたい。		1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 同その 2 13 旧ソ連、旧ユーゴスラヴィアにおけるイスラーム。 14 まとめをおこなう	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（歴史学1）（現代史と映像） 歴史学a（現代史と映像）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ 「移民・難民・外国人労働者」 国民国家の成立によって国境が画定されると、国民が規定されされると同時に、外から入ってくる人々は移民や難民あるいは外国人として定義される。そうした移民や難民あるいは外国人は世界のどこにも存在するが、それぞれの国家において異なる扱いを受けているが、そうした相違は、それぞれの国家の歴史や国民意識に求められる。日本とドイツあるいはフランスの有り様を比較しながら問題を考えていく。 受講生への要望：欠席しないように		何本かの映画や記録フィルムを見ながら、その歴史と現状を考えていく。詳しい日程は最初の授業の時に提示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で紹介		平常点＋試験	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（歴史学2）（歴史と映像） 歴史学b（歴史と映像）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ 「歴史における宗教の役割」（仮） 受講生への要望：欠席しないように		未定	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で紹介		平常点＋試験	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（歴史学 1）（「15 年戦争」をどうとらえるか） 歴史学 a（「15 年戦争」をどうとらえるか）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、田母神論文や閣僚の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。できれば、秋学期とあわせて受講して欲しい。		1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 日中戦争と対米英戦争 3 真珠湾からか、コタバルからか 4 被害の問題①—空襲は何を示すか 5 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 6 加害の問題①—731 部隊とは何か 7 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 8 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 9 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員 12 戦争と経済の関わりを考える 13 この戦争の原因をどうとらえるか 14 まとめとして—戦争の全体像を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（歴史学 2）（戦後史の中の「15 年戦争」） 歴史学 b（戦後史の中の「15 年戦争」）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
「15 年戦争」とは。1931 年の満州事変から 1945 年 8 月 15 日の敗戦までの一連の戦争をさす。この戦争は、戦後 60 年を越えた今日でも日本と中国・韓国の間で問題となるように、大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。できれば、春学期とあわせて受講して欲しい。		1 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2 本土決戦と日本の戦争の終わり方 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 日本とドイツの戦後補償① 7 日本とドイツの戦後補償② 8 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 9 日中国交回復への道のり 10 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 11 アジアの民衆からの戦後補償要求 12 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 13 戦後 50 年の国会決議をめぐって 14 戦争の歴史から私たちは何を学ぶか	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（歴史学1）（中世の仏教と社会） 歴史学a（中世の仏教と社会）	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勸進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 (1) 東大寺を再建した男 (2) 重源の時代 (3) 信仰と経済		① 炎上する東大寺 ② 誰の力に頼るか ③ 重源の業績 ④ 木材をどこから運ぶか ⑤ 出現した大群衆 ⑥ 雨を突いて伊勢へ ⑦ 重源の記憶 ⑧ 法然と重源 ⑨ 合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩ 天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫病（えきい） ⑪ 源平合戦の余燼 ⑫ 聖の社会事業 ⑬ 新しい経済社会の出現 ⑭ 後生の約束	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス）		試験成績	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（歴史学2）（中世の「悪党」と民衆） 歴史学b（中世の「悪党」と民衆）	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
◎ 中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 (1) 戦乱の中の伊賀 (2) 自立する村 (3) 戦国のコンミュン		① 伊賀国の南北朝内乱 ② 錯綜する地侍の行動 ③ 大規模な合戦は続けられない ④ 国人領主の出現 ⑤ 自立する村 ⑥ 南都への志向 ⑦ 悪党たち、起請文を提出 ⑧ タテの力とヨコの力 ⑨ 惣国のコンミュン ⑩ 内部の規律と「平和」 ⑪ 織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫ 崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬ 兵農分離と石高制 ⑭ 中世民衆の共同体をどうみるか	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス）		試験成績	

08 年度以降	歴史と文化 1（歴史学 1）（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。 <講義概要> 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、それぞれの文明がどのように影響しあったのかを論じます。図像資料やビデオ映像も使用します。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 クレタ文明 3、 ミケーネ文明 4、 トロイア戦争 5、 ギリシア文明 1 6、 ギリシア文明 2 7、 ペルシア文明 8、 ペルシア戦争 9、 ペロポネソス戦争 10、 マケドニアとアレクサンドロス 11、 ヘレニズム文明 12、 ローマの体内外戦争 13、 ローマ文明 14、 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

08 年度以降	歴史と文化 1（歴史学 2）（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 現代社会はヨーロッパにおける EU の統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型としてヨーロッパ文明について考察します。ギリシアローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿ります。 <講義概要> 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 ヨーロッパとは何か 3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、 アレクサンドロスとヘレニズム文明 5、 ローマ帝国の意味 6、 中世フランク王国の位置 7、 イタリアルネッサンス 8、 大航海時代 9、 植民地を求めて 10、 植民地の争奪 11、 ヨーロッパ統合の思想 12、 第一次世界大戦 13、 大戦後のヨーロッパ 14、 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（異文化間コミュニケーション a） 現代社会（Ⅲ）（異文化間コミュニケーション）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をととして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。		1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ 5. 異文化へのまなざし（1）「日本」の表象 6. 異文化へのまなざし（2）自文化中心主義 7. 異文化へのまなざし（3） 未定 8. 内なる異文化（1） 9. 内なる異文化（2） 10. マルチカルチュラリズムについて（1） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ 11. マルチカルチュラリズムについて（2） ——多文化教育の視点 12. マルチカルチュラリズムについて（3） ——多層的アイデンティティ 13. 相互行為分析と異文化研究 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート（履修者の状況によってはテストになる場合もある）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会Ⅰ(NGO論) 現代社会(Ⅲ)(NGO論)	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発(貧困)問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助(ODA)の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程(オタワプロセス)やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する (受講生への要望) 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい。		①～②「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ/イラクの現状 ③～④「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ/アフガニスタンの現状 ⑤スーダンの現状とNGOの取り組み ⑥NGOによる復興・開発協力の事例(カンボジア) ⑦～⑧ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク ⑨クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑩パレスチナ問題を考える ⑪アフリカにおけるHIV/AIDSの現状 ⑫政府開発援助とNGO ⑬東アジアのなかの日本と私たち ⑭NGOの組織運営と資金	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年 地雷廃絶日本キャンペーン編『地雷と人間』岩波ブックレット 2003年 清水俊弘著『クラスター爆弾なんてもういない』		レポート提出。平常授業の課題など。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（韓国研究入門） 現代社会（Ⅲ）（韓国研究入門）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
現代韓国への旅 本講座は、韓国研究のための最初の一步である。「韓国を旅する」という設定で、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。同時に、日本から韓国へ、そして再び日本へという旅のルートを通じて、現代韓国を「まなざす」とはどういうことかについても触れていく。 履修者には、課題の提出と積極的な授業への参加が期待される。		1 イントロ①ー旅の準備 2 イントロ②ー旅の準備 3 韓国の若者と出会う 4 韓国のインターネット事情 5 韓国大衆文化事情ーKpop の世界へ 6 グローバルシティ・ソウルと「外国人」 7 韓国のなかの「日本」 8 政治から文化へ 9 ソウル・オリンピック 10 朝鮮半島とアメリカ 11 独裁政権と民主化の記憶 12 朝鮮戦争と南北分断へのまなざし 13 「朝鮮近代史と日本」について考える 14 まとめー再び日本へ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する予定。		出席、中間レポートおよび期末テスト。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（韓国社会各論 b） 現代社会（Ⅲ）（韓国社会各論 b）	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをは明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。		1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パターンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係	
テキスト、参考文献		評価方法	
服部民夫（2005）『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂		出席状況と試験で評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (キャンパスライフと仕事Ⅱ) 現代社会 (Ⅲ) (キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	(春)山越 徳 (秋)有吉 秀樹
講義目標		授業計画	
1 年間の学生生活を踏まえて、人間形成においてどのような成長を遂げたか、何を学んだか、チャレンジして達成できたこと何かなどを再確認させる。2 年次の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。		(春) 1.さまざまな仕事(進路)を考える オリエンテーション 2.テーマ未定 3.産業の構造変化と労働市場の変貌 4.職場から見た航空業界の仕事 5.職場から見た公務員の仕事 6.社会が求める人材とは(学生時代にやっておくこと) 7.職場から見た旅行業の仕事 8.交渉中 9 インターネットマーケティングの仕事 10.職場から見たマスコミの仕事 11.職場から見た金融・保険業の仕事 12.職場から見た運輸業の仕事 13 交渉中 14.キャンパスライフと仕事(内定者の体験談) (秋) 1.さまざまな仕事(進路)を考える オリエンテーション 2.現場から見た百貨店の仕事 3.テーマ未定 4.産業の構造変化と労働市場の変貌 5.職場から見たアパレル業の仕事 6.職場から見た福祉・医療機関の仕事 7.職場から見た情報産業の仕事 8.ナイスハートなプロフェッショナルになるためのキャリア・マネジメント 9.職場から見たホテル業の仕事 10.社会が求める人材とは(学生時代にやっておくこと) 11.職場から見た食品関連企業の仕事 12 仕事と私事 13.キャンパスライフと仕事(内定者の体験談) 14 まとめ 上記授業計画は講師の都合により順序やテーマも変更することがある。	
講義概要			
選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義では様々な業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に答えられるようにする。なお講師の都合により、授業計画の順序が変更される場合があることを留意されたい。			
受講生への要望			
外部の方の話を聞くことを第一とするため、とにかく出席すること。講義内容の更なる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること。			
評価方法			
出席、レポート(期末)			
テキスト、参考文献			
必要な資料は授業で配布			

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（教育法 1） 現代社会（Ⅲ）（教育法 a）	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利・義務関係の視点から整理して、教育問題の分析・解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされているいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判事例を、体罰、いじめ、生活指導、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。		1 学校における子どもの人権侵害——問題化の経緯と分類 2 体罰裁判とその特徴——体罰裁判の判例動向 3 体罰裁判の新しい展開 4 生活指導とその法的限界 5 いじめと裁判——中野富士見中事件といわき小川中事件 6 いじめ自殺と予見可能性——津久井町立中野中いじめ自殺事件 7 いじめ調査・報告義務訴訟 8 丸刈り校則裁判 9 修徳高校パーマ校則裁判 10 都立高校原級留置き訴訟 11 信教の自由と学校教育——エホバの証人退学事件 12 内申書・指導要録開示訴訟 13 教育情報公開訴訟——学力テスト結果公開請求事件 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。		試験	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（教育法 2） 現代社会（Ⅲ）（教育法 b）	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
教育法の現代的問題状況の把握(教育法 a)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、自主性擁護的教育裁判を通じての教育法学形成と教育と国家との基本的な関係のあり方を検討します。次に、教育法の基礎概念である教育人権、子どもの学習権、親の教育権、教師の教育の自由、住民の教育権を、教育裁判を素材に解説します。最後に、2006 年教育基本法改正とその後の教育法状況を分析します。		1 戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2 逆コースの教育改革 3 教科書裁判（1） 4 教科書裁判（2） 5 最高裁学テ判決 6 障害児の学習権——特殊学級入級処分取消訴訟 7 子どもの市民的自由——内申書裁判 8 親の教育権——日曜日訴訟 9 親の教育権——七尾養護学校事件 10 教師の教育の自由——伝習館高校事件 11 教師の教育の自由と日の丸・君が代 12 住民の教育権——教育委員会制度と教育 13 教育基本法改正と教育法制 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください		試験	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（グローバリゼーションを巡って） 現代文化論 a（グローバリゼーションを巡って）	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
米国のサブプライム危機に端を発した金融危機は、またたく間に世界に波及して日本や欧州、アジアなどを覆った。現代のグローバリゼーションはさまざまな国家や地域を飲みこむ大波であり、米国という 20 世紀の覇権国家のシステムと文化がその中心にある。 言語、宗教、生活習慣、社会システム、人々の価値観など「文化」がかかわる領域は幅広い。20 世紀の社会はそれぞれの国や地域の固有性に根ざしながら、民主主義という統治の仕組みから市場経済システムのありかたや大量消費の文化など、米国というモデルの強い影響力の下で統合されてきたとみることもできる。 しかし 21 世紀の今日、その米国の文化的な覇権が揺らいでいることは、9/11 事件以降の国際社会や世界を覆っている金融危機を見るまでもない。 春学期は「米国」という歴史の浅い超大国が覇権国家として 20 世紀の世界にもたらしてきた文化的な影響力の由来とその限界を、歴史にさかのぼって考える。国家や民族、地域の文化が持つ固有性と、それを飲み込む普遍性を通してグローバリゼーションの意味を学びたい。		1 はじめに 2 文明のかたち 3 「帝国」と覇権 4 フランクリン型人間像 5 トクヴィルが見た米国 6 WASP と移民国家 7 ロックフェラーと石油の世紀 8 大量生産・大量消費の文化 9 冷戦と「豊かな時代」 10 「信頼」と社会 11 「大きな政府」から「小さな政府」へ 12 米国標準とソフトパワー 13 アメリカンシステムと金融危機 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）を参考文献とする。		定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するレポートの実績を勘案して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本の表象と世界） 現代文化論 b（日本の表象と世界）	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちが生きている場は、それぞれの言語や風土、民族や宗教、伝統と文化の下に置かれている。現代社会はこうした固有の環境がグローバリズムという大きなうねりと衝突し、あるいは融合して変化しながら、新たな文化のかたちとなってあらわれる。 中国文明の強い影響と極東の島国という地理的な条件の下で、日本は古来独特の文化を育んできた。それは外来の知識の積極的な受け入れとその固有の風土への融合による、新たなハイブリッド（混合）型の文化といえる。 明治維新以降の日本は近代化を進めた結果、アジアの先頭を切って西欧列強へ仲間入りした。近隣の植民地と敗戦という負の遺産を超えて、戦後に果たした復興と経済大国への道には、そうした日本の文化的な特質が少なからず寄与している。 ここでは近代の日本というモデルを通して、文芸や美術などの表象から社会システムや技術のありかたなど、その「文化」のさまざまな現れ方を探り、グローバリズムと伝統や固有の価値とのかかわりを考える。そのなかで、米国が主導してきたグローバル化の波が異文化とどのように向き合い、新たな価値を生んでいくかを問いたい。		1 はじめに 2 脱亜入欧とジャポニスム 3 日本型システムの起源 4 天皇制という仕組み 5 敗戦と占領 6 1955 年体制と戦後日本 7 MADE IN JAPAN 8 高度成長と中流社会 9 ブランドと消費社会 10 日本礼賛と日本たたき 11 COOL JAPAN 12 日本という表象 13 グローバリズムと文化 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）、荒井一博『文化の経済学』（文春新書）を参考文献とする。		定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するレポートの実績を勘案して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（経済学 1）（ミクロの視点で考える） 経済学 a（ミクロの視点で考える）	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。<u>春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</u>ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。		1. 経済学とは 2. 市場競争 3. 競争市場と需給の法則 4. 需給の変化と比較静学 5. 弾力性 6. 消費者余剰と交換の利益(1) 7. 消費者余剰と交換の利益(2) 8. 生産者余剰と生産の効率性(1) 9. 生産者余剰と生産の効率性(2) 10. 競争市場均衡と効率性 11. 市場介入の経済効果 12. 外部不経済と市場の失敗 13. 価格支配力と不完全競争 14. 不確実性と不完全情報	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは未定(第 1 回目の授業で指定します)。 清野一治『ミクロ経済学入門』日本評論社、2006 年。 伊藤元重『入門経済学(第 3 版)』日本評論社、2009 年 2 月刊行予定。		基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、出席点や練習問題の得点もサービス点として加算する予定。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（経済学 2）（マクロの視点で考える） 経済学 b（マクロの視点で考える）	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 秋学期は、<u>GDP、物価指数、失業率といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。</u>景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース・トピックもできるだけ取り上げたいと思います。		1. マクロ経済学とは 2. GDP、所得循環、景気循環 3. 物価指数、インフレーション 4. 経済成長 5. 資本市場 6. 貨幣と日本銀行 7. 労働市場と失業 8. 総需要と総供給(1) 9. 総需要と総供給(2) 10. 財政政策と金融政策 11. 所得・支出分析(1) 12. 所得・支出分析(2) 13. 財政赤字 14. 開放マクロ経済学	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは未定(第 1 回目の授業で指定します)。 二神孝一『マクロ経済学入門』日本評論社、2006 年。 伊藤元重『入門経済学(第 3 版)』日本評論社、2009 年 2 月刊行予定。		基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、出席点や練習問題の得点もサービス点として加算する予定。	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（経済学1）（はじめての経済学） 経済学a（はじめての経済学）	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、経済学の基本的な考え方を紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 I. マクロ経済学の基本 II. 日本の経済をマクロの視点でとらえる III. ミクロ経済学の基本 IV. ゲーム理論の考え方 （なお以上のテーマは、ほぼ下記のテキスト（上巻）の第II章から第V章に対応している）。		I. 1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か 2. GDPを中心にマクロ経済を考える 3. 需要と供給で考える 4. マクロ経済のコントロール——財政金融政策の役割 II. 5. 日本経済の構造変化——石油ショックと変動相場制 6. 日本経済のグローバル化——プラザ合意前後 7. バブルの形成と崩壊後の日本経済 III. 8. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 9. 市場メカニズムを解剖する 10. 市場はこうして失敗する IV. 11. ゲーム理論のエッセンス 12. 囚人のジレンマ 13. コミットメントとは何か 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『はじめての経済学（上）』日本経済新聞社。		レポート、期末試験。	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（経済学2）（はじめての経済学） 経済学b（はじめての経済学）	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、春季に習得した経済学の基本を、現実理解に即してマスターしてもらうことにある。財政や金融、企業や産業、ビジネスや労働、国際経済や為替の動き等々、具体的な事例や経済問題を通して、経済学の考え方にさらに磨きをかけてもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 I. 公共部門の経済学 II. 金融システムを理解する III. 人と組織の経済学 IV. 国際経済を見る目を養う （なお以上のテーマは、ほぼ下記のテキスト（下巻）の第VI章から第IX章に対応している）。		I. 1. 公共部門の三つの機能 2. 財政支出と税制 3. 財政政策の理論 4. プライマリーバランス——財政の未来を考える II. 5. 貨幣のもつ様々な機能 6. マネーサプライと金融政策 7. バブルの形成と崩壊をもたらす金融のメカニズム III. 8. 企業組織の経済的機能 9. 日本的企業システム 10. 変わりゆく日本の産業と労働市場 IV. 11. 基本データは国際収支表 12. 為替レートの変化に翻弄される企業 13. 比較優位——国際的な自由貿易の恩恵 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『はじめての経済学（下）』日本経済新聞社。		レポート、期末試験。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (広告論 a) 現代社会 (Ⅲ) (広告論 a)	担当者	友部 孝次
講義目的、講義概要		授業計画	
「講義の目的」 私たちの身の回りに溢れている広告—その機能や効果、企業活動における位置付け、さらにそれを担う組織や実行計画などについて基礎知識を学んでいきます。 併せて広告ビジネスの現場で何が起こり、現代の広告がどのように変化しているのかなどについて、時には実務者を交え、実務経験や各種調査などを踏まえた解説を行い、「生きた広告論」を学習してもらいます。 「講義の概要」 春学期の講義では、広告の定義にはじまって企業活動における広告の位置付け、広告に携わる組織の役割や動向などに至るまで、広告理解に必要な基礎知識を、最新の広告事例紹介も織り交ぜながら解説していきます。 最終回では広告界の第一線で活躍するアドマンによる座談会を開催、現場の息吹を感じてもらおう予定です。		1. 講義概要と広告トピックス 2. 広告の定義、歴史 3. 広告の機能、種類 4. マーケティングと広告 5. コミュニケーションと広告 6. 広告主の組織と役割 7. 最近の広告主の動向 8. 広告会社の組織と役割 9. 最近の広告会社の動向 10. 広告メディア①—プリントメディア 11. 広告メディア②—放送メディア 12. 広告メディア③—インターネット 13. 広告メディア④—非マス媒体 14. 広告ビジネスの現場から①	
テキスト、参考文献		評価方法	
梶山皓著『広告入門<第 5 版>』日本経済新聞出版社 (07 年 9 月)、日経広告研究所編『広告白書 2008』日本経済新聞出版社 (08 年 7 月)		出席、試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (広告論 b) 現代社会 (Ⅲ) (広告論 b)	担当者	友部 孝次
講義目的、講義概要		授業計画	
「講義の目的」 私たちの身の回りに溢れている広告—その機能や効果、企業活動における位置付け、さらにそれを担う組織や実行計画などについて基礎知識を学んでいきます。 併せて広告ビジネスの現場で何が起こり、現代の広告がどのように変化しているのかなどについて、時には実務者を交え、実務経験や各種調査などを踏まえた解説を行い、「生きた広告論」を学習してもらいます。 「講義の概要」 秋学期の講義では、広告計画の策定にはじまってクリエイティブ活動やメディア選択、広告効果測定などに至るまで、実際の広告活動に必要な実務的な知識を解説、その後内外の広告動向や事例を紹介します。 最終回では春学期同様、広告界の第一線で活躍するアドマンによる座談会を開催する予定で、春学期座談会とともに広告業界への就職活動にも役立ててもらいます。		1. 広告計画の策定 2. 広告制作の基本 3. 広告制作の実際 4. メディア選択と広告実施 5. 広告効果の測定 6. 広告調査の実施 7. 広告倫理と規制 8. クロスメディアと広告 9. コーポレートコミュニケーションと広告 10. 海外の広告ビジネス① 11. 海外の広告ビジネス② 12. 広告事例研究① 13. 広告事例研究② 14. 広告ビジネスの現場から②	
テキスト、参考文献		評価方法	
梶山皓著『広告入門<第 5 版>』日本経済新聞出版社 (07 年 9 月)、日経広告研究所編『広告白書 2008』日本経済新聞出版社 (08 年 7 月)		出席、試験による。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1 (国際法 1) (国際社会と私たち) 国際法 a (国際社会と私たち)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国家を中心とした国際法上の行為主体の観点から学ぶ。また、個人が国際法とどのように関わっているのかについても検討する。		1 講義の概要 2 国際法の歴史 3 国際法の存在形式 4 国際法と国内法 5 国家の成立 6 国家の基本権 7 外交使節 8 条約のしくみ 9 国際機構 10 個人の地位 11 人権の国際的保護 12 国際犯罪 13 裁判権免除 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1 (国際法 2) (国際紛争を考える) 国際法 b (国際紛争を考える)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会を地的管轄権という観点から検討し、それぞれの領域に適用される国際法のしくみを学ぶとともに、国際的な紛争の解決が、どのように図られるのかを考察する。		1 講義の概要 2 国家領域 3 日本の領域 4 国際化地域(極地・国際河川) 5 海洋の国際法制度 6 海洋の資源 7 空域・宇宙 8 国際環境保全① 9 国際環境保全② 10 国家責任 11 国際紛争の平和的解決(国際裁判等) 12 国際安全保障制度 13 武力紛争と法 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1 (コトバと社会) 現代社会 (Ⅲ) (コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方的一种であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。		1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ 2. 動物の伝え合い 3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い 4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？ 5. 世界にはどのような言語があるのか？ 6. 民族の形成 7. 文化の形成・変化 8. 民族と宗教 9. 民族と国家 10. 少数民族問題と民族・地域紛争 11. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ 12. ウソとコトバの魔術 13. つづき 14. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設 15. つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社) 下川 浩『どうしてそんなにダメされる?』『生きたコトバづかい』(国際語学社) ほか		授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に『どうしてそんなにダメされる?』のレポートを提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1 (コトバと社会) 現代社会 (Ⅲ) (コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方的一种であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。		1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ 2. 動物の伝え合い 3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い 4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？ 5. 世界にはどのような言語があるのか？ 6. 民族の形成 7. 文化の形成・変化 8. 民族と宗教 9. 民族と国家 10. 少数民族問題と民族・地域紛争 11. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ 12. ウソとコトバの魔術 13. つづき 14. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設 15. つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社) 下川 浩『どうしてそんなにダメされる?』『生きたコトバづかい』(国際語学社) ほか		授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に『どうしてそんなにダメされる?』のレポートを提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（ジェンダーとメディア表象） 女性学b（ジェンダーとメディア表象）	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ジェンダーの表象を読み解く力を身につけることを目的とする。なぜ、今、そのような力が必要とされるのか。文化と社会のジェンダー規範は、ジェンダー表象を通じて社会の構成メンバーの意識にうつけられる。現在、わたしたちを縛っているジェンダー規範が、社会と個人の可能性を狭めるようなもので、それを変えたいと思うのなら、まずその規範がいかに個人意識のなかに内面化されるのかを知らねばならない。 ジェンダー表象の読解力がついたところで、働くこと、家族をつくること、子どもを産み育てること、さらにはセクシュアリティなど、受講生のみなさんの人生に関係してくる問題について、新たな視点から検討してみたい。 （注） 「表象」という言葉については講義のなかで詳しく説明しますが、とりあえずは、言葉その他によって表現されたものと理解していただきたい。		1. 導入：ジェンダーとは、表象とは 2. 日常のステレオタイプ（コマーシャル分析） 3. 男の子の国、女の子の国——社会化の道具としてのアニメと伝記(1) 4. 男の子の国、女の子の国——社会化の道具としてのアニメと伝記(2) 5. 身体とセクシュアリティ(1) 6. 身体とセクシュアリティ(2) 7. 身体・セクシュアリティの物象化と暴力 8. セクシュアリティのジェンダー化と暴力 9. セクシュアリティのジェンダー化と暴力 10. 労働・家族・再生産(1) 11. 労働・家族・再生産(2) 12. 労働・家族・再生産(3) 13. ジェンダー表象の変化(1) 14. ジェンダー表象の変化(2) 講義内容に変更がある場合は、登録に先立ち講義支援システムに掲示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で使う資料はプリントを用意する。なお主な参考文献は開講時に指示するとともに、授業支援システムに掲示し、本は図書館の指定図書コーナーに置く。		出席（コメントペーパー）とテストによる。（登録人数によって変わる場合もある。登録人数が決定し次第、お知らせします。）	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（家庭と職場のジェンダー） 女性学a（家庭と職場のジェンダー）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 学校教育ではおおむね「男女の区別など関係ない」と習ってきたと思いますが、社会をよく観察すると「男道」と「女道」があるようです。そこからはトキメキ感や貴重な文化も生まれますが、無理解や息苦しさも生まれているようです。 この授業ではそうした社会の現状について、プラスの面もマイナスの面も、できるだけ両方あわせて考察します。アプローチの方法はジェンダー・スタディーズ。比較的新しい学問分野ですが、社会の中の男女問題を考えるのに欠かせない概念をいくつも提出してきています。授業ではそれらの概念を使いつつ、身近な問題をみんなで見直してみたいと思います。 講義概要 毎回ひとつのトピックについて、データ、映像、ジェンダー・スタディーズのキー概念等を使いながら解説します。受講者のみなさんにはノートを取りつつ議論の流れを理解してもらい、授業内容を受けて何度かリアクションペーパーを書いてもらいます。内容は授業で一部紹介し、それを受けてさらに考察を深めてもらいます。		1. イントロダクション 2. 〈主婦〉から見る日本の近・現代 3. 男性と仕事 4. 女性と仕事 5. DV・デートDV 6. セクシュアル・ハラスメント 7. 〈痴漢〉と女性専用車両 8. 異性愛・同性愛・両性愛・無性愛… 9. 〈性同一性障害〉とトランスジェンダー 10. 産む・産まない（1） 11. 産む・産まない（2） 12. ジェンダーをめぐる研究と運動（1） 13. ジェンダーをめぐる研究と運動（2） 14. まとめ ＊トピックに若干変更を加えることがあります。また、一部、性的表現や暴力的表現をふくむトピックもありますが、ご了承ください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。		リアクションペーパーと学期末試験。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（社会科学概論 1） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 a）	担当者	堅田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
「社会科学」は法学・政治学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 春学期は、テキストとして橋爪大三郎氏の『冒険としての社会科学』を用います。同氏は、わが国を代表する社会学者で、言語や宗教や性愛についても多くの著書があります。本書では日本国憲法論とマルクス主義論を軸に、全体としてわが国の戦後の思想状況について、タブーを恐れることなく、根源的に論じています。実は原著は 20 年ほど前に出版されたものなのですが、憲法にせよマルクス主義にせよ論じられている問題はけっして古くなく、今日的な問題提起として、あらためて検討すべきものばかりです。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。		1. 授業の概要 2. 社会科学を学ぶからには／戦後社会を見直そう 3. あなたは憲法に違反できない／教会と王権 4. ローマ教会と改革派／社会契約の思想 5. 裁判を受ける権利／市民社会の自由から資本主義が現れる 6. みんな、マルクス主義者だった／マルクス主義は救済の神学である 7. マルクス主義はなぜ「科学」か／冷戦の時代 8. 日本共産党の結成／歌ってマルクス踊ってレーニン 9. 60 年安保闘争／全共闘かく敗れたり 10. 過激派三大事件／なぜ日本は資本主義を成功させたか 11. 日本国憲法の謎／民主主義のダブル・マインド 12. 万世一系ノ天皇之ヲ統治ス／ゆきゆきて神軍 13. 日本の社会原則／ヒロシマとは何だったか 14. 効率社会・日本／社会科学が武器になる	
テキスト、参考文献		評価方法	
橋爪大三郎『冒険としての社会科学』洋泉社 MC 新書、2008 年 ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。		「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ返却したのち、再提出の機会を設けます。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（社会科学概論 2） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 b）	担当者	堅田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
「社会科学」は法学・政治学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 秋学期は、テキストとして佐伯啓思氏の『自由と民主主義をもうやめる』を用います。同氏は、経済思想史の専門家ですが、あえて「保守」の立場から、日本の戦後思想のあり方全般について根源的な懐疑を突きつけています。本書のタイトルそのものも刺激的ですが、アメリカ論・戦争論・愛国心論など、わが国の従来の社会科学でタブー視されてきたものばかりです。著者の考えをそのまま受け入れる必要はありませんが、一度考えてみる価値のある問題ばかりです。講演会の記録ということもあり、語り口は平易ですので、読みやすい本といえるでしょう。講義と並行して、ぜひ主体的かつ批判的に、読んでみてください。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。		1. 授業の概要 2. 簡単だった対立の構図／文明の崩壊を食い止める 3. ある古い旅館の光景／学級民主主義が嫌いだった私 4. 近代を警戒するヨーロッパ／普遍的人権 5. 弱く頼りなき人間の知恵／「戦後」の見直し 6. ニーチェとの出会い／若者はすべてをなげうった 7. 西洋近代的価値への激しい攻撃／日本的価値観を掲げる以外に道はない 8. 世界金融危機の根本原因は過剰資本／すでに緩やかな戦争が始まっている 9. 帝国主義の時代に問われる国力／「武士道」が記憶から消えることはない 10. 日本特有の「独自性」にどう踏み込むか／「郷土愛」の延長にある「愛国心」 11. 左翼思想のカリスマ丸山眞男／「悔恨の共同体」か「負い目の共同体」か 12. 世界の民主主義を守るという口実／戦争の意味づけを自ら放棄 13. 福澤諭吉『文明論之概略』のテーマ／萩原朔太郎を襲った喪失感 14. 日本の精神の核には「滅びの美学」がある／受け継がれる「海ゆかば」の思い	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐伯啓思『自由と民主主義をもうやめる』幻冬舎新書、2008 年 ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。		「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ返却したのち、再提出の機会を設けます。	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（社会学a） 社会学a（他者と自己）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点、社会的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。		1. イントロダクション——社会的な視座とは 2. 社会学の歴史（1）——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史（2）——E.デュルケム 4. 社会学の歴史（3）——M.ウェーバー 5. 社会の類型（1）——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型（2）——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型（3）——第一次集団 8. Identity形成と社会（1）——鏡に映った自己 9. Identity形成と社会（2）——重要な他者 10. Identity形成と社会（3）——マージナル・マン 11. Identity形成と社会（4）—— 未定 12. 補完的アイデンティティについて（1） 13. 補完的アイデンティティについて（2） 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（社会学b） 社会学b（現代社会の諸問題）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 「社会」問題と社会的視座（1） 8. 「社会」問題と社会的視座（2） 9. 予言の自己成就——R.K.マートン 10. 誇示的消費——T.ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 12. 文化的再生産——P.ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（政治システムの構成要素） 政治学 a（政治システムの構成要素）	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会における政治のメカニズムを理解するために、日本の政治を例に挙げながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの政治を見る視点を養ってほしい。 春学期は、日本の政治社会のシステムを構成する諸要素とそのメカニズムを学び、近現代日本の政治システムの構造変化を捉える視点を身につける。		(1) 政治とはなにか (2) 政治のアクター (3) 官と民 (4) 大企業と政治 (5) 選挙 (6) 国と地方 (7) マスメディアと政治 (8) 国会 (9) 内閣 (10) 官庁と官僚 (11) 明治憲法と明治国家体制 (12) 戦前の政治体制 (13) 日本国憲法と戦後政治体制 (14) ポスト戦後体制	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 雨宮昭一『占領と改革』岩波新書（岩波書店,2008） （参考文献は講義の中で、適宜紹介する）		出席とレポートと期末試験	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（現代の民主主義） 政治学 b（現代の民主主義）	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会における政治のメカニズムを理解するために、日本の政治を例に挙げながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの政治を見る視点を養ってほしい。 秋学期は、過去 200 年の政治の世界の変容をデモクラシーの展開という観点から捉え直し、現代における民主主義の課題と可能性を考える		(1) 国家 (2) 主権 (3) 国民 (4) 自由主義 (5) 民主主義 (6) 社会主義 (7) 国民国家と福祉国家 (8) 冷戦構造とポスト冷戦構造 (9) 大衆化と民主主義 (10) 組織化と民主主義 (11) ジェンダーと民主主義 (12) グローバル化と民主主義 (13) 情報革命と民主主義 (14) リベラルデモクラシーの可能性	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 森 政稔『変貌する民主主義』ちくま新書(筑摩書房,2008) （参考文献は講義の中で、適宜紹介する。）		出席とレポートと期末試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（地域メディア論） 比較文化論b（地域メディア論）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。		1. イントロダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア（1） 5. 各地の地域メディア（2） 6. 各地の地域メディア（3） 7. メディアによる地域文化の創造（1） 8. メディアによる地域文化の創造（2） 9. 多文化共生と地域メディア（1） 10. 多文化共生と地域メディア（2） 11. 多文化共生と地域メディア（3） 12. 受講者による発表（1） 13. 受講者による発表（2） 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
早川善治郎編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 田村紀雄編『現代地域メディア論』日本評論社		出席と発表（履修者多数の場合、レポート）	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（地誌学 1）（ヨーロッパ地域論） 現代社会（Ⅲ）（ヨーロッパ地域論）	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU に関する基礎的な知識を習得したうえで、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。		1. ヨーロッパとは何か 2. EU 導入 3. EU の歴史(1) 4. EU の歴史(2) 5. EU 憲法 6. EU の東方拡大(1) 7. EU の東方拡大(2) 8. EU の東方拡大(3) 9. 東方拡大と農業政策（1） 10. 東方拡大と農業政策（2） 11. EU と地域(1) 12. EU と地域(2) 13. EU と地域(3) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。 授業中に資料を配布する。		レポートもしくは試験により評価。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（地誌学 2）（ドイツ地域論） 現代社会（Ⅲ）（ドイツ地域論）	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ再統一後の地域構造の変化を把握することを目的とする。特に、旧東ドイツ地域を対象とし、その変化と諸問題を地域政策（空間整備政策）および都市計画という視点から分析していく。		1. ドイツ再統一とヨーロッパ 2. ドイツの地域構造の変化(1) 3. ドイツの地域構造の変化(2) 4. ドイツの地域政策 5. ドイツの都市政策(1) 6. ドイツの都市政策(2) 7. 冷戦下の西ベルリン・東ベルリン 8. 再統一後のベルリンの都市構造(1) 9. 再統一後のベルリンの都市構造(2) 10. 再統一後のベルリンの都市構造(3) 11. 地方都市の変化(1) 12. 地方都市の変化(2) 13. 地方都市の変化(2) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。 授業中に資料を配布する。		レポートもしくは試験により評価。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（中東政治思想 a） 現代社会（Ⅲ）（中東政治思想 a）	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは1990年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001年9・11テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が2003年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは2006年10月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義ではジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・戦時運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は、 (1) 授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (2) イスラム主義政治運動を中心に中東政治情勢ビデオの視聴 の2部構成とする。		1 (イントロダクション) セム族唯一神教の系譜 2 イスラム教多数派スンニ派とシーア派の起源 3 イスラム教の戒律シャリーア（イスラム法） 4 エジプトの過激イスラム主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」 5 イスラムの伝統的世界論「イスラムの家」と「戦争の家」 6 ウンマ（イスラム共同体）内部のジハード論 7 ジハードの戦略論「近い敵・遠い敵」論、 8 クトゥブの革命理論、ジャーヒリーヤ論 9 過激イスラム主義組織の原型「タクフィール団」 10 過激イスラム主義勢力のサーダート前エジプト大統領暗殺（1981年） 11 湾岸戦争（1991年）と「新十字軍」論 12 アルジェリアの急進的タクフィール論 13 イスラム集団による外国人観光客殺戮、ルクソール事件（1997年） 14 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』（中公新書、2001年）		出席率（60%）と試験（40%）による	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（中東政治思想 b） 現代社会（Ⅲ）（中東政治思想 b）	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは1990年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001年9・11テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が2003年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは2006年10月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義ではジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・戦時運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は、 (1) 授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (2) イスラム主義政治運動を中心に中東政治情勢ビデオの視聴 の2部構成とする。		1 旧ソ連のアフガニスタン侵攻（1979年） 2 アフガニスタン戦争とアラブ・アフガンズ（イスラム義勇兵）の出現 3 「20世紀におけるジハードの回復者」アッザーム 4 国際的テロ組織アルカーイダ（基地）の結成 5 ビンラーディンによる対米「ジハード宣言」と「世界イスラム戦線」の結成 6 タリバンの最高指導者ウマルは「信徒の司令官」 7 タリバンの「イスラム首長国（イマーム）」樹立 8 アルカーイダの休眠細胞と9・11テロ 9 イラク戦争とアルカーイダ第2世代指導者ザルカウィの登場 10 「ユーロイスラム」とロンドン同時テロ 11 ザワヒリのイラク・ジハード4段階戦略 12 アルカーイダ・イラク支部の擬似国家「イラク・イスラム国」樹立 13 イスラム主義運動全般の反ユダヤ主義 14 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』（中公新書、2001年）		出席率（60%）と試験（40%）による	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（地理学1）（自然環境と文化） 地理学a（自然環境と文化）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。		1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素（1） 地球の特質 4 環境の諸要素（2） 地形環境 5 環境の諸要素（3） 気候環境 6 環境の諸要素（4） 植生と土壌 生態系 7 熱帯地域（1）—自然的特質と伝統的農業 8 熱帯地域（2）—アジアの稲作 9 熱帯地域（3）—熱帯の開発と問題（1） 10 熱帯地域（4）—熱帯の開発と問題（2） 11 砂漠地域（1）—自然的特質とイスラム 12 砂漠地域（2）—石油資源と近代化 13 砂漠地域（3）—アラブとイスラエル 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（地理学2）（自然環境と文化） 地理学b（自然環境と文化）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。		1 温帯地域（1）自然的特質 2 温帯地域（2）地中海森林地域 3 温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4 温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5 温帯地域（5）温帯 6 温帯地域（6）新大陸(1) 7 温帯地域（7）新大陸(2) 8 冷帯地域 9 冷帯地域・寒帯地域 10 山地地域 11 世界の環境問題（1）人口 12 世界の環境問題（2）食料 13 世界の環境問題（3）地球温暖化 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（地理学1）（世界の自然環境と文化） 地理学a（世界の自然環境と文化）	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、気候や植生との関連から世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 まず、環境の諸要素を概観し、特に気候・植生の特色、成因、構造について学習する。その後、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式をスライド、VTRを用いながら説明する。最後に、自然生態系と社会生態系の概念について考察する。		1. オリエンテーションー地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1) 熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2) 熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3) 熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1) 自然的特色 9. 沙漠地域(2) 文化的特色と伝統的経済活動 10. 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 11. 亜寒帯森林地域(1) タイガの自然と生活 12. 亜寒帯森林地域(2) タイガの森林開発 13. 亜寒帯森林地域(3) タイガの地下資源開発 14. まとめー自然生態系と社会生態系	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験を主体とし、出欠状況を加味する。	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（地理学2）（世界の自然環境と文化） 地理学b（世界の自然環境と文化）	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、地形を中心にしながら、資源・産業・開発との関連を重視しつつ、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 世界の地形環境を概観することからはじめ、地形の成因、構造、人間生活とのかかわりを学習し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地帯を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し自然生態系と社会生態系の枠組みを理解して、共生と循環を基調とする持続可能な生活様式を学ぶ。		1. 環境の諸要素ー地形環境 2. 山地地域(1) 山地の自然環境 3. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業 4. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化 5. 地中海森林地域の特性 6. 地中海地域の生活様式ー西欧文化の原点 7. 温帯草原地域の自然特性 8. 温帯草原地域の開発と環境問題 9. 温帯混合林地帯(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地帯(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 温帯混合林地帯(3) 産業の発展と都市問題 12. 世界の環境問題ー地球環境問題の諸相 13. 世界の環境問題ー環境破壊と保全 14. まとめー持続可能な生活様式	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験を主体とし、出欠状況を加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
初めて憲法を勉強する受講者を対象に、なるだけ分かりやすく「この国の形」について講義を行う。 特に、教員を目指す学生にとって必要不可欠な人権センスの涵養を目指したい。 半期講義であるため、人権論を中心にした憲法入門講義を行う。 なお、『六法』（出版社は問わない）は必ず、2 回目の講義からもってくる。 ＜受講生への要望＞ 質問には間違ってもいいから、積極的に発言するように心がけたい。		1. ガイダンス 2. 『六法』の使い方、憲法概念 3. 憲法制定略史 4. 平等権 5. 信教の自由（1）／人権 6. 信教の自由（2）／政教分離 7. 学問の自由 8. 表現の自由と報道の自由 9. 表現の自由とプライバシーの権利 10. 表現の自由と教科書検定制度 11. 経済的自由と職業選択の自由 12. 人身の自由と刑事手続き 13. 生存権と社会保障 14. 教育権	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤一彦『教職教養憲法 15 話』（北樹出版、2009 年）		定期試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
初めて憲法を勉強する受講者を対象に、なるだけ分かりやすく「この国の形」について講義を行う。 特に、教員を目指す学生にとって必要不可欠な人権センスの涵養を目指したい。 半期講義であるため、人権論を中心にした憲法入門講義を行う。 なお、『六法』（出版社は問わない）は必ず、2 回目の講義からもってくる。 ＜受講生への要望＞ 質問には間違ってもいいから、積極的に発言するように心がけたい。		1. ガイダンス 2. 『六法』の使い方、憲法概念 3. 憲法制定略史 4. 平等権 5. 信教の自由（1）／人権 6. 信教の自由（2）／政教分離 7. 学問の自由 8. 表現の自由と報道の自由 9. 表現の自由とプライバシーの権利 10. 表現の自由と教科書検定制度 11. 経済的自由と職業選択の自由 12. 人身の自由と刑事手続き 13. 生存権と社会保障 14. 教育権	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤一彦『教職教養憲法 15 話』（北樹出版、2009 年）		定期試験による。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	古関 彰一
講義目的、講義概要		授業計画	
日本国憲法の概要を講義します。春学期の授業で日本国憲法全般を講義することは不可能ですので、基本的と考えられる点を、人権を中心に講義することになります。		1 開講にあたって（近代憲法とは何か） 2 基本的人権の歴史 3 基本的人権適用の限界（公共の福祉、外国人） 4 日本国憲法の制定過程 5 平和主義と憲法9条 6 平等権の概念・学説・判例 7 選挙権の法的性格と選挙定数 8 信教の自由と政教分離原則 9 表現の自由の意義と検閲 10 報道の自由と知る権利 11 生存権の法的性格・学説・判例 12 立法権の性格と国政調査権 13 行政権の範囲と地方自治 14 司法権の独立と違憲法令審査権 15 閉講にあたって（まとめ、論述の仕方）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、芦部信喜『憲法』第四版（岩波書店、2007年）。小六法（出版社は問いません）		春学期最後の試験期間中に一回、論述式の試験を行い、その結果に基づいて評価します。	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1 (東アジア国際関係の史的展開) 現代社会 (Ⅲ) (東アジア国際関係の史的展開)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
現代東アジア国際関係の歴史を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 講義では、第2 次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。		1 東アジア国際関係の特質 2 冷戦の起源と東アジア 3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦 4 中ソ対立とベトナム戦争 5 米中和解の衝撃 6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7 新冷戦：日米中戦略提携の時代 8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9 ポスト冷戦の世界 10 東アジア地域の台頭 11 アメリカ単独覇権の時代 12 「9.11」後の世界 13 国際金融秩序の崩壊 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくに指定しない		筆記試験（論述）	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1 (東アジア国際関係の現状と展望) 現代社会 (Ⅲ) (東アジア国際関係の現状と展望)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中口という大国の利害が交錯し、かつASEAN という地域協力体やAPEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。		1 21 世紀の超大国・中国：建国60 年の紆余曲折 2 21 世紀の超大国・中国：建国60 年の紆余曲折 3 21 世紀の超大国・中国：和諧社会への壁 4 中国軍の近代化と東アジアの安全保障 5 台湾：蒋介石・蔣経国の権威主義時代 6 台湾：李登輝の民主化路線 7 台湾：陳水扁と米中台関係 8 中台関係：統一と独立めぐる環境変化 9 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 10 韓国：強権政治から民主体制への転換 11北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際環境 12東南アジア世界の統合：ASEANとAPEC 13東南アジア世界の統合：東アジア共同体の模索 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくに指定しない		筆記試験（論述）	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（ブラジル研究） 現代社会（Ⅲ）（ブラジル研究）	担当者	矢澤 達宏
講義目的、講義概要		授業計画	
「ブラジル」と聞いて、何を思い浮かべるであろうか？ サッカー、コーヒー、サンバ、アマゾン、日系人——これらはたしかにブラジルを語るときには欠かせないキーワードではあろう。しかし、これらキーワードを挙げるとき頭のなかで描いているイメージは、それらの実際のありようとの程度まで合致しているであろうか？ また、一般的に流通しているキーワードでは象徴されてこなかったブラジル社会の横顔には、どのようなものがあるだろうか？ ブラジルの社会や文化の様々な側面は、かねてより外部の人々の好奇心を刺激し、それに触れた多くの者たちを魅了してきた。「未来の国」、「人種の楽園」など、これまでに生み出されてきた数々のレッテルがそのことを物語っている。しかし同時に、そこに足を踏み入れ、容易ならざる社会矛盾を目の当たりにして、とまどいを覚えてきた人々もまた少なくない。理想、希望と現実とが交錯し、表裏一体をなすブラジル社会は、多くの人々にとって様々な示唆に富んだ興味深い対象であるに違いない。 この授業は、そうしたブラジルの社会・文化のなりたちと現在のありように対する理解を深めてもらうことを目的とするものである。中身の濃い授業にするため、問題関心・勉強意欲の高い学生諸君のみが履修することを強く望む。		1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. ブラジル概観① スライドショーで観るブラジル 3. ブラジル概観② 地域的多様性を中心に 4. 「ブラジル性」をめぐる議論 5. ブラジル史の概要① 植民地支配 6. ブラジル史の概要② 国家建設の軌跡 7. 多人種社会① 「人種の楽園」という神話 8. 多人種社会② 多文化主義へ：黒人をめぐる状況 9. 多人種社会③ アフロ・ブラジル文化 10. 多人種社会④ 先住民：保護と開発のはざま 11. 多人種社会⑤ 日本人移民：そのアイデンティティ 12. 多人種社会⑥ こんにちはの日系ブラジル人 13. 国民文化① サッカー：国民的スポーツへの道 14. 国民文化② サンバ：貧民の文化から国民文化へ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005年）を挙げておく。		基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、履修者数が比較的少ない場合は、出席や授業内ペーパー、レポート等による評価をおこなう可能性もある。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（民法1） 現代社会（Ⅲ）（民法a）	担当者	石井 保雄
講義目的、講義概要		授業計画	
最近、「法律相談」を題材にしたテレビのバラエティー番組もいくつかあり、法ないしは法律について、以前にくらべれば、身近なものと感じる人も増えているかと思う。この講義では、法律学のなかでの「基本のキ」（少し古い！）ともいえる民法がどのようなものかを説明したい。 民法は、私たちの日常生活のなかで、もっとも身近な法律である。しかしこの法律は全体で千条を超える条文数のある大きなもので、ほかの関連する法規も含めれば膨大なものとなる。またつい最近までカタカナ混じりの文語体の漢字が多用され、分かりにくい法律であった。ただしこれについては、平成16年からひらがな口語体になり、随分改善された。 この講義では、民法について、その基本的な考え方を説明しようと考えている。具体的には、民法の別名でもある「商品交換法」「財産取引法」という側面を中心にして、その基本的な枠組み・処理の発想がどうなっているのかを説明したい。なお受講にあたっては、小型のものでいいから、「六法全書」を持参してもらいたい。		《契約の成り立ちとその役割——財産取引社会における法の役割と機能について考える——》 1 私たちの生活と民法——イントロダクション—— 2 近現代＝財産取引・社会における民法の役割 3 法は「人間」をどのように捉えているのか？ 4 当事者の意思に問題があつて契約が有効にならないとき「意思の欠缺」と「瑕疵ある意思表示」とは何か？ 5 当事者の「意思」に問題があり、契約が有効でない場合の後始末——「無効」と「取消」—— 6 本人の活動を拡大するためのシステム——代理制度 7 法律関係を時間的に調整する制度——「時効」「除斥期間」とは何か？ 8 「時効」と「除斥期間」（続き） 9 契約関係の重複と物の引渡し——債権と物権の意味 10 契約が成立するとどうなる？——不動産取得と第三者への権利主張 11 契約内容が不十分にしか実現されないとき——債務不履行とその解決 12 契約の目的物のキズがあつた場合の売り主の責任——瑕疵担保責任 13 契約実行を確保する制度——保証—— 14 債権の優先実現の制度——抵当権——	
テキスト、参考文献		評価方法	
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門〔新版〕』（信山社・2006）		基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただし途中2,3回レポートの提出を求めて、それらを最終評価に際し考慮することになるかと思う。	

08年度以降 07年度以前	現代社会1（民法2） 現代社会（Ⅲ）（民法b）	担当者	石井 保雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、春学期に続いて、法律学における基本科目であり、私たちの日常生活においてもっとも身近な法律である民法について、その基本的な考え方について説明したいと思う。また私たちが生きる現代社会のなかの日常、いったいどのような問題が提起され、民法がそれらをいかに解決しているのかを具体的に検討してみたい。 まず最初に「事務管理」「不当利得」にていてふれ、そのあとに財産取引法としての民法が人びとの、自由な商品交換について、いわば、その裏から支えている側面、すなわち不法行為法について触れる。それから民法のもつ、もう一つの側面である、「家族法」、つまり家庭内における夫婦や親子関係をめぐって提起される問題への法的対処についてとりあげる。なお、このような分野も、それが決して商品交換法としての民法と無関係でないことも、あわせて明らかにしたい。 できれば春学期に続いて受講することが望ましい。ただし秋学期のみの受講者にとっても、興味・関心のもてるものになるよう努めたいと思う。なお受講に際しては、小型のものでいいから「六法全書」必携であることは、春学期と同じである。		1 民法とは何か？——イントロダクションとしての財産法と家族法の説明—— 《契約だけで解決できない問題》 2 契約によらず生じた富は、一体だれの手に？（1）「事務管理」 3 契約によらず生じた富は、一体だれの手に？（2）「不当利得」 4 他人の権利・利益を侵す行為の責任——「不法行為」 5 同上（続き） 《契約から家族へ》 6 夫婦関係の形成——「婚姻」と結婚 7 夫婦関係の解消——「離婚」 8 男女の「婚姻」以外の共同生活のあり方と法 9 先端医療時代の家族——変わる「親子」関係 10 家族のなかの「弱者」——子供を育てる 11 保護の必要な大人——高齢者と民法 12 同上（続き） 13 家族関係と財産関係の交錯——相続 14 同上（続き）	
テキスト、参考文献		評価方法	
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門』（信山社・2004）		基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただし2,3回レポートの提出を求め、それらについても最終評価に際し、参考とするつもりである。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（歴史の中のメディア） 現代社会（Ⅲ）（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
グーテンベルクによる活字印刷の発明で、大量の情報が同時に広く人々に伝えられるようになり、欧州社会を中心にコミュニケーションの場は飛躍的に拡大した。 それが新聞や雑誌という活字メディアの勃興につながり、民主主義社会の発展に大きな役割を果たす。やがて 19 世紀後半から 20 世紀にかけて、電信などの通信技術の開発と写真や映画、ラジオやテレビといった映像と音声による情報伝達の広がりによって、人々を取り巻くメディア環境は大きく変容した。 さらにインターネットが切り開いた 21 世紀の情報空間は、その技術の質とグローバルな規模でわれわれの暮らしを変え、一方でそれを支える社会の価値観や規範を揺るがせている。 こうしたメディアの歴史をたどるなかで、この授業ではさまざまな具体的事例を通して個人と国家や社会との関係や、民主主義と市場経済というシステムとのかかわりに情報がどのような役割を果たしてきたかを学んでゆく。メディアを介した情報が歴史に果たしてきた役割とその行方をここで見つめたい。		1 はじめに 2 グーテンベルクの革命 3 ピュリツァーと＜新聞戦争＞ 4 ロイターの軌跡 5 視覚の二〇世紀 6 メディアとプロパガンダ 7 戦争・国益・メディア 8 グローバリゼーションと情報 9 メディア複合体 10 テレビとネット 11 「素材は王なり」 12 民主主義とメディア 13 メディアのなかの人間 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。		定期試験の成績に、通常の授業なかで課すりポートの実績を勘案して評価する。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 1（メディアと現代社会） 現代社会（Ⅲ）（メディアと現代社会）	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
マスメディアは個人と民主主義や市場を支えるシステムを結んで情報を伝達し、社会が共有する「財」を生み出してきた。政治や外交における世論や政策の形成、市場における消費や文化的な価値の創造に大きな影響力をもたらすこの機能が、立法や司法、行政の三権になぞられて「第 4 の権力」と呼ばれるゆえである。 情報を独占的に扱うことで民主主義の下で国民が抱える求を代行して担うというその特質から、メディアには「公益性」という使命が求められてきたが、ここへきてその変質が問われている。 背景にはメディアが巨大資本を背景にして収益性と権力性を高めることで、その公共的な足場を支えてきたジャーナリズムという倫理が内外から揺らいでいることがある。報道を巡る「表現の自由」と個人の「プライバシー」の権利の対立、「知る権利」というメディア報道の法的基盤の揺らぎなどが、その一例である。 個人の自在な情報のやりとりを可能にしたインターネットという新たなメディアの登場も既存のメディアの立場をひととき瓦解しいものになっている。「公共性」を巡ってメディアがいま問われている課題を考えたい。		1 はじめに 2 ジャーナリズムの誕生 3 調査報道とキャンペーン 4 「表現の自由」と社会 5 誤報と虚報はなぜ生まれるのか 6 「世論」とメディア 7 情報操作はなぜ行われるのか 8 公共性とメディアの倫理 9 放送と通信の融合 10 外交と情報摩擦 11 メディアの再編と市場 12 報道・情報・エンターテインメント 13 「公共圏」の行方 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。佐藤卓巳『メディア社会』（岩波新書）を参考文献とする。		定期試験の成績に、通常の授業のなかで課すりポートの実績を勘案して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 a) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (宇宙論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、時間・空間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った発想の転換、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☆ 簡単な数学も必要に応じて使います。		特殊相対性理論 (1905 年) <pre> graph TD A[特殊相対性理論 1905 年] --> B[光] A --> C[時空] A --> D[特殊相対論] B --> E[光速度 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮] C --> F[絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理] E --> G[特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー] F --> G D --> G </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		☆ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

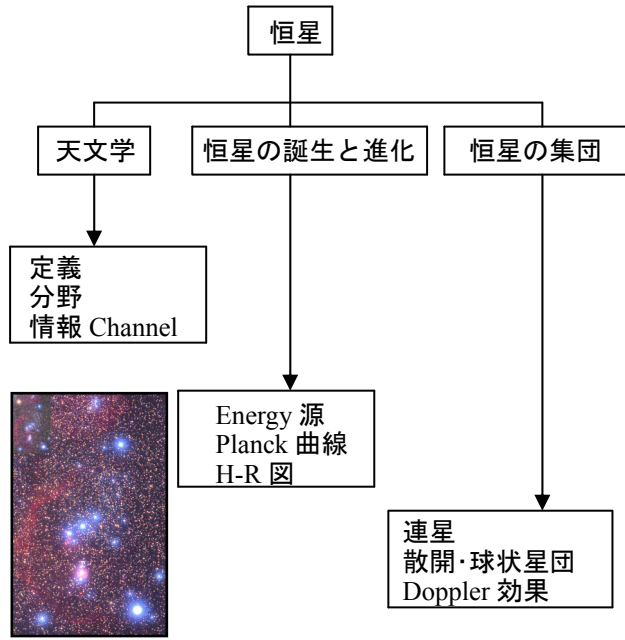
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (宇宙論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
㊦ 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。 ㊦ “一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で検証され、重力をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題 (Dark energy など) も交えながら学びます。 ㊦ 発想の転換に因る独自の考えは、用心深く実践する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、責任を持って実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。 ㊦ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ㊦ 簡単な数学も必要に応じて使います。		一般相対性理論 (1915 年) <pre> graph TD A[一般相対性理論 1915 年] --> B[一般相対論] A --> C[検証] A --> D[重力現象] B --> E[一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力] C --> F[重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動] D --> G[宇宙モデル Black holes 重力波] </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
㊦ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		㊦ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

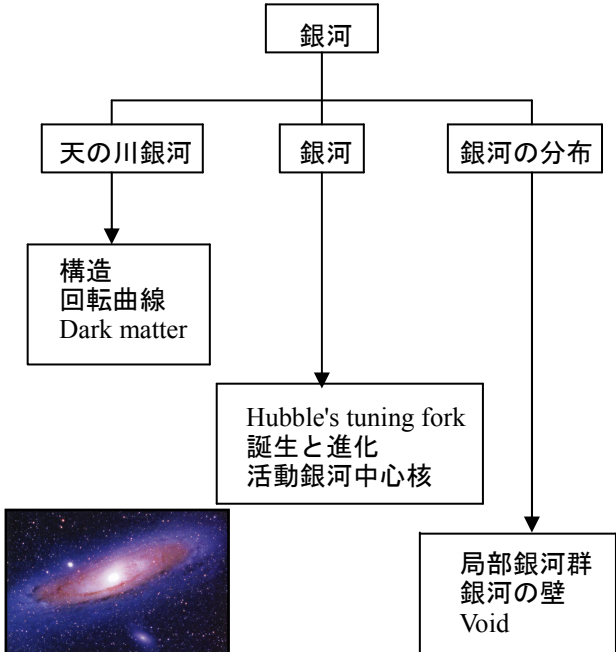
08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間1(科学史a) 物理学a(相対論の世界)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境・人間1(科学史a)」「物理学a(相対論の世界)」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間・空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。		1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 天体の運行 4. ガリレイの相対性原理 5. ニュートンの宇宙観 6. 電磁気学の成立 7. 特殊相対性理論 8. 時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性 10. 一般相対性理論 11. 時空の幾何学化 12. 一般相対論的宇宙論 13. 時間とは何か 14. 最新の時間空間概念	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間1(科学史b) 物理学b(量子論の世界)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境・人間1(科学史b)」「物理学b(量子論の世界)」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。		1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 光の粒子説・波動説 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 不確定性関係 9. 観測の問題 10. 相対論的量子論 11. 素粒子の世界 12. 統一理論 13. 宇宙の進化 14. 最新の物質観	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間1（化学の歴史と現代） 化学a（化学の歴史と現代）	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 現代社会において科学技術が果たしている役割の大きさはあらためていうまでもない。身の回りの日常生活から宇宙の果てまで、人類の歴史の中で自然世界に対する私たちの認識と物質的生活とがどのように幅広く豊かなものになってきたか、そして現在その豊かさを享受しているかを、物質を探究する科学でもあり技術でもある「化学」の歴史と現状から紹介し、私たちの生き方とモノとのかかわりを考察する。 【講義概要】 講義の前半は古代から現代までの歴史に沿って、化学物質の認識と化学的技術の発展の道筋を概観する。 後半は化学を中心として現代の自然科学が物質の世界をどのように理解しているか、化学を利用したさまざまな技術が私たちの生活世界をどのように変えつつあるかを、いくつかのトピックについて紹介する。		1. イントロダクション：現代社会と化学・化学技術 2. 古代の物質リストと自然観 3. 近代科学の形成と物質観 4. 近代化学の誕生：物質の博物学と原子論 5. 19世紀～20世紀における化学諸分野の発展 6. 19世紀～20世紀における化学産業の発展 7. 現代化学の基礎概念（原子、化学結合、化学反応） 8. 金属の化学：さまざまな金属の利用 9. 電気と化学 10. 光と色の化学 11. 触媒のはたらき：空中窒素固定法から光触媒まで 12. 高分子化学：ナイロンから生分解性プラスチックまで 13. 医薬品：病気とくすり 14. 化学とエネルギー資源	
テキスト、参考文献		評価方法	
・テキスト 授業時にプリントを配布する ・参考書 T.H.ルヴィア『入門化学史』朝倉書店 芝哲夫『化学物語 25講』化学同人 ほか		授業への参加（出席と小レポートの提出を含む）(50%)と定期試験(50%)によって成績評価する。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間1（生命と環境の化学） 化学b（化学と健康の歴史）	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 現代の科学は生命の過程をも化学や物理学の言葉で理解することに成功しつつある。また現代の科学技術を利用する人間活動は生命を取り巻く環境を大規模に変化させるようになってきた。生命と環境の物質過程を解明し、自然そのものを作りかえはじめている現代科学技術は、人間みずからの健康を増進することにかなり成功してきたし、他方では思わぬ副作用も生み出してきた。これら生命と健康に関わるさまざまな物質とその環境の影響について、化学的な観点から基礎的な理解を得ることを目的とする。 【講義概要】 講義の前半では、生物体を構成する基本的な物質であるタンパク質と核酸の化学を学ぶことにより、代謝と遺伝という生物の基本的な機能の概略を理解し、生命を物質としてみる見方を考察する。その理解を基礎として後半では、生命を取り巻く環境中の物質が生物体内の化学過程に与える影響や化学物質の環境中における動態など、化学的環境問題の自然科学的基礎を、いくつかの事例を取り上げて解説する。		1. イントロダクション：講義の概要説明 2. 生物体を構成する物質 3. タンパク質の構造と機能 4. DNA とはどんな化学物質か 5. 遺伝情報の発現と DNA 複製のメカニズム 6. 代謝：生体内における化学物質の変化 7. 自然界の物質循環（附：環境の化学分析） 8. DDT と『沈黙の春』 9. 水俣病の歴史 10. 有害化学物質 POPs の規制 11. 廃棄物の処理と処分 12. 飲料水と食品の安全性 13. 大気汚染と室内空気汚染 14. 温室効果ガスによる地球温暖化	
テキスト、参考文献		評価方法	
・テキスト 授業時にプリントを配布する ・参考書 和田昭允『生命とは？物質か！』オーム社 日本化学会『暮らしと環境科学』東京化学同人 ほか		授業への参加（出席と小レポートの提出を含む）(50%)と定期試験(50%)によって成績評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (恒星天文学) 地球科学 a (恒星天文学)	担当者	福井 尚生
講義目		講義概要	
☀ 地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと捉え『自然・環境・人間 1』では、天文学を学びます。「天文」とは「天」から届く「文」のこと、「天文学」は宇宙から届く手紙を解読する学問です。 ☀ 春学期は「恒星」についての天文学です。天文屋は地球上での自然法則が、太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に宇宙を支配する自然法則が地球にも及んでいて地球が宇宙の一員であることを知りました。 ☀ 主体的に勉強して得た知識をもとに自らの頭で先を考え、地球が宇宙に浮かぶ天体の一つ、自然の一員であることを実感して下さい。 ☀ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☀ 簡単な数学も必要に応じて使います。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☀ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店)		☀ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (銀河天文学) 地球科学 b (銀河天文学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
★ 秋学期には、上記春学期の知識を前提に、一千億もの恒星が重力的に集まる、より大きな集団「銀河」についての天文学を学びます。 ★ 天文屋は恒星までを対象に発見した自然法則を用いて天の川銀河・銀河にまで考察を広げ、自然法則を更に大きな自然に合うよう統一し、普遍化する大きな夢の実現に努めています。 ★ 現在までに得られた知識をもとに自らの頭で未知の世界を探り、自然の一員であることの自覚の上に、独自の世界を未来に向かって開いて下さい。「天」からの「文」には経験したことの無い大きな夢が認められているかもしれません。 ★ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ★ 簡単な数学も必要に応じて使います。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
★ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店)		★ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（自然観察 a） 生物学 a（植物の特性と自然の仕組み）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 - 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ること为目标とする。 履修資格 - 植物名に関心があること。 - 普通の春植物取りあえず 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5 月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5 月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6 月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6 月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7 月の花 1 13 7 月の花 2 14 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

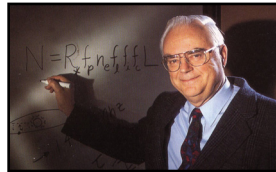
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（自然観察 b） 生物学 b（植物の分布）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 - 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ること为目标とする。 講義の目的 - 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること为目标とする。 履修資格 - 植物に興味があり、地理が好きであること。 - 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できると。		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10 月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10 月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11 月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11 月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12 月の花 1 13 12 月の花 2 14 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (数学 a) 数学 a (微分学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
① 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。 ② 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。 ③ 講義・演習を通して、微分学の知識を実際の現象解析に使えるようになればと思います。 ④ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。		微分学 関数・逆関数 $y = f^{-1}(x)$ 極限 $\lim_{x \rightarrow a} f(x)$ 微分 $\frac{\partial z}{\partial x}, \frac{\partial z}{\partial y}$ 有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数  極限值 Achilles と亀 $0.9 = 1$ 常微分・偏微分 極値 最小二乗法	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『数学読本』松坂 和夫 著・岩波書店)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身 です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (数学 b) 数学 b (積分学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
① 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに便利な道具「積分学(積分・微分方程式)」を学びます。 ② 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。 ③ 講義・演習を通して、積分学(積分・微分方程式)の知識を実際の現象解析に使えるようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。 ④ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学(積分・微分方程式)を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。		積分学 積分 $\int f(x)dx$ 微分方程式 $f(x, y, y', y'', \dots, y^{(n)}) = 0$ 不定積分 初期条件 部分積分法  変数分離形(人口問題) 1 階線形(美術品の贋作) 2 階線形(ロケットの飛行)	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身 です。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

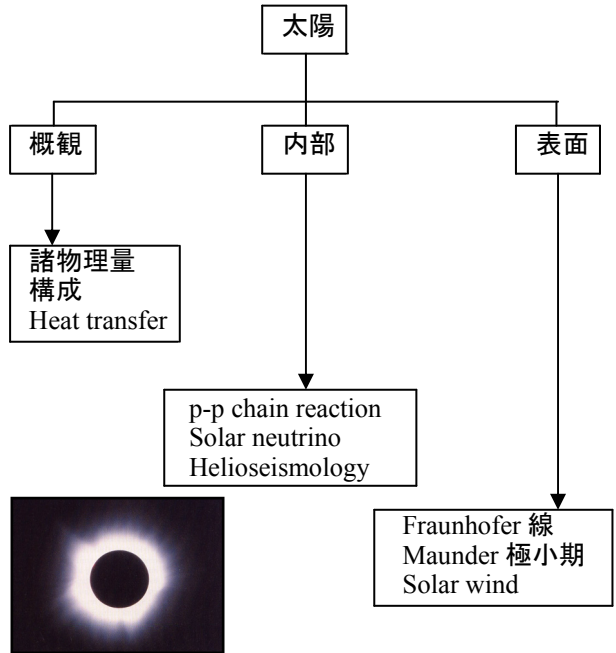
08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間 1 (スポーツコーチ学 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (スポーツコーチ学 b)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、大きく揺れ動く社会の変化に直面している現代社会で、現実には起こっている変動にどう対応していくかの重要性について考えていきたい。 このことはスポーツの世界においても然りである。スポーツの大衆化、国際化が進展し、スポーツが政治、経済、社会、文化、さらには我々の生活のあらゆる側面に深くかかわっている。スポーツは個人のレクリエーションとしての楽しみ、健康の維持増進、学校体育の一活動境域、地域共同体の行事として政治経済の動向にも大きな影響を与えている。 スポーツは、個人または集団が、相手と力や技能を競ったり、自然の障害を克服したりすることを楽しむ活動である。スポーツの場は、人間の最高能力の発揮にかかわるものであり、その心理的解明は重要である。 現代社会におけるスポーツを的確に分析し、スポーツの意義や諸問題について理解を深めていきたい。		1. 現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの意義 2. 現代社会の変化とスポーツ 3. スポーツの広がり スポーツ人口構造 4. 少子高齢社会とスポーツ その1 5. 少子高齢社会とスポーツ その2 6. 商業主義とスポーツ スポーツにはお金がかかる 7. スポーツの社会病理 スポーツと環境問題 8. スポーツとマスメディア 9. スポーツ適正について 10. スポーツ技術の基礎 身体運動のイメージ 11. スポーツ技術の基礎 スポーツ技術の練習・指導法 12. チームの心理 スポーツとチーム 13. チームの心理 チームの力学 14. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田勝・守能信次編『スポーツの社会学』杏林書院 松田岩男他編『スポーツと競技の心理』大修館書店		出席回数、授業への参加態度、提出物の内容などにより決定する。	

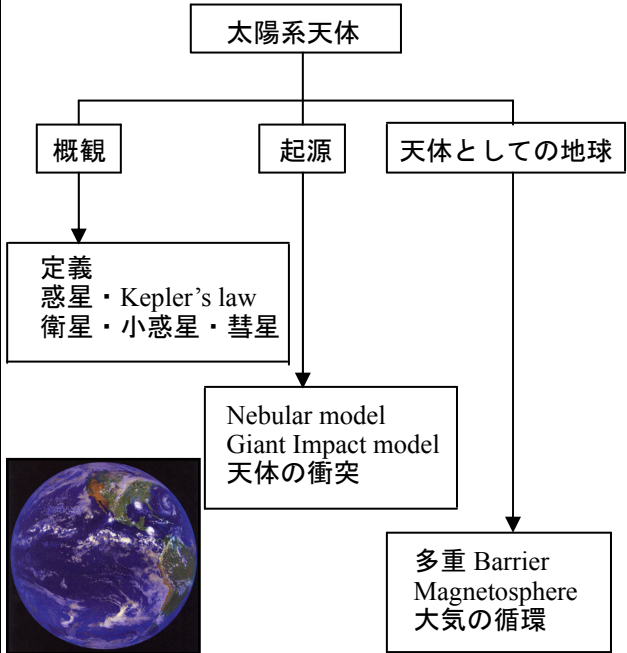
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (地球外文明論 a) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球外文明論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
㊦『地球外文明論 a』では、現在の地球文明を基点に「地球外文明の進化」を学びます。 ㊦我々人類は、宇宙進化を司る“宇宙方程式”の現 時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を辿れば、文明の進化を考察出来る筈です。ただ、宇宙方程式の完成には、自然の探求方法を「自然科学」から「自然学」へと複雑化する必要があります。 ㊦人類が今行う進化への営為が、この時間・空間発展に沿ったものかを、主体的に勉強して得た知識をもとに模索し、「進化への自由で大きな夢」を各自が抱くきっかけにしてください。 ㊦視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ㊦簡単な数学も必要に応じて使います。		地球外文明の進化 <pre> graph TD A[地球外文明の進化] --> B[I 型文明] A --> C[II 型文明] A --> D[III 型文明] B --> E["地 球 Drake 方程式 宇宙への夢"] C --> F["Dyson 球 恒星間飛行計画 時間・燃料の問題"] D --> G["Kardashev 球 CTA-102 騒動 銀河クラブ"] </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
㊦(テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『地球外文明の思想史』横尾 広光 著・恒星社厚生閣)		㊦主に、試験(授業・配布プリント・宿題)と毎時間提出の評価用紙(宿題・発言)です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (地球外文明論 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球外文明論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
㊦『地球外文明論 b』では、『地球外文明論 a』の知識を前提に「地球外文明の探査」を学びます。 ㊦多数世界論の立場から地球外文明の存在を信じ、我々を探査に駆り立てる原理を基に、地球外文明の探査哲学を確立し、また探査計画を立てるに当たって、共通する自然の本質を考えます。 ㊦地球外文明の探査・発見(への努力)は、我々人類の存在意義・進化の方向に指針を与えてくれると思います。主体的に勉強して得た知識をもとに自然学への更なる広がりを模索し、「ETI への夢」を自由に大きく膨らませながら、“Are we alone?”の問い掛けを続けて下さい。 ㊦視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ㊦簡単な数学も必要に応じて使います。		地球外文明の探査 <pre> graph TD A[地球外文明の探査] --> B[存在] A --> C[探査哲学] A --> D[探査計画] B --> E["多数世界論 唯一世界論 P. Lowell と火星"] C --> F["平凡性の原理 人間原理 最小作用の原理"] D --> G["Ozma 計画 SETI 計画 (SETI@home) UFO をめぐって"] </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
㊦(テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『広い宇宙に地球人しか見当たらない 50 の理由』S. Webb 著・松浦俊輔 訳・青土社)		㊦主に、試験(授業・配布プリント・宿題)と毎時間提出の評価用紙(宿題・発言)です。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間 1（地球環境の変化とその要因） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球環境の変化とその要因）	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのかを考察する。		1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？ 今、何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史 4 地球環境の構造等：地球という惑星について 5 地球環境と地球システム（Ⅰ）：物質圏の相互関係 6 地球環境と地球システム（Ⅱ）：炭素循環など 7 地球環境と資源（Ⅰ）：資源の特性 8 地球環境と資源（Ⅱ）：エネルギー 9 地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは 10 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 11 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 12 環境と共生：人間活動・物質循環との関わり 13 地球環境問題概論 14 まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		基本的には定期試験による。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間 1（地球環境問題と環境保全） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球環境問題と環境保全）	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。		1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論（Ⅰ）：地球温暖化(a) 3 地球環境問題各論（Ⅰ）：地球温暖化(b) 4 地球環境問題各論（Ⅰ）：オゾン層破壊(a) 5 地球環境問題各論（Ⅰ）：オゾン層破壊(b) 6 地球環境問題各論（Ⅱ）：酸性雨 7 地球環境問題各論（Ⅱ）：海洋汚染 8 地球環境問題各論（Ⅱ）：有害廃棄物の越境移動 9 地球環境問題各論（Ⅲ）：砂漠化、森林減少 10 地球環境問題各論（Ⅲ）：野生生物（種）の減少 11 地球環境問題各論（Ⅲ）：開発途上国等の環境（公害）問題など 12 地球環境の保全（Ⅰ）：環境と開発 13 地球環境の保全（Ⅱ）：文化・経済・社会等の今後のあり方など 14 まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		基本的には定期試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (天文学 a) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (太陽系天文学 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生 (?)・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の起源を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ❖ 『(太陽系) 天文学 a』(太陽) では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 The Sun を天文学の立場から学びます。What is the Sun? ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ❖ 簡単な数学も必要に応じて使います。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (天文学 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (太陽系天文学 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
❖ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう? 地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。 ❖ 『(太陽系) 天文学 b』(太陽系天体) では、『(太陽系) 天文学 a』の知識を前提に The Solar system = The Sun's family (除・太陽) を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。 ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ❖ 簡単な数学も必要に応じて使います。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（私の自由時間設計） スポーツ・レクリエーション学 a（自由時間とクオリティオブ ライフを考えよう）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずですよ。 あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。 また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。 授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。		1 オリエンテーション 2 和田の自由時間 3 自由時間とは 4 生活時間の構成と自由時間の現状 5 自由時間を過ごす能力「森と老人」 6 現代における自由時間の意味 7 古典的解釈から知るレジャー 8 クオリティオブライフ 9 多様な価値観 10 先輩に聞く「私の自由時間」 11 健康・食物・世界 12 健康の価値 13 あなたのライフデザイン 14 まとめ 15 授業で携帯電話をライブアンケート等に必要なに応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。（パケット通信料がかかります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒヤエル・エンデ、「モモ」、岩波書店		出席状況（40%）、学期末試験の結果（40%）、クイズ・レポート（20%）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（生きたコトバづかい・文章編） ことばと思想（IV）（生きたコトバづかい・文章編）	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。		1. 生きたコトバづかいの４原則説明、ビデオ感想 2. 書きなれノートの書き方説明、ビデオ感想 3. 書きなれノートの提出、ビデオ感想 4. 書きなれノート返却／提出、ビデオ感想 5. 以下同様 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 毎回話題となるビデオを見せて、その感想を書いてもらいます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『コトバの力』（同）		「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（生きたコトバづかい・文章編） ことばと思想（IV）（生きたコトバづかい・文章編）	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。		1. 生きたコトバづかいの４原則説明、ビデオ感想 2. 書きなれノートの書き方説明、ビデオ感想 3. 書きなれノートの提出、ビデオ感想 4. 書きなれノート返却／提出、ビデオ感想 5. 以下同様 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 毎回話題となるビデオを見せて、その感想を書いてもらいます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『コトバの力』（同・近刊）		「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（英語通訳）（英語通訳の仕事） ことばと思想（IV）（英語通訳の仕事）	担当者	横山 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。 また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。 また、自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけサポートします。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。		01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 自己分析をしてみよう 05 通訳訓練方法（1）・シャドウイング 06 通訳訓練方法（2）・リプロダクション 07 通訳訓練方法（3）・サイトトランスレーション 08 通訳の形態・逐次・同時・ウィスパリング 09 通訳の実践（1）・逐次通訳 10 通訳の実践（2）・同時通訳 11 通訳の実践（3）・ウィスパリング通訳 12 社内通訳者・会議通訳者に聞く（ゲストスピーカー） 13 インターネットの活用方法 14 テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		出席 10% 授業参加 40% 授業内で実施するテスト 50%	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（英語通訳）（英語通訳の仕事） ことばと思想（IV）（英語通訳の仕事）	担当者	横山 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。 また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。 また、自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけサポートします。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。		01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 自己分析をしてみよう 05 通訳訓練方法（1）・シャドウイング 06 通訳訓練方法（2）・リプロダクション 07 通訳訓練方法（3）・サイトトランスレーション 08 通訳の形態・逐次・同時・ウィスパリング 09 通訳の実践（1）・逐次通訳 10 通訳の実践（2）・同時通訳 11 通訳の実践（3）・ウィスパリング通訳 12 社内通訳者・会議通訳者に聞く（ゲストスピーカー） 13 インターネットの活用方法	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		出席 10% 授業参加 40% 授業内で実施するテスト 50%	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想 2（書き言葉の問題） ことばと思想（IV）（書き言葉の問題）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙、メールの本質に迫る。 （講義概要） 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 （受講生への要望） 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。		① ② ③ 手紙文の約束。 拝啓—時候の挨拶—本文—敬具—（追伸）まで。 ④ ⑤ 時候の挨拶と季節感 ⑥ ⑦ 著名人の手紙鑑賞、解説。 ⑧ ⑨ 手紙を題材にした小説の鑑賞 ⑩ ⑪ ⑫ メール作成の問題点 ⑬ ⑭ 添削指導	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度指示します。		出席。レポート	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想 2（話し言葉の問題） ことばと思想（IV）（話し言葉の問題）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目標） 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 （講義概要） 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 （受講生への要望） 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。		① ② ③ ④ 流行語の変遷（流行語大賞の分析） ⑤ ⑥ 若者言葉の問題（世代語についての考察） ⑦ 放送コードの問題 ⑧ 共通語の理想と現実 【実践編】 ⑨ 心を開かせる挨拶のしかた ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ 3分間スピーチの実践 ⑭ 総集編	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度指示します。		出席。レポート	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（言語学から詩へ） ことばと思想（IV）（言語学から詩へ）	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
たとえば外国語の学習において、真っ先に「コミュニケーション能力」の強化がうたわれ、実践的で「使える」語学力こそが重視されるという風潮の中で、我々はコミュニケーションといえば、効率よく、なめらかで、軋みのないものこそが理想であるかのようなイメージを抱きがちです。 この授業では、逆に「通じないこと」「なかなか通じないこと」の大切さについて考えます。 題材としては、エッセイや論文、小説から詩まで、さまざまなものを取り上げますが、いずれの場合にも授業中に全文あるいは抜粋を紹介し、授業の終わりにコメントを書いてもらいます。 講義の大まかな流れはあらかじめ想定してありますが、受講者の率直な感想や疑問などから、授業が思わぬ方向へと旋回してゆくことこそがスリリングです。積極的な参加と多くの報告を期待しています。		1. イントロダクション 2. 野崎歓『われわれはみな外国人である』 3. 長田弘『一人称で語る権利』 4. 千野栄一「沈黙の通訳」 5. ダグラス・ラミス「イデオロギーとしての英会話」 6. 穂村弘『世界音痴』 7. ダダイズムの言語実験 8. 草野心平『蛙』 9. 内田百閒『山東京伝』 10. ミシェル・レリス『ドゴン族の秘密言語』 11. 保坂和志『プレーンソング』 12. 小島信夫『吃音教室』 13. 吉増剛造『オシリス、石の神』 14. 西脇順三郎『旅人かへらず』 この順番通りに授業を進めてゆくということではありませんが、とりあえず題材として以上のものを挙げておきます。ここに挙げられていないものも登場する予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布します。		毎回の授業の終わりのコメントと学期末の記述試験。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（言語学から詩へ2） ことばと思想（IV）（言語学から詩へ2）	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期も、中心となるテーマは春学期と同じですが、より多くの外国の作品を取り上げる予定です。 言葉を単なる意味の容れ物とせず、用を果たすための道具とせずに語ろうとした人たち、あるいは、コミュニケーションが頓挫する瞬間や崩壊する瞬間に注目した人たちの作品に触れながら、言葉やコミュニケーションについての新たな視覚を得ることを目的とします。		1. ナボコフ『ヨーロッパ文学講義』 2. ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』 3. トーベ・ヤンソン『フェア・プレイ』 4. ロレンス『息子と恋人』 5. 吉田健一『酒宴』 6. 藤枝静雄『欣求浄土』 7. カフカ『歌姫ヨゼフィーネ、あるいは二十日鼠族』 8. メルヴィル『代書人バートルビー』 9. チューホフ『六号病室』 10. モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』 11. レイモン・ルーセル『アフリカの印象』 12. 町田康『浄土』 13. 尾崎放哉句集 14. 石原吉郎『望郷と海』 春学期の授業計画も参照してください（春と秋が混ざることもありえます）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布します。		毎回の授業の終わりのコメントと学期末の記述試験。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（現代ジャーナリズム考 1） ことばと思想（IV）（現代ジャーナリズム考 1）	担当者	細野 徳治
講義目的、講義概要		授業計画	
ジャーナリスト志望者に役立つ授業をめざしているが、必ずしもジャーナリストを養成するのが目的ではない。ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。受講をきっかけにマスメディアの動向について関心を持ってもらいたいと考えている。 授業では、「いまマスメディアで何が問題になっているか」をテーマに取り上げる。新聞、テレビなどの報道現場で何が起きているのか。具体的事例を通して、その実情に迫るとともに、問題点を掘り下げる。ネット社会が深化する中で、新聞は生き残ることができるのかなど、マスメディアの将来について考える。現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。		その時々浮上した現代ジャーナリズムをめぐる問題を取り上げていくので、どういう授業内容になるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしたい。 2008 年春学期には、ピューリッツァー賞とは、靖国神社を舞台にしたドキュメンタリー映画「靖国」問題と表現の自由、光市母子殺害事件の裁判をめぐるテレビ報道に放送倫理検証委員会が「一方的で視聴者に不利益」との意見書、自衛隊機のイラクでの支援活動を違憲とした名古屋裁判判決についての主要各紙の社説比較、長崎市長射殺犯に対する死刑判決と言論テロの問題、有害サイトとインターネット規制法、NHK による戦争特別番組改変で最高裁判決、個人情報保護法施行 3 年を経て情報提供拒否などの過剰反応広がる、メディアが使う用語と表記の仕方についてのルール、などの項目を取り上げた。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。		日ごろの受講態度、テスト（作文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（現代ジャーナリズム考 2） ことばと思想（IV）（現代ジャーナリズム考 2）	担当者	細野 徳治
講義目的、講義概要		授業計画	
ジャーナリスト志望者に役立つ授業をめざしているが、必ずしもジャーナリストを養成するのが目的ではない。ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。受講をきっかけにマスメディアの動向について関心を持ってもらいたいと考えている。 授業では、「いまマスメディアで何が問題になっているか」をテーマに取り上げる。新聞、テレビなどの報道現場で何が起きているのか。具体的事例を通して、その実情に迫るとともに、問題点を掘り下げる。ネット社会が深化する中で、新聞は生き残ることができるのかなど、マスメディアの将来について考える。現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。		その時々浮上した現代ジャーナリズムをめぐる問題を取り上げていくので、どういう授業内容になるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしたい。 2008 年秋学期には、秘密漏洩の空自 1 佐の懲戒免と知る権利、いわゆる「ロス疑惑」と事件報道のあり方、筑紫哲也死去とニュースキャスターの役割、「国境なき記者団」による世界の報道の自由度ランキングで日本は 29 位、韓国では人気女優の自殺まで引き起こしたネット上の悪質書き込み問題、氾濫する児童ポルノ規制への対応が遅れる日本、などの項目を取り上げた。このほかオバマ氏の当選で史上初の黒人大統領が誕生した米大統領選挙を 2 回にわたり取り上げ、とくにメディアの選挙報道を掘り下げた。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。		日ごろの受講態度、テスト（作文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想 2（心理検査法と自己理解） ことばと思想（IV）（心理検査法とこころの健康）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。同時に、自己理解を深めてもらいたい。心理検査やグループワークを実践した後は、結果などをレポートにまとめてもらおう。また、関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらおうこともある。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（1,700円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。		授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査の成り立ちと種類 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. ストレス・コーピング 5. 絵からみる家族像 6. 知能検査 7. 感情指数 8. 職業興味 9. 仕事と自己理解 10. 将来の夢 11. グループ・ワークによる自己理解① 12. グループ・ワークによる自己理解② 13. グループ・ワークによる自己理解③ 14. 検査結果のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（生活文化の発見） ことばと思想（IV）（生活文化の発見）	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
ことばは、ことばだけであるものではない。会話をしようとするとき、文章を書こうとするとき、まず、その前に何を話すのか、何を書くのか、その材料となるべきものがなくてはならない。ここでは、我々の身のまわりにある「何でもない事柄」が、どのように記録の対象となり記述されていったのかを検討することによって、自らが話し、書く前提を考えていきたい。		1 ガイダンス 2 生活文化の枠組み 3 情報の蒐集と共有化 4 創作としての読解 5～13 民俗誌を読む 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示。		レポートによって評価：期末(70%)＋授業時(30%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、期末レポート提出の資格を与えない。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（生活文化の記述） ことばと思想（IV）（生活文化の記述）	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
ことばは、発せられてこそ役割を果たす。せつかく調査し、理解したものも、表現されなければ意味を持たない。ここでは、身のまわりで発見した普段見過ごしがちな「何でもない事柄」を主題化し、それを理解し、記述することによって、ことばの理解と表現を体感したい。		1 ガイダンス 2 すまう① 3 すまう② 4 たべる② 5 たべる② 6 つどう① 7 つどう② 8 あげる・もらう① 9 あげる・もらう② 10 あらがう① 11 あらがう② 12 いのる① 13 いのる② 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示。		レポートによって評価：期末(70%)＋授業時(30%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、期末レポート提出の資格を与えない。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅱ(日本語音声表現のトレーニング基礎篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津 正樹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を獲得する為の基礎を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（話しことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その基礎となる発音・発声・アクセント・イントネーション・更に敬語等のことばと表現について学ぶ。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。		1. オリエンテーション 「ことばと人間」 2. 自然な発音・発声 「発声トレーニング」 3. 自然な発声・発音 「発音トレーニング」 4. 自然な発音・発声 「鼻濁音・拗音・促音・長音・無声化」 5. アクセントの型と種類 「名詞・形容詞・動詞のアクセント」 6. 「自己紹介」実践 7. 同上 8. 話して伝える基本 「話しを組み立てる」実践 9. 話して伝える基本 「説明する」実践 10. 「スピーチ」実践 11. 同上 12. 敬語の基本 「用法と実践」 13. 敬語の応用 「用法と実践」 14. 気をつけたい表現・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時配布		毎回の出席、課題の提出・実践	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅱ（日本語音声表現のトレーニング表現篇） ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津 正樹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（話しことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その話して伝える能力・対話する能力・読んで伝える能力を習得する。 従って、春学期を受講した上での参加が、より効果的である。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。		1. オリエンテーション 2. 話して伝える 「説明する」実践 3. 話して伝える 「適切なことばを選ぶ」実践 4. スピーチの実践Ⅰ 「テーマに即した話しをする」 5. 同上 6. 情報を的確に伝える 「レポート」実践 7. 話すと読む 「読んで伝えること」実践 8. 文に即したイントネーション 9. 文意の通りの音声表現 10. 短文を読む 「告知文」 11. 朗読 「随筆・小説の一部を読む」 12. スピーチの実践Ⅱ 「テーマに即した話しをする」 13. 敬語表現 「その基本と応用」 14. 敬語表現 「気をつけたい表現・まとめ」	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時配布		毎回の出席、課題の提出・実践	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（プレゼンテーション実習） ことばと思想（IV）（プレゼンテーション実習）	担当者	清水 絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。		第5回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 テキスト：第7章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第6回目：レクチャー：草稿の作成 テキスト：第3章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第7回目：レクチャー：編集作業 テキスト：第4章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第8回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第9回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル テキスト：第6章 ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第10回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル テキスト：第8章 ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第11回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第12回目：プレゼンテーション実践1 第13回目：プレゼンテーション実践2 第14回目：プレゼンテーション実践3	
授業計画			
第1回目：イントロダクション 第2回目：レクチャー：センスのよい表現 テキスト：第1章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第3回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 テキスト：第2章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第4回目：レクチャー：他者との対話 テキスト：第9章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③			
テキスト、参考文献		評価方法	
DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『提案力』ダイヤモンド社		出席、参加状況、提出物、最終レポート	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2（プレゼンテーション実習） ことばと思想（IV）（プレゼンテーション実習）	担当者	清水 絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（論文を書く） ことばと思想（IV）（論文を書く）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「書く」技能の向上を目指す。 講義概要 「書く」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に大学生活において必須となる論文の書き方について練習する。この練習を通して、客観的に事物を説明し、根拠を示して自らの考えを述べることができる能力の育成を行う。まず、簡単な意見文を書く練習を行いながら基本的な文章能力を向上させる。その後、その成果をふまえて、基本的な形式を備えた短い論文を作成し、論文の形式について理解させることを目標とする。		1 はじめに 2 表現の方法①(5W1H) 3 表現の方法②(文を短く切る) 4 意見文を書く①(文が持つ役割) 5 意見文を書く②(事実の報告、意見) 6 意見文を書く③(事実の報告、意見、意見の正しさの論証) 7 意見文を書く④(事実の報告、問題提起、提起された問題の解答) 8 論文を書く①(序論) 9 論文を書く②(本論①) 10 論文を書く③(本論②) 11 論文を書く④(本論③、結論) 12 論文を書く⑤(文献の引用) 13 レポート提出と講評 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 特になし 参考図書 授業時に指示する。		レポート（2 回提出）・出席	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（口頭発表を行う） ことばと思想（IV）（口頭発表を行う）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「話す」技能の向上を目指す。 講義概要 「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べるができる能力の育成を行う。 具体的には、まず、発声練習として朗読を行う。次に、プレゼンテーションの技術について、ビデオを見ながら学習する。そして、その成果を踏まえたかたちで発表を行う。		1 はじめに 2 はやくちことば 3 発声練習 4 朗読① 5 朗読② 6 朗読③ 7 プレゼンテーションの理論① 8 プレゼンテーションの理論② 9 プレゼンテーションの理論③ 10 発表① 11 発表② 12 発表③ 13 発表④ 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 特になし 参考図書 授業時に指示する。		平常点（発表などの課題）・レポート・出席	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（アメリカ詩入門） 歴史と文化（Ⅳ）（アメリカ詩入門）	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
《授業の到達目標及びテーマ》 授業のタイトル通り、アメリカの詩を読む。 《授業の概要》 「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？ この授業では、Native American（いわゆるインディアン）の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーディングをした、ピューリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、Gary Snyder だ。さて、ネイティブ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言う前から普通の表現となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる		第1回：Introduction 第2回：Native American の詩 第3回：Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など 第4回：Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など 第5回：Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など 第6回：Ezra Pound, Imagism 期の短詩、 ” Hugh Selwyn Mauberley I” など 第7回：Ezra Pound の <i>The Cantos</i> のいくつか 第8回：William Carlos Williams, “The Red Wheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩 第9回：Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” 第10回：H. D., “Oread,” “Heat” など 第11回：T. S. Eliot, “Preludes” など 第12回：Robert Lowell, “For the Union Dead” など 第13回：Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” 第14回：Gary Snyder, “Magpie’s Song,” “For the Children” など 第15回：モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：Sixteen Modern American Poets（英宝社）およびプリント。 参考書：授業中に、適宜紹介する。		2000 字以上のレポート。詳細は追って報告する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（イギリス詩入門） 歴史と文化（Ⅳ）（イギリス詩入門）	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 ワーズワス（W. Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987		1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II （video 鑑賞） 4. <現代英詩アラカルト> I T.S. Eliot (1888-1965)（video 鑑賞、字幕なし、以下同じ） 5. <同> II T. Hughes (1992-1985) など（video 鑑賞） 6. Alfred Tennyson (1809-92), Robert Browning (1812-89) 7. <ロマン派の曙> W. Blake (1757-1827), video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> I ワーズワス, video 鑑賞 9. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge (1772-1834) と G.G. Byron (1788-1824) （video 鑑賞） 10. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) 11. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray (1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard” (1751) を読む。 Video 鑑賞 13. John Milton (1608-74) <i>Paradise Lost</i> (1667) のさわり、ソネット 23. Video 鑑賞 14. William Shakespeare (1564-1616), 解説と video 鑑賞	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987（プリント）		テストを課す。 数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化 2 (イタリアの音楽史) 歴史と文化 (IV) (イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。		1 ガイダンスと導入 2 古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3 グレゴリオ聖歌 4 グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5 「イタリア音楽」の誕生 6 宗教改革と音楽 7 ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 8 ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 9 ヴィヴァルディとヴェネツィア 10 ペルゴレージの音楽 11 パガニーニと超絶技巧 12 ヴェルディとイタリア国家統一運動 13 プッチーニとオリエンタリズム 14 プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）		授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。授業への参加態度と出席回数も重視する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化 2 (イタリアの声楽曲) 歴史と文化 (IV) (イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観する。		1 オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2 オペラ誕生：初期の試み 3 バロック・オペラの台本 4 バロック・オペラと劇場 5 バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6 オペラ・セリアとオペラ・ブッフア 7 ロッシーニの世界 8 ベッリーニ 9 ドニゼッティ 10 ヴェルディ (1) 11 ヴェルディ (2) 12 ヴェリズモ・オペラ 13 プッチーニ 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。授業への参加態度と出席回数も重視する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（おもしろまじめな芝居のミカタa） 歴史と文化（IV）（おもしろまじめな芝居のミカタa）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキ スト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃ べって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用 意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォー マンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室で も舞台の雰囲気を出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。ま た、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、 歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行つて、芝 居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下 さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありま せん。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則とし て、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。		第1回：導入（劇場の説明、シラバスの説明など） 第2回：歌舞伎（英訳版） 第3回：ギリシア悲劇（英訳版） 第4回：イギリス現代演劇——喜劇 第5回：イギリス現代演劇——悲劇 第6回：アイルランド現代演劇——喜劇 第7回：アイルランド現代演劇——悲劇 第8回：アメリカ現代演劇——喜劇 第9回：アメリカ現代演劇——悲劇 第10回：Musical Plays——West End 第11回：Musical Plays——Broadway 第12回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第13回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第14回まとめ 「今日の世界は演劇によって再現できるか」 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲 作品をなるべく選ぶようにしていますので、その上演スケ ジュールに合わせて授業を進めていきます。よって上記の 計画はきわめて流動的であると承知しておいてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。		観劇レポート（800字）2編で60%。授業で40%。学期 末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位 を認めません。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（おもしろまじめな芝居のミカタb） 歴史と文化（IV）（おもしろまじめな芝居のミカタb）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキ スト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃ べって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用 意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォー マンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室で も舞台の雰囲気を出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。ま た、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、 歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行つて、芝 居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下 さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありま せん。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則とし て、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。		第1回：導入（劇場の説明、シラバスの説明など）、 第2回：歌舞伎（英訳版） 第3回：ギリシア悲劇（英訳版） 第4回：イギリス現代演劇——喜劇 第5回：イギリス現代演劇——悲劇 第6回：アイルランド現代演劇——喜劇 第7回：アイルランド現代演劇——悲劇 第8回：アメリカ現代演劇——喜劇 第9回：アメリカ現代演劇——悲劇 第10回：Musical Plays——West End 第11回：Musical Plays——Broadway 第12回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第13回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第14回まとめ 「今日の世界は演劇によって再現できるか」 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲 作品をなるべく選ぶようにしていますので、その上演スケ ジュールに合わせて授業を進めていきます。よって上記の 計画はきわめて流動的であると承知しておいてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。		観劇レポート（800字）2編で60%。授業で40%。学期 末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位 を認めません。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (詩と音楽 2) 歴史と文化 (IV) (詩と音楽 2)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
ギリシア神話におけるオルペウスの物語は、何人もの作曲家によってさまざまな時代にオペラ化されており、音楽の世界において最も馴染み深い題材の 1 つである。本講義では、ギリシア神話および西洋古典文学におけるオルペウス像を概観したのち、この神話がどのように音楽史とかかわりを持ち、オペラ化されるようになったのか、またこれらの作品の中でオルペウスの物語がどのように描かれているのかを、実際に作品を鑑賞しながら観察する。なお、オペラ以外の作品（映画）も適宜取り上げて比較・考察する予定である。 なお、本講義は「詩と音楽 2」であるので、昨年度までに「詩と音楽 1」や「詩と音楽 3」の単位を取得した学生も履修できる。		1 ガイダンスと導入 2 オルペウスとアルゴ号伝説 3 ウェルギリウスとオルペウス 4 オウィディウスとオルペウス 5 ポリツィアーノ『オルフェオの物語』 6 初期のオペラとオルペウス 7 モンテヴェルディ『オルフェオ』（オペラ） 8 グルック『オルフェオとエウリディーチェ』（オペラ） 9 森鷗外とオルペウス 10 オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・仏語版） 11 オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・二期会による日本語版） 12 コクトー『オルフェ』（映画） 13 マルセル・カミュ『黒いオルフェ』（映画） 14 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		学期途中に課すレポート（詳細は授業中に指示）と、テスト（持ち込み不可）による。授業への参加態度と出席回数も重視する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (詩と音楽 3) 歴史と文化 (IV) (詩と音楽 3)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
17 世紀前半のイタリアを代表する作曲家、クラウディオ・モンテヴェルディの創作活動を概観する。モンテヴェルディの作品には、ルネサンス的な要素とバロック的な要素が混在しているので、実際に作品を鑑賞しながら体感することを目指す。「詩と音楽 1」をすでに履修していることが望ましいが、していなくてもよい。		1 ガイダンスと導入 2 「ルネサンス」と「バロック」 3 音楽史におけるルネサンスとバロック 4 モンテヴェルディの創作活動 5 マントヴァ時代の作品 (1) 6 マントヴァ時代の作品 (2) 7 マントヴァ時代の作品 (3) 8 《聖母マリアのための晩課》(1) 9 《聖母マリアのための晩課》(2) 10 ヴェネツィア時代の作品 (1) 11 ヴェネツィア時代の作品 (2) 12 ヴェネツィア時代の作品 (3) 13 ヴェネツィア時代の作品 (4) 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		テスト（持ち込み不可）による。授業への参加態度と出席回数も重視する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 歴史と文化(IV)(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、スペインと旧植民地ラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に展開されてきたことから、その身体技法についても随所で言及する。クレオール概念をはじめ、文化混雑が鍵となるため、前半では、キューバの音楽を重点的に取りあげ、成分といわれる各音楽的要素を再検討する。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで、各自の関心に応じたレポートを準備してもらう。後半では、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も設けたいが、単なる音楽紹介とならないよう、議論の基盤を文化人類学に据える。進捗には融通を与えるが、昨年度に要望が多かった合衆国の黒人文化やブラジルの音楽に関する考察を増すつもりである。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。		1. イントロダクション: VTRによる見取り図の紹介 2. 文化混雑の現況: キューバの音楽を事例として 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に 5. 「ブラックミュージック」と「ラテン音楽」の相関性 6. 「フォルクローレ」と「ヌエバ・カンシオン」の相関性 7. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望 8. スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域 9. スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ 10. スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ 11. ポルトガル語圏の音楽: ブラジル 12. 英語圏、フランス語圏ほかの音楽 13. 合衆国移民(ラティーノ、チカーノ、クバーノ)の音楽 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布するほか、相談のうえ、その都度指示する。		評価方法: 平常授業における発表などの実績(30%)と期末レポート(70%)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（西洋美術史1） 歴史と文化（IV）（西洋美術史a）	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
ルーヴル美術館に所蔵される絵画作品の中から、時代、ジャンルを代表する名作を取り上げ、絵画の見方を学びながら、中世から19世紀までの西洋絵画史を概観します。 授業中にOHPで投影する重要事項のメモを参照し、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解し、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間（イントロダクション）に講義の進めかたや、勉強の仕方などをお話しますので、受講希望者は必ず出席してください。		1 イントロダクション 2 ルーヴルの歴史と現在 3 ジョット『聖痕を受ける聖フランチェスコ』 4 ヴァン・エイク『ロランの聖母』 5 フラ・アンジェリコ『聖母戴冠』 6 ダ・ヴィンチ『モナリザ』 7 プッサン『四季図』 8 ルーベンス『メディチ・サイクル』 9 ボー جان『チェス盤のある静物』 10 ワトー『シテール島への船出』 11 ダヴィッド『ナポレオンの戴冠式』 12 アングル『ホメロス礼賛』 13 ドラクロワ『民衆を率いる自由』 14（予備）	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に指示します。		テストによる。授業中にとるアンケートを出席点として加味することもあります。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（西洋美術史2） 歴史と文化（IV）（西洋美術史b）	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
15世紀のイタリアとフランドルの美術作品について学びながら、美術史上のさまざまな問題について考えます。 授業中にOHPで投影する重要事項のメモを参照し、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間（イントロダクション）に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、受講希望者は必ず出席してください。		1 イントロダクション 2 15世紀の美術 3 15世紀のフィレンツェ美術 4 マザッチョ作サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂 ブランカッチ礼拝堂壁画 5 遠近法 6 パトロンと芸術家 7 パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾 8 15世紀のフランドル美術 9 ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画 10 偽装のシンボリズム 11 メムリンク作キリストの降誕と勝利 12 ネーデルランドとフィレンツェ 13 絵画に包含された鑑賞者 14（予備）	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に指示します。		テストによる。授業中にとるアンケートを出席点として加味することもあります。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（日韓比較文化論a） 歴史と文化（IV）（日韓比較文化論a）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。 ＊ 参加型授業による人数制限をする。(50名まで) 注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業から出席すること。		1. 日韓比較文化概説 ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の歳時風俗 6. 韓日の祭祀風習 7. 韓日の民俗信仰 8. 韓日の家族 9. 韓日の食文化① 10. 韓日の食文化② 11. 韓日の住生活 12. 韓日の服飾 13. 韓日の福祉レジーム 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。		授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（日韓比較文化論b） 歴史と文化（IV）（日韓比較文化論b）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。		1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗時代の教育と文化 5. 朝鮮時代の教育と文化① 6. 朝鮮時代の教育と文化② 7. 植民地支配の教育政策 8. 植民地支配の国語教育 9. 日韓生涯教育と社会 10. 日韓ジェンダー教育 11. 日韓女性の教育 12. 韓国における日本語教育の歴史 13. 日本における韓国語教育の歴史 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。		積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（日本事情1） 日本事情 a	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
以下の点に留意しながら、原始～中世の日本の歴史を概観する。 ◎ 日本という世界のなかの一つの国家やその文化がどのように形成されていったのか、とくに東アジア近隣諸国との関係に注目し、国家とは何か、また地域とは何かを考える。 ◎ 生産の基盤となった「土地」に対する国家や人々の営みに注目し、土地政策を基軸に行われた社会編成の推移を検証する。 ◎ その他、近年の日本の歴史学界のなかで、前近代史のどのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていきたい。 ◎ 希望者を募り、鎌倉など、前近代の日本の社会構造や文化のあり方を残す現地の巡見を行う。 ※前・後期ともに、現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。		- なぜ、歴史学は必要なのか？ - 原始社会論 東アジアの自然環境と日本列島の形成 稲作のはじまりと富の蓄積 - 邪馬台国からヤマト政権へ 邪馬台国はどこにあったのか？ 古墳文化 - 倭国と東アジア 4・5世紀の「倭」の存立基盤 - 倭国から「日本」へ 「日本」とは何か？ 日本の古代国家とは？ - 律令国家の展開と土地政策 「天皇」の位置 - 遣唐使は何をもたらしたか？ 付論古代文化の特徴 - 摂関政治と王朝文化 地方政治の変容と中世への胎動 荘園制の展開 - 院政の展開と内乱 日本の中世国家とは？ 「大開墾時代」と荘園制 なぜ荘園はたてられたのか？ 日宋貿易と平氏政権 - 鎌倉幕府論 鎌倉幕府の形成 中世の封建制とは？ 荘郷地頭制の歴史的意義 荘園制下の人々の生活と空間構造 - 鎌倉幕府の歴史的位置 日元貿易と元寇 - 鎌倉幕府の滅亡 南北朝の動乱は何をもたらしたか？ - 室町幕府論 幕府権力と地域社会・一揆 室町幕府の歴史的位置 - 室町幕府の対外交渉 日明勘合貿易 倭寇とはなにか？	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日本の時代史』（吉川弘文館、2002年～）全30巻のうち、1～11巻。その他、講義中に適宜指摘する。		テストおよび出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（日本事情2） 日本事情 b	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
以下の点に留意しながら、近世～現代（第2次世界大戦まで）の日本の歴史を概観する。 ◎ 16世紀以降の日本が諸外国に対してどう向き合っていたのか、国内のあり方にも注意しながら明らかにし、近代以降のあり方との連続面と断絶面を検証する。 ◎ 20世紀は多くの映像資料も残されている。それらできるだけ利用する。 ◎ また、明治時代以来の日本の歴史学界の軌跡についても講義の中で簡単に触れていきたい。 ※時間の余裕があれば、希望者を募り、博物館展示などの見学も行いたい。		- 世界システムとは何か？ 16世紀における世界秩序の展開と日本 「倭寇状況」の展開 - なぜ戦国大名はあらわれたのか？ 戦国時代の人々の暮らし 豊臣政権と朝鮮侵略 - 江戸幕府の形成と東アジア 徳川政権の諸政策 鎖国と対中国・朝鮮政策 17世紀半ば～18世紀の政治と社会 開発技術の進展と新田開発 元禄文化と人々の暮らし 18世紀の幕政改革と社会の変容 近世文化の特徴 18世紀末の対外危機と「鎖国」 天保の改革 - 幕末の動乱 ペリー来航・不平等条約とその後の影響 尊皇攘夷運動から大政奉還へ 徳川政権はなぜ崩壊したのか？ - 明治新政府の樹立と国政 明治政府は何を目指したのか？ - 明治期の社会と思想 自由民権運動の意義 民衆運動とは？ ドイツ学協会の設立 明治時代の人々の暮らし - 議会の開設と条約改正 議会はなぜ必要だったのか？ 条約改正をめぐる日本の苦悩 - 日清・日露戦争と韓国併合 帝国主義とは？ - 映像にみる20世紀前半の世界と日本 - 大正デモクラシーと第1次世界大戦 ワシントン体制 - 第2次世界大戦 日中戦争は誰が支持したのか？ 第2次世界大戦は世界に何を残したか？ 戦時下の人々	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日本の時代史』（吉川弘文館、2002年～）全30巻のうち、12～26巻。その他、講義中に適宜指摘する。		テストおよび出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（ヨーロッパ地域研究『カルメン』1） 歴史と文化（IV）（ヨーロッパ地域研究『カルメン』1）	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
世界でもっとも上演回数が多いオペラ『カルメン』の原作者メリメは、長く文化財保護技監としてフランスの文化政策の基礎を築きました。そんな才人の彼が書いた小説の中ではスペインの地方色が鋭く観察されています。ビゼーは劇場の方針で原作の棘を抜かざるを得ませんでした。 『カルメン』にもっとも興味があるのは、舞台となったスペインの人たちでしょう。それを受けて原作に比較的忠実な映画化や、もっぱらフラメンコで演じられる舞台など多数の試みがあります。しかし残念なことに、小説の真の主人公であるドン・ホセの人間性の追及が今ひとつであるようです。 この授業では小説、オペラ、映画、舞台映像などいくつかの資料を比較しながら、このフランス人が創造したスペイン国民文学を検討してゆきたいと思います。 フランス語・スペイン語ともに既修であることは要求しませんが、外国語を聞いて楽しめる積極性が欲しいです。資料は講義支援システムで配布します。原則として毎週アンケートを取って平常点をつけます。 登録する方は第一回目の授業に必ず出席してください。大切なお話があります。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 授業方法・評価方法の説明 2 メリメの人と作品 3 多文化の発見 4 女と猫は呼ばない時に 5 ウイーン歌劇場 6 ラジャスタンからバルカンへ 7 ボヘミアからアンダルシアへ 8 カルメンに触るんじゃないよ！ 9 コンポステラへの巡礼路バスク 10 サン・フェルミンの祭り 11 ハバナの葉巻 12 闘牛士の行進 13 オーレ！ 14 春学期まとめ	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
テキスト：講義支援システムで配布 DVD 各種を授業中に紹介		評価方法：選択式の試験と平常点	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2（ヨーロッパ地域研究『カルメン』2） 歴史と文化（IV）（ヨーロッパ地域研究『カルメン』2）	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
同上 前期はオペラとしての『カルメン』が中心で、それにロマ、バスクなどの少数民族や、タバコ、闘牛の話が加わりますが、後期はビセンデ・アランダ監督の映画『カルメン』を中心に、原作との異同をあつかい、それにアンダルシアとフラメンコの紹介を加えて論じます。 登録する方は第一回目の授業に必ず出席してください。大切なお話があります。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 ナバラ生まれです 2 シガロ 3 信仰は捨てていない 4 泣いているマリア 5 他の男は歯ざしりするだけ 6 どっちに死んで欲しい 7 男心は裏切らない 8 カルメン・フラメンコ 9 エル・チョコラーテ 10 ソレアとブレリア 11 アルハンブラ物語 12 メスキータ・カテドラル 13 セビリア 14 秋学期まとめ	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
同上		同上	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(IV)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた(話しかた・聞きかた)などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この4番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの4原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまな問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの4原則が身につくように勉強をします。		1. 導入・じょうずな聞きかた・メモのとりかた説明 2. 生きたコトバづかいの4原則説明 3. ウソとコトバの魔術説明 4. ビデオについての討論 5. 以下同様 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. まとめの議論	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『コトバの力』(同)		時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(IV)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた(話しかた・聞きかた)などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この4番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの4原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまな問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの4原則が身につくように勉強をします。		1. 導入・じょうずな聞きかた・メモのとりかた説明 2. 生きたコトバづかいの4原則説明 3. ウソとコトバの魔術説明 4. ビデオについての討論 5. 以下同様 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. まとめの議論	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『コトバの力』(同)		時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（異文化理解教育） 現代社会（IV）（異文化理解教育）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 グローバル時代を迎え、人の移動が活発になるなかでもはや学校も「異文化」を扱わざるを得なくなっている。 本講義では異文化と教育という関わりを広く扱う。 ●講義概要 2. から 6. までは日本の状況を考える。7. から 10. までは移民を受け入れるアメリカなどの状況を概観し、日本と比較する。最後に様々な理由で学校に行くことができない子どもの現状について触れ、そのような子どもたちに対して学校は、大人はなにができるかを考える。		1. 受講にあたってのガイダンス 2. 日本における国際理解教育（外国語教育） 3. 日本における国際理解教育（総合的な学習の時間） 4. 日本における国際理解教育（先進事例） 5. 日本における特殊事例（GKA、朝鮮学校） 6. 日本における国際理解—総括 7. 諸外国における国際理解教育（1） 8. 諸外国における国際理解教育（2） 9. 諸外国における国際理解教育（3） 10. 諸外国における国際理解教育—総括 11. 学校に行けない子ども（1） 12. 学校に行けない子ども（2） 13. 学校に行けない子ども（3） 14. 学校に行けない子ども—総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する		レポート、出席や授業への貢献等を評価する	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（こども論） 現代社会（IV）（こども論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 子育てと子育て支援（政策）について学ぶ。 ●講義概要 2. ～ 3. では、歴史編として江戸時代の子どもがどのように育てられたのか、そして現在のような子育てがいつから始まったかを明らかにする。4. から 12. はいわば子育て・しつけの行う主体に焦点を当てて「現代」を扱うことになる。 それらを踏まえ、13. 、14. ではこれからの子育てはどうなるのか（どうあるべきか）を考えていくこととする。 ●要望 受講人数にもよるが、できるかぎりディスカッションの時間をとりたい。積極的に発言してほしい。		1. 受講にあたってのガイダンス 2. 子育ての歴史① 3. 子育ての歴史② 4. 家族の変動① 5. 家族の変動② 6. 家族と男女に関する国際比較① 7. 家族と男女に関する国際比較② 8. 子育て支援①イギリス 9. 子育て支援②スウェーデン 10. 日本における少子化 11. 日本における少子化対策 12. 地方における子育て支援 13. 子育て支援の展望① 14. 子育て支援の展望②	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する		レポート、出席、授業への貢献などを評価する	

08年度以降 07年度以前	現代社会2（インターンシップ） 現代社会（Ⅳ）（インターンシップ）	担当者	岡村 国和
講義目標		授業計画	
この講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、「働く」とはどういうことなのか、「働く」ためにどのようなスキルが必要なのかについて、受講生に受講してもらうことを目的としている。 働くことは、人生の一部である。生きる上で働くこと以外にも重要なことはたくさんある。これから社会に出て生きていく諸君が、どのような人生を設計していくのか、そしてどのようなキャリアを形成していくのか、をこの講座を通してよく考えてもらいたいとおもう。		第1回 オリエンテーション① 【インターンシップの実際】 実習先の探し方や実習先で何をするのかなど、インターンシップを経験した先輩やキャリアセンターの人から話を聞く 第2回 オリエンテーション② この講座の目的、講座の進め方、グループの決定、EQアセスメントの実施 第3回 働くこととは？ 働くこととは何か、自分の適職は何かを考える 第4回 自分と向き合おう 自分の将来を考え、これからの目標を考える 第5回 EQ とはなにか EQ アセスメントの解説 第6、7回 リーダーシップ リーダーシップとは何かを理解し、リーダーシップ能力を養成する。 第8、9回 コミュニケーション 上手にコミュニケーションをとるためには、どうすればよいのか。コミュニケーション能力を養成する。 第10回 インターンシップ実習に向けて 実習先での成功談や失敗談など、先輩から話を聞く。また、企業の人事担当者からインターンシップのねらいなどについて話を聞く。 第11回 実習先でのマナー 実習で必要とされるマナーを身につける 第12回 報告会（10月開催予定） インターンシップ実習について報告書を書き、報告する。	
講義概要			
この講座は、12回の講義と夏休みに実施するインターンシップ実習から成る。 講義では、まず受講生に自分と向き合い、これからの人生をどう生きていくかを真剣に考えてもらう。その上で、自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを身につけてもらう。この講座で重視するスキルは、「心の知能指数」と呼ばれるEQ（Emotional Quotient）である。ゲーム等を通してEQを開発し、リーダーシップ能力やコミュニケーション能力を高め、受講生の今後のキャリア形成に役立てる。 インターンシップ実習は、受講生自身がインターンシップ先を見つけることから始まる。そして、2週間にわたるインターンシップ実習では様々な体験をすることになるだろう。これは今後の生き方や職業選択を考える上で、貴重な体験になるだろう。なお、インターンシップ先を選択する上で参考になる職業適性テストも講義中に行う。 （注意） <u>授業は土曜1・2限を用いた変則的な開講となります。</u> <u>履修希望者は両時限を空けておいてください。</u>			
受講生への要望			
<u>履修希望者は4月3日（金）13:00からのインターンシップ総合説明会（4-407）に必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録してください。</u>			
評価方法			
授業への出席およびインターンシップ実習先での評価。 具体的には第1回目の授業で詳しく説明する。			
テキスト、参考文献			
EQアセスメントおよびR-CAP 実施費用として6000円の費用が必要になる。<u>履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第1回目の授業に納付書を持参すること。</u>			

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（英文会計入門 1） 現代社会 (IV) (英文会計入門 a)	担当者	杉 麻利子
講義目的、講義概要		授業計画	
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは大切となってきた。 本講座では、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。また、東京商工会議所主催の B A T I C（国際会計検定）を視野に入れる。 なお、本講座では、日商簿記 3 級程度の知識を有する学生を受講対象としている。（但し、その可否は問わない。）		春学期では、英文会計について初めて学習する学生を対象に、基礎的な内容を中心に講義を行う。 ①講義ガイダンス ～ 英文会計とは ②資産・負債・純資産 ③借方と貸方：複式簿記 ④仕訳 ⑤転記 ⑥修正仕訳 ⑦決算仕訳 ⑧現金仕訳帳 ⑨減価償却（その 1） ⑩減価償却（その 2） ⑪精算表（その 1） ⑫精算表（その 2） ⑬財務諸表 ⑭まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『国際会計検定 subject 1 公式テキスト』中央経済社		期末試験のと平常点（出席状況等）による総合評価。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（英文会計入門 2） 現代社会 (IV) (英文会計入門 b)	担当者	杉 麻利子
講義目的、講義概要		授業計画	
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは大切となってきた。 本講座では、東京商工会議所主催の B A T I C（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 また本講座では、日商簿記 3 級程度の知識を有する学生を受講対象としている。（但し、その可否は問わない。）		秋学期では、春学期に比べ、少し応用的な内容について取り扱う予定である。また、問題演習についても、春学期と比較して意識的に増やすつもりでいる。 したがって、基礎的な内容についてはある程度、事前に学習しておく必要がある。 ①講義ガイダンス ～ 基礎の確認（その 1） ②基礎の確認（その 2） ③商品売買 ④費用・収益の見越 ⑤費用・収益の繰延 ⑥精算表 ⑦財務諸表 ⑧帳簿組織 ⑨内部統制 ⑩国際会計理論（その 1） ⑪国際会計理論（その 2） ⑫問題演習 ⑬総合問題演習 ⑭まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		期末試験のと平常点（出席状況等）による総合評価。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（韓国社会論） 現代社会（IV）（韓国社会論）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国社会とジェンダー」にテーマをしばって現代韓国社会の諸問題について考察し、その社会像を描きだす。朝鮮半島や韓国といえば、歴史問題や日韓・日朝関係等の政治問題が主な関心事となることが多いが、本講座では、「日本と韓国」あるいは「日本と朝鮮半島」という枠にとらわれずに、韓国に住む人々の日常生活と密接に関連したテーマから現代韓国社会を読み解いていく。討論を通じて隣の社会や人々について「考える」時間にするため、受講者には積極的な授業参加が望まれる。		1 イントロ①・ジェンダーとはなにか 2 イントロ② - 韓国社会とジェンダー 3 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観① 4 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観② 5 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観③ 6 ジェンダーと制度① 7 ジェンダーと制度② 8 軍隊とジェンダー① 9 軍隊とジェンダー② 10 歴史とジェンダー① 11 歴史とジェンダー② 12 韓流とジェンダー① 13 韓流とジェンダー② 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席、期末テスト	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（教育の現場：教師と語る a） 現代社会（IV）（教育の現場：教師と語る a）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県教師の研究会合宿への参加とで構成します。そのため、右記の合宿に必ず参加して下さい（参加費は 8 千円程度）。 3. 合宿で 6 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。 6. 春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。		1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～3 生活指導とは何か（テキスト使用） 4～7 実践記録を読む 8 合宿参加のまとめ 合宿は、6 月 13 日～14 日（土・日）、場所は埼玉県内（浦和の予定）です	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）		出席と最終レポートによります。合宿に参加しない場合には、不可とします。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（教育の現場：教師と語る b） 現代社会（IV）（教育の現場：教師と語る b）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じですが、合宿での学習内容が変わります。		春学期に同じですが、合宿は 12 月中の土・日、場所は埼玉県内（森林公園の予定）です。北関東の先生方も参加される予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2（経理入門1） 現代社会(IV)（経理入門a）	担当者	杉 麻利子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定3級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。 したがって、ビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。		①講義ガイダンス～簿記の意味・目的・種類 ②簿記の基礎概念 ③取引 ④仕訳 ⑤勘定 ⑥試算表 ⑦帳簿の記入 ⑧決算と財務諸表Ⅰ（その1） ⑨決算と財務諸表Ⅰ（その2） ⑩決算と財務諸表Ⅰ（その3） ⑪現金取引 ⑫預金取引 ⑬現金預金と補助簿 ⑭まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
八田進二著『簿記の基本を学ぶ』同文館出版		期末試験のと平常点（出席状況等）による総合評価。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2（経理入門2） 現代社会(IV)（経理入門b）	担当者	杉 麻利子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定3級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 春学期に学んだ「現代社会(IV)（経理入門a）」を基に、一つ一つの勘定科目について深く学ぶ。そして、最後に、財務諸表を作成し、経営組織の財政状態および経営成績を明らかにすることを目的とする。		①講義ガイダンス～商品売買 ②売掛金と買掛金 ③人名勘定と補助簿 ④その他の債権債務 ⑤手形取引 ⑥有価証券 ⑦固定資産 ⑧資本金と引出金、税金 ⑨収益と費用（その1） ⑩収益と費用（その2） ⑪決算と財務諸表Ⅱ（その1） ⑫決算と財務諸表Ⅱ（その2） ⑬帳簿と伝票 ⑭まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
八田進二著『簿記の基本を学ぶ』同文館出版		期末試験のと平常点（出席状況等）による総合評価。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2（コンピュータ入門a） 現代社会（IV）（コンピュータ入門a）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱う。 レポート提出は、講義支援システムを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。		1. 講義概要 2. コンピュータの基礎 3. ネットワークの基礎 4. ワードプロセッサの有効利用 5. ワードプロセッサでレポートを書く 6. 表計算ソフトの有効利用 7. 表計算ソフトでデータ分析する 8. 表計算ソフトの関数を活用する 9. プレゼンテーションソフトの有効利用 10. プレゼンテーションソフトで調査内容発表 11. データベースの作成 12. データベースの利用方法 13. 外部データベースの利用 14. ソフトの統合	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：NOA 出版、『Office 活用術』 参考文献：久野靖『情報リテラシー』日経 BP ソフトプレス		出席-20%、レポート-40%、試験-40%。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2（コンピュータ入門b） 現代社会（IV）（コンピュータ入門b）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
コンピュータを用いて作業を行う際には、ワープロや表計算のような市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うことができる。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることに加えて、どのような手順（アルゴリズム）でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要である。 この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学ぶ。使用する言語は、担当教員ごとに異なるが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指す。		1. 講義の進め方について 2. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. 簡単な処理 4. 場合分け(1) 5. 場合分け(2) 6. 繰り返す(1) 7. 繰り返す(2) 8. ファイルの処理 9. 簡単なアルゴリズム 10. 関数を用いるアルゴリズム 11. 複数の関数の利用 12. 総合プログラム作成 1 13. 総合プログラム作成 2 14. 総合プログラム作成 3 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書または印刷物		出席-20%、レポート-40%、試験-40%。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（コンピュータアドヴァンス 1） 現代社会（IV）（コンピュータアドヴァンス a）	担当者	長 慎也
講義目的、講義概要		授業計画	
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 GUI 部品を使ったアプリケーションや、リアルタイムに画面が変化するアニメーション・ゲームなど、身近なアプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータの動作原理を学ぶ。 また、他学習者のプログラムとネットワークを使って通信するアプリケーションを作り、近年広く利用されているネットワークの仕組みを知り、他のプログラム、他のプログラム製作者と協調するための技法を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を 2 回行う。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。		1. ガイダンス（プログラミングとは） 2. GUI 部品の活用(1) 3. GUI 部品の活用(2) 4. グラフィックス 5. アニメーション 6. 制御構造（繰り返し、分岐、関数など） 7. 中間作品製作 8. 中間作品相互評価 9. ネットワークプログラミング(1) 10. ネットワークプログラミング(2) 11. ネットワークプログラミング(3) 12. 最終作品製作（企画） 13. 最終作品製作（実装） 14. 最終作品相互評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし（毎回、資料を配布する）		出席、レポート、作品による	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（コンピュータアドヴァンス 2） 現代社会（IV）（コンピュータアドヴァンス b）	担当者	長 慎也
講義目的、講義概要		授業計画	
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 身近に利用されている Web アプリケーション（地図、SNS、動画、ショッピングサイトなど）の仕組みを、Web アプリケーションを実際に作成する体験を通して学ぶ。また、Web アプリケーションの安全性・危険性やユーザの認証、情報の暗号化などを学び、情報社会に生きるうえでの必要な知識を身につける。 プログラムによる作品制作課題を設ける。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。		1. Web アプリケーションとは 2. HTML による Web ページの構築 3. プログラムによる Web ページの操作(1) 4. プログラムによる Web ページの操作(2) 5. データベースの利用 6. Web API を利用したアプリケーション製作(1) 7. Web API を利用したアプリケーション製作(2) 8. Web アプリケーションの安全性 9. ユーザの認証、暗号化 10. 作品製作（企画） 11. 作品製作(実装 1) 12. 作品製作(実装 2) 13. 相互評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし（毎回、資料を配布する）		出席、レポート、作品プログラムによる	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（新聞を読む 1） 現代社会（IV）（新聞を読む 1）	担当者	細野 徳治
講義目的、講義概要		授業計画	
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎的知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。		国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2008 年春学期には、チベット問題と北京五輪、光市母子殺害事件の差し戻し控訴審判決、憲法改正のための国民投票法成立をきっかけに起きた成人年齢の 18 歳引き下げ論議、内閣支持率などの世論調査報道、東京・渋谷で発生した 2 つの殺人事件の裁判にみる精神鑑定と責任能力の問題、米大統領選挙の民主、共和両党の候補者指名争い、クラスター爆弾全面禁止条約案の採択、死刑執行命令がハイペースになっている実情と背景、自殺者が 10 年連続 3 万人を超える、などのニュースを取り上げた。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。		日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（新聞を読む 2） 現代社会（IV）（新聞を読む 2）	担当者	細野 徳治
講義目的、講義概要		授業計画	
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎的知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。		国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2008 年秋学期には、閣僚の半数が二世議員という麻生内閣の発足と議員世襲問題、日本人がノーベル物理学・化学賞をダブル受賞、ノーベル平和賞とイグ・ノーベル賞、日本の国連非常任理事国当選、「日本の侵略国家否定」論文を発表した田母神・航空幕僚長の更迭と文民統制の課題、大学生に広がる大麻汚染、世界の小中学生を対象に実施した国際学力比較調査などのニュースを取り上げた。このほか米大統領選挙を 2 回にわたり取り上げ、オバマ氏の当選で史上初の黒人大統領が誕生した背景を掘り下げた。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。		日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（ホームページ作成） 現代社会（IV）（ホームページ作成）	担当者	A. ベロフ
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会には欠かせないホームページ作成に必要と思われる基本知識を履修することができる。また、ホームページ作成の練習の際、以下に示しているような技術を身につけることを目的とする。 1) ホームページ作成の基本操作を学ぶ（タグうち）。 2) Dynamic HTML の基本作成を学ぶ（スクリプト）。 3) マルチメディアを活用する。 4) 情報や資料などを WEB 上で公開する。 5) WEB デザインの裏知識を得る。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。		1 コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバ 3 ページ構成、編集方法、初めてのページ作成 4 画像、背景、色の作成 5 テキスト処理、フォント、リスト、リンク 6 テーブル、ページのレイアウト 7 マップ、画像などの絶対位置設定、スタイル 8 BODY、Document コンポーネントへのアクセス 9 イベント処理 10 ダイナミック HTML、スクリプト 11 レポートの作成、HTML での音声 12 レポートの作成、HTML での動画 13 レポートの作成、Visual Basic Script など 14 アップロード、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
川名 和子 著『初めて作るホームページ』技術評論社； http://www.abacuss.com/HTML_help/		出席、レポートによる	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（ホームページ作成） 現代社会（IV）（ホームページ作成）	担当者	A. ベロフ
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会には欠かせないホームページ作成に必要と思われる基本知識を履修することができる。また、ホームページ作成の練習の際、以下に示しているような技術を身につけることを目的とする。 1) ホームページ作成の基本操作を学ぶ（タグうち）。 2) Dynamic HTML の基本作成を学ぶ（スクリプト）。 3) ルチメディアを活用する。 4) 報や資料などを WEB 上で公開する。 5) WEB デザインの裏知識を得る。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。		1 コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバ 3 ページ構成、編集方法、初めてのページ作成 4 画像、背景、GIF アニメーション、色の作成 5 テキスト処理、フォント、リスト、リンク 6 テーブル、ページのレイアウト 7 マップ、画像などの絶対位置設定、スタイル 8 BODY、Document コンポーネントへのアクセス 9 イベント処理。直線、資格、円形、ベジューなどの起動のシミュレーション 10 ダイナミック HTML、スクリプト 11 レポートの作成、HTML での音声 12 レポートの作成、HTML での動画 13 レポートの作成、VBS、JavaScript など 14 アップロード、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
川名 和子 著『初めて作るホームページ』技術評論社； http://www.abacuss.com/HTML_help/		出席、レポートによる	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（ホームページ作成） 現代社会（IV）（ホームページ作成）	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
PC上でIEやFireFoxを使用して閲覧しているWebページを作成するための基礎を学習する授業である。Webページは、HTML形式のテキストファイル（Windowsに同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この形式の規則の骨組を学習することを授業の中心の目的にする。 本校サイト内からWebページを発信できる環境が整備されているので、これを利用してWebページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実践的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書ではなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、PerlやPHPといったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。		1. ホームページの作成 2. ホームページの運用・管理 3. Web ページの仕組みと公開 4. インターネット利用の倫理（ネチケット） 5. ブログの開設と運用 6. HTML の基本 7. CSS の基本 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2（ホームページ作成） 現代社会（IV）（ホームページ作成）	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
PC上でIEやFireFoxを使用して閲覧しているWebページを作成するための基礎を学習する授業である。Webページは、HTML形式のテキストファイル（Windowsに同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この形式の規則の骨組を学習することを授業の中心の目的にする。 本校サイト内からWebページを発信できる環境が整備されているので、これを利用してWebページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実践的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書ではなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、PerlやPHPといったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。		1. ホームページの作成 2. ホームページの運用・管理 3. Web ページの仕組みと公開 4. インターネット利用の倫理（ネチケット） 5. ブログの開設と運用 6. HTML の基本 7. CSS の基本 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1) 現代社会(IV)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	担当者	大井 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) EUは現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実のEUの姿が見えてこない。そこでEUの細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならびEUのリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面からEUの理解につとめようと思う。 (講義概要) 欧州連合の制度は非常に複雑であり、それらを細かく解説してもなかなか明確な理解にはつながらない。そこでテーマを絞り、問題点を浮き彫りにする方法をとりたいと思う。前半においては共通農業政策について多くの時間を割いて、この難問の解明につとめる。そして歴史的に前代未聞ともいえる単一通貨の導入について説明し、最後にEUの運営にとり重要な補完性の原則と特定多数決とはなにかを追及する。後半はフランスの抱えている諸問題が、どのようにEUに絡み合っているかを考察する。さらに欧州連合の最近の流れ(欧州憲法条約の否決、EUの東欧への拡大)の中で、相対的に低下するフランスのリーダーシップについてもとりあげたい。		1 EUの歴史 EC創設への道 2 EUの歴史 ECからEUへ 3 拡大するEU 27カ国への拡大 4 拡大にともなう各種問題 5 フランス農業と共通農業政策 6 共通農業政策の仕組み 7 共通農業政策の問題点 8 共通農業政策の改革とフランス 9 欧州通貨制度 10 単一通貨ユーロ導入までの動き 11 安定成長協定とはなにか 12 EU予算の抱える問題 13 補完性の原則 14 特定多数決の導入	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 日経文庫 1079 藤井良広著『EUの知識』第14版		期末に行う試験の結果により評価する。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2) 現代社会(IV)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	担当者	大井 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) EUは現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実のEUの姿が見えてこない。そこでEUの細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならびEUのリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面からEUの理解につとめようと思う。 (講義概要) 欧州連合の制度は非常に複雑であり、それらを細かく解説してもなかなか明確な理解にはつながらない。そこでテーマを絞り、問題点を浮き彫りにする方法をとりたいと思う。前半においては共通農業政策について多くの時間を割いて、この難問の解明につとめる。そして歴史的に前代未聞ともいえる単一通貨の導入について説明し、最後にEUの運営にとり重要な補完性の原則と特定多数決とはなにかを追及する。後半はフランスの抱えている諸問題が、どのようにEUに絡み合っているかを考察する。さらに欧州連合の最近の流れ(欧州憲法条約の否決、EUの東欧への拡大)の中で、相対的に低下するフランスのリーダーシップについてもとりあげたい。		1 フランスの政治とEU(欧州議会) 2 フランスの政治とEU(主権擁護派) 3 フランスの政治とEU(リーダーシップ) 4 フランス経済とEU(門戸開放と統合市場) 5 フランス経済とEU(世界経済への一体化) 6 フランス経済とEU(移民労働者) 7 フランス経済とEU(国内産業の保護) 8 フランス経済とEU(産業の空洞化) 9 フランスのODA政策とEU 10 市民社会の台頭とフランス 11 欧州中央銀行とフランス 12 EU拡大とフランスの影響 13 EU改革(リスボン)条約への道 14 EUの将来とフランス	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 日経文庫 1079 藤井良広著『EUの知識』第14版		期末に行う試験の結果により評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(IV) (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
皆さんが今学んでいる「獨協」は、明治時代にできた「獨逸学協会」が母体となっています。当時の人々は、ドイツやドイツ語圏であるオーストリア（当時は大国）やスイスから何を学ぼうとしたのでしょうか。 この授業では、日本とドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の交流の歴史を辿ってみます。交流は、政治経済のみならず、学問や文化、スポーツなど多岐に渡っています。 その多面的な様相の一部を紹介しながら、異文化との接触が何をもたらすのかを批判的に検討していきます。 学生の皆さんにも調査研究して発表してもらいます。<u>グループ分けの必要がありますので、第 1 回授業には必ず参加してください。</u>		1 ガイダンス（受講希望者は必ず出席してください。） 2 概論：日本とドイツの交流史 1 3 概論：日本とドイツの交流史 2 4～13 以下のテーマなどでグループ発表+矢羽々による講評と同一テーマを別側面から扱う講義で進めます。 ・江戸期の日独交流（ケンペル、シーボルト） ・幕末期の遣欧使節（武士の見た欧米） ・ドイツ語学習のはじまり（洋学のはじまり） ・獨協とドイツ ・グリム・メルヒェンの翻訳と受容 ・ベートーヴェンの『第九』初演（『バルトの楽園』） ・スポーツでの交流（スキーなど） 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に適宜指示します。		授業への出席（4 回以上の欠席は F となります）および学期末試験もしくはレポートの結果に基づいて評価します(参加人数による)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（からだの仕組み） 自然・環境・人間（IV）（からだの仕組み）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示しています。たとえば、暑いと汗をかくいたり、運動中に心臓がドキドキしたりといった反応があげられます。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が提供されていますが、まずはもっと身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。また、健康やそれにかかわる環境などについてのテレビ、映画、新聞などの情報を各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。毎回授業のテーマに沿ったレポートの提出により理解の定着を図ります。		1. オリエンテーションー生きている仕組みを考える 2. 体温調節ー汗は最強 3. 摂食調節ーお腹が空く、脳が空く 4. 「食」についてグループ討論会① 5. 「食」についてグループ討論会② 6. 体液調節ーのどの渴きは脳のサイン 7. 睡眠ー眠くなるのはなぜ？ 8. 生物時計ー体の中に時計がある？ 9. 呼吸と循環ー息して生きてる 10. 感覚ー第6感？ 11. 神経ー「運動神経がない」人はいない！ 12ー14. からだの情報交換会！（体験プログラム） *講義の順番は変わる可能性があります	
テキスト、参考文献		評価方法	
『やさしい生理学』 森本武利・彼末一之編 南江堂		出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（観察と実験生物学a） 自然・環境・人間（IV）（身近な自然観察 春）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった48名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 - 詳細は1回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 - 身近な植物100種以上認識できること。		1 はじめに 講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウォッチング1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 ① 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ② 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 身近な植物の観察 2 花の構造 8 キャンパスウォッチング2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 3 果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4 果実の形態 ② 11 身近な植物の観察 5 葉の形態 ① 12 身近な植物の観察 6 葉の構造 ② 13 身近な植物の観察 7 根の構造 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（観察と実験生物学b） 自然・環境・人間（IV）（身近な自然観察 秋）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった48名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 - 詳細は1回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 身近な植物100種以上認識できること。		1 はじめに：講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウォッチング1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウォッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回 プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（コンピュータ構造論） 自然・環境・人間（IV）（コンピュータ構造論）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというだけではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。 本講義では、（１）情報に関する基本的な概念、（２）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（３）情報システムに関する基礎的な素養、（４）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とする。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。		1 ハードウェアとソフトウェア 2 ファイル編成とデータベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム（DBMS） DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 情報システムを支える技術 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 13 総合演習 14 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 毎回の講義で必要な教材は配布する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

08 年度以降	自然・環境・人間 2（コンピュータと言語）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間 2 (情報検索と加工) 自然・環境・人間 (IV) (情報検索と加工)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】情報化社会において、資源である情報を効果的に活用することは不可欠である。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深める。コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではコンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進める。講義形式の授業では、情報検索の基本的な考え方について述べながら、代表的な検索システムの仕組みなどの説明を行う。 本講義では、データベースや WWW 検索エンジン、質疑応答システムを用いて情報検索の演習を通して、実践的な能力の養成を目的とする。		1 授業ガイダンス：情報検索の基本 2 情報検索の基礎技術 3 データベースとシソーラス 4 図書の検索 5 雑誌の検索 6 新聞の検索 7 WEB 検索エンジン：ロボットとインデックス 8 インターネット検索・検索エンジンによる検索／演習（1）（断片情報による検索） 9 インターネット検索・検索エンジンによる検索／演習（2）（地図・経路検索演習） 10 検索結果の評価 11 ファクト情報の検索 12 質問応答システムの演習 13 情報検索総合演習 14 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 必要に応じて資料を配布する。		出席、レポートおよび期末試験により、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（スポーツコーチ学a） 自然・環境・人間（IV）（スポーツコーチ学a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 今、私達は様々な形でスポーツを楽しむことができます。競技として、趣味としてスポーツをプレーしたり、健康のために実践したりすることや、観戦してスポーツの魅力を味わうこともあります。スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。その身体機構を理解することで実践するときにも観戦するときにも個人個人でよりスポーツの魅力を感じることができるといえます。そこで本講義では運動中の身体各部の機能や適応について理解すること、そして各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 講義内容は基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。そしてスポーツパフォーマンスの向上にかかせないトレーニング科学や栄養学などについても取り上げます。実際にスポーツ中の生理データを測定したり（受講生同士、グループに分かれて）、ビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。		1. オリエンテーション 2. 身体の基本的な機能 3. 動きをコントロールする 4. 筋が力を発揮する仕組み 5. エネルギー供給機構 6. 運動と循環（基礎編） 7. 運動と循環（実践編：心拍数を測ってみよう） 8. トレーニングの基礎 9. スポーツを科学の目で分析する① 10. スポーツを科学の目で分析する② 11. スポーツと栄養 12. こども・高齢者・しょうがい者とスポーツ 13. トップアスリートを取り巻く環境 14. まとめ *講義の内容の順番は変わる可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（体育経営スポーツマネジメント） 自然・環境・人間（IV）（体育経営スポーツマネジメント）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
体育経営スポーツマネジメントの基礎を学び、実践・実習することを授業の目的とします。 授業で学んだ項目に関して、身近な事例を調査してもらい、発表したり、話し合ったり、レポートを作成、提出してもらいます。 コミュニケーションのために顔写真1枚を貼った受講票の作成をしてもらいます。 ゲストを招いての授業も予定しています。定員があります。		第1週 ガイダンス 第2週 スポーツマネジメントの概念 第3週 研究、理論、そして実践 第4週 第1回調査テーマの設定 ＊第5週と第6週は学外での調査活動（個人で） 第7週 第1回調査報告 第8週 第2回調査テーマの設定 ＊第9週と第10週は学外での調査活動（複数で） 第11週 第2回調査報告 第12週 ミーティング 第13週 スポーツマネジメントの将来展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介します。		授業への参加、レポート、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (統計と調査法) 自然・環境・人間 (IV) (統計と調査法)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける. ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ? ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい?→違いがあるとは? ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何?→確率が高いとは? 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活を行うことができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。		第 1 回 (1) 英語学習実態調査 ～アンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ ～テスト問題作成 第 2 回 (1) データを集めてみよう ～統計量の種類 (量的変量・質的変量): 比例変量, 間隔変量, 順位変量, 名義変量 (2) データの傾向を見よう ～度数分布, 相対度数, 度数分布表 (3) データをグラフ化しよう ～量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現 第 3 回 データの特徴を数値で表そう その 1 ～代表値 (平均値, 中央値, 最頻値), 値の広がり, 能力テストと到達度テスト 第 4 回 データの特徴を数値で表そう その 2 ～正規分布, 散布度 (標準偏差), 歪度, 尖度, 標準得点, 偏差値 第 5 回 データを採点しよう (これまでのまとめ) ～表計算ソフトによる採点・集計 第 6 回 テストを見直す ～信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析 第 7 回 偶然か, 特殊能力か? ～記述統計と推測統計, 仮説 (帰無仮説, 対立仮説) 第 8 回 学習時間と成績には関係があるか? ～相関散布図, 相関係数, 回帰直線, 欠損値の推定, 相関検定 第 9 回 あさがお観察日記 ～対応がない場合の t 検定, 分散分析 第 10 回 ダイエット観察日記 ～対応がある場合の t 検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析 第 11 回 出身地と種類の好みに関係はあるか? ～クロス集計, カイ二乗検定 第 12 回 駅前出店計画 ～判別分析 第 13 回 おいしい料理のための食材分量 ～重回帰分析 第 14 回 隠れた傾向を探り出す ～主成分分析, 因子分析 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み: 統計データ分析入門』(秀和システム, 2004) ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験 (60%) + 平常授業におけるまとめ (40%)) x 出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（東洋の健康哲学 a） 自然・環境・人間（IV）（東洋の健康哲学 a）	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間の在り方 利便性に富んだ生活と人間生活の不健康化 医学的進歩と世界の医療環境の現状疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることの意味 を理解し、人間もその一員としての意識と共に地球単位 での将来を考える事が健康になる最も大事な近道といえ る。そのために個々人が如何なる考えと、意識を持ち、 実行できるかを理解し学ぶことが必要である。		①・ガイダンス・健康問題の現状分析（1） ②・健康問題の現状分析（2） ③・時代の変遷と健康問題の推移 ④・食事情の影響と意識 ⑤・東洋の健康哲学の現代に与える影響 ⑥・健康意識と現実生活の歪み ⑦・動物としての人間の担う地球環境の健康問題とは ⑧・世界の健康理論・現状の検証 ⑨・東洋的身体観・西洋的身体観 ⑩・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意味 する事とは。 ⑪・健康の意義 ⑫・健康を阻害するものとは？ ⑬・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席状況(50%)・レポート(50%)評価とする	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（東洋の健康哲学 b） 自然・環境・人間（IV）（東洋の健康哲学 b）	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることとは 半世紀の社会状況・生活文化度と健康問題を検証 人間生活の経済・個人の欲・近代化の副産物としての様々 な現象を基に「健康とは？」を考える。		①・ガイダンス・健康問題の現状分析（1） ②・健康問題の現状分析（2） ③・時代の変遷と健康問題の推移 ④・食事情の影響と意識 ⑤・健康は誰のものか ⑥・健康意識と現実生活の歪み ⑦・動物としての人間の担う地球環境の健康問題とは ⑧・世界の健康問題と安全・安心を担う事とは ⑨・家庭・企業・過去・未来・時代・国を健康問題から 検証して考える ⑩・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意 味する事とは。 ⑪・健康の意義と現実 ⑫・健康を阻害するものとは？ ⑬・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席状況(50%)・レポート(50%)評価とする	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（マルチメディア論） 自然・環境・人間（IV）（マルチメディア論）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
動画・音声など、いまやインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ただたんに指示通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人はほとんどいない。これらを自分の力で処理・コントロールすることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。 いろいろの手法はあるが、ここでは標準となりつつあるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。 もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後よりいっそうの進化にもつなげられるものとしたい。		1. ガイダンス 2. イラストの作成 ① 3. イラストの作成 ② イラストの作品制作 4. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン。 5. シンボルの制作、保存。レイヤーの利用。 6. 作品の制作 ① 7. トゥイーンアニメーション 8. テキストを使ったアニメーション 9. 写真の利用 10. サウンドの貼り付け 11. HPの作成、アップロード 12. 作品の制作 ② 13. 作品の制作 ③ 14. 作品の制作予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜提示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2（リーダーシップ論） 自然・環境・人間（IV）（リーダーシップ論）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えていく。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としている。 互いの指導を題材に、ふりかえりと相互評価を行い、リーダーシップに求められる要素を考えていく。 個人発表では、自らの経験とリーダーシップ理論との関連で作成したレポートを発表し、全体で討議する。		1 オリエンテーション 2 リーダーシップとは 3 リーダーシップ理論 1 4 リーダーシップ理論 2 5 問題解決活動 6 問題解決活動指導計画の作成 7 問題解決活動の指導 1 8 ふりかえりと相互評価 1 9 問題解決活動の指導 2 10 ふりかえりと相互評価 2 11 教育におけるリーダーシップとは 12 個人発表と討議 1 13 個人発表と討議 2 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布する。		出席、授業への取り組み姿勢、個人発表	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

07年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（日本語の談話と日本語教育）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が、いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を、文型として獲得することを目標とするとすれば、中級の日本語学習は、複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。 この授業では、日本語の談話に、一定の構造を考えることによって、学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。 〔講義概要〕 あつかう対象は、指示・省略・主題・隣接ペア・テンス・モダリティ・丁寧さ・ターンなどであり、右欄の計画にそって進行する。受講者は、毎回の授業前に、該当する資料をよんでくることが要求される。 授業は、受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお、ここで要求している「質問」は、むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について、より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。		第1回 談話とはなにか 第2回 指示 第3回 省略と代名詞 第4回 「ハ」主題（1） 第5回 「ハ」主題（2） 第6回 文のムードと隣接ペア（1） 第7回 文のムードと隣接ペア（2） 第8回 テンスとモダリティ 第9回 引用 第10回 丁寧さ 第11回 ターンテイキングなど 第12回 談話と行為 第13回 中上級教育と談話論 第14回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート a)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。教職課程履修者は、人生を豊かに過ごす一つの方法として、身体を通して美しさを創造するスポーツ文化の一つとして学習して欲しいと思います。 〔講義概要〕 インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。		第1回：オリエンテーション インラインスケートとは（ビデオ視聴）と用具あわせ 立ち方・歩き方・とまり方 第2回：「滑ることに慣れよう」ステップ 第3回：「滑ることに慣れよう」グライド 第4回：「からだを動かしてみよう」腕の使い方 第5回：「からだを動かしてみよう」ボディの使い方 第6回：「自由にからを動かしてみよう」パイロンを使った練習 第7回：「自由にからを動かしてみよう」ストックを使った練習 第8回：インラインホッケーの基本 第9回：インラインホッケーを楽しもう 第10回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第11回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第12回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第13回：「方向転換」カーブの練習 第14回：「方向転換」スリーターン	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しないが自身でインターネット他のメディアを利用してインラインスケートに関する情報を調べること。		出席状況と受講態度ならびに技術の向上度（実技テスト）	

	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート b)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。 インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目標とします。 秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。 〔講義概要〕 インラインスケートの技術のバリエーションであるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーも積極的に行います。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。		第1回：インラインホッケーの楽しみ方 第2回：パイロンテクニックその1 大きな動き 第3回：パイロンテクニックその2 小さな動き 第4回：ターン スリーターン 第5回：ターン モホークターン 第6回：基本的なストップ 第7回：ストップのバリエーション 第8回：ジャンプ 第9回：フォワードクロッシング 足運びの練習 第10回：フォワードクロッシング 第11回：バックワードクロッシングの初歩 第12回：インラインホッケーリーグ戦 第1回 第13回：インラインホッケーリーグ戦 第2回 第14回：インラインホッケーリーグ戦 第3回 インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない		出席状況と受講態度および技術の向上度	

	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。この授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、そして自分でプログラムを選択して実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグラウンドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど他のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。		1. オリエンテーション 2. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう 3. からだをほぐしてリラックス（ストレッチポール） 4. ストレッチングのススメ 5. ウォーキング①（楽しく続けるために） 6. ウォーキング②（快適ニコニコペースをつかむ） 7. 自分の体重を使って筋力アップ 8. 有酸素運動を理解しよう 9. きれいな姿勢のためのエクササイズ 10. ヨガの基本ポーズ 11. 自分でプログラムを作って実践① 12. 自分でプログラムを作って実践② 13. 自分でプログラムを作って実践③ 14. 春学期の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象としません。	

	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 b）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。この授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、そして自分でプログラムを選択して実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグラウンドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど他のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。		1. これまでのプログラムを振り返る 2. 自分の体をチェック 3. ウォーキングを楽しむ 4. ストレッチング・筋力アップ①・ヨガ 5. ストレッチング・筋力アップ②・ヨガ 6. ストレッチング・筋力アップ③・ヨガ 7. なわとびエクササイズ 8. ストレッチング・その場でステップ 9. からだをあたためるエクササイズ 10. リクエスト・プログラム 11. 自分でプログラムを作って実践① 12. 自分でプログラムを作って実践② 13. 自分でプログラムを作って実践③ 14. 秋学期の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象としません。	

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスa）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
硬式テニスを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 顔写真1枚を貼った受講票を作成し、名札の配布と回収により出席を取る。 初心者から上級者まで色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。		第1週 ガイダンス 第2週 実技開始 第3週～第14週 色々な組み合わせによりダブルスのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスb）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
硬式テニスを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 春学期からの履修者と秋学期からの履修者になるが、秋学期からの履修者は、顔写真1枚を貼った受講票の提出と原則として硬式テニスのダブルスのゲームが出来ることを条件とする。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。		第1週 実技とガイダンス 第2週 ～火曜日は第13週、水曜日は14週まで 色々な組み合わせによりダブルスのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。		1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。 3 基本技術の練習。 4 " 5 " 6 " 7 " 8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 9 " 10 " 11 " 12 " 13 " 14 "	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。		1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。 2 基本技術の練習。 3 " 4 " 5 " 6 " 7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 8 " 9 " 10 " 11 " 12 " 13 " 14 "	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	萩原 武久
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 ゴルフは、正しい知識と技能を身につけることによって、生涯にわたって楽しめるスポーツである。そのためには、基本となる技術、ルールを理解、マナーの遵守の習得が求められる。 【講義概要】 ゴルフ競技を行うにあたり、ゴルフの歴史、用具や服装、マナーについて講義する。次に基本技術をビデオにより学習する。クラブの握り方やスタンスの取り方を習得すると共に、アドレスや無理のないスウィングを反復練習し、個人のフォームを作り上げる。第 7 週までは、学内でプラスチック・ボールを打球する。第 8 週からはゴルフ練習場で実習する。 【受講者への要望】 運動のできる服装で出席すること。手袋は必ず購入すること。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを使用すること。初心者または初級者であること。		1. オリエンテーション 2. ゴルフの歴史とマナーについて 3. 基本技術のビデオ学習 4. ショートアイアン（8, 9、PW）のスウィング（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングを学習する） 5. 学内でプラスチック・ボールを使用して実習 6. 個別指導（グリップ、スタンス、アドレス、スウィング） 7. 個別指導（グリップ、スタンス、アドレス、スウィング） 8. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球） 9. 反復練習 10. 個別指導（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） 11. 個別指導（同 上） 12. 個別指導（同 上） 13. 個別指導（同 上） 14. テスト	
テキスト、参考文献			
		出席状況、履修態度、技能と理論のテストの総合評価	

	スポーツ・レクリエーション（ゴルフ b）	担当者	萩原 武久
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 ゴルフは、正しい知識と技能を身につけることによって、生涯にわたって楽しめるスポーツである。そのためには、基本となる技術、ルールを理解、マナーの遵守の習得が求められる。 【講義概要】 ゴルフ競技を行うにあたり、ゴルフの歴史、用具や服装、マナーについて講義する。次に基本技術をビデオにより学習する。クラブの握り方やスタンスの取り方を習得すると共に、アドレスや無理のないスウィングを反復練習し、個人のフォームを作り上げる。第 1 週からゴルフ練習場にて実習する。 【受講者への要望】 運動のできる服装で出席すること。手袋は必ず購入すること。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを使用すること。初心者または初級者であること。春学期受講者が望ましい。		1. ゴルフ練習場にて実習 2. アイアンショット（7, 9、PW,SW） 3. アイアンショット（3, 5） 4. ロングアイアン（3, 4）ショット練習 5. ロングアイアン（3, 4）ショット練習 6. ウッドの打法と練習（1, 3） 7. ウッドの打法と練習（1, 3） 8. 個人のスウィングをチェック、指導 9. 個人のスウィングをチェック、指導 10. 個人のスウィングをチェック、指導 11. 個人のスウィングをチェック、指導 12. テスト（アイアンおよびウッド）及び実習 13. テスト（アイアンおよびウッド）及び実習 14. テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席状況、履修態度、技能と理論のテストの総合評価	

	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを多く行うことにより活動量を確保し、体力の向上・維持を目標とする。内容は大学生が理解し、実行できる内容とレベルを追求したく、サッカーをより深く学習することを希望するサッカーが好き、あるいは得意と思われる学生の受講を歓迎する。ただし、技能レベルの優劣は問わない。 又、学習課題を授業外でも自分たちの自主活動ならびに指導等に活用できるよう、より系統的に、かつ単純化したものとし、高度なサッカー観戦にも役立つよう配慮して授業を進める。 サッカーの技術、戦術から大学生に合った課題を抽出し、各時間 3 分の 1 程度を課題学習にあて、3 分の 2 程度をゲーム中心の展開とする。準備運動はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講者への要望] 人工芝のフィールドで行うため、スパイクシューズの着用、また、ストッキング、ショーツもできたら用意することを望む。		1. オリエンテーション（教室、個人票記入等） 2. 測定（技能、体力等） 簡単なゲーム 3. 技術課題練習基礎編① ゲーム 4. 技術課題練習基礎編② ゲーム 5. 技術課題練習基礎編③ ゲーム 6. 技術課題練習基礎編④ ゲーム 7. 戦術課題練習基礎編① 8. 戦術課題練習基礎編② 9. 戦術課題練習基礎編③ 10. 戦術課題練習基礎編④ 11. 戦術課題練習基礎編⑤ 12. 技術・戦術練習方法理論・実践 13. サッカーの歴史と世界史の関係（雨天時、教室） 14. 評価のためのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
「サッカースキル（技術と戦術）」松本光弘著 学習研究社、 「サッカーのテクニック」スピンドラー著松本光弘訳、ベースボールマガジン社		出席状況を評価の 60%とし、平常の授業態度、グループワークでの貢献度、ゲームにおけるパフォーマンス等を 40% として評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを多く行うことにより活動量を確保し、体力の向上・維持を目標とする。内容は大学生が理解し、実行できる内容とレベルを追求したく、サッカーをより深く学習することを希望するサッカーが好き、あるいは得意と思われる学生の受講を歓迎する。ただし、技能レベルの優劣は問わない。 又、学習課題を授業外でも自分たちの自主活動ならびに指導等に活用できるよう、より系統的に、かつ単純化したものとし、高度なサッカー観戦にも役立つよう配慮して授業を進める。 サッカーの技術、戦術から大学生に合った課題を抽出し、各時間 3 分の 1 程度を課題学習にあて、3 分の 2 程度をゲーム中心の展開とする。準備運動はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講者への要望] 人工芝のフィールドで行うため、スパイクシューズの着用、また、ストッキング、ショーツもできたら用意することを望む。		1. オリエンテーション、ゲーム（フィールド、秋学期から受講者の個人票記入等） 2. 体力回復と簡単なゲーム 3. 守備課題練習① ゲーム 4. 守備課題練習② ゲーム 5. 得点課題練習① ゲーム 6. 得点課題練習② ゲーム 7. チーム戦術攻撃課題練習① ゲーム 8. チーム戦術攻撃課題練習② ゲーム 9. より高度な戦術課題練習① ゲーム 10. より高度な戦術課題練習② ゲーム 11. ハイレベルの質を求めたサッカーの体験（攻撃中心） 12. ハイレベルの質を求めたサッカーの体験（守備中心） 13. 現代のサッカーの現状（雨天時、教室） 14. 評価のためのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
「サッカースキル（技術と戦術）」松本光弘著 学習研究社、 「サッカーのテクニック」スピンドラー著松本光弘訳、ベースボールマガジン社		出席状況を評価の 60%とし、平常の授業態度、グループワークでの貢献度、ゲームにおけるパフォーマンス等を 40% として評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（サッカー a）	担当者	菊原 伸郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 サッカー競技の実践を通じて、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。 特に、いままでできなかった個人・グループ・チームプレイができるようになる過程を深く考え、繰り返すことにより獲得できる技術・戦術のコツの習得を目指す。 その上で、「観るスポーツ」の力を養い、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わりに役立てることがテーマである。 【講義概要】 サッカーの技術・戦術の習得を目指し、各時間 3 分の 1 を課題学習にあて、3 分の 2 をゲーム中心の展開とする。準備運動の時間はそれ以外とし、注意深く行う。 【受講生への要望】 人工芝のフィールドに対応したシューズの着用、また、ストッキング（長靴下）もできたら用意することを望む。		1. オリエンテーション（教室、個人票記入等） 2. 測定（技術力、体力等） ゲーム 3. コミュニケーション スモールゲーム 4. チームワーク ゲーム 5. 技術の習得 ボールコントロール① ゲーム 6. 技術の習得 ボールコントロール② ゲーム 7. サッカーの理論技術と戦術（雨天時教室） 8. 個人戦術の習得 パス&コントロール① ゲーム 9. 個人戦術の習得 パス&コントロール② ゲーム 10. グループ戦術の習得 ポジショニング① ゲーム 11. グループ戦術の習得 ポジショニング② ゲーム 12. チーム戦術課題トレーニング ゲーム 13. 技術力、体力のテスト 14. 評価のためのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布		出席状況を評価 60%とし、平常の授業への取り組み姿勢 20%、技術の習熟・グループワークでの貢献度等を 20%として評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（サッカー b）	担当者	菊原 伸郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 サッカー競技の実践を通じて、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。 特に、いままでできなかった個人・グループ・チームプレイができるようになる過程を深く考え、繰り返すことにより獲得できる技術・戦術のコツの習得を目指す。 その上で、「観るスポーツ」の力を養い、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わりに役立てることがテーマである。 【講義概要】 サッカーの技術・戦術の習得を目指し、各時間 3 分の 1 を課題学習にあて、3 分の 2 をゲーム中心の展開とする。準備運動の時間はそれ以外とし、注意深く行う。 【受講生への要望】 人工芝のフィールドに対応したシューズの着用、また、ストッキング（長靴下）もできたら用意することを望む。		1. オリエンテーション、ゲーム（フィールド、秋学期からの受講者の個人票記入等） 2. 測定（技術力、体力等） ゲーム 3. チーム戦術課題トレーニング システム①ゲーム 4. チーム戦術課題トレーニング 守備 ゲーム 5. 守備グループ戦術の習得 ゲーム 6. チーム戦術課題トレーニング 攻撃 ゲーム 7. 攻撃グループ戦術の習得 ゲーム 8. 現代サッカーのトレーニング課題（雨天時、教室） 9. リスタートプレイ ゲーム 10. チーム戦術課題トレーニング システム②ゲーム 11. 高度なチーム戦術課題守備 ゲーム 12. 高度なチーム戦術課題攻撃 ゲーム 13. 技術力、体力のテスト 14. 評価のためのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布		出席状況を評価 60%とし、技術課題のテスト結果、平常の授業への取り組み姿勢、グループワークでの貢献度等を 40%として評価する。	

	スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックス a)	担当者	齋藤 初恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この講義では、エクササイズを行うことによりからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できるからだづくり、つまりデトックスしやすいからだづくりを目指します。また、この講義では様々なエクササイズを行います。いずれのエクササイズも競うことが目的ではなく、楽しんで行うことが目的です。この講義を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 ○ パワーヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心とからだを調和させるとともに、からだのデトックス機能向上と心のリフレッシュを行います。 ○ エアロビクス：リズムに合わせて全身運動（有酸素運動）を行い、代謝機能を高めます。 ○ ステップエクササイズ：ステップ台を用いたエアロビクスで、非常に運動効果の高いエクササイズです。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）		1 オリエンテーション 年間授業計画の説明 実施上の諸注意 2 スポーツ型デトックスについて パワーヨーガ① 3 パワーヨーガ② 4 パワーヨーガ③ 5 パワーヨーガ④ 6 パワーヨーガ⑤ 7 エアロビクス① 8 エアロビクス② 9 エアロビクス③ 10 エアロビクス④ 11 ステップエクササイズ① 12 ステップエクササイズ② 13 ステップエクササイズ③ 14 ステップエクササイズ④	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席状況、授業への参加態度等により評価する。	

	スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックス b)	担当者	齋藤 初恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、エクササイズを行うことでからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できる（デトックスしやすい）からだづくりを目指します。 ○ パワーヨーガ：春学期を参照。 ○ コアシェイプ：音楽に合わせて体幹部（コア）の筋肉を集中的に鍛えるエクササイズです。有酸素運動と腹筋・背筋のトレーニングの組み合わせで、特におなか周りのシェイプに効果的です。 ○ ラテンエアロ：ラテンの音楽と簡単なステップによるエアロビクスです。全身運動によりからだの代謝機能を高めます。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）		1 スポーツ型デトックスについて パワーヨーガ① 2 パワーヨーガ② 3 パワーヨーガ③ 4 パワーヨーガ④ 5 コアシェイプ① 6 コアシェイプ② 7 コアシェイプ③ 8 コアシェイプ④ 9 コアシェイプ⑤ 10 ラテンエアロ① 11 ラテンエアロ② 12 ラテンエアロ③ 13 ラテンエアロ④ 14 ラテンエアロ⑤	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席状況、授業への参加態度等により評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール a）	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 〔講義概要〕 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。 〔受講者への要望〕 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明 2 キャッチボール (ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム) 3 ピッチング (スリングショット投法) 4 ピッチング (スリングショット投法の復習およびウィンドミル投法) トスバッティング 5 ピッチング (各種投法の復習) ハーフバッティング 6 守備練習 (基本的なゴロと飛球の捕り方) 7 守備練習 (各ポジションの守備方法) シートノック 8 ベースランニングとスライディングの練習 9 バント練習 (内野手の連携プレー) 10 シートノックによる守備練習 (ダブルプレーの練習) 11 ゲーム形式のバッティング練習 12 審判の方法についての説明 チーム編成 (1) 13 (ポジション・打順を決める) 練習試合 14 チーム練習 (試合前の、シートノック) 15 試合 A～B、C～D 16 チーム練習 (トスバッティング) 試合 A～C、B～D 17 チーム練習 (バント) 試合 A～D、B～C 18 チーム練習 試合 19 技能テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。	

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール b）	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 〔講義概要〕 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。 〔受講者への要望〕 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		1 総合的練習 (1) 審判方法の復習 2 総合的練習 (2) スコアブックのつけ方についての説明 3 チーム編成 (2) (以下、各々試合 3 回ごとに編成をかえる) 練習試合 4 チーム練習 (毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E～F、G～H 5 チーム練習 試合 E～G、F～H 6 チーム練習 試合 E～H、F～G 7 チーム編成 (3) チーム練習 試合 I～J、K～L 8 チーム練習 試合 I～K、J～L 9 チーム練習 試合 I～L、J～K 10 チーム編成 (4) チーム練習 試合 M～N、O～P 11 チーム練習 試合 M～O、N～P 12 チーム練習 試合 M～P、N～O 13 チーム練習 試合 14 技能テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。	

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール a）	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力とはともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組む、そして楽しんでもらいたい。		1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3 前回の復習 ゲームの実施 4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦 5 前回の復習。リーグ戦 6 リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8 前回の復習 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 13 リーグ戦 14 リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール b）	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力とはともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組む、そして楽しんでもらいたい。		1 基本練習。 リーグ戦 2 基本練習。 リーグ戦 3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 リーグ戦 4 前回の復習。 リーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 13 リーグ戦 14 リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. オリエンテーション 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れよう（ボール遊び） 3. 構え、スイングを身に付けよう、フォアハンドの基本 4. バックハンドの基本 5. サービスの基本、いろいろなサービス（スピン） 6. サーブレシーブの練習（レシーブポジション） 7. いろいろな打ち方（スマッシュ、ドライブ、カット） 8. シングルスゲームをしてみよう（ルールの習得） 9. シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームをしてみよう（ルールの習得） 12. ダブルスゲーム（2人の動きを覚えよう） 13. ダブルスゲーム 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. ダブルスゲーム（ルールの習得） 8. ダブルス・リーグ戦 9. ダブルス・リーグ戦 10. チーム団体戦（団体戦の形式を覚えよう） 11. チーム団体戦 12. チーム団体戦 13. シングルス・ダブルスゲーム 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 - 卓球の楽しさの体験、基礎知識と技術の習得。 - 卓球を通しての健康づくり。 - 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 手軽に楽しめる卓球の特性を活かし、それぞれのレベルにあった技術の向上を目指して基本練習を行う。また、シングルスやダブルスゲームを展開しながら、ルールや試合進め方などについても学習するとともに、リーグ戦等の運営についてもクラス全体で企画、交流しながら実践を重ねる。 〔受講者への要望〕 経験者、初心者はいません。それぞれの技術の向上と学生間のコミュニケーション能力の向上を期待しています。服装はトレーニングウェア・室内シューズを準備してください。なお、ラケットは個人で用意することが望ましい。		- オリエンテーション、基本的知識の習得（ラケットの選び方、ルールの理解など） - ラリーの実践（フォア・バック） - サーブ・レシーブ 簡易ゲーム - スマッシュ 簡易ゲーム - ダブルスゲームの進め方 - ダブルスゲームの実践 - ゲーム練習（ゲームにおける戦略的練習） - ダブルスゲームの実践 - シングルスゲームの実践 - ゲーム練習（ゲームにおける戦略的練習） - シングルストーナメント戦 リーグ分け - グループリーグ戦 - グループリーグ戦・トーナメント戦 - トーナメント戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席・技術・態度（企画運営への協力参加）の3項目で評価します。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 - 卓球の楽しさの体験、基礎知識と技術の習得。 - 卓球を通しての健康づくり。 - 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 手軽に楽しめる卓球の特性を活かし、それぞれのレベルにあった技術の向上を目指して基本練習を行う。また、シングルスやダブルスゲームを展開しながら、ルールや試合進め方などについても学習するとともに、リーグ戦等の運営についてもクラス全体で企画、交流しながら実践を重ねる。 〔受講者への要望〕 経験者、初心者はいません。それぞれの技術の向上と学生間のコミュニケーション能力の向上を期待しています。服装はトレーニングウェア・室内シューズを準備してください。なお、ラケットは個人で用意することが望ましい。		- オリエンテーション、基本的知識の習得（ラケットの選び方、ルールの理解など） - ラリーの実践（フォア・バック） - サーブ・レシーブ 簡易ゲーム - スマッシュ 簡易ゲーム - ダブルスゲームの進め方 - ダブルスゲームの実践 - ゲーム練習（ゲームにおける戦略的練習） - ダブルスゲームの実践 - シングルスゲームの実践 - ゲーム練習（ゲームにおける戦略的練習） - シングルストーナメント戦 リーグ分け - グループリーグ戦 - グループリーグ戦・トーナメント戦 - トーナメント戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席・技術・態度（企画運営への協力参加）の3項目で評価します。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組む、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3. ボールの打ち方・スイングの基本 4. フォアハンド・バックハンドの練習 簡易ゲーム 5. サービス・レシーブの練習 簡易ゲーム 6. フォアハンドロング・バックハンドショート 7. カット・スマッシュ 8. 審判法とゲームの進め方 シングルスゲーム 9. シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 12. ダブルスゲーム パートナーの動きを考える 13. ダブルスゲーム 14. まとめ（シングルスゲーム・ダブルスゲーム）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組む、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。		1. 復習 基本練習 シングルスゲーム 2. 復習 基本練習 ダブルスゲーム 3. 決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4. シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 5. シングルスゲーム・チーム対抗戦 6. 上に同じ 7. ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 8. ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9. 上に同じ 10. シングルス・トーナメント戦 11. ダブルス・トーナメント戦 12. ミックスダブルス 13. ミックスダブルス・リーグ戦 14. 総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 [講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 [受講者への要望] 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 実技事業の開始 用具の準備と片づけの仕方と基本知識動作などについて 3. ボールの打ち方・スイングの基本 4. サーブ・レシーブの練習 簡易ゲーム 5. フォアハンド・バックハンドの練習 簡易ゲーム 6. 上記の復習 7. カット・スマッシュ練習 シングルスゲーム 8. グループ内でのシングルスリーグ戦 9. 上記に同じ 10. 上記に同じ 11. 各グループ同順位リーグ戦 12. 上記に同じ 13. 技能テスト 14. 上記に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 [講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 [受講者への要望] 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。		1. 基本的技術の春学期の復習 2. 上記と同じ ダブルスの動き 3. ダブルスの簡易ゲーム 4. 上記と同じ 5. 上記と同じ 6. 日替わりチーム編成をしチーム内でのダブルスリーグ戦 7. 上記と同じ 8. 上記と同じ 9. 固定チームを編成しチーム対抗戦 1 10. チーム対抗戦 2 11. チーム対抗戦 3 12. チーム対抗戦 4 13. 技能テスト 14. 上記に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。		オリエンテーション 2ー3. ファンダメンタルを身につけよう ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 4ー5. ファンダメンタルを身につけよう 様々なシュート、ストップ・ターンの使い方 6ー7. ファンダメンタルを身につけよう ディフェンスの基本、パスのもらい方、動きの中のシュート 8. 1対1：ハーフコート・オールコート 9. 2対2：スクリーンプレー 10. 速攻：ワンマン・ツーメン・スリーメン 11. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 12. ゲーム 13. ゲーム 14. ゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール b）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。		1. ファンダメンタルの確認 2. ファンダメンタルの確認 3. チーム編成のためのゲーム 4. チームごとの練習およびゲームプラン 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦（チーム編成） 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦（チーム編成） 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

	スポーツ・レクリエーション（バドミントンa）	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で活かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。		1. 授業計画の確認 実技実施上の注意 連絡事項の確認 2. バドミントン競技の全般的説明 クリヤーの基本 3. ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4. クリヤー、ドロップの練習 ヘアピンの基本 5. 各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6. シングルス（半面）の実施 カウント方法の確認 7. シングルス（半面）の試合 フットワークの基本練習 8. 半面シングルス 審判法の理解 9. ドライブの基本練習 正規のシングルスゲーム 10. スマッシュの基本練習 シングルスゲーム 11. 各種ストロークの練習 ダブルスの基本 12. ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 13. グループ毎のダブルスの試合・審判 14. リーグ戦の実施 結果の整理	
テキスト、参考文献		評価方法	
中田稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社2007		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。	

	スポーツ・レクリエーション（バドミントンb）	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で活かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。		1. 基本的なストロークの復習 ダブルスの試合方法と審判法の確認 2. ダブルスの組み合わせの決定 グループによるリーグ戦の実施 3. ダブルスの基本的フォーメーションの確認 ゲームの実施 4. ダブルスゲームの実施 問題点の整理 5. ダブルスゲームの実施 ゲーム結果の分析 6. ゲームの進行状況の確認 組み合わせの変更 7. ダブルスゲームの進行 課題の解決 8. ダブルスゲームの進行と面白さの理解 9. ゲームの中での課題の練習 高いレベルのゲーム 10. ダブルスゲームの進行 組み合わせの変更 11. ゲームの中での課題の練習 フォーメーションに合わせたプレーの練習 12. ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員で実施 13. ゲームの中での課題の練習 14. ゲームの進行 勝敗・順位の整理	
テキスト、参考文献		評価方法	
中田稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社2007		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。	

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バレーボールという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. オリエンテーション 2. ボールに慣れよう（ボール遊び） 基本技術を身に付けよう（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習） 3. いろいろな打ち方の練習 （片手パス、バックパス、サイドパス、対人レシーブ） 4. トス&スパイクの練習、スパイクレシーブの練習 5. ネットプレー（トス&スパイク&ブロックの練習 ネット際のボールの処理など） 6. サーブの練習（アンダー、フロッター、サイド、ドライブ、ジャンプサーブ） 7. サーブレシーブからのラリー 8. サーブレシーブフォーメーションを身に付ける 9. ゲーム（三段攻撃へとつなげていく） 10. ゲーム（ " ） 11. ゲーム（ " ） 12. ゲーム（作戦を立てる） 13. ゲーム（ " ） 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。	

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バレーボールという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. 基本技術の復習（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） 2. 基本プレーの復習（トス&スパイク&ブロック&スパイクレシーブ） 3. サーブの練習、サーブレシーブの練習 4. サーブレシーブからのラリー（サーブレシーブフォーメーションの確認） 5. ゲーム（三段攻撃へとつなげていく） 6. ゲーム（ " ） 7. スパイクレシーブフォーメーションを身に付ける 8. スパイクレシーブからのラリー 9. ゲーム（コンビネーションを身に付ける） 10. ゲーム（ " ） 11. ゲーム（作戦を立てる） 12. ゲーム（ " ） 13. ゲーム（ " ） 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。	

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 バレーボールの基礎的技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バレーボールというチームスポーツを通して協調性、自主性など社会性を養う。生涯スポーツとして楽しむことのできるバレーボールの魅力を知る。 〔講義概要〕 バレーボールの技術、戦術、ルールを理解し、グループごとにゲームの運営を行う。毎回ゲームを行い、その授業で行ったことの確認をする。学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなく、チーム力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 バレーボールにふさわしい服装、および体育館用のシューズで授業に参加してください。		1. オリエンテーション 2. パスの基本を身につけよう 3. パスの基本を身につけよう 4. 得意なサーブをみつけよう 5. レシーブとつなぎ 6. スパイクとレシーブ 7. ゲームの流れ（攻撃の組み立て、レシーブフォーメーション） 8. チーム分けのためのゲーム 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 バレーボールの基礎的技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バレーボールというチームスポーツを通して協調性、自主性など社会性を養う。生涯スポーツとして楽しむことのできるバレーボールの魅力を知る。 〔講義概要〕 バレーボールの技術、戦術、ルールを理解し、グループごとにゲームの運営を行う。学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなく、チーム力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 バレーボールにふさわしい服装、および体育館用のシューズで授業に参加してください。		1. オリエンテーション 2. 基本技術の確認 3. チーム戦術の確認 4. チーム分けのためのゲーム 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	坂本 将基
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 【講義概要】 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的の技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 【受講者への要望】 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。体育館用シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2. 基本技と動き（アンダー、オーバー）、パスゲーム 1。 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ）、パスゲーム 2。 4. レシーブとカバーリング （守りのフォーメーション）、パスゲーム 3。 5. 基本技と動き（アンダー フローターサーブ）サーブ レシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 1 6. 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 2。 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション、サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 8. 上記と同じ、ルールの確認、審判の役割と配置 9. ゲーム。 10. ゲーム。6 チームによるリーグ戦。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席 4 回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	坂本 将基
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 【講義概要】 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的の技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 【受講者への要望】 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。体育館用シューズを用意すること。		1. チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション）。基本技術の確認。 2. 上記と同じ。 3. サブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4. 上記と同じ。 5. スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ） 6. 上記と同じ。 7. 上記と同じ。 8. ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック）。 9. 上記と同じ。 10. ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11. 上記と同じ。 12. ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席 4 回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 〔講義概要〕 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技術を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 〔受講者への要望〕 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2. 基本技と動き（アンダー、オーバー）、パスゲーム 1。 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ）、パスゲーム 2。 4. レシーブとカバーリング （守りのフォーメーション）、パスゲーム 3。 5. 基本技と動き（アンダー フローターサーブ）サーブレシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 1 6. 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 2。 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーブレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8. ゲーム、6 チームによるリーグ戦。 9. 上記と同じ。8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。 10. 上記と同じ。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席 4 回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 〔講義概要〕 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技術を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 〔受講者への要望〕 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。		1. チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション）。 2. 上記と同じ。 3. サブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4. 上記と同じ。 5. スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ） 6. 上記と同じ。 7. 上記と同じ。 8. ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック）。 9. 上記と同じ。 10. ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11. 上記と同じ。 12. ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席 4 回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

	スポーツ・レクリエーション（フットサルa）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 顔写真1枚を貼った受講票を作成し、毎回出席を取る。 初心者から経験者まで色々な組み合わせによりチームを構成して、ゲームを行う。		第1週 ガイダンス 第2週 実技開始 第3週～第14週 色々な組み合わせによりゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（フットサルb）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 春学期からの履修者と秋学期からの履修者になるが、秋学期からの履修者は、顔写真1枚を貼った受講票の提出をしてもらう。 初心者から経験者まで色々な組み合わせによるチームを構成して、ゲームを行う。		第1週 実技とガイダンス 第2週～第13週（火曜日なので）まで 色々な組み合わせによりゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

	スポーツ・レクリエーション（フットサルa）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリは外すこと。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. ボールに親しむ 簡易ゲーム 3. ボールコントロール ボールタッチ・ドリブル 4. ボールコントロール パス 5. 1対1の攻防 6. ポジションの理解 7. GKトレーニング 8. 2対1の攻防 9. 1対2の攻防 10. ルールの理解とゲームの進め方 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。	

	スポーツ・レクリエーション（フットサルb）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリは外すこと。		1. 復習 基本技術の確認 2. 攻撃のグループ戦術 3. 守備のグループ戦術 4. セットプレーからの攻撃 5. セットプレーに対する守備 6. チームごとの練習① 7. 審判法ならびにゲーム運営 8. リーグ戦① 9. リーグ戦② 10. リーグ戦③ 11. チームごとの練習② 12. リーグ戦④ 13. リーグ戦⑤ 14. リーグ戦⑥	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。	

	スポーツ・レクリエーション（フリスビー a）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）の競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 通称フリスビーと呼ばれるフライングディスクには数多くの専門競技があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 200m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、また投げ方も一通りではありません。本授業では、この専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を吸収してきます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 〔受講者への要望〕 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツには是非挑戦してみてください。		1. イントロダクション フライングディスクとは 2. 基礎投法 技術練習（バックハンドスロー） 3. 基礎投法 技術練習（サイドアームスロー） 4. 技能記録会 遠投 アキュラシー競技(的当てゲーム) 5. 集団ゲーム アルティメット競技 導入 6. 集団ゲーム アルティメット競技 基礎 7. 集団ゲーム アルティメット競技 基礎 8. 個人競技 セルフコートフライト 9. 個人競技 ディスクゴルフ 10. 個人競技 ディスクゴルフ 11. アルティメット競技 発展 12. アルティメット競技 発展 13. 個人総合練習 14. 技能記録会 遠投 アキュラシー競技	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席、技術、理解の 3 項目で評価します。 技術については記録会の結果を加味して評価します。 理解については簡易なペーパーテストを実施します。	

	スポーツ・レクリエーション（フリスビー b）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）の競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 通称フリスビーと呼ばれるフライングディスクには数多くの専門競技があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 200m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、また投げ方も一通りではありません。本授業では、この専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を吸収してきます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 〔受講者への要望〕 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツには是非挑戦してみてください。		1. イントロダクション フライングディスクとは 2. 基礎投法 技術練習（バックハンドスロー） 3. 基礎投法 技術練習（サイドアームスロー） 4. 技能記録会 遠投 アキュラシー競技(的当てゲーム) 5. 集団ゲーム アルティメット競技 導入 6. 集団ゲーム アルティメット競技 基礎 7. 集団ゲーム アルティメット競技 基礎 8. 個人競技 セルフコートフライト 9. 個人競技 ディスクゴルフ 10. 個人競技 ディスクゴルフ 11. アルティメット競技 発展 12. アルティメット競技 発展 13. 個人総合練習 14. 技能記録会 遠投 アキュラシー競技	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席、技術、理解の 3 項目で評価します。 技術については記録会の結果を加味して評価します。 理解については簡易なペーパーテストを実施します。	

	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンス a）	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
ボールルームダンス（社交ダンス）とは、音楽にのって歩くこと。 エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることも楽しさの一つです。靴を履いていて美しく歩くことが基本です。太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。 基本は音楽にのって歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、「ダンスは難しい」という概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。男女が協力してやるのがこのボールルームダンス（社交ダンス）の特性で生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法。 ダンス靴を使用。 休まない事		①・ダンスとは ②・正しく歩く・カップルで音楽に乗って歩く 3拍子（ワルツ）で歩く（ステップ） ③・ワルツの音楽を踊る ④・ラテンのリズム・ジルバ&サンバをステップする ⑤・ブルース（4拍子）に馴染む ⑥・タンゴらしくステップすることとは？ ⑦・ラテンのリズム・ルンバ&チャチャチャ ⑧・ダンスでのマナーとパーティについて ⑨・世界のダンスを観る（武道館にて） ⑩・日本のダンスと比較 ⑪・リード・フォローについて ⑫・楽しく踊るとは ⑬・パーティを楽しく	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席を重視・VTRで自己採点	

	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンス b）	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期にボールルームダンスを受講し基礎をマスターしていること。 前学期より自然に踊ることを目的とし、楽しく誰とでも踊れるフィガー（ステップ）を身に着ける。 英国で行われているシークエンスダンス（16小節）を、姿勢を正しく保ち、楽しく・大勢の人と踊ることを学ぶ。 ラテンリズムのサルサに挑戦。 回転する事とは、そんなに難しくない。 楽しく踊りながら、コミュニケーションしよう。 休まないこととあきらめないこと。 ダンスは楽しむもの。		①・シークエンスダンスについて ②・音楽を楽しんで歩く（ダンスの基本） ③・誰とでも踊れる（ダンスの基本） ④・サルサ・マンボ・ジルバで自由に踊る ⑤・速いリズム・クイックステップ・チャチャチャ ⑥・緩やかなリズム・ブルース・スローフォックストロット（日本の演歌）・ルンバ ⑦・ワルツ・で回転する（スピントーン） ⑧・タンゴらしくステップする ⑨・一流ダンサーの踊りを観る（三笠宮杯） ⑩・季節・祭りとダンス ⑪・甘いダンス・・・ルンバ・ワルツ・ブルース ⑫・激しい表現ダンス・・・タンゴ・サンバ・ジルバ ⑬・どなたとでも楽しく踊る	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席を重視・VTRで自己採点	

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 【講義概要】 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。		1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間づくりの時間：グループゲーム 3.仲間づくりの時間：グループゲーム 4.アウトドアクッキングの計画 5.仲間づくりの時間：アウトドアクッキング 6.アウトドアレクリエーション種目 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12.アウトドアレクリエーション種目 13.アウトドアレクリエーション種目 14.合宿についてのオリエンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション (アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
夏季集中合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらか一つに参加してもらいます。 海浜型野外活動では、新潟県佐渡島を舞台にスキングダイビング、シーカヤック、蛍狩り、夜空の観察、釣り等、良好な自然環境と地域の利点を活かすプログラムを体験してもらいます。 ウィンドサーフィンでは、千葉県館山市の獨協学園海の家で、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境の特徴を知ることにより、安全で楽しく過ごすためのノウハウを知ってもらいます。 どちらの活動も自然環境を背景としますので、天候により、活動内容を変えることがあります。 内容の詳細については、スポーツ・レクリエーションのホームページをご覧ください。 【受講者への要望】 夏季集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。		【集中授業】 「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日：2009年8月下旬から4泊5日 費用：30,000円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内27,000円を自動発行機で振込、3,000円を現地で徴収） 【集中授業】 「ウィンドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日：2009年9月中旬 4泊5日 費用：18,000円（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費） （内10,000円を自動発行機で振込、8,000円を現地で徴収）	
テキスト、参考文献		評価方法	
現地でプリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 【講義概要】 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、frisbee、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。		1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間づくりの時間：グループゲーム 3.仲間づくりの時間：グループゲーム 4.仲間づくりの時間：グループゲーム 5.仲間づくりの時間：アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキング 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12.アウトドアレクリエーション種目 13. アウトドアレクリエーション種目 14.合宿についてのオリエンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
上記のアウトドアレクリエーションと組み合わせて履修していただきます。 山岳高原地域で行うアウトドアレクリエーションを夏季集中合宿で体験します。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。 皆さんには、山に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の昼食はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。これもこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。		【集中授業】「山岳型アウトドアレクリエーション」(予定) 場所：長野県志賀高原 宿泊：志賀パレスホテル 期日：2009年8月下旬 4泊5日 費用：35,000円(宿泊費、傷害保険料、プログラム費) (内、25,000円を自動発行機で振込、10,000円を現地徴収) 第1日目 横手山散策(スカイレーダーとリフト) 第2日目 池めぐりコース登山 第3日目 東館山植物園観察とバーベキュー(キャンプ場泊) 第4日目 草津白根山登山と草津温泉探訪 第5日目 前山散策と絵手紙創作鑑賞会	
テキスト、参考文献		評価方法	
現地でプリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(秋)	スポーツ・レクリエーション（スケートトレーニング）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 秋学期の毎週の授業と冬季集中授業の組み合わせですので、どちらか一つだけを受講することはできません。スケート、カーリング初心者の方から受講できます。		1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その1 5 フォアストロークとバリエーション その2 6 ホッケーにチャレンジ その1 7 ホッケーにチャレンジ その2 8 バックストロークとバリエーション その1 9 バックストロークとバリエーション その2 10 フォアクロッシング その1 11 フォアクロッシング その2 12 バッククロッシング 13 バッククロッシング 13 バッククロッシング 14 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3泊4日で合宿を行います。 アイススケートとカーリング アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進捗度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 親しい友人をつくる 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。また、宿泊地近隣に温泉があるので希望者は毎日の日程終了後利用することが可能です。		合宿について 時期： 2010年2月中旬予定 3泊4日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： 施設に近い民宿を利用 費用： 27,000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） （内、22,000 円を自動発行機で振込、5,000 円を現地徴収） 1 日目 午後： アイススケート - 靴合わせと基本的技術 - 夜： 講義「カーリングの楽しみ方」 2 日目 午前： カーリング - 道具の扱い方と基本技術 - 午後： カーリング大会 - 夜： 講義「アイススケートの基本」 3 日目 午前： アイススケート - 午後： アイススケート - 夜： 懇親会 4 日目 午前： アイススケート - 午後： 昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
現地でプリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(秋)	スポーツ・レクリエーション（バランストレーニング）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
個人のバランスをトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 授業の概要は、トランポリン、インラインスケート、バランスボール、バランスボード、インラインホッケーなどなど・・・色々な運動を行う予定である。 顔写真1枚を貼った受講票を作成する。 スノースポーツ合宿とのセット履修となっている。		第1週 ガイダンス 第2週 実技開始 第3週～第13週 トランポリン、バランスボール、バランスボード、インラインスケート、インラインホッケーなど 第14週 スノースポーツガイダンス	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
スノースポーツを通じて、滑走するスポーツを経験し、合宿を通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 アルペンスキー、スノーボード、スノーブレード、ビッグフットなどなど・・・色々なスノースポーツを行う。 受講者数により、2班または3班編成で、担当者＋指導教員1名または2名で行う。 学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 所定の費用を納入すること。 (注意) この授業のみを履修したい場合には、3棟105スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録すること。この場合の合宿ガイダンスは、別途に行う。		合宿期間：2010年2月中を予定（9月に掲示予定） 合宿場所：セントレジャー舞子スノーリゾート 宿泊場所：外谷旅館 合宿費用：29000円（交通費・レンタル代は別） （1泊3食6000円×3日＝18000円） （リフト料金4日間10000円） （保険・雑費1000円）	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies I a) English 111-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○ 現代社会、文化などに関する教材を用いて、語彙の習得・早く正確に読む力等を含む英語購読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いので、きちんと目を通し、しっかりと学習すること。 ○ TOEIC 語彙を身に着けるための統一副教材を使用する。 ○ 英語力を伸ばすために不可欠である教室外で英語に触れる機会を増やす方法として、コンピューターによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、日常的に学習すること。		授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピューター学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は各担当教員の指示にしたがうこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。		各担当教員の指示にしたがうこと。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リーディング Ib) / (Academic Reading Strategies I b) English 111-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○ 現代社会、文化などに関する教材を用いて、語彙の習得・早く正確に読む力等を含む英語購読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いので、きちんと目を通し、しっかりと学習すること。 ○ TOEIC 語彙を身に着けるための統一副教材を使用する。 ○ 英語力を伸ばすために不可欠である教室外で英語に触れる機会を増やす方法として、コンピューターによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、日常的に学習すること。		授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピューター学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は各担当教員の指示にしたがうこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。		各担当教員の指示にしたがうこと。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング I a) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○国際関係法学科・総合政策学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。この成果は、毎年、国際関係法学科・総合政策学科の1年生が TOEIC スコアを1年で大きく伸ばしていることにはっきりと表れている。 ○原則として通年で履修すること。 ○2 年次に履修する「エッセイ」につながる基礎科目として位置付けられており、英語の論理構造を学び、論理的なパラグラフが書けるように訓練する。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。		各担当者により相違がある。以下は一例である。 第 1 回 科目内容の説明および目指すスキルの説明 第 2 回 Writing about people 第 3 回 同上、Taking notes 第 4 回 同上、Paragraph format 第 5 回 同上、Mechanics 第 6 回 Narration 第 7 回 同上、Free writing 第 8 回 同上、Time order 第 9 回 同上、Mechanics 第 10 回 Description 第 11 回 同上、Clustering 第 12 回 同上、Spatial order 第 13 回 同上、Spatial order 第 14 回 春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング I b) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○国際関係法学科・総合政策学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。この成果は、毎年、国際関係法学科・総合政策学科の1年生が TOEIC スコアを1年で大きく伸ばしていることにはっきりと表れている。 ○春学期から引き続き、原則として通年で履修すること。 ○2 年次に履修する「エッセイ」につながる基礎科目として位置付けられており、英語の論理構造を学び、論理的なパラグラフが書けるように訓練する。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。		各担当者により相違がある。以下は一例である。 第 1 回 秋学期の目標・授業内容の説明 第 2 回 Description (review) 第 3 回 同上、Mechanics 第 4 回 Paragraph organization 第 5 回 同上、Brainstorming 第 6 回 同上、Parts of a paragraph 第 7 回 同上、Topic sentence, supporting sentences 第 8 回 同上、Concluding sentence 第 9 回 More about paragraph organization 第 10 回 同上、Unity and coherence 第 11 回 同上、Transitional expressions 第 12 回 同上、Mechanics 第 13 回 同上、Mechanics 第 14 回 秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。	

08 年度以降（春）	English（スピーキング I a）/ (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○この授業は、経済学部（経済学科、経営学科）の1年次でのクラス指定科目となっており、経済学部の学生全員が履修します。この授業では以下のことを目指しています。 ・英語を話すときに自信を持って取り組めるようになる。 ・大学という場で英語を使って会話するときに知っておくべきスキル（技術）を身に付ける。 ○この授業は春、秋の通年で履修してください。 ○この授業を1年間受講することで、次のようなことができるようになることを目指します。 ・自分について自信を持って話すことができ、友達に質問することができる。 ・身近なトピックについて、3-5 分間会話を続けることができる。 ・会話の相手に上手に対応することができる（合意する、反対する、詳しく話を聞く、質問するなど）。 ・英語が思い浮かばないときに、それに近い表現で代用することができる。 ・相手の言っていることがわからないときにきちんと確かめることができる。 ○これらは大学1年生で身に付ける大切な技術です。積極的に取り組んでください。楽しい授業になるでしょう。		Week 1 Course Orientation Week 2 Unit 1: Self-Introductions / Hints: Opener's, Closers, Let Your Friend Talk, Ask to Hear It Again Week 3 Unit 1: Self-Introductions / Listen Up! / Timed Conversations Week 4 Unit 2: Family / Hints: Shadowing, Getting Time to Think When You Begin Talking Week 5 Unit 2: Family / Listen Up! / Timed Conversations Week 6 Unit 3: Sports / Hints: Showing Interest, Showing You're Listening, Summarizing Comments Week 7 Unit 3: Sports / Listen Up! / Timed Conversations Week 8 Review Units 1~3 Week 9 Unit 4: Food / Hints: Agreeing, Disagreeing, Showing Indifference Week 10 Unit 4: Food / Listen Up! / Timed Conversations Week 11 Unit 5: Part-time Jobs / Hints: Reacting to Good News, Reacting to Bad News, Showing Surprise Week 12 Unit 5: Part-time Jobs / Listen Up! / Timed Conversations Week 13 Review Units 1~5 Week 14 Conversation Evaluations 2週間に1回、語彙テストがあり、また、試験週間中には、筆記テストがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Nice Talking with You (Macmillan) 共通教科書です。全員が同じ教科書を使用します。		1. Class Participation（積極的な参加）：20% 2. Homework（宿題）：30% 3. Vocab Quizzes（語彙テスト）：30% 4. Semester Test（期末筆記テスト）：20%	

08 年度以降（秋）	English（スピーキング I b）/ (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○この授業は、経済学部（経済学科、経営学科）の1年次でのクラス指定科目となっており、経済学部の学生全員が履修します。この授業では以下のことを目指しています。 ・英語を話すときに自信を持って取り組めるようになる。 ・大学という場で英語を使って会話するときに知っておくべきスキル（技術）を身に付ける。 ○この授業は春、秋の通年で履修してください。 ○この授業を1年間受講することで、次のようなことができるようになることを目指します。 ・自分について自信を持って話すことができ、友達に質問することができる。 ・身近なトピックについて、3-5 分間会話を続けることができる。 ・会話の相手に上手に対応することができる（合意する、反対する、詳しく話を聞く、質問するなど）。 ・英語が思い浮かばないときに、それに近い表現で代用することができる。 ・相手の言っていることがわからないときにきちんと確かめることができる。 ○これらは大学1年生で身に付ける大切な技術です。積極的に取り組んでください。楽しい授業になるでしょう。		Week 1 Fall Orientation / Semester 1 Review Week 2 Unit 6: Friends / Hints: Starting Conversations, Changing the Topic, Letting Your Partner Raise a Topic Week 3 Unit 6: Friends / Listen Up! / Timed Conversations Week 4 Unit 7: School / Hints: Asking for Explanations, Beginning Explanations, Checking/ Showing Understanding Week 5 Unit 7: School / Listen Up! / Timed Conversations Week 6 Unit 8: Music / Hints: Checking What Your Partner Knows, Asking for Examples Week 7 Unit 8: Music / Listen Up! / Timed Conversations Week 8 Review Units 1~3 Week 9 Unit 9: Dating / Hints: Showing You're Thinking of a Word, Keeping the Conversation Moving Week 10 Unit 9: Dating / Listen Up! / Timed Conversations Week 11 Unit 10: Travel / Hints: Asking for More Information, Getting Back to the Topic Week 12 Unit 10: Travel / Listen Up! / Timed Conversations Week 13 Review Units 1~5 Week 14 Conversation Evaluations 2週間に1回、語彙テストがあり、また、試験週間中には、筆記テストがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Nice Talking with You (Macmillan) 共通教科書です。全員が同じ教科書を使用します。		1. Class Participation（積極的な参加）：20% 2. Homework（宿題）：30% 3. Vocab Quizzes（語彙テスト）：30% 4. Semester Test（期末筆記テスト）：20%	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (リスニング I a) / (Academic Listening Strategies Ia) English 141-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した基礎英語の知識を、大学での研究や仕事で必要とされる実践的なリスニング能力に発展させる訓練をする授業です。(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、英語は世界の共通語となっていることから、ネイティブの英語だけでなく、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。さらに、オンラインやポッドキャストを利用したリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。リスニングを支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。		Class 1 Course introduction/Unit 1: Pleased to meet you Class 2 Unit 1: Pleased to meet you Class 3 Unit 1 Test /Unit 2: What's new? Class 4 Unit 2: What's new? Class 5 Unit 2 Test/Unit 3: Where can I catch a taxi? Class 6 Unit 3: Where can I catch a taxi? Class 7 Unit 3 Test/Unit 4: I need to reschedule Class 8 Unit 4: I need to reschedule Class 9 Unit 4 Test/Unit 5: Do you have a hobby? Class 10 Unit 5: Do you have a hobby? Class 11 Unit 5 Test/Unit 6: You need a passport Class 12 Unit 6: You need a passport Class 13 Unit 6 Test/Review Unit 1-6 Class 14 Review TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Beatty, K & Tinkler, P. (2008). <i>Sounds Good Student Book 2</i> . Pearson Longman. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加度 20% ユニットテスト 30% (5% x 6 回) 課題 10% 統一期末試験 40%	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (リスニング I b) / (Academic Listening Strategies Ib) English 141-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、基礎英語の知識を、専門分野研究や仕事で必要とされる実践的なリスニング能力に発展させる訓練をします。(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、英語は世界の共通語となっていることから、ネイティブの英語だけでなく、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。さらに、オンラインやポッドキャストを利用したリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。リスニングを支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。		Class 1 Course introduction/Unit 7: May I see the menu? Class 2 Unit 7: May I see the menu? Class 3 Unit 7 Test /Unit 8: Does it hurt? Class 4 Unit 8: Does it hurt? Class 5 Unit 8 Test/Unit 9: How much is this watch? Class 6 Unit 9: How much is this watch? Class 7 Unit 9 Test/Unit 10: What does it do? Class 8 Unit 10: What does it do? Class 9 Unit 10 Test/Unit 11: Who won the match? Class 10 Unit 11: Who won the match? Class 11 Unit 11 Test/Unit 12: You're very energetic Class 12 Unit 12: You're very energetic Class 13 Unit 12 Test/Review Unit 7-12 Class 14 Review TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Beatty, K & Tinkler, P. (2008). <i>Sounds Good Student Book 2</i> . Pearson Longman. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% ユニットテスト 30% (5% x 6 回) 統一期末試験 40% 課題 10% (経済学部のクラスは、担当教員の指示に従うこと)	

08 年度以降（春）	English（リスニング I a）/ (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した、日常会話を理解するリスニング能力を発展させ、大学での専門的な学びや仕事に必要とされるより高度なリスニング能力の基礎を養うことを目的とします。特にリスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、聴解を支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。さらに、TOEICの聴解問題練習を部分的に取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。		Week 1 Course Introduction Week 2 Chapter 1: Part 2 Social Language Week 3 Chapter 1: Part 3 & Part 4 Broadcast English Week 4 Chapter 1: Part 5 Academic English Week 5 Review/Chapter 1 Test Week 6 Chapter 2: Part 2 Social Language Week 7 Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 8 Chapter 2: Part 5 Academic English Week 9 Review/Chapter 2 Test Week 10 Chapter 3: Part 2 Social Language Week 11 Chapter 3: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 12 Chapter 3: Part 4 Broadcast English Week 13 Review/Chapter 3 Test Week 14 Review/TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blass L. & P. Hartmann. (2007). <i>Quest Intro: Listening & Speaking</i>. McGraw-Hill. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% チャプターテスト 30% (10% x 3 回) 課題 10% 統一期末試験 40%	

08 年度以降（秋）	English（リスニング I b）/ (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、大学での専門的な学びや仕事に必要とされる、より高度なリスニング能力の基礎を養うことを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、聴解を支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。さらに、TOEICの聴解問題練習を部分的に取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。		Week 1 Course Introduction Chapter 4: Part 2 Social Language Week 2 Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 3 Chapter 4: Part 5 Academic English Week 4 Review/ Chapter 4 Test Week 5 Chapter 5: Part 2 Social Language Week 6 Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 7 Chapter 5: Part 5 Academic English Week 8 Review/Chapter 5 Test Week 9 Chapter 6: Part 2 Social Language Week 10 Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 11 Chapter 6: Part 4 Broadcast English Week 12 Chapter 6: Part 5 Academic English Week 13 Review/Chapter 6 Test Week 14 Review/TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blass L. & P. Hartmann. (2007). <i>Quest Intro: Listening & Speaking</i>. McGraw-Hill. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% チャプターテスト 30% (10% x 3 回) 統一期末試験 40% 課題 10% （経済学部のクラスは、担当教員の指示に従うこと）	

08 年度以降（春）	English（リスニング I a）/ (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	J. ラシーン M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Course goals</u> This course aims to go beyond daily conversation skills to build students' confidence and ability to communicate in academic situations in English. Students will listen to challenging texts such as news broadcasts and lectures, and learn how to paraphrase and take effective notes. Students will also learn academic skills such as how to make effective presentations and how to lead and participate in discussions. Level 5 classes are intended to be challenging classes. Students are expected to actively participate in class, and to study hard outside of class. <u>Minimum skill objectives</u> By the end of this course, students should be able to: - Identify the main points (e.g. Who? What? Where? When? Why?) in appropriate listening texts - Guess the meaning of unknown words when listening - Paraphrase what they hear - Outline the main ideas of a listening text in writing (note-taking) - Be able to express and support their ideas effectively in a presentation and/or discussion.		Possible schedule could be: Classes 1-2 - Listening for main points and details in authentic or near-authentic texts Classes 2-3 - Dictation, dictogloss, cloze, jigsaw listening, paraphrasing, shadowing Classes 4-5 - Note-taking/outlining activities Classes 6-7 - TOEIC-style exercises Classes 8-11 - Individual/group presentations Classes 12-13 - Discussion tasks Class 14 - Wrap-up and self evaluation （変更の可能性があります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する		初回の授業で説明する	

08 年度以降（秋）	English（リスニング I b）/ (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	J. ラシーン M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Course goals</u> This course aims to go beyond daily conversation skills to build students' confidence and ability to communicate in academic situations in English. Students will listen to challenging texts such as news broadcasts and lectures, and learn how to paraphrase and take effective notes. Students will also learn academic skills such as how to make effective presentations and how to lead and participate in discussions. Level 5 classes are intended to be challenging classes. Students are expected to actively participate in class, and to study hard outside of class. <u>Minimum skill objectives</u> By the end of this course, students should be able to: - Identify the main points (e.g. Who? What? Where? When? Why?) in appropriate listening texts - Guess the meaning of unknown words when listening - Paraphrase what they hear - Outline the main ideas of a listening text in writing (note-taking) - Be able to express and support their ideas effectively in a presentation and/or discussion.		Possible schedule could be: Classes 1-2 - Listening for main points and details in authentic or near-authentic texts Classes 2-3 - Dictation, dictogloss, cloze, jigsaw listening, paraphrasing, shadowing Classes 4-5 - Note-taking/outlining activities Classes 6-7 - TOEIC-style exercises Classes 8-11 - Individual/group presentations Classes 12-13 - Discussion tasks Class 14 - Wrap-up and self evaluation Other possible activities are: - Out-of-class listening projects - Research projects using online or library resources - Videotaping presentations/discussions for analysis and self-evaluation （変更の可能性があります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する		初回の授業で説明する	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(リーディングⅡa) / (Academic Reading StrategiesⅡa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○全カリ英語では、高等学校から大学英語へ、さらに専門英語への橋渡しをすることを使命として、1 年次での講読科目である English (リーディングⅠ) を重要なコア科目と位置付けているが、この English (リーディングⅡ) はさらにその上位科目であり、原則として2 年次で履修すること。原則として通年で履修すること。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○EnglishⅠのレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。 ○年度末(1 月)に、全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習を進めて行く。		授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。以下は一例である。 Class 1 授業目標、スキルの説明 Unit 1 School Uniforms Class 2 同上、Discussion about the topic Class 3 Unit 2 Courage and the News Class 4 同上、Discussion about the topic Class 5 Unit 3 Fighting Terrorism Class 6 同上、Doing Internet research about the topic Class 7 Unit 5 A Helping Hand Class 8 同上、Discussion about the topic Class 9 Unit 7 Me, Myself and I Class 10 同上、Discussion about the topic Class 11 Writing for poster presentation Class 12 Poster presentation discussion Class 13 Poster presentation Class 14 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		Attendance / active participation / preparation TOEIC Vocab Quiz Assignments / Project Final Exam などを基に評価する	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(リーディングⅡb) / (Academic Reading StrategiesⅡb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○高等学校から大学英語へ、さらに専門英語への橋渡しをすることを目標とする。 ○原則として2 年次で通年で履修であり、本科目は秋学期に履修すること。積極的に取り組んでもらいたい。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。 ○年度末(1 月)に、全員 TOEIC 試験を受験するので、1 年次より必ずスコアがアップするよう、計画的に学習を進めて行く。		授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。以下は一例である。 Class 1 授業目標、スキルの説明 Unit 9 21st Century Movies Class 2 同上、Doing Internet research about the topic Class 3 Unit 10 Music on the Radio Class 4 同上、Discussion about the topic Class 5 Unit 12 The War on Drugs Class 6 同上、Doing Internet research about the topic Class 7 同上、Writing your opinion about the topic Class 8 Unit 4 When is a Company too Big? Class 9 同上、Doing Internet research about the topic Class 10 Unit 6 Dropping the SAT Class 11 同上、Discussion about the topic, Comparison with the situation in Japan Class 12 同上、Writing your opinion about the topic Class 13 Presenting your opinion in a small group Class 14 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。 各教員指定の教科書の他に、共通の副読本として、5-Minute Quizzes for the TOEIC Test を使用する。		Attendance / active participation / preparation TOEIC Vocab Quiz Assignments / Project Final Exam などを基に評価する	

08 年度以降（春）	English(リーディングⅡa) /(Academic Reading StrategiesⅡa)	担当者	高田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
○この English（リーディングⅡ）の授業は、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）・経済学部・法学部の2年次の学生を対象としている。1年終了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行う。各学部の必修科目の時間帯を避けるために5限目という時間帯に入っているが、このクラスに該当した学生はぜひ、履修してもらいたい。 ○原則として通年で履修すること。 ○English（リーディングⅠ）に引き続き、読解力をさらにアップさせるための科目である。専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行う。補助題材は主に、新聞・雑誌などの記事を用いる予定である。 ○3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつけてもらいたい。 ○効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようになってもらいたい。 ○毎週授業のはじめに TOEIC の Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。		Tentative schedule of the Spring Term Class 1 授業内容、目標などの説明 Unit 1 The Millennial Generation Class 2 同上 Class 3 Unit 2 Cultural Encounters Class 4 同上 Class 5 Unit 3 Consumer Lifestyle Class 6 同上 Class 7 Unit 4 Aging Class 8 同上 Class 9 Unit 5 Youth in Action Class 10 同上 Class 11 Unit 6 Music Class 12 同上 Class 13 Discussion & Reflection Class 14 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者の指示に従うこと		Attendance / active participation / preparation TOEIC Voc Quizzes Assignments & In-class Quizzes Final Exam 以上に基づき評価する	

08 年度以降（秋）	English(リーディングⅡb) /(Academic Reading StrategiesⅡb)	担当者	高田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
○春の授業の継続として、更なる語彙力、文法力をつけ、大学生にふさわしい総合的な英語運用力を身につけてもらうことを目標とする。 ○専攻が異なる学生が教室にいることのメリットを生かし、学生が意見を出し合うことのできる教材で多読・速読・精読の訓練を行う。 ○3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつけてもらいたい。 ○効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようになってもらいたい。 ○1 月に実施される TOEIC® でより高い得点をとることを目標の1つにしていきたい。 ○予習・復習の量も多く、大変な授業ではあるが、さらなる実力アップのために頑張ってもらいたい。 ○毎週授業のはじめに TOEIC の Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。		Tentative schedule of the Fall Term Class 1 Unit 7 Value of Work Class 2 同上 Class 3 Unit 8 Inequality Class 4 同上 Class 5 Unit 9 Wisdom Class 6 同上 Class 7 Unit 10 Culture and Change Class 8 同上 Class 9 Unit 11 Managing Nature Class 10 同上 Class 11 Unit 12 The Final Frontier Class 12 同上 Class 13 Discussion & Reflection Class 14 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者の指示に従うこと 教員指定の教科書の他に、共通の副読本として、5-Minute Quizzes for the TOEIC Test を使用する。		Attendance / active participation / preparation TOEIC Voc Quizzes Assignments & In-class Quizzes Final Exam 以上に基づき評価する	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(ライティング II a) / (Academic Writing II a: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○国際関係法学科・総合政策学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定し、成果をあげている。本科目は1年次履修の English (ライティング I) の上位科目である。原則として通年で履修すること。 ○English (ライティング I) ではパラグラフライティングを学んだが、ここではさらにそれを進歩させて、まとまった1つのエッセイを書くための基礎を学ぶ。国際関係法学科・総合政策学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。		各担当者により相違がある。<u>以下は一例である。</u> 第1回 科目内容の説明および目指すスキルの説明 第2回 Essay organization 第3回 同上、Brainstorming 第4回 同上、Introduction, Body, Conclusion 第5回 同上、Mechanics 第6回 Logical division of ideas 第7回 同上、Grouping ideas logically 第8回 同上、Using examples for support 第9回 同上、Mechanics 第10回 Supporting an opinion 第11回 同上、Reading and forming an opinion 第12回 同上、Opinion essay 第13回 同上、Opinion essay 第14回 春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(ライティング II b) / (Academic Writing II b: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○国際関係法学科・総合政策学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定し、成果をあげている。本科目は1年次履修の English (ライティング I) の上位科目である。原則として通年で履修すること。本科目は秋学期の開講であり、原則として、春学期に身につけたスキルをさらに伸ばすことを目指している。 ○まとまった1つのエッセイを英語で書くための基礎的な技術を学ぶ。国際関係法学科・総合政策学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。		各担当者により相違がある。<u>以下は一例である。</u> 第1回 秋学期の目標・授業内容の説明 第2回 Supporting and opinion (review) 第3回 同上、Mechanics 第4回 Comparison and contrast 第5回 同上、Interviewing 第6回 同上、Organization 第7回 同上、Block organization 第8回 同上、Thesis statements 第9回 同上、Concluding paragraphs 第10回 Exercise 1: Gender differences 第11回 Exercise 2: Alaska or Hawaii? 第12回 Exercise 3: Educational systems 第13回 Exercise 4: Climate change 第14回 秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リスニング II a)/(Academic Listening Strategies II a) English 241-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○全カリ英語では、1 年次で履修する Academic Listening Strategies I (ALS I) をひとつのコア科目と位置付けているが、この Academic Listening Strategies II はさらにその上位科目である。 ○原則として通年で履修すること。 ○TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。日常生活、また大学生活において重要なトピックのリスニングを通して、スキルを身につけていく。 ○リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、ALS I の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。		各担当者により相違がある。<u>以下は一例である。</u> 第 1 回 科目内容の説明および目指すスキルの説明 第 2 回 topic: Smoking (skill: predicting) 第 3 回 同上 第 4 回 topic: Drinking (skill: taking notes) 第 5 回 同上 第 6 回 topic: Shopping (skill: reasoning) 第 7 回 同上 第 8 回 topic: Eating (skill: clarifying) 第 9 回 同上 第 10 回 topic: Violence (skill: predicting) 第 11 回 同上 第 12 回 topic: Racism (skill: comparing) 第 13 回 同上 第 14 回 春学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リスニング II b)/(Academic Listening Strategies II b) English 241-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○全カリ英語では、1 年次で履修する Academic Listening Strategies I (ALS I) をひとつのコア科目と位置付けているが、この Academic Listening Strategies II はさらにその上位科目である。 ○春学期から引き続いて履修すること。 ○TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。日常生活、また大学生活において重要なトピックのリスニングを通して、スキルを身につけていく。 ○リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、ALS I の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。		各担当者により相違がある。<u>以下は一例である。</u> 第 1 回 秋学期の説明および目指すスキルの説明 第 2 回 topic: Racism 第 3 回 topic: Generations (skill: making hypotheses) 第 4 回 同上 第 5 回 topic: Marriage (skill: comparing) 第 6 回 同上 第 7 回 topic: Gun control (skill: having an opinion) 第 8 回 同上 第 9 回 topic: Family (skill: summarizing) 第 10 回 同上 第 11 回 topic: Discrimination (skill: having an opinion) 第 12 回 同上 第 13 回 topic: My college life (skill: demonstration) 第 14 回 秋学期のまとめ 具体的な授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストをもとに評価を決定する。	

08 年度以降（春）	English(リスニングⅡa)/(Academic Listening StrategiesⅡa)	担当者	M. クロフォード J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course you will build basic academic speaking and listening skills while also improving basic communicative skills such as daily conversation skills. Listening Skills We will use a variety of listening texts to practice listening strategies and to improve listening skills. You will learn how to be a better listener, how to paraphrase what you hear and how to take effective notes. The listening texts will increase in length, difficulty and topic. You will also do out-of-class listening projects so that you can continue to build listening skills on your own. Speaking Skills In each lesson, we will spend time practicing both daily conversation skills and more academic skills such as discussion and presentation skills. Some of your conversations, discussions and presentations will be recorded on video so that you can watch them and reflect on your own and your classmates' good points and areas to improve. After watching videos of your own and your classmates' presentations, etc you will write short reflective reports.		Lesson 1: Course Explanation Lessons 2-6: Topic 1 Lesson 7: Speaking Task 1 Lessons 8-11: Topic 2 Lesson 12-13: Speaking Task 2 Lesson 14: Wrap up and Course evaluation (上記の予定は変更があるかもしれません)	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が 1 回目の授業で説明します		20% Attendance, Participation and Homework 30% Quizzes 30% Speaking Tasks (and Reflective Reports) 20% Listening Projects (変更があるかもしれません)	

08 年度以降（秋）	English(リスニングⅡb)/(Academic Listening StrategiesⅡb)	担当者	M. クロフォード J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course you will build basic academic speaking and listening skills while also improving basic communicative skills such as daily conversation skills. Listening Skills We will use a variety of listening texts to practice listening strategies and to improve listening skills. You will learn how to be a better listener, how to paraphrase what you hear and how to take effective notes. The listening texts will increase in length, difficulty and topic. You will also do out-of-class listening projects so that you can continue to build listening skills on your own. Speaking Skills In each lesson, we will spend time practicing both daily conversation skills and more academic skills such as discussion and presentation skills. Some of your conversations, discussions and presentations will be recorded on video so that you can watch them and reflect on your own and your classmates' good points and areas to improve. After watching videos of your own and your classmates' presentations, etc you will write short reflective reports.		Lesson 1: Course Explanation Lessons 2-6: Topic 1 Lesson 7: Speaking Task 1 Lessons 8-11: Topic 2 Lesson 12-13: Speaking Task 2 Lesson 14: Wrap up and Course evaluation (上記の予定は変更があるかもしれません)	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が 1 回目の授業で説明します		20% Attendance, Participation and Homework 30% Quizzes 30% Speaking Tasks (and Reflective Reports) 20% Listening Projects (変更があるかもしれません)	

07 年度以前（春）	English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ドイツ語・フランス語両学科の学生の皆さんにとっては、それぞれの専攻言語と英語をともに学ぶことで、専攻言語の特色と英語の特色の相違点がよくわかってきたことと思う。English 111/112 とその上位科目である 211/212 を履修し、さらにその上位科目である 311 に積極的に取り組み、英語の読解力に磨きをかけてもらいたい。 ○このコースの特色は、読む内容に重点を置き、独仏学科の学生のニーズに合ったスキル習得を目指す。 ○原則として通年で履修すること。 ○このクラスを履修することで次のようなことができるようになります。 ・Preview a text and predict what it is about ・Skim to get the gist of a text ・Scan for specific information ・Identify topics and main ideas in a text ・Use vocabulary strategies to guess unknown words ・Recognize typical paragraph structure ・Identify patterns of text organization ○3 年生でしっかりと英語を学習することは、4 年生に向けて、また就職活動のためにも重要であり、専門の言語の学習が忙しくても、ぜひ英語の学習も続けてもらいたい。		春学期 14 回の授業計画については、各担当者が採択した教科書に基づき、個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従ってください。		各担当教員から説明があります。	

07 年度以前（秋）	English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ドイツ語・フランス語両学科の学生の皆さんにとっては、それぞれの専攻言語と英語をともに学ぶことで、専攻言語の特色と英語の特色の相違点がよくわかってきたことと思う。English 111/112 とその上位科目である 211/212 を履修し、さらにその上位科目である 311 に積極的に取り組み、英語の読解力に磨きをかけてもらいたい。 ○このコースの特色は、読む内容に重点を置き、独仏学科の学生のニーズに合ったスキル習得を目指す。 ○春学期に続いて通年で積極的に履修してもらいたい。 ○このクラスを履修することで次のようなことができるようになります。 ・Preview a text and predict what it is about ・Skim to get the gist of a text ・Scan for specific information ・Identify topics and main ideas in a text ・Use vocabulary strategies to guess unknown words ・Recognize typical paragraph structure ・Identify patterns of text organization ○3 年生でしっかりと英語を学習することは、4 年生に向けて、また就職活動のためにも重要であり、専門の言語の学習が忙しくても、ぜひ英語の学習も続けてもらいたい。		秋学期 14 回の授業計画については、各担当者が採択した教科書に基づき、個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示に従ってください。		各担当教員から説明があります。	

07 年度以前（春）	English 311-a English for Specific Purposes (Super)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語学科3年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2年終了時のTOEIC点数の高かった学生を対象に、学科の枠を取り払った授業を行い、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。English 111/112, 211/212 (Reading Strategies) で習得した、正確で効果的な読みを支える読解ストラテジーをさらに応用練習し、分野やテーマ特有の文章構成の理解、語彙の強化、論拠分析、論点に対する意見の発表を含む、より高いレベルでの英語力の訓練を行います。新聞・雑誌記事や学術的文章のリーディングを中心に、リスニング、スピーキング、ライティングを統合し、グループディスカッションや発表などの授業活動を行います。授業活動はすべて英語で行います。		第1回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは第1回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。		出席・参加 30% 課題 30% 期末試験 40%	

07 年度以前（秋）	English 311-b English for Specific Purposes (Super)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語学科3年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2年終了時のTOEIC点数の高かった学生を対象に、学科の枠を取り払った授業を行い、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。春学期に引き続き、分野やテーマ特有の文章構成の理解、語彙の強化、論拠分析、論点に対する意見の発表を含む、より高いレベルでの英語力の訓練を行います。新聞・雑誌記事や学術的文章のリーディングを中心に、リスニング、スピーキング、ライティングを統合し、グループディスカッションや発表などの授業活動を行います。授業活動はすべて英語で行います。		第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは第1回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。		出席・参加 30% 課題 30% 期末試験 40%	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (留学生Ia) / (Basic English Skills for International Students Ia) English 110-a Introductory Reading Strategies	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
英語初習の留学生（経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科）が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。 総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。 基礎力定着のために、毎週授業外での宿題がありますので、必ず取り組んでください。		Week 1 オリエンテーション Week 2-13 Unit 1-3（第 1 回目の授業で詳細を発表する） Week 14 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Saslow, J. and Ascher, A. (2006). <i>Top Notch Fundamentals A</i> Peason Longman		出席・授業参加・宿題 20% テスト 30% 課題 20% 統一期末試験 30%	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (留学生Ib) / (Basic English Skills for International Students Ib) English 110-b Introductory Reading Strategies	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
英語初習の留学生（経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科）が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。 春学期に引き続き、総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。 基礎力定着のために、毎週授業外での宿題がありますので、必ず取り組んでください。		Week 1 オリエンテーション Week 2-13 Unit 4-7（第 1 回目の授業で詳細を発表する） Week 14 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Saslow, J. and Ascher, A. (2006). <i>Top Notch Fundamentals A</i> Peason Longman		出席・授業参加・宿題 20% テスト 30% 課題 20% 期末試験 30%	

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English（留学生 II a） /(Basic English Skills for International Students II a) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
○この科目は、大学入学以前にほとんど英語を学んでいない留学生を対象とし、English（留学生 I a,b）またはEnglish 110-a, bを履修した者がさらに英語学習を続けるための上位科目として設定されている。 ○原則として通年で履修する。 ○それぞれの力に合った学習内容により、力をつけることを目標とする。 ○リーディングを中心とするが、文法の演習、語彙指導、スピーキング、プレゼンテーションなど、いろいろなアプローチで英語に触れることを通して英語に慣れ、学習を深める。また、ポスターやパワーポイントを使って自分の意見を発表する方法を学ぶ。 ○積極的な姿勢で臨むこと。また、スキル科目であるので、出席を重視する。		以下は教科書の配当であるが、これ以外に、文法演習、語彙練習、読解練習を行う。この資料は担当者が用意する。 第1回～第4回 プレゼンテーションとは何でしょう？ 簡単なプレゼンテーションをしてみましょう。 Informative Presentationとは？ 第5回～第10回 Mobile Phones -- Are they Dangerous? 英文を読み、内容を把握する 把握した内容を表にまとめる まとめた表を、よりプレゼンテーションに近い形に直す エッセイのアウトラインを書く 第10回～第14回 手軽で効果的なポスターの作り方を学ぶ。 パワーポイントを用いたスライド（ショー）の作り方を学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「リーディングから始めるプレゼンテーション入門」 アルク教育社 その他の資料は担当者が準備する		出席、積極的な参加、課題、小テスト、期末テストを基に評価する。	

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English（留学生 II b） /(Basic English Skills for International Students II b) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
○この科目は、大学入学以前にほとんど英語を学ばない留学生を対象とし、English（留学生 I a,b）またはEnglish 110-a, bを履修した者がさらに英語学習を続けるための上位科目として設定されている。 ○原則として通年で履修する。 ○それぞれの力に合った学習内容により、力をつけることを目標とする。 ○リーディングを中心とするが、文法の演習、語彙指導、スピーキング、プレゼンテーションなど、いろいろなアプローチで英語に触れることを通して英語に慣れ、学習を深める。また、ポスターやパワーポイントを使って自分の意見を発表する方法を学ぶ。 ○積極的な姿勢で臨むこと。また、スキル科目であるので、出席を重視する。		以下は教科書の配当であるが、これ以外に、文法演習、語彙練習、読解練習を行う。この資料は担当者が用意する。 第1回～第6回 Environmental Issues --- Climate Change 英文を読み、内容を把握する 把握した内容を表にまとめる まとめた表を、よりプレゼンテーションに近い形に直す エッセイのアウトラインを書く 第7回～第10回 プレゼンテーション原稿の基本構成と重要表現 プレゼンテーション原稿を書く 上手に発表するための技術と実践練習 第11回～第14回 プレゼンテーションを行う 自己評価の仕方 peer 評価の仕方	
テキスト、参考文献		評価方法	
「リーディングから始めるプレゼンテーション入門」 アルク教育社 その他の資料は担当者が準備する		出席、積極的な参加、課題、小テスト、プレゼンテーション、期末テストを基に評価する。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング I a) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	堀 いづみ
講義目的、講義概要		授業計画	
英文を書く基礎作りをします。「基礎」なので、エッセイを書く前の段階の授業です。 したがって、エッセイ用の教科書を使用しながらも、そこに書いてある文の作り方、文と文の関係、パラグラフの構造パターンを「分析し、それを覚える」という形で授業を進めていきます。さらに、覚えた後に小テストを行いながら、身につけたことの確認もしていく予定です。		1. 導入 2. Conclusions/ Reasons について 3. Conclusions/ Reasons について 4. Analysis について 5. Analysis について 6. Theory/ Proof について 7. Theory/ Proof について 8. Controversy について 9. Controversy について 10. Comparison/ Contrast について 11. Comparison/ Contrast について 12. Classification について 13. Classification について 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Skills for Better Writing</i> （石谷由美子、Emma Andrews 著）南雲堂		「授業参加度（出席率、小テストの結果を含む）」と、「期末定期試験の結果」を総合的に評価します。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング I b) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	堀 いづみ
講義目的、講義概要		授業計画	
English (ライティング I a) に続いて、英文を書く基礎作りをします。 文の作り方、文と文の関係、パラグラフの構造パターンの分析と暗記をしながら、英語で自分の考えを表現するために必要な力を伸ばすという形で授業を進めていきます。		1. 導入 2. Instruction について 3. Instruction について 4. Chronological Order について 5. Chronological Order について 6. Cause and Effect について 7. Cause and Effect について 8. Process について 9. Process について 10. Explanation について 11. Explanation について 12. Definition について 13. Definition について 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Skills for Better Writing</i> （石谷由美子、Emma Andrews 著）南雲堂		「授業参加度（出席率、小テストの結果を含む）」と、「期末定期試験の結果」を総合的に評価します。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	福田 哲哉																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
講義の目的 本講座は、自分の考えを英語で表現するための基礎力を養成することを目的とします。春学期における到達目標は、英語による人物の紹介です。 講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。単語のスペルや文法が合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師がチェックをします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、チェックを受け、さらに自己添削をするというサイクルを繰り返して、英作文力をつけましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。春学期のテーマは「英語で人物を紹介する」です。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。		<table><thead><tr><th>テーマ</th><th>その他の活動</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 授業ガイダンス</td><td>作文「英語による自己紹介」</td></tr><tr><td>2. 人物紹介 (1)</td><td>講師のプレゼンテーション例</td></tr><tr><td>3. 人物紹介 (2)</td><td>作文「ジャーナル」</td></tr><tr><td>4. 人物紹介 (3)</td><td>プレゼンテーションの模範例</td></tr><tr><td>5. 人物紹介 (4)</td><td>作文「私の家族」</td></tr><tr><td>6. 列挙の方法 (1)</td><td>パワーポイントの使い方</td></tr><tr><td>7. 列挙の方法 (2)</td><td>作文「仕事の紹介」</td></tr><tr><td>8. 列挙の方法 (3)</td><td>グループディスカッション</td></tr><tr><td>9. 列挙の方法 (4)</td><td>作文「大学生活」</td></tr><tr><td>10. 場所の描写 (1)</td><td>グループでの相互チェック</td></tr><tr><td>11. 場所の描写 (2)</td><td>作文「私の好きな場所」</td></tr><tr><td>12. 場所の描写 (3)</td><td>ハンドアウト製作</td></tr><tr><td>13. 場所の描写 (4)</td><td>リハーサル</td></tr><tr><td>14. プレゼンテーション・デイ</td><td></td></tr></tbody></table> 以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。		テーマ	その他の活動	1. 授業ガイダンス	作文「英語による自己紹介」	2. 人物紹介 (1)	講師のプレゼンテーション例	3. 人物紹介 (2)	作文「ジャーナル」	4. 人物紹介 (3)	プレゼンテーションの模範例	5. 人物紹介 (4)	作文「私の家族」	6. 列挙の方法 (1)	パワーポイントの使い方	7. 列挙の方法 (2)	作文「仕事の紹介」	8. 列挙の方法 (3)	グループディスカッション	9. 列挙の方法 (4)	作文「大学生活」	10. 場所の描写 (1)	グループでの相互チェック	11. 場所の描写 (2)	作文「私の好きな場所」	12. 場所の描写 (3)	ハンドアウト製作	13. 場所の描写 (4)	リハーサル	14. プレゼンテーション・デイ	
テーマ	その他の活動																																
1. 授業ガイダンス	作文「英語による自己紹介」																																
2. 人物紹介 (1)	講師のプレゼンテーション例																																
3. 人物紹介 (2)	作文「ジャーナル」																																
4. 人物紹介 (3)	プレゼンテーションの模範例																																
5. 人物紹介 (4)	作文「私の家族」																																
6. 列挙の方法 (1)	パワーポイントの使い方																																
7. 列挙の方法 (2)	作文「仕事の紹介」																																
8. 列挙の方法 (3)	グループディスカッション																																
9. 列挙の方法 (4)	作文「大学生活」																																
10. 場所の描写 (1)	グループでの相互チェック																																
11. 場所の描写 (2)	作文「私の好きな場所」																																
12. 場所の描写 (3)	ハンドアウト製作																																
13. 場所の描写 (4)	リハーサル																																
14. プレゼンテーション・デイ																																	
テキスト、参考文献		評価方法																															
First Steps in Academic Writing Pearson Longman		平常点 50% ポートフォリオ (レポート) 30% プレゼンテーション 20%																															

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	福田 哲哉																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
講義の目的 春学期に引き続いて、英語表現の基礎力を養成することを目的とします。秋学期における到達目標は、自分の意見の表明です。 講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。単語のスペルや文法が合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師がチェックをします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、チェックを受け、さらに自己添削をするというサイクルを繰り返して、英作文力をつけましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。秋学期のテーマは「英語で意見を述べる」です。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。		<table><thead><tr><th>テーマ</th><th>その他の活動</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 授業ガイダンス</td><td>作文「私の夏休み」</td></tr><tr><td>2. 指示を出す (1)</td><td>春のプレゼンテーションより</td></tr><tr><td>3. 指示を出す (2)</td><td>作文「英語の勉強法」</td></tr><tr><td>4. 指示を出す (3)</td><td>講師のプレゼンテーション例</td></tr><tr><td>5. 指示を出す (4)</td><td>作文「上手に～をする方法」</td></tr><tr><td>6. 理由と例 (1)</td><td>プレゼンテーションの模範例</td></tr><tr><td>7. 理由と例 (2)</td><td>作文「おすすめの場所」</td></tr><tr><td>8. 理由と例 (3)</td><td>グループディスカッション</td></tr><tr><td>9. 理由と例 (4)</td><td>作文「高校生に制服は必要か」</td></tr><tr><td>10. 意見の表明 (1)</td><td>グループでの相互チェック</td></tr><tr><td>11. 意見の表明 (2)</td><td>作文「死刑制度の是非」</td></tr><tr><td>12. 意見の表明 (3)</td><td>ハンドアウト製作</td></tr><tr><td>13. 意見の表明 (4)</td><td>リハーサル</td></tr><tr><td>14. プレゼンテーション・デイ</td><td></td></tr></tbody></table> 以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。		テーマ	その他の活動	1. 授業ガイダンス	作文「私の夏休み」	2. 指示を出す (1)	春のプレゼンテーションより	3. 指示を出す (2)	作文「英語の勉強法」	4. 指示を出す (3)	講師のプレゼンテーション例	5. 指示を出す (4)	作文「上手に～をする方法」	6. 理由と例 (1)	プレゼンテーションの模範例	7. 理由と例 (2)	作文「おすすめの場所」	8. 理由と例 (3)	グループディスカッション	9. 理由と例 (4)	作文「高校生に制服は必要か」	10. 意見の表明 (1)	グループでの相互チェック	11. 意見の表明 (2)	作文「死刑制度の是非」	12. 意見の表明 (3)	ハンドアウト製作	13. 意見の表明 (4)	リハーサル	14. プレゼンテーション・デイ	
テーマ	その他の活動																																
1. 授業ガイダンス	作文「私の夏休み」																																
2. 指示を出す (1)	春のプレゼンテーションより																																
3. 指示を出す (2)	作文「英語の勉強法」																																
4. 指示を出す (3)	講師のプレゼンテーション例																																
5. 指示を出す (4)	作文「上手に～をする方法」																																
6. 理由と例 (1)	プレゼンテーションの模範例																																
7. 理由と例 (2)	作文「おすすめの場所」																																
8. 理由と例 (3)	グループディスカッション																																
9. 理由と例 (4)	作文「高校生に制服は必要か」																																
10. 意見の表明 (1)	グループでの相互チェック																																
11. 意見の表明 (2)	作文「死刑制度の是非」																																
12. 意見の表明 (3)	ハンドアウト製作																																
13. 意見の表明 (4)	リハーサル																																
14. プレゼンテーション・デイ																																	
テキスト、参考文献		評価方法																															
First Steps in Academic Writing Pearson Longman		平常点 50% ポートフォリオ (レポート) 30% プレゼンテーション 20%																															

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティング I a) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、英文構造の理解において、必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEIC のスコアが 300～450 の学生を対象としています。300 近くの学生は、授業がむずかしく感じるかもしれません。一方、450 近くの学生は、授業に物足りなさを感じるかもしれません。 【授業では】 ① 「文法の復習とともに、1 センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、重要な文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる(書く)練習をします。英文は、比較的 BASIC なものばかりです。 各章の練習問題 I～II の 5 は、学生に板書してもらい、添削及び解説しながら授業を進めてゆきます。 ② 学生の人数やレベル及び授業の進捗状況にあわせて、適宜プリントを併用 (+ 提出) の可能性があります。 ③ 最低でも 1 度は、簡単な課題作文を課し、提出してもらいます。 【就職活動による欠席は一切認めません】 【詳しくは、ガイダンスで述べます。】		以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により<u>多少の変更の可能性</u>があります。 小テストは、授業時間の一部を使って、50 点満点で、2 度行う。(第 1 回の実施日は変更の可能性あり) 1 ガイダンス 2 第 1 章 I～II の 5 まで 3 第 2 章 I～II の 5 まで 4 第 3 章 I～II の 5 まで 5 第 4 章 I～II の 5 まで 6 第 5 章 I～II の 5 まで 7 第 6 章 I～II の 5 まで 8 第 7 章 I～II の 5 まで + 第 1 回小テスト 9 第 8 章 I～II の 5 まで 10 第 9 章 I～II の 5 まで 11 第 10 章 I～II の 5 まで 12 第 11 章 I～II の 5 まで 13 第 12 章 I～II の 5 まで 14 課題レポの評価 + 第 2 回小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための 15 章』、英宝社		授業時の発表点 + 授業時の小テスト + レポート点 【評価に対応する欠席限度回数】(遅刻 0.5 回)を設定： AA と A : 2 回 B : 3 回 C : 4 回	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティング I b) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の基本的な方針】と【テキスト】は、春学期と同じです。また、適宜プリントを併用する可能性があることも春学期と同じです。 ただし、選択授業の性格からして、学生の人数とレベルに変化が生ずる可能性があるので、授業方針に関しては、適宜若干の修正が必要になる可能性もあります。 練習問題の IV は、毎回、課題作文として、学生全員に前もって提出してもらいます。 更に、最低でも 1 度は、簡単な課題作文を課し、提出してもらいます。 【就職活動による欠席は一切認めません】 【詳しくは、ガイダンスで述べます。】		以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により<u>多少の変更の可能性</u>があります。 IV に関しては、前もって提出してもらいます。 小テストは、授業時間の一部を使って、50 点満点で、2 度行う。(第 1 回の実施日は変更の可能性あり) 1 ガイダンス 2 第 1 章 II の 6～IV (IV は提出) 3 第 2 章 II の 6～IV (IV は提出) 4 第 3 章 II の 6～IV (IV は提出) 5 第 4 章 II の 6～IV (IV は提出) 6 第 5 章 II の 6～IV (IV は提出) 7 第 6 章 II の 6～IV (IV は提出) 8 第 7 章 II の 6～IV + 第 1 回小テスト 9 第 8 章 II の 6～IV (IV は提出) 10 第 9 章 II の 6～IV (IV は提出) 11 第 10 章 II の 6～IV (IV は提出) 12 第 11 章 II の 6～IV (IV は提出) 13 第 12 章 II の 6～IV (IV は提出) 14 課題レポの評価 + 第 2 回小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための 15 章』、英宝社		授業時の発表点 + 授業時の小テスト + レポート点 【評価に対応する欠席限度回数】(遅刻 0.5 回)を設定： AA と A : 2 回 B : 3 回 C : 4 回	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング I a) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
テキストの流れに沿って、各ユニットの文法事項を中心とした英作作業を、毎回の授業内容とする。 作成する英語の構造は、複雑なものを要求しない。単純な構造で構わないが、文法的・語法的に出来るだけ誤りがないことに注意を払う。 テキスト中の文法事項に加え、更にそれを深化させた文法をも、授業の中では扱う予定。即ち、基礎的な英作から始まり、最終的には中級程度の英作を目指したい。 授業の目的としては、辞書を使いつつで良いから、自分の言いたいことを、ある程度まで英文により表現出来る段階まで、英作力を鍛錬することである。勿論最終的には、辞書から自立することが望ましいが、それはまだ先の話で良いから、当面は正しさの基準を辞書に仰ぎつつ、正確さを期した英語作りに努力を傾注する。		1. 導入 2. 名詞 3. 代名詞 4. 自動詞・他動詞・リンキング動詞 5. 助動詞 6. 不定詞・動名詞 1 7. 不定詞・動名詞 2 8. 場所・動き・時間を表す前置詞 9. 形容詞・副詞 10. 原級・比較級・最上級 1 11. 原級・比較級・最上級 2 12. 接続詞 1 13. 現在時制と現在進行時制 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
English Grip（金星堂）		平常点は 30% 程度。定期試験の成績は 70% 程度。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング I b) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		1. 導入 2. 過去時制 3. 未来 4. 現在完了時制・過去完了時制 5. 能動態と受動態 1 6. 能動態と受動態 2 7. 接続詞 2 8. 否定文 9. 疑問文・疑問詞・付加疑問文 10. 関係代名詞・関係副詞 11. 後置修飾 12. 仮定法 13. 話法 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティングⅡa)/ (Academic Writing Ⅱ a: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的は、なるべく多くの英作の作業をすることにより、少しでも英作に慣れてもらうこと。平易な構造でも構わないから、とにかく最初は伝達内容を正確に英語で伝えることが出来るかを重視する。 上記の目的のため、授業の中身は学生自身による英作の取り組みが中心になる。辞書等の例文を参照にしつつ、自分独自の英作文作りに励んで欲しい。		1. 導入 2. 主語の選択 3. 名詞 1 4. 名詞 2 5. 代名詞 6. 冠詞 7. 形容詞 1 8. 形容詞 2 9. 副詞 10. 比較 1 11. 比較 2 12. 比較 3 13. 動詞 1 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Writing Updates (金星堂)		平常点は 30% 程度。定期試験の成績は 70% 程度。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティングⅡb)/ (Academic Writing Ⅱ b: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		1. 導入 2. 動詞 2 3. 態 4. 動名詞 1 5. 動名詞 2 6. 不定詞 1 7. 不定詞 2 8. 接続詞 9. 前置詞 10. 関係詞 1 11. 関係詞 2 12. 仮定法 13. 語順 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

07 年度以前（春）	English 321-a Writing English for Specific Purposes	担当者	青木 理沙
講義目的、講義概要		授業計画	
アカデミック・ライティングの基礎となる、パラグラフ・ライティングの書き方を、様々なトピックやジャンルの文章に触れながら、練習していく。 ライティング力をつけるには、Write fluently & Write accurately という、二つの書き方を練習する必要がある。そのため、細かい文法ミスなどを気にせず書き続けていく練習や、文章の型をまねて、正確に書いていく練習の両方を行う。 また、よい書き手は、自らの文章を見返し、校正を繰り返す。校正の仕方を学ぶため、Peer review や、Conference を行うので、クラスメイトや教員と協力し、積極的に学ぶ姿勢を求める。最終日には、全ての文章を校正し綴った、ポートフォリオを提出してもらう。		1. Orientation, Free-writing 2. Understanding Paragraphs 3. Understanding Paragraphs 4. The Writing Process 5. The Writing Process 6. Expressing an Opinion 7. Expressing an Opinion 8. Giving Advice 9. Giving Advice 10. Writing a Narrative 11. Writing a Narrative 12. Peer Review 13. Conference 14. Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ready to Write (Karen Blanchard, Longman)		Portfolio (40%)、Writing project (40%)、その他の宿題、予習、授業への積極的な参加など(20%)	

07 年度以前（秋）	English 321-b Writing English for Specific Purposes	担当者	青木 理沙
講義目的、講義概要		授業計画	
後期では、アカデミック・ライティングに必要とされる、要約や、図表の書き方に加え、ビジネスで役に立つ、レジюмеや、ビジネス・レターの書き方にもふれ、幅広く実用的なジャンルの文章が書けるよう、指導を行っていく。 また、リサーチを行って仕上げたペーパーの趣旨を、visual aid を用いながら、発表する機会も設ける。したがって、ライティング能力とともに、コミュニケーション能力も高めることができるよう、普段の授業の中でも、積極的に英語で発言することを求める。		1. Orientation, Free-writing 2. Writing Summaries 3. Writing Summaries 4. Comparing and Contrasting 5. Comparing and Contrasting 6. Resume 7. Resume 8. Personal and Business Letters 9. Personal and Business Letters 10. Supporting the Main Ideas 11. Supporting the Main Ideas 12. Peer Review 13. Presentation 14. Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ready to Write (Karen Blanchard, Longman)		Portfolio (30%)、Writing project (30%)、Presentation (20%)、その他の宿題、予習、授業への積極的な参加など(20%)	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (スピーキング I a) /(Speaking in Academic Contexts Ia) English 131-a Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス
講義目的、講義概要		授業計画	
The course has several aims for the students: to develop effective and confident communication in English ・ to reinforce grammar and vocabulary previously learned ・ to improve their listening skills ・ to talk about different Issues concerning everyday Topics This class will be based on a lot of different Topics through out the semester, which the students will use a number of ways to express their ideas and opinions. The students will be asked to expand a lot on the differences between their different countries.Note: Each topic will be covered over 2 or 3 weeksThe second semester will be the format as the first semester. ■履修上の注意 (Notes/Warning) Students more than ten minutes late will be considered absent. Three late marks will be considered one absence. ■E-mail Address Students can contact me on milts@gol.com		Lesson 1: Course outline Students introduce themselves Lesson 2: Classroom English Lesson 3: Introduce various listening skills that will be used in this class Lesson 4: Pre-listening knowledge/Vocabulary Lesson 5: Make prediction Lesson 6: Categorize words/sounds/infer word meaning from context Lesson 7: Identify specific details and note taking skills Lesson 8: Make predictions/Identify Comparisons Lesson 9: Summarize information and share opinion Lesson 10: Classify information Infer situational context Lesson 11: Relate listening to personal Experience Lesson 12: Compare details about context Lesson 13: Infer information not explicit in Listening Lesson 14: Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
■テキスト (Textbook) NorthStar Basic/Low Intermediate(Longman) ■参考文献 (Reference Materials) The students will be required to bring an English / Japanese/ Native language dictionary to every class. As well as a folder to place all the supplementary materials.		■成績評価 (Grading Evaluation) a) Exam at the end of semester 40 % b) Homework assignments 20% c) In class performance 30% d) Attendance 10% Total for semester 100%	

08 年度以降 (秋) 07 年度以降 (秋)	English (スピーキング I b) /(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-b Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス
講義目的、講義概要		授業計画	
The course has several aims for the students: to develop effective and confident communication in English ・ to reinforce grammar and vocabulary previously learned ・ to improve their listening skills ・ to talk about different Issues concerning everyday Topics This class will be based on a lot of different Topics through out the semester, which the students will use a number of ways to express their ideas and opinions. The students will be asked to expand a lot on the differences between their different countries.Note: Each topic will be covered over 2 or 3 weeksThe second semester will be the format as the first semester. ■履修上の注意 (Notes/Warning) Students more than ten minutes late will be considered absent. Three late marks will be considered one absence. ■E-mail Address Students can contact me on milts@gol.com		Lesson 1: Review Communication skills Lesson 2: Identify Vocabulary classification Lesson 3: Introduce various listening skills that will be used in class Lesson 4: Pre-listening knowledge/Vocabulary Lesson 5: Categorize words/sounds Lesson 6: Infer word meaning from context Lesson 7: Identify specific details Lesson 8: Make prediction and Identify Comparisons Lesson 9: Summarize and share opinions Lesson 10: Classify information and infer situational content Lesson 11: Relate listening to personal Experience Lesson 12: Compare details about contents Lesson 13: Infer information not explicit in Listening Lesson 14: Identify main idea	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト (Textbook) NorthStar Basic/Low Intermediate(Longman) ■参考文献 (Reference Materials) The students will be required to bring an English / Japanese/ Native language dictionary to every class. As well as a folder to place all the supplementary materials.		■成績評価 (Grading Evaluation) a) Exam at the end of semester 40 % b) Homework assignments 20% c) In class performance 30% d) Attendance 10% Total for semester 100%	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J. ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a speaking class. Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. クラスでは実際に英語を使うことによって英語を勉強します。 Learning a language takes practice. To learn, you must come to class. We will use a text. We will also use youtube, films, and other things in class. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK. Sitting quietly is not OK. e-mail jim@brushink.com If you have questions or problems please send me an e-mail		1. Orientation and introduction to class 2. Self Introductions 1 3. Self Introductions part 2 4. Family 5. Family part 2 6. Sports 7. Sports part 2 8. Food 9. Food part 2 10. Part-Time jobs 11. Part-Time jobs part 2 12. Summer vacation, 13. Review self evaluations 14. Review 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>Nice Talking with You</u> Tom Kenny and Linda Woo Mcmillian		Evaluation: Attendance and class participation: 50% Homework 25% Tests and quizzes 25% Warning! 4 absences is an automatic F	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J. ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a speaking class. Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. クラスでは実際に英語を使うことによって英語を勉強します。 Learning a language takes practice. To learn, you must come to class. We will use a text. We will also use youtube, films, and other things in class. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK. Sitting quietly is not OK. e-mail jim@brushink.com If you have questions or problems please send me an e-mail		1. Friends 2. Friends 2 3. School 4. School 2 5. Music 6. Music2 7. Dating 8. Dating 2 9. Travel 10. Travel 2 11. Games and Internet 12. Internet 2 13. Review self evaluations 14. Review 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>Nice Talking with You</u> Tom Kenny and Linda Woo Mcmillian		Evaluation: Attendance and class participation: 50% Homework 25% Tests and quizzes 25% Warning! 4 absences is an automatic F	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (スピーキング I a) /(Speaking in Academic Contexts Ia) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J.R.クレイグ
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this class is to improve your overall speaking ability. This includes tactics that help you reduce the anxiety that comes with participating in a communicative exchange where you may not understand 100% of the given topics but can still participate SUCCESSFULLY. We will be discussing a variety of relevant topics and your input will help steer the direction of the class.		1. Class Introduction 2. Self Introductions (Speech) 3. Prejudice/Discrimination 4. Do we all discriminate? 5. Sports/Hobbies 6. Sports/Hobbies (cont.) 7. News Topic Introduction (Speech) 8. Art 9. Art (cont.) 10. Frida Kahlo 11. Frida Review 12. Test Preparation 13. Test Speeches 14. Test Speeches (cont.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teacher Handouts		30% Class Attendance 30% Quizzes 40% Interviewing, role-playing, journal writing (多少変更の可能性がありますが)	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (スピーキング I b) /(Speaking in Academic Contexts Ib) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J.R.クレイグ
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this class is to improve your overall speaking ability. This includes tactics that help you reduce the anxiety that comes with participating in a communicative exchange where you may not understand 100% of the given topics but can still participate SUCCESSFULLY. We will be discussing a variety of relevant topics and your input will help steer the direction of the class.		1. Class Introduction 2. Class Goals (Speech) 3. Dreams 4. Dream Re-telling/Interpretation (Speech) 5. Sexism and Advertising 6. Pop Culture/Icons 7. Famous vs. Influential 8. Your most Influential Person (Speech) 9. Violence in the Media 10. Media Activity (to be announced) 11. Media Activity Review 12. Test Preparation 13. Test Speeches 14. Test Speeches (cont.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teacher Handouts		30% Class Attendance 30% Quizzes 40% Interviewing, role-playing, journal writing (多少変更の可能性がありますが)	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S. A. フルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
・Build students' confidence in speaking abilities ・Facilitate strategies to improve oral communication skills in academic contexts 1. Relaxing, smiling and being friendly 2. Controlling English conversation 3. Being polite 4. Listening and reacting 5. Speaking English only - using fillers to avoid Japanese		Week 1 - Course introduction Week 2 - Self-Introductions Week 3 - Self-Introductions Week 4 - Family Week 5 - Family Week 6 - Sports Week 7 - Sports Week 8 - Food Week 9 - Food Week 10 - Part-Time Jobs Week 11 - Part-Time Jobs Week 12 - Mock Test Week 13 - Oral TEST Week 14 - Feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
NO TEXTBOOK REQUIRED		70% - Class effort/participation (ongoing assessment) 30% - Speaking test	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S. A. フルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
・Build students' confidence in speaking abilities ・Facilitate strategies to improve oral communication skills in academic contexts 1. Relaxing, smiling and being friendly 2. Controlling English conversation 3. Being polite 4. Listening and reacting 5. Speaking English only - using fillers to avoid Japanese		Week 1 - Review & Preview Week 2 - Friends Week 3 - Friends Week 4 - School Week 5 - School Week 6 - Music Week 7 - Music Week 8 - Dating Week 9 - Dating Week 10 - Travel Week 11 - Travel Week 12 - Mock Test Week 13 - Oral TEST Week 14 - Feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
NO TEXTBOOK REQUIRED		70% - Class effort/participation (ongoing assessment) 30% - Speaking test	

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English（スピーキング II a） /(Speaking in Academic Contexts II a: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス
講義目的、講義概要		授業計画	
The course has several aims for the students: to develop effective and confident communication in English • to reinforce grammar and vocabulary previously learned • to improve their listening skills • to talk about different Issues concerning everyday Topics This class will be based on a lot of different Topics through out the semester, which the students will use a number of ways to express their ideas and opinions. The students will be asked to expand a lot on the differences between their different countries.Note: Each topic will be covered over 2 or 3 weeksThe second semester will be the format as the first semester. ■履修上の注意 (Notes/Warning) Students more than ten minutes late will be considered absent. Three late marks will be considered one absence. ■E-mail Address Students can contact me on milts@gol.com		Lesson 1: Course Outline Students introduce themselves Lesson 2: Classroom English Lesson 3: Introduce various listening skills that will be used in this class Lesson 4: Pre-listening knowledge/Vocabulary Lesson 5: Make prediction Lesson 6: Categorize words/sound infer word meaning from context Lesson 7: Identify specific detail/Note taking Lesson 8: Make prediction/identify Comparisons Lesson 9: Summarize information/share opinions Lesson 10: Classify information/Infer situational context Lesson 11: Relate listening to personal Experience Lesson 12: Compare details about context Lesson 13: Infer information not explicit in Listening Lesson 14: Identify main idea	
テキスト、参考文献		評価方法	
NorthStar NorthStar Intermediate(Longman) The students will be required to bring an English / Japanese/ Native language dictionary to every class. As well as a folder to place all the supplementary materials.		成績評価 (Grading Evaluation) a) Exam at the end of semester 40 %b) Homework assignments 20%c) In class performance 30%d) Attendance 10% Total for semester 100%	

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English（スピーキング II b） /(Speaking in Academic Contexts II b: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス
講義目的、講義概要		授業計画	
The course has several aims for the students: to develop effective and confident communication in English • to reinforce grammar and vocabulary previously learned • to improve their listening skills • to talk about different Issues concerning everyday Topics This class will be based on a lot of different Topics through out the semester, which the students will use a number of ways to express their ideas and opinions. The students will be asked to expand a lot on the differences between their different countries.Note: Each topic will be covered over 2 or 3 weeksThe second semester will be the format as the first semester. ■履修上の注意 (Notes/Warning) Students more than ten minutes late will be considered absent. Three late marks will be considered one absence. ■E-mail Address Students can contact me on milts@gol.com		Lesson1: Review Communication skill Lesson2: Identify Vocabulary classification Lesson 3: Introduce various listening skills that will be used in Lesson4: Pre-listening knowledge/Vocabulary Lesson5: Categorize words/sound Lesson6: Infer word meaning from context Lesson7: Identify specific detail Lesson8: Make prediction/Identify Comparisons Lesson 9: Summarize information/Share opinion Lesson10: Classify information/Infer situational context Lesson 11: Relate listening to personal Experience Lesson 12: Compare details about context Lesson 13: Infer information not explicit in Listening Lesson 14: Identify main idea	
テキスト、参考文献		評価方法	
NorthStar NorthStar Intermediate(Longman) The students will be required to bring an English / Japanese/ Native language dictionary to every class. As well as a folder to place all the supplementary materials.		成績評価 (Grading Evaluation) a) Exam at the end of semester 40 %b) Homework assignments 20%c) In class performance 30%d) Attendance 10% Total for semester 100%	

07 年度以前 (春)	English 331-a Speech Communication	担当者	S. ドラン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class students will develop various concepts, strategies and techniques to give successful speeches on a many different topics throughout the year. They will learn about how to demonstrate both verbal and non-verbal messages to their audience to make sure that their topic they are presenting is clearly understood. These include, voice intonation, eye contact, gestures and correct speech organisation. These skills will be learned through completing and understanding many different activities, which show the students what the target skill is, why it is important, how to use the target skill. The students will be asked to identify their own strengths and weaknesses as well as their peers, so as to learn not only through their own actions but by also observing others. 履修上の注意 (Notes/Warning) Students more than ten minutes late will be considered absent. Three late marks will be considered one absence. every class. As well as a folder to place all the supplementary materials.		Lesson 1: Students self introduction... students introduce themselves Lesson 2: Introduction to the physical message Lesson 3: Posture and Eye contact Lesson 4: Information Speech structure Lesson 5: Mini presentation (self-introduction) Lesson 6: Gestures Lesson 7: Posture Lesson 8: Voice inflection Lesson 9: Effective non-verbal communication Lesson 10: Review Lesson 11: Adding Details to content Lesson 12: Peer Evaluation Lesson 13: Peer Editing Lesson 14: Evaluation famous Speeches	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>SPEAKING Of Speech</i>, Authors: David Harrington & Charles LeBean 参考文献 The students will be required to bring an English / Japanese/ Native language dictionary to class.		attendance, mini presentations, final presentation, Mid- Year test	

07 年度以前 (秋)	English 331-b Speech Communication	担当者	S. ドラン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class students will develop various concepts, strategies and techniques to give successful speeches on a many different topics throughout the year. They will learn about how to demonstrate both verbal and non-verbal messages to their audience to make sure that their topic they are presenting is clearly understood. These include, voice intonation, eye contact, gestures and correct speech organisation. These skills will be learned through completing and understanding many different activities, which show the students what the target skill is, why it is important, how to use the target skill. The students will be asked to identify their own strengths and weaknesses as well as their peers, so as to learn not only through their own actions but by also observing others. 履修上の注意 (Notes/Warning) Students more than ten minutes late will be considered absent. Three late marks will be considered one absence. every class. As well as a folder to place all the supplementary materials.		Lesson1: Transitions/Sequences Lesson2: What/Why/Details (giving details) Lesson 3: Persuasive Speech (Intro) Lesson 4: Persuasive Speech (Body/Conclusion) Lesson 5: Creating Structure (effective communication) Lesson6: Research/Note Taking/Citations Lesson7: Paraphrasing-why do we need this skill Lesson 8: Peer Editing Lesson 9: Visual Aids Lesson 10: Making Visual Aids Lesson 11: Peer Evaluation Lesson 12: Questions/Answers Lesson 13: Impromptu speech techniques Lesson 14: Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>SPEAKING Of Speech</i>, Authors: David Harrington & Charles LeBean 参考文献 The students will be required to bring an English / Japanese/ Native language dictionary to class.		attendance, mini presentations, final presentation, End of year Exam	

07 年度以前（春）	English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤 保
講義目的、講義概要		授業計画	
○本科目は、リーディングを2年間履修（English 111/112 および 211/212）した学生が3年次で選択科目として履修することを想定した選択のリーディング科目である。対象は法学部と経済学部（経済学部の学生）である。3年次でも英語リーディングに積極的に取り組み、読解力に磨きをかけてもらいたい。 ○このコースの特色は、読む内容に重点を置き、法学部・経済学部の学生のニーズに合ったスキル習得を目指す。 ○原則として通年で履修すること。 ○このクラスを履修することで次のようなことができるようになります。 ・Preview a text and predict what it is about ・Skim to get the gist of a text ・Scan for specific information ・Identify topics and main ideas in a text ・Use vocabulary strategies to guess unknown words ・Recognize typical paragraph structure ・Identify patterns of text organization ○3年生でしっかりと英語を学習することは、4年生に向けて、また就職活動のためにも重要であり、専門の言語の学習が忙しくても、ぜひ英語の学習も続けてもらいたい。		「流行の受容と発信」 第1～2回 女子中高生ファッションは日本の鏡 第3～4回 「カワイイ」は今や世界の共通語 第5～6回 日本の食事は日本自身の象徴？ 「日本人の心性」 第7～8回 明治の国際人 福沢諭吉の現代性 第9～10回 西洋と東洋の狭間で 洋画家藤田嗣治 第11～12回 落語の効用 映画評『しゃべれどもしゃべれども』 「伝統文化の継承」 第13～14回 庭園に見る日本精神 （以上の予定は多少変更の可能性があります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Focus on Today's Japanese Culture in Major English Newspaper（英字新聞で読む日本文化論） 渡辺秀樹編著、松柏社（2009年）		出席 30% 期末試験 50% その他（小テストなど）20%	

07 年度以前（秋）	English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤 保
講義目的、講義概要		授業計画	
○本科目は、リーディングを2年間履修（English 111/112 および 211/212）した学生が3年次で選択科目として履修することを想定した選択のリーディング科目である。対象は法学部と経済学部（経済学部の学生）である。3年次でも英語リーディングに積極的に取り組み、読解力に磨きをかけてもらいたい。 ○このコースの特色は、読む内容に重点を置き、法学部・経済学部の学生のニーズに合ったスキル習得を目指す。 ○原則として通年で履修すること。 ○このクラスを履修することで次のようなことができるようになります。 ・Preview a text and predict what it is about ・Skim to get the gist of a text ・Scan for specific information ・Identify topics and main ideas in a text ・Use vocabulary strategies to guess unknown words ・Recognize typical paragraph structure ・Identify patterns of text organization ○3年生でしっかりと英語を学習することは、4年生に向けて、また就職活動のためにも重要であり、専門の言語の学習が忙しくても、ぜひ英語の学習も続けてもらいたい。		「伝統文化の継承」 第1～2回 香りを聞く 第3～4回 絵本とは何か 「文学評論 書評から読む日本人」 第5～6回 日本古典文学英訳 上田秋成『雨月物語』 第7～8回 夏目漱石『草枕』 第9～10回 日本女流詩人の翻訳大全 「伝統文化に参入する外国人」 第11～12回 総論 開かれた伝統文化 第13～14回 アメリカ人演歌歌手が歌う日本の心 （以上の予定は多少変更の可能性があります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Focus on Today's Japanese Culture in Major English Newspaper（英字新聞で読む日本文化論） 渡辺秀樹編著、松柏社（2009年）		出席 30% 期末試験 50% その他（小テストなど）20%	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法a) /(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようにすることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないだろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。		1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 過去形・過去進行形 3. 現在完了形と現在完了進行形 4. 現在完了形と過去形 5. 疑問文 6. 動名詞・so, neither の用法 7. 依頼の表現・不可算名詞 8. 使役動詞・間接話法（１） 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞・時を表す節 11. 間接話法（２） 12. 必要・義務の表現 13. 推量の表現・so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法	
テキスト、参考文献		評価方法	
Grammar three (Oxford University Press)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法b) /(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようにすることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないだろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。		1. オリエンテーション、仮定法（１） 2. 関係詞 3. need+ing ; have/get something done の用法 4. 間接疑問文 5. 義務の表現・動詞句 6. 付加疑問・願望の表現（１）・可算名詞 7. 受動態（１） 8. 受動態（２） 9. 不定詞 10. 仮定法（２） 11. 副詞・願望の表現（２） 12. 不定詞（２）・動名詞（２） 13. 未来完了 14. 時制のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Grammar three (Oxford University Press)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。	

08 年度以降（春）	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	志村 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学の全学共通カリキュラムでのクラス指定科目は、TOEIC®テストのスコアに基づいた習熟度別クラス編成を行っている。 TOEIC は、英語力（リーディングとリスニング）を客観的に測る手段の一つとして、日本では毎年 150 万人以上が受験（公開テスト）しており、英語を学ぶ大学生は、少しずつでもスコアアップのためにコツコツと努力することが望まれる。 また、TOEIC のスコアは、就職活動においても、出願者の英語力を示すものとして積極的に活用されている。 本科目は、TOEIC でのスコアアップのために積極的に努力しようという学生を対象に、選択科目として開講する。 【資格 I】の受講対象 ・現在の英語力が TOEIC で 400 点未満の学生 ・2008 年度以降入学生を対象とする ・自主的に教室外での学習に取り組むことのできる者 なお、本科目は半期完結なので、通年履修はできません。		以下の授業計画は変更の可能性があります。 1. Part 1 写真描写問題 2. 同上、小テスト 3. Part2 応答問題 4. 同上、小テスト 5. Part3 会話問題 6. 同上、小テスト 7. Part4 説明文問題 8. 同上、小テスト 9. Part5 短文穴埋め問題 10. 同上、小テスト 11. Part6 長文穴埋め問題 12. 同上、小テスト 13. Part7 読解問題 14. 同上、小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指定します。		出席 20% 学習計画書 10% 小テスト 30% 期末テスト 40% （変更の可能性があります）	

08 年度以降（秋）	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	志村 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学の全学共通カリキュラムでのクラス指定科目は、TOEIC®テストのスコアに基づいた習熟度別クラス編成を行っている。 TOEIC は、英語力（リーディングとリスニング）を客観的に測る手段の一つとして、日本では毎年 150 万人以上が受験（公開テスト）しており、英語を学ぶ大学生は、少しずつでもスコアアップのためにコツコツと努力することが望まれる。 また、TOEIC のスコアは、就職活動においても、出願者の英語力を示すものとして積極的に活用されている。 本科目は、TOEIC でのスコアアップのために積極的に努力しようという学生を対象に、選択科目として開講する。 【資格 I】の受講対象 ・現在の英語力が TOEIC で 400 点未満の学生 ・2008 年度以降入学生を対象とする ・自主的に教室外での学習に取り組むことのできる者 なお、本科目は半期完結なので、通年履修はできません。		以下の授業計画は変更の可能性があります。 1. Part 1 写真描写問題 2. 同上、小テスト 3. Part2 応答問題 4. 同上、小テスト 5. Part3 会話問題 6. 同上、小テスト 7. Part4 説明文問題 8. 同上、小テスト 9. Part5 短文穴埋め問題 10. 同上、小テスト 11. Part6 長文穴埋め問題 12. 同上、小テスト 13. Part7 読解問題 14. 同上、小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指定します。		出席 20% 学習計画書 10% 小テスト 30% 期末テスト 40% （変更の可能性があります）	

08 年度以降（春）	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	志村 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学の全学共通カリキュラムでのクラス指定科目は、TOEIC®テストのスコアに基づいた習熟度別クラス編成を行っている。 TOEIC は、英語力（リーディングとリスニング）を客観的に測る手段の一つとして、日本では毎年 150 万人以上が受験（公開テスト）しており、英語を学ぶ大学生は、少しずつでもスコアアップのためにコツコツと努力することが望まれる。 また、TOEIC のスコアは、就職活動においても、出願者の英語力を示すものとして積極的に活用されている。 本科目は、TOEIC でのスコアアップのために積極的に努力しようという学生を対象に、選択科目として開講する。 【資格 II】の受講対象 ・現在の英語力が TOEIC で 400 点以上の学生 ・2008 年度以降入学生を対象とする ・自主的に教室外での学習に取り組むことのできる者 なお、本科目は半期完結なので、通年履修はできません。		以下の授業計画は変更の可能性があります。 1. Part 1 写真描写問題 2. 同上、小テスト 3. Part2 応答問題 4. 同上、小テスト 5. Part3 会話問題 6. 同上、小テスト 7. Part4 説明文問題 8. 同上、小テスト 9. Part5 短文穴埋め問題 10. 同上、小テスト 11. Part6 長文穴埋め問題 12. 同上、小テスト 13. Part7 読解問題 14. 同上、小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指定します。		出席 20% 学習計画書 10% 小テスト 30% 期末テスト 40% （変更の可能性があります）	

08 年度以降（秋）	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	志村 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学の全学共通カリキュラムでのクラス指定科目は、TOEIC®テストのスコアに基づいた習熟度別クラス編成を行っている。 TOEIC は、英語力（リーディングとリスニング）を客観的に測る手段の一つとして、日本では毎年 150 万人以上が受験（公開テスト）しており、英語を学ぶ大学生は、少しずつでもスコアアップのためにコツコツと努力することが望まれる。 また、TOEIC のスコアは、就職活動においても、出願者の英語力を示すものとして積極的に活用されている。 本科目は、TOEIC でのスコアアップのために積極的に努力しようという学生を対象に、選択科目として開講する。 【資格 II】の受講対象 ・現在の英語力が TOEIC で 400 点以上の学生 ・2008 年度以降入学生を対象とする ・自主的に教室外での学習に取り組むことのできる者 なお、本科目は半期完結なので、通年履修はできません。		以下の授業計画は変更の可能性があります。 1. Part 1 写真描写問題 2. 同上、小テスト 3. Part2 応答問題 4. 同上、小テスト 5. Part3 会話問題 6. 同上、小テスト 7. Part4 説明文問題 8. 同上、小テスト 9. Part5 短文穴埋め問題 10. 同上、小テスト 11. Part6 長文穴埋め問題 12. 同上、小テスト 13. Part7 読解問題 14. 同上、小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指定します。		出席 20% 学習計画書 10% 小テスト 30% 期末テスト 40% （変更の可能性があります）	

08 年度以降（春）	English(発音)/ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	高田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
08 年度以降入学のドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じです。いずれかの学期にのみ履修してください。 この授業では、大学や仕事の様々な場面で必要とされる、だれにでも理解されやすく、意志疎通を妨げないレベルの、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、シャドウイングや、リスニング・スピーキングスキルと統合したコミュニケーションな授業活動を通して訓練します。 ● イントネーション、リズム、文強勢・単語強勢、母音・子音、短縮形、音の脱落・同化など英語発音の基本的なルール ● 発声方法、場面ごとの適切なスピード、声の音量 ● 発音記号の理解と辞書の活用 ● 英語と日本語の音の違いに対する理解 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。		第 1 回目の授業で担当教員よりシラバスが配布され、授業計画・評価方法等の詳細が発表されます。履修希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で発表。		出席・授業参加、クイズ、課題、試験など。担当教員の指示に従うこと。	

08 年度以降（秋）	English(発音)/ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	高田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
08 年度以降入学のドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じです。いずれかの学期にのみ履修してください。 この授業では、大学や仕事の様々な場面で必要とされる、だれにでも理解されやすく、意志疎通を妨げないレベルの、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、シャドウイングや、リスニング・スピーキングスキルと統合したコミュニケーションな授業活動を通して訓練します。 ● イントネーション、リズム、文強勢・単語強勢、母音・子音、短縮形、音の脱落・同化など英語発音の基本的なルール ● 発声方法、場面ごとの適切なスピード、声の音量 ● 発音記号の理解と辞書の活用 ● 英語と日本語の音の違いに対する理解 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。		第 1 回目の授業で担当教員よりシラバスが配布され、授業計画・評価方法等の詳細が発表されます。履修希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で発表。		出席・授業参加、クイズ、課題、試験など。担当教員の指示に従うこと。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(e-ラーニング) /(Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点 (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) ・初回の授業に必ず出席すること ・4 回欠席すると単位は認めない 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 (2 回) ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・小テストと期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. 小テスト・リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Days 9-10 (リーディング) 13. 小テスト・リーディング実力診断テスト 14. アンケート・自己評価レポートの説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)		出席 20%、学習記録 20% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 20% 期末テスト 20%	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(e-ラーニング) /(Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点 (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) ・初回の授業に必ず出席すること ・4 回欠席すると単位は認めない 重要事項： ・教室外で、秋学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 (2 回) ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・小テストと期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. 小テスト・リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Days 9-10 (リーディング) 13. 小テスト・リーディング実力診断テスト 14. アンケート・自己評価レポートの説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)		出席 20%、学習記録 20% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 20% 期末テスト 20%	

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース ドイツ語（I a 基礎） ドイツ語 I a（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の4技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。 春学期に学習する文法事項は「動詞の現在人称変化」から「形容詞の格変化」までとなります。 テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。 なお、学期の途中で中間試験を行い、期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。		1. ドイツ語のアルファベット 2. ドイツ語の発音 3. Lektion 1 Willkommen! 出会いと自己紹介 4. 同上 5. Lektion 2 Nasas Universität Nasa の大学 6. 同上 7. Lektion 3 Meine Familie 私の家族 8. 同上 9. Lektion 4 Eine Reise nach Dresden ドレスデンへのドライブ 10. 同上 11. 同上 12. Lektion 5 Geniesen wir jeden Sommertag! 夏の ような日々を楽しもう！ 13. 同上 14. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤和弘・Heike Pinnau・中村俊子著『新ドイツに行ってみませんか』（郁文堂）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース ドイツ語（I b 基礎） ドイツ語 I b（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の4技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。 秋学期に学習する文法事項は「動詞の3基本形」から「接続法」までとなります。 テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。 なお、学期の途中で中間試験を行い、期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。		1. Lektion 6 Der Beginn des Wintersemesters 冬学期の始まり 2. 同上 3. Lektion 7 Ein Waldspaziergang 森の散歩—環境問題 4. 同上 5. Lektion 8 Berlin hat viele Gesichter ベルリンの魅力 6. 同上 7. 同上 8. Lektion 9 Auf dem Weihnachtsmarkt クリスマス市にて 9. 同上 10. 同上 11. Lektion 10 Rollenverteilung heute 子育ては誰がする？—子育て支援 12. 同上 13. 同上 14. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤和弘・Heike Pinnau・中村俊子著『新ドイツに行ってみませんか』（郁文堂）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（I a 基礎） ドイツ語 I a（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の4技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。 春学期に学習する文法事項は「動詞の現在人称変化」から「形容詞の格変化」までとなります。 テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。 なお、学期の途中で中間試験を行い、期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「I a」の授業を行います。		1. ドイツ語のアルファベット 2. ドイツ語の発音 3. Lektion 1 Willkommen! 出会いと自己紹介 4. 同上 5. Lektion 2 Nasas Universität Nasa の大学 6. 同上 7. Lektion 3 Meine Familie 私の家族 8. 同上 9. Lektion 4 Eine Reise nach Dresden ドレスデンへのドライブ 10. 同上 11. 同上 12. Lektion 5 Geniesen wir jeden Sommertag! 夏の ような日々を楽しもう！ 13. 同上 14. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤和弘・Heike Pinnau・中村俊子著『新ドイツに行ってみませんか』（郁文堂）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（I b 基礎） ドイツ語 I b（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の4技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。 秋学期に学習する文法事項は「動詞の3基本形」から「接続法」までとなります。 テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。 なお、学期の途中で中間試験を行い、期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「I b」の授業を行います。		1. Lektion 6 Der Beginn des Wintersemesters 冬学期の始まり 2. 同上 3. Lektion 7 Ein Waldspaziergang 森の散歩—環境問題 4. 同上 5. Lektion 8 Berlin hat viele Gesichter ベルリンの魅力 6. 同上 7. 同上 8. Lektion 9 Auf dem Weihnachtsmarkt クリスマス市にて 9. 同上 10. 同上 11. Lektion 10 Rollenverteilung heute 子育ては誰がする？—子育て支援 12. 同上 13. 同上 14. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤和弘・Heike Pinnau・中村俊子著『新ドイツに行ってみませんか』（郁文堂）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（I a 会話） ドイツ語 I a（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「I a」の授業を行います。		1. Lektion 1 人と知り合う-1 Kontakte 1 2. 同上 3. Lektion 2 人と知り合う-2 Kontakte 2 4. 同上 5. Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprachen 6. 同上 7. 小テスト 8. Lektion 4 趣味 Hobbys 9. 同上 10. Lektion 5 食事 Essen und Trinken 11. 同上 12. Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe 13. 同上 14. 小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver:『CD付・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（I b 会話） ドイツ語 I b（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「I b」の授業を行います。		1. Lektion 7 持ち物 Gegenstände 2. 同上 3. Lektion 8 住居 Wohnen 4. 同上 5. Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum 6. 同上 7. 小テスト 8. Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende 9. 同上 10. Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität 11. 同上 12. Lektion 12 休暇の前 Vor den Ferien 13. 同上 14. 小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver:『CD付・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース ドイツ語（Ⅱa 基礎） ドイツ語 Ⅱa（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の初級文法を一通り終了した受講生を対象として、ドイツ語の読解力を中心としたコミュニケーション能力の養成を目指します。（電子メールが発達した今日では、コミュニケーション能力の中心は読解力でしょう。） 本講義で使用するテキストは各章にそのテーマに対応するふたつの読章が配されている。各読章には内容理解問題、文法問題、作文練習、聞き取り練習、ゲーム（会話練習含む）等、多彩な練習問題が用意されているので、なるべく楽しく学習できるように指導します。 春学期の学習はテキストの第1章から第5章までとし、学期の途中に中間試験を行います。なお、学期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。		- Kapitel 1 Europa, Europa - 同上 - Kapitel 2 Musik - 同上 - 同上 - Kapitel 3 Mail und Handy - 同上 - 同上 - Kapitel 4 Einkaufen - 同上 - 同上 - Kapitel 5 Studium - 同上 - 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ute Schmidt 他著『CD 付き 現代ドイツ語を学ぶための10章』（三修社）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース ドイツ語（Ⅱb 基礎） ドイツ語 Ⅱb（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の初級文法を一通り終了した受講生を対象として、ドイツ語の読解力を中心としたコミュニケーション能力の養成を目指します。（電子メールが発達した今日では、コミュニケーション能力の中心は読解力でしょう。） 本講義で使用するテキストは各章にそのテーマに対応するふたつの読章が配されている。各読章には内容理解問題、文法問題、作文練習、聞き取り練習、ゲーム（会話練習含む）等、多彩な練習問題が用意されているので、なるべく楽しく学習できるように指導します。 秋学期の学習はテキストの第6章から第10章までとし、学期の途中に中間試験を行います。なお、学期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。		- Kapitel 6 Multikulturelles - 同上 - Kapitel 7 Essen - 同上 - 同上 - Kapitel 8 Umwelt - 同上 - 同上 - Kapitel 9 Kunst - 同上 - 同上 - Kapitel 10 Jahresende - 同上 - 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ute Schmidt 他著『CD 付き 現代ドイツ語を学ぶための10章』（三修社）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（Ⅱa 基礎） ドイツ語 Ⅱa（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の初級文法を一通り終了した受講生を対象として、ドイツ語の読解力を中心としたコミュニケーション能力の養成を目指します。（電子メールが発達した今日では、コミュニケーション能力の中心は読解力でしょう。） 本講義で使用するテキストは各章にそのテーマに対応するふたつの読章が配されている。各読章には内容理解問題、文法問題、作文練習、聞き取り練習、ゲーム（会話練習含む）等、多彩な練習問題が用意されているので、なるべく楽しく学習できるように指導します。 春学期の学習はテキストの第1章から第5章までとし、学期の途中に中間試験を行います。なお、学期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		1. Kapitel 1 Europa, Europa 2. 同上 3. Kapitel 2 Musik 4. 同上 5. 同上 6. Kapitel 3 Mail und Handy 7. 同上 8. 同上 9. Kapitel 4 Einkaufen 10. 同上 11. 同上 12. Kapitel 5 Studium 13. 同上 14. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ute Schmidt 他著『CD 付き 現代ドイツ語を学ぶための10章』（三修社）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（Ⅱb 基礎） ドイツ語 Ⅱb（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語の初級文法を一通り終了した受講生を対象として、ドイツ語の読解力を中心としたコミュニケーション能力の養成を目指します。（電子メールが発達した今日では、コミュニケーション能力の中心は読解力でしょう。） 本講義で使用するテキストは各章にそのテーマに対応するふたつの読章が配されている。各読章には内容理解問題、文法問題、作文練習、聞き取り練習、ゲーム（会話練習含む）等、多彩な練習問題が用意されているので、なるべく楽しく学習できるように指導します。 秋学期の学習はテキストの第6章から第10章までとし、学期の途中に中間試験を行います。なお、学期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		1. Kapitel 6 Multikulturelles 2. 同上 3. Kapitel 7 Essen 4. 同上 5. 同上 6. Kapitel 8 Umwelt 7. 同上 8. 同上 9. Kapitel 9 Kunst 10. 同上 11. 同上 12. Kapitel 10 Jahresende 13. 同上 14. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ute Schmidt 他著『CD 付き 現代ドイツ語を学ぶための10章』（三修社）		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（Ⅱa 会話） ドイツ語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		1. Lektion 1 Reise und Verkehr 旅行と交通 2. 同上 3. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel レストランとホテルで 4. 同上 5. Lektion 3 In der Stadt 街で 6. 同上 7. 小テスト 8. Lektion 4 Wetter 天気 9. 同上 10. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 病気と体の手入れ 11. 同上 12. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 贈り物と招待 13. 同上 14. 小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver：『CD付き・スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』（三修社）		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語（Ⅱb 会話） ドイツ語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		1. Lektion 7 Personenbeschreibung 人物描写 2. 同上 3. Lektion 8 Müll und Umwelt ゴミと環境 4. 同上 5. Lektion 9 Verbote und Gebote 禁止と命令 6. 同上 7. 小テスト 8. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 履歴と学校制度 9. 同上 10. Lektion 11 Feste und Feiertage 祝祭と祭日 11. 同上 12. Lektion 12 Jahresende und -anfang 年末年始 13. 同上 14. 小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver：『CD付き・スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』（三修社）		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

05～07 年度	ドイツ語Ⅲa（会話）	担当者	A. リプスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
この時間では様々な練習（簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをする等）を通して、会話表現能力を訓練します。学生の皆さんは既に持っているドイツ語の知識を活用して、更に表現力を高めて下さい。 最初の時間に履修者のレベルと興味に合わせて、皆さんにふさわしい教材を選ぶことにします。例えば授業で、ドイツの若者たちの日常生活を描いた短い場面で構成されているビデオ教材(Treffpunkt Berlin)を使用し、それについて練習するのもよいでしょう。		1. 自己紹介 2. 授業 3. 授業 4. 授業 5. 授業 6. 授業 7. 小テスト / 授業 8. 授業 9. 授業 10. 授業 11. 授業 12. 授業 13. 授業 14. 小テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーとビデオなどを用意します		授業参加度と2回のテストにより評価します。	

05～07 年度	ドイツ語Ⅲb（会話）	担当者	A. リプスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の内容を参照せよ。		春学期の内容を参照せよ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーとビデオなどを用意します。		授業参加度と2回のテストにより評価します。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース フランス語 (Ia 基礎) フランス語 Ia (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、<i>Tome 1</i> の第5課まで進む予定。授業ではCDを使うことがある。		1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2. 発音と綴り字の読み方 3. 第1課 4. 第1課 5. 第2課 6. 第2課 7. 第3課 8. 第3課 9. 第4課 10. 第4課 11. 第5課 12. 第5課 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：<i>Tome 1</i> (第三書房) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース フランス語 (Ib 基礎) フランス語 Ib (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、<i>Tome 1</i> の第6課から第10課まで進む予定。授業ではCDを使うことがある。		1. 第6課 2. 第6課 3. 第7課 4. 第7課 5. 第8課 6. 第8課 7. 第9課 8. 第9課 9. 第10課 10. 第10課 11. annexe 12. 総合問題 (bilan) 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：<i>Tome 1</i> (第三書房) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語 (Ia 総合J) フランス語 Ia (総合J)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> で、I (総合J) は日本人講師、I (総合F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 I (総合F) とのペアでしか受講できない。 この I (総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ia」の授業を行います。		1. ガイダンス、発音(1) 2. 発音(2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書: <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語 (Ib 総合J) フランス語 Ib (総合J)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> で、I (総合J) は日本人講師、I (総合F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 I (総合F) とのペアでしか受講できない。 この I (総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ib」の授業を行います。		1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 13. bilan (3) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書: <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語 (Ia 総合 F) フランス語 Ia (総合 F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 I (総合 J : 日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する (ただし再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 I (総合 J) とのペアでしか受講できない。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ia」の授業を行います。		1. ガイダンス、発音(1) 2. 発音(2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 : <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語 (Ib 総合 F) フランス語 Ib (総合 F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 I (総合 J : 日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する (ただし再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 I (総合 J) とのペアでしか受講できない。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ib」の授業を行います。		1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 13. bilan (3) 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 : <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース フランス語（Ⅱa 基礎） フランス語 Ⅱa（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の2年目。1年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 使用する教科書は、<i>Salut !</i>、<i>Bis, amicalement</i>（いずれも駿河台出版社）のいずれかになる（担当教員によって異なる）。		担当教員および教科書によって異なる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Salut !</i> （駿河台出版社）、または <i>Bis, amicalement</i> （駿河台出版社）。辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース フランス語（Ⅱb 基礎） フランス語 Ⅱb（基礎）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の2年目。1年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 使用する教科書は、<i>Salut !</i>、<i>Bis, amicalement</i>（いずれも駿河台出版社）のいずれかになる（担当教員によって異なる）。		担当教員および教科書によって異なる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Salut !</i> （駿河台出版社）、または <i>Bis, amicalement</i> （駿河台出版社）。辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語（Ⅱa 総合J） フランス語 Ⅱa（総合J）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年次のフランス語Ⅰ（総合J）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、Ⅱ（総合J）は日本人講師、Ⅱ（総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 このⅡ（総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		1. <i>Initial vol.1</i> unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. <i>Initial vol.2</i> unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1, vol.2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語（Ⅱb 総合J） フランス語 Ⅱb（総合J）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年次のフランス語Ⅰ（総合J）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、Ⅱ（総合J）は日本人講師、Ⅱ（総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 このⅡ（総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		1. <i>Initial vol.2</i> unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1, vol.2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語（Ⅱa 総合F） フランス語 Ⅱa（総合F）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年次のフランス語Ⅰ（総合F）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、Ⅱ（総合J）は日本人講師、Ⅱ（総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 Ⅱ（総合F）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		1. <i>Initial vol.1</i> unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. <i>Initial vol.2</i> unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1, vol.2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース フランス語（Ⅱb 総合F） フランス語 Ⅱb（総合F）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年次のフランス語Ⅰ（総合F）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、Ⅱ（総合J）は日本人講師、Ⅱ（総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 Ⅱ（総合F）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		1. <i>Initial vol.2</i> unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 13. まとめ 14. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1, vol.2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

05～07 年度	フランス語Ⅲa	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業時に説明します。			
テキスト、参考文献		評価方法	

05～07 年度	フランス語Ⅲb	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業時に説明します。			
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語 (Ia 文法) スペイン語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週1コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ ser, estar 動詞の使い方 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の使い方 ⑬ 代名詞の使い方 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。および、担当者が随時プリントを配布。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語 (Ib 文法) スペイン語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語(Ia 文法), Ia(文法)に引き続き、<u>基本的に週1コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。		① 春学期の復習 ② 代名詞の使い方 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧ 動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑨ 動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑩ 動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪ 現在時制の復習と練習 ⑫ 現在時制の復習と練習 ⑬ 全体のまとめと未習の文法事項について ⑭ 全体のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語 (Ia 文法) スペイン語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 スペイン語 (Ia 会話), Ia (会話) とのペア履修 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、秋学期に「Ia」の授業を行います。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ ser, estar 動詞の使い方 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の使い方 ⑬ 代名詞の使い方 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版 (黄色い表紙)” 朝日出版社、および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語 (Ib 文法) スペイン語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語(Ia 文法), Ia (文法) に引き続き、基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 スペイン語 (Ib 会話), Ib (会話) とのペア履修 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、春学期に「Ib」の授業を行います。		① 春学期の復習 ② 代名詞の使い方 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑨ 動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑩ 動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪ 動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑫ 現在時制の復習と練習 ⑬ 現在時制の復習と練習 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版 (黄色い表紙)” 朝日出版社 また、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語 (Ia 会話) スペイン語 Ia (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>スペイン語(Ia 文法), Ia (文法)とのペア履修</u> ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ia」の授業を行います。		学習目標となる文法項目は、スペイン語(Ia 文法), Ia (文法)の項目と同じであるが、スペイン語 (Ia 会話), Ia (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(Ia 文法), Ia (文法)の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：<u>柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版 (黄色い表紙)” 朝日出版社</u> および、担当者が随時プリント等を配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語 (Ib 会話) スペイン語 Ib (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語(Ia 会話), Ia (会話) に引き続き、<u>基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>スペイン語(Ib 文法), Ib (文法)とのペア履修</u> ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ib」の授業を行います。		学習目標となる文法項目は、スペイン語(Ib 文法), Ib (文法)の項目と同じであるが、スペイン語(Ib 会話), Ib (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(Ib 文法), Ib (文法)の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：<u>柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版 (黄色い表紙)” 朝日出版社</u> また、担当者が随時プリント等を配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週1コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とした、スペイン語(Ⅱa, b文法) およびⅡa, b(文法)の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
上記のスペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa(文法) に引き続き、<u>基本的に週1コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。		① 春学期の復習 ② 比較表現と過去時制の復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤ 未来形と過去未来形の対比 ⑥ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩ 命令表現 ⑪ 命令表現 ⑫ 接続法を使った表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅱa, b 文法）およびⅡa, b(文法)の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 スペイン語(Ⅱa 会話), Ⅱa(会話)とのペア履修 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、秋学期に「Ⅱa」の授業を行います。		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa(文法) に引き続き、基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 スペイン語(Ⅱb 会話), Ⅱb(会話)とのペア履修 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、春学期に「Ⅱb」の授業を行います。		① 春学期の復習 ② 比較表現と過去時制の復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤ 未来形と過去未来形の対比 ⑥ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩ 命令表現 ⑪ 命令表現 ⑫ 接続法を使った表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱa 会話） スペイン語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>スペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa(文法)とのペア履修</u> ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		学習目標となる文法項目は、スペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa(文法)の項目と同じであるが、スペイン語(Ⅱa 会話), Ⅱa(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa(文法)の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱb 会話） スペイン語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語(Ⅱa 会話), Ⅱa(会話)に引き続き、<u>基本的に週2コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>スペイン語(Ⅱb 文法), Ⅱb(文法)とのペア履修</u> ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		学習目標となる文法項目は、スペイン語(Ⅱb 文法), Ⅱb(文法)の項目と同じであるが、スペイン語(Ⅱb 会話), Ⅱb(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(Ⅱb 文法), Ⅱb(文法)の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

05～07 年度	スペイン語Ⅲa（講読）	担当者	結城 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はスペイン語 I, II を既に学んだ者を対象としている。既習の文法事項と語彙・表現を復習・発展させつつ、スペイン語の文を読む技術を身につけることを目的としている。 各回とも授業の前半は講読、後半は文法等を扱う。なお、右記の授業計画における学習事項は講読のテーマ、取り上げる文法事項の順である。講読では文や文章の構造に注目し、より明解な理解を目指す。文法については既習事項の復習の後、接続法を中心に扱う。語彙・表現については講読資料の内容にあわせたものを扱っていく。課題・小テストも実施する可能性がある。 予習と授業への積極的な参加が必要とされる。毎回の授業には下記の参考文献を持参すること。また、授業計画は進度等により調整を加えることがある。		1. 既習事項の復習 2. スペインと日本、既習事項の復習 3. スペインと日本、既習事項の復習 4. スペインと日本、既習事項の復習 5. 世界のスペイン語、既習事項の復習 6. 世界のスペイン語、接続法（概論） 7. 前半の復習 8. 世界のスペイン語、接続法（形態） 9. サンティアゴの道、接続法（形態） 10. サンティアゴの道、接続法（形態） 11. サンティアゴの道、接続法（名詞節） 12. フラメンコ、接続法（名詞節） 13. フラメンコ、接続法（名詞節） 14. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：坂東省次他『トピックスで学ぶスペイン語世界』（白水社、2007 年） 参考文献：過去の授業で使用した教科書と辞書		「毎回の授業への参加度・積極性」と「各種テスト及び提出物」とを概ね 3：7 の比重で評価する。	

05～07 年度	スペイン語Ⅲb（講読）	担当者	結城 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はスペイン語 I, II を既に学んだ者を対象としている。既習の文法事項と語彙・表現を発展させつつ、より長く、複雑なスペイン語を読む技術を身につける。 各回とも授業の前半は講読、後半は文法を扱う。なお、右記の授業計画における学習事項は講読のテーマ、取り上げる文法事項の順である。講読では文章の構造や表現手法に注目し、より明解な理解を目指す。文法については接続法を引き続き扱った後、既習事項の応用的内容を扱う。語彙・表現については講読資料の内容にあわせたものを取り上げる。課題・小テストも実施する可能性がある。 予習と授業への積極的な参加が必要とされる。毎回の授業には下記の参考文献を持参すること。また、授業計画は進度等により調整を加えることがある。		1. 既習事項の復習 2. スペインの食生活、既習事項の復習 3. スペインの食生活、接続法（形容詞節） 4. スペインの食生活、接続法（副詞節） 5. 闘牛、接続法（副詞節） 6. 闘牛、接続法（副詞節） 7. 前半の復習 8. 闘牛、接続法（単文） 9. 観光大国スペイン、時制 10. 観光大国スペイン、時制 11. 観光大国スペイン、現在分詞・過去分詞 12. スペインのサッカー、前置詞 13. スペインのサッカー、話法 14. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：坂東省次他『トピックスで学ぶスペイン語世界』（白水社、2007 年） 参考文献：過去の授業で使用した教科書と辞書		「毎回の授業への参加度・積極性」と「各種テスト及び提出物」とを概ね 3：7 の比重で評価する。	

05～07 年度	スペイン語Ⅲa（会話）	担当者	J．フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人に繰り返し返させて、スペイン語らしい発音が出来るようにすることとともに聞き取り能力を養成する。参加者のご興味にしたがって色んな話をして見る。		参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト代わり必要な時プリントを配布する。		出席、授業への積極的参加、小テスト。	

05～07 年度	スペイン語Ⅲb（会話）	担当者	J．フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
季節ごと、スペイン語圏の国々に於ける祝日、記念日、行事、慣習（イースター、学生=春の日、死者の日、クリスマスなど）をビデオや写真によって学ぶこと。日本文化との比較できるだけスペイン語を使いながら表現して見ること。参加者のご興味にしたがって色んな話をして見ること。		参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト代わり必要な時プリントを配布する。		出席、授業への積極的参加、小テスト。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語 (Ia 会話) 中国語 Ia (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。 【講義概要】 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。		第1回～第2回：授業の進め方などについての説明・発音 第3回：発音・第1課 第4回：発音・第1課 第5回：発音・第2課 第6回：第2課 第7回：第3課 第8回：第4課 第9回：中間考査 第10回：第5課 第11回：第6課 第12回：第7課 第13回：復習 第14回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『1冊目の中国語 会話クラス』白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語 (Ib 会話) 中国語 Ib (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。 【講義概要】 中国語の発音をはじめとして基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語学習の基本として、春学期に学んだ“ピンイン”の読み方を徹底する。 ついで春学期に学んだ分法事項を復習しつつ、基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。		第1回：復習 第2回：第8課 第3回：第9課 第4回：復習 第5回：第10課 第6回：第11課 第7回：復習 第8回：中間考査 第9回：第12課 第10回：第13課 第11回：復習 第12回：第14課 第13回：第15課 第14回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『1冊目の中国語 会話クラス』白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語 (Ia 会話) 中国語 Ia (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話ができるようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。 【講義概要】 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ia」の授業を行います。		第1回～第2回：授業の進め方などについての説明・発音 第3回：発音・第1課 第4回：発音・第1課 第5回：発音・第2課 第6回：第2課 第7回：第3課 第8回：第4課 第9回：中間考査 第10回：第5課 第11回：第6課 第12回：第7課 第13回：復習 第14回：復習 ※各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『1冊目の中国語 会話クラス』白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語 (Ib 会話) 中国語 Ib (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話ができるようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。 【講義概要】 中国語の発音をはじめとして基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語学習の基本として、春学期に学んだ“ピンイン”の読み方を徹底する。 ついで春学期に学んだ分法事項を復習しつつ、基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ib」の授業を行います。		第1回：復習 第2回：第8課 第3回：第9課 第4回：復習 第5回：第10課 第6回：第11課 第7回：復習 第8回：中間考査 第9回：第12課 第10回：第13課 第11回：復習 第12回：第14課 第13回：第15課 第14回：復習 ※各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『1冊目の中国語 会話クラス』白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語 (Ia 講読・文法) 中国語 Ia (講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり、語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」が総合的に身につくことを目指す。 【講義概要】 週2回の授業のうち、この時間は語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」を総合的に扱うが、「書く」「読む」— (講読・文法) にやや重きを置く。 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた作文練習などもおこない、知識の定着を図る。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ia」の授業を行います。		第1回～第2回：授業の進め方などについての説明・発音 第3回：発音・第1課 第4回：発音・第1課 第5回：発音・第2課 第6回：第2課 第7回：第3課 第8回：第4課 第9回：復習・中間考査 第10回：第5課 第11回：第6課 第12回：第7課 第13回：復習 第14回：復習 *各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『1冊目の中国語 講読クラス』白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語 (Ib 講読・文法) 中国語 Ib (講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語の基礎力をつける。基本的な構文が分かり、語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」が総合的に身につくことを目指す。 【講義概要】 中国語の発音の復習から始める。中国語学習には不可欠である春学期に学んだ“ピンイン”の読み方を徹底する。 ついで春学期に学んだ分法事項を復習しつつ、基本的な文型を学び、文型を用いた作文練習などもおこない知識の定着を図る。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ib」の授業を行います。		第1回：ピンインの読み方などの確認 第2回：第8課 第3回：第9課 第4回：復習 第5回：第10課 第6回：第11課 第7回：復習 第8回：中間考査 第9回：第12課 第10回：第13課 第11回：復習 第12回：第14課 第13回：第15課 第14回：復習 *各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『1冊目の中国語 講読クラス』白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の達成度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語（Ⅱa 会話） 中国語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。とりわけ実践的な会話力の習得を目指す。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつけるよう練習を行う。		第1回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第2回：第1課 我来介绍一下 第3回：第2課 你想去看看吗？ 第4回：復習 第5回：第3課 咱们去吃早点吧 第6回：第4課 要什么有什么 第7回：中間考査 第8回：第5課 到中国朋友家做客 第9回：第6課 学做中国菜 第10回：復習 第11回：第7課 一点儿小意思 第12回：第8課 能陪我上趟街吗？ 第13回：復習 第14回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『実力のつく中国語』楊凱榮 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語（Ⅱb 会話） 中国語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつけるよう練習を行う。		第1回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第2回：第9課 知道怎么走了吗？ 第3回：第10課 在外面乘凉 第4回：復習 第5回：第11課 都去哪儿玩儿了？ 第6回：第12課 什么报纸最有意思？ 第7回：中間考査 第8回：第13課 看过中国的戏剧吗？ 第9回：第14課 我怕翻不好 第10回：復習 第11回：第15課 摔得厉害吗？ 第12回：第16課 真舍不得跟你分手 第13回：復習 （第14回）：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『実力のつく中国語』楊凱榮 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語（Ⅱa 会話） 中国語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつける。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		第1回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第2回：第1課 我来介绍一下 第3回：第2課 你想去看看吗？ 第4回：復習 第5回：第3課 咱们去吃早点吧 第6回：第4課 要什么有什么 第7回：中間考査 第8回：第5課 到中国朋友家做客 第9回：第6課 学做中国菜 第10回：復習 第11回：第7課 一点儿小意思 第12回：第8課 能陪我上趟街吗？ 第13回：復習 第14回：復習 ※各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『実力のつく中国語』楊凱榮 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語（Ⅱb 会話） 中国語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつける。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		第1回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第2回：第9課 知道怎么走了吗？ 第3回：第10課 在外面乘凉 第4回：復習 第5回：第11課 都去哪儿玩儿了？ 第6回：第12課 什么报纸最有意思？ 第7回：中間考査 第8回：第13課 看过中国的戏剧吗？ 第9回：第14課 我怕翻不好 第10回：復習 第11回：第15課 摔得厉害吗？ 第12回：第16課 真舍不得跟你分手 第13回：復習 （第14回）：復習 ※各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『実力のつく中国語』楊凱榮 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語（Ⅱa 講読・文法） 中国語 Ⅱa（講読・文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらにややレベルアップした語彙・文型などを学び、総合的な中国語力を身につけることを目指す。 【講義概要】 週2回の授業の中でこの時間は「講読・文法」に重きを置く。 テキストには1年次よりも内容的にやや難しい、量的にも比較的長い文章が出てくる。文法事項を理解したうえで読解し、練習問題などで知識の定着をはかる。 テキストの内容は現代中国を理解するためのさまざまなトピックについて説明する文章であり、日中両国の文化や表現形式を比較するてがかりとなる。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>秋学期</u>に「Ⅱa」の授業を行います。		第1回：授業の進め方などについての説明 第2～4回：第1課 中国人の食生活 第5～7回：第2課 家族間の挨拶 第8回：復習・中間考査 第9～11回：第3課 中国人の付き合い 第12～14回：第4課 交際上のマナー *各クラスの学習状況および習熟度に応じて適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国ってこんな国！ 素顔の‘漢流’生活』 池上貞子 他 朝日出版社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語（Ⅱb 講読・文法） 中国語 Ⅱb（講読・文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらにややレベルアップした語彙・文型などを学び、総合的な中国語力を身につけることを目指す。 【講義概要】 週2回の授業の中で「講読・文法」に重きを置く。 テキストには1年次よりも内容的にやや難しい、量的にも比較的長い文章が出てくる。文法事項を理解したうえで読解し、練習問題などで知識の定着をはかる。 テキストの内容は現代中国を理解するためのさまざまなトピックについて説明する文章であり、日中両国の文化や表現形式を比較するてがかりとなる。 ※英語学科の第二外国語「再履修クラス」では、<u>春学期</u>に「Ⅱb」の授業を行います。		第1回：授業の進め方などについての説明 第2～4回：第5課 中国人のレジャー・娯楽 第5～7回：第6課 中国の交通手段 第8回：復習・中間考査 第9～11回：第7課 通過儀礼 第12～14回：第8課 慶事の赤、弔事の黒 *各クラスの学習状況および習熟度に応じて適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国ってこんな国！ 素顔の‘漢流’生活』 池上貞子 他 朝日出版社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

05～07 年度	中国語Ⅲa(会話)	担当者	劉 岸麗
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つ的话题をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。		第1回～第14回：テキスト Unit1～Unit5 (内 容) 各 Unit の話題ごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：新版 『トーク・トピックス』白帝社		期末試験と平常点（小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。	

05～07 年度	中国語Ⅲb(会話)	担当者	劉 岸麗
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つ的话题をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。		第1回～第14回：テキスト Unit6～Unit10 (内 容) 各 Unit のテーマごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：新版 『トーク・トピックス』白帝社		期末試験と平常点（小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。	

05～07 年度	中国語Ⅲa（講読・文法）	担当者	平野 佐和
講義目的、講義概要		授業計画	
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。		1. 第1課 読解 2. 第1課 応用練習 3. 第2課 読解 4. 第2課 応用練習 5. 第3課 読解 6. 第3課 応用練習 7. 第4課 読解 8. 第4課 応用練習 9. 第5課 読解 10. 第5課 応用練習 11. 第6課 読解 12. 第6課 応用練習 13. 第7課 読解 14. 第7課 応用練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『2009 年度版 時事中国語の教科書』 朝日出版社		期末試験と平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）によって評価します。	

05～07 年度	中国語Ⅲb（講読・文法）	担当者	平野 佐和
講義目的、講義概要		授業計画	
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。		1. 第8課 読解 2. 第8課 応用練習 3. 第9課 読解 4. 第9課 応用練習 5. 第10課 読解 6. 第10課 応用練習 7. 第11課 読解 8. 第11課 応用練習 9. 第12課 読解 10. 第12課 応用練習 11. 第13課 読解 12. 第13課 応用練習 13. 第14課 読解 14. 第14課 応用練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『2009 年度版 時事中国語の教科書』 朝日出版社		期末試験と平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）によって評価します。	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰa 総合） 朝鮮語Ⅰa（総合）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：初めて韓国語に触れる学習者を対象として、文字と発音からはじめ、簡単な自己紹介、肯定文、疑問文、否定文がつくれるようにします。 講義概要：テキストに沿って進めて行きます。また知識を定着させるために、小テストを行います。		第1回 ガイダンス：授業の概要紹介 第2回～第5回 韓国語の文字・文章の理解と解読 第6回～第13回 「自己紹介」 「出身はソウルですか」 「図書館ではありません」 「時間がありますか」 「インターネットをします」など 第14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会）		出席、授業態度、小テスト、期末試験を総合的に勘案する	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰb 総合） 朝鮮語Ⅰb（総合）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：韓国語Ⅰa 総合で学んだことに加えて、体言・用言の様々なタイプ、数詞や過去形などを学んで行きます。 講義概要：テキストに沿って進めて行きます。また知識を定着させるために、小テストを行います。		第1回 ガイダンスおよび復習テスト 第2回～第13回 「貿易会社で働いています」 「東大門市場に行きます」 「それは1万ウォンです」 「今、何時ですか」 「そんなに遠くありません」 「いつ韓国に来ましたか」など 第14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会）		出席、授業態度、小テスト、期末試験を総合的に勘案する	

08年度以降 05～07年度	韓国語（I a 講読・会話） 朝鮮語 I a（講読・会話）	担当者	金 貞我（キム ジョンア）
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の基礎を、文字の読み書きと基礎的な会話を中心に学ぶ。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行い、簡単な自己紹介を中心とした基礎的な会話力を身に付ける。また、韓国・朝鮮の生活と文化などについても紹介する。初めて韓国語を学ぶ人を対象に分かりやすく説明し、“話せる韓国語、使える韓国語”の習得を目指す。		●授業の進め方 4月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 5月：ハングルの習得と文法の基礎 6月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 7月：前期の復習と試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
金真・松井聖一郎著『みんなで学ぶ韓国語（会話編）』（朝日出版社）。他に必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストおよび平常点（50％）と定期試験の成績（50％）を総合して評価する。	

08年度以降 05～07年度	韓国語（I b 講読・会話） 朝鮮語 I b（講読・会話）	担当者	金 貞我（キム ジョンア）
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、韓国語の基礎を固めながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。韓国・朝鮮の生活と文化などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。		●授業の進め方 9月：ハングルの復習と文法の基礎、前期の復習 10月：日常会話の練習 11月：総合的な表現力を高める 12月：後期の復習と試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
金真・松井聖一郎著『みんなで学ぶ韓国語（会話編）』（朝日出版社）。他に必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストおよび平常点（50％）と定期試験の成績（50％）を総合して評価する。	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱa 総合） 朝鮮語Ⅱa（総合）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：本講義は、ハングルの文字と発音を習得し、また初級の文法事項を理解している人を対象として、ワンステップ上の表現を学習します。 講義概要：テキストに沿って進めていく予定ですが、進行のペースや内容の深度については、受講者のレベルや関心などを勘案して進めていきます。		第1回 ガイダンス：授業の概要紹介 第2回～第13回 次のような表現を習得する 「遅れて申し訳ありません」 「この背の高い人がご主人ですか」 「付き合っている人はいませんでした」 「通いながらずっと学びましたか」 「どこに行くつもりですか」 「小学校で習ったことがありますよ」 「韓国が勝ちそうです」 「見ようと思います」など 第14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座 中級』（国書刊行会）		出席、授業態度、小テスト、期末試験を総合的に勘案する	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱb 総合） 朝鮮語Ⅱb（総合）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：本講義は、ハングルの文字と発音を習得し、また初級の文法事項を理解している人を対象として、ワンステップ上の表現を学習します。 講義概要：テキストに沿って進めていく予定ですが、進行のペースや内容の深度については、受講者のレベルや関心などを勘案して進めていきます。		第1回～第13回 次のような表現を習得する 「実現したらいいのですが」 「高校の時に修学旅行で来ました」 「開かれるといいます」 「すごくきれいになりましたよ」 「建てられて以来どのくらい経ちましたか」 「健康そうですね」 「同い年かもしれません」 「タレでも作っておいて」 「私も行くから」など 第14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座 中級』（国書刊行会）		出席、授業態度、小テスト、期末試験を総合的に勘案する	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱa 総合） 朝鮮語Ⅱa（総合）	担当者	森 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容： 本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。		1回 ガイダンス：授業の概要紹介 2～13回 多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「週末は何をしますか」 「何が一番好きですか」 「韓国に行ってきました」 「デザイナになりたいです」 「今、何時ですか」 「日本語を話されますか」 「そんなに遠くありません」 14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
長谷川由起子 著 『コミュニケーション韓国語 会話編1』白帝社		原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱb 総合） 朝鮮語Ⅱb（総合）	担当者	森 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容： 本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。		1回 ガイダンス：授業の概要紹介 2～13回 多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「いつ韓国に来ましたか」 「民族村に一緒に行きましょう」 「パーティーの準備をしています」 「何にも食べられませんでした」 「陶磁器が見たいです」 「写真を撮ってもいいですか」 「来週帰国します」 「大変お世話になりました」 14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会		原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱa 講読・会話） 朝鮮語Ⅱa（講読・会話）	担当者	森 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。		1回 本講義に対する紹介、概要説明 2～13回 次のようなテーマの内容で、クラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「空港で」 「家族」 「交際」 「職場」 「会食」 「スポーツ」 「映画」 「天気」 14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
『基礎から学ぶ韓国語講座中級』、木内明著、国書刊行会		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱb 講読・会話） 朝鮮語Ⅱb（講読・会話）	担当者	森 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。		1回 本講義に対する紹介、概要説明 2～13回 以下のようなテーマの内容を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。 「アルバイト」 「乾杯」 「修学旅行の思い出」 「見物」 「顔」 「遺跡」 「健康」 「同世代」 14回 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
『基礎から学ぶ韓国語講座中級』、木内明著、国書刊行会		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語 I a 基礎） イタリア語 I a	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		1 ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2 イタリア語の発音について 3 名詞と冠詞（1） 4 名詞と冠詞（2） 5 挨拶の表現、形容詞 6 イタリア語の be 動詞と have 動詞：essere と avere 7 規則動詞の現在形（1） 8 規則動詞の現在形（2） 9 規則動詞の現在形（3） 10 会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11 前置詞 12 不規則で重要な動詞（1） 13 不規則で重要な動詞（2） 14 不規則で重要な動詞（3）	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。		平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数が多い者には単位を認めない。	

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語 I b 基礎） イタリア語 I b	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリア語 I a に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		1 会話表現：家族構成を話す 2 様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3 所有形容詞（1） 4 所有形容詞（2） 5 会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6 代名動詞（1） 7 代名動詞（2） 8 会話表現：あるものが存在するかないかを聞く 9 比較級と最上級 10 会話表現：バーやレストランでの注文と支払い 11 近過去（1） 12 近過去（2） 13 近過去（3） 14 近過去（4）	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。		平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数が多い者には単位を認めない。	

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語 I a 基礎） イタリア語 I a	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） I の段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です。この観点からして次のような練習が主軸になります。 1) グループ毎による基本会話練習。 2) 文字を見ずに聞き取りに徹する。ネイティブの発話を繰り返す練習。 3) 要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習。		1) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 3) -are 型規則動詞の練習(1) 4) -are 型規則動詞の練習(2) 5) -ere, -ire 型規則動詞の練習(1) 6) -ere, -ire 型規則動詞の練習(2) 7) -ere, -ire 型規則動詞の練習(3) 8) 不規則動詞 andare の練習 9) 不規則動詞 avere の練習 10) 不規則動詞 essere の練習(1) 11) 不規則動詞 essere の練習(2) 12) 不規則動詞 essere の練習(3) 13) 冠詞(1) 14) 形容詞(1)	
テキスト、参考文献		評価方法	
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（CD付）』朝日出版社 2006 年		授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語 I b 基礎） イタリア語 I b	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 基本的には春学期と同様ですが、簡単な文章を読む練習も取り入れ、その度合いを徐々に増やしていきます。		1) 冠詞(2) 2) 形容詞(2) 3) 所有形容詞 4) 不規則動詞 dovere, potere の練習 5) 不規則動詞 volere, sapere の練習 6) 人称代名詞対格形の練習 7) 人称代名詞与格形の練習 8) 頻出不規則動詞の練習 9) 規則動詞 piacere の練習 10) 近過去形の練習(1) 11) 近過去形の練習(2) 12) 近過去形の練習(3) 13) 再帰動詞の練習(1) 14) 再帰動詞の練習(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（CD付）』朝日出版社 2006 年		授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語Ⅱa 基礎） イタリア語Ⅱa	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解、読解各面からの練習が中心となります。		1) 近過去形の復習(1) 2) 近過去形の復習(2) 3) 近過去形の復習(3) 4) 再帰動詞の復習(1) 5) 再帰動詞の復習(2) 6) 半過去形の練習(1) 7) 半過去形の練習(2) 8) 半過去形の練習(3) 9) 半過去形の練習(4) 10) 未来形の練習(1) 11) 未来形の練習(2) 12) 条件法形の練習(1) 13) 条件法形の練習(2) 14) 条件法形の練習(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語Ⅱb 基礎） イタリア語Ⅱb	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 伊語初級文法の完成を目指します。また文学作品等の講読、映画鑑賞も行う予定です。		1) 遠過去形の練習(1) 2) 遠過去形の練習(2) 3) 遠過去形の練習(3) 4) 遠過去形の練習(4) 5) 命令形の練習 6) 接続法形の練習(1) 7) 接続法形の練習(2) 8) 接続法半過去形の練習(1) 9) 接続法半過去形の練習(2) 10) 講読(1) 11) 講読(2) 12) 講読(3) 13) 講読(4) 14) 映画鑑賞	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ポルトガル語 I a 基礎） ポルトガル語 I a	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語 I b に続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、練習問題による基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明し、適宜、小テストで習得度を確認していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。		1. 文字と発音(1)、2. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser 2. 文字と発音(2)、否定文、真偽疑問文 3. 文字と発音(3)、名詞の性数、定冠詞、不定冠詞 4. 形容詞の性数変化 5. -ar 規則動詞の直説法現在形 6. 前置詞 de, em, com 7. 不規則動詞 estar 8. 所有詞、基数詞(1) 9. -er 規則動詞と -ir 規則動詞の直説法現在形 10. 疑問詞、指示詞、指示副詞、曜日名 11. 不規則動詞 ter, querer, ir 12. 前置詞 a, para, por、副詞 já, ainda 13. 規則動詞の過去形、不規則動詞の過去形(1) 14. 不定形容詞 todo, cada、時間表現(1)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：武田千香『ブラジルのポルトガル語入門』三省堂、2001年 辞書：上記を参照のこと		出席点 3 割 + 定期試験点 4 割 + 小テスト平均点 3 割とし、60 点以上の者を合格とします。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ポルトガル語 I b 基礎） ポルトガル語 I b	担当者	牧野真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では前期のポルトガル語 I a に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、練習問題による基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明し、適宜、小テストで習得度を確認していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。		1. 不規則動詞の現在形(1)と過去形(2)、不規則動詞 poder 2. 不定形容詞 algum, nenhum、現在分詞、進行形、 3. 目的格人称代名詞、不規則動詞現在形(2)と過去形(3) 4. 序数詞、前置詞 de, em, a と指示詞の縮約形 5. 再帰代名詞、再帰動詞、 6. 基数詞(2) 7. 感嘆文、強調構文(1) 8. 時間表現(2) 9. 直説法半過去形、年月日の表現 10. 不規則な名詞・形容詞の複数形 11. 関係代名詞 que, quem 12. 指小辞、命令形 13. 過去分詞、直説法大過去形、 14. 接尾辞-mente、絶対最上級の分析形と総合形	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：武田千香『ブラジルのポルトガル語入門』三省堂、2001年 辞書：上記を参照のこと		出席点 3 割 + 定期試験点 4 割 + 小テスト平均点 3 割とし、60 点以上の者を合格とします。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ポルトガル語Ⅱa 応用） ポルトガル語Ⅱa	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は前年度の「ポルトガル語Ⅰ」を受け、基本的な文法項目と定型表現を確実に習得することを目指します。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、練習問題による基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明し、適宜、小テストで習得度を確認していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。		1. 優等比較級、劣等比較級 2. 同等比較級、相対最上級、前置詞と不定冠詞の縮約形 3. 受動文、結果構文 4. 前置詞格人称代名詞、不規則動詞現在形(3) 5. 直説法複合過去形、andar + 現在分詞 6. 二重過去分詞、動詞 saber, poder, conseguir の用法 7. 直説法未来形、直説法前未来形 8. 気象表現、時間表現(3) 9. 条件法現在形、条件法過去形 10. 動詞 ser + 形容詞 + 不定詞の構文 11. 現在分詞節 12. 間接疑問節を導く接続詞 se、動詞 dar を含む表現 13. 過去分詞節 14. 関係代名詞 o que, quem、指示詞 o(s), a(s)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：武田千香『ブラジルのポルトガル語入門』三省堂、2001年 辞書：上記を参照のこと		出席点5割 + 小テスト平均点5割とし、60点以上の者を合格とします。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ポルトガル語Ⅱb 応用） ポルトガル語Ⅱb	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は前期のポルトガル語Ⅱaを受け、基本的な文法項目と定型表現を確実に習得することを目指します。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、練習問題による基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明し、適宜、小テストで習得度を確認していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。		1. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 2. 完了不定詞、時間表現(4) 3. 接続法現在形(1) 4. 接続法現在形(2) 5. 接続法半過去形 6. 接続法過去形と接続法大過去形 7. 強調構文(2) 8. 接続法未来形、接続法前未来形 9. 仮定文、人称不定詞 10. 総復習と応用(1) 11. 総復習と応用(2) 12. 総復習と応用(3) 13. 総復習と応用(4) 14. 総復習と応用(5) 応用(1)-(5)については受講者と相談して決定します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：武田千香『ブラジルのポルトガル語入門』三省堂、2001年 辞書：上記を参照のこと		出席点5割 + 小テスト平均点5割とし、60点以上の者を合格とします。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅰa 総合） ロシア語Ⅰa（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
ロシアはヨーロッパとアジアのちょうど中間に位置する、独特の風土を持つ国であり、皆さんもご存知のように、芸術・スポーツ・学問など多くの分野ですぐれた文化を生みだしてきました。 また、近年はめざましい経済成長を遂げ、多極化する今日の国際社会の中で、重要な一角を担っています。日本との関係においても、とくに経済面での関係の進展が著しく、ビジネスの世界では、すでにロシア語ができる人材が求められるようになってきています。 この授業はまったくの初心者を対象とし、アルファベットの読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。授業では、なによりも堅実なロシア語力を身につけてもらうことに留意して、ロシア語のしくみについて、分かりやすく解説してゆきます。 会話を中心とした「ロシア語Ⅰa 会話」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。		全体で教科書の第9課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-8 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在変化（1） 13-14 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） 外国語を身につけるための授業なので、教室では受講者の皆さん一人一人の練習に重点を置きます。 ロシアの歴史・文化・政治などについての基礎知識も、随時とりあげてゆくつもりです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅰb 総合） ロシア語Ⅰb（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅰa 総合」の続編の授業です。「Ⅰa」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。		全体で教科書の第18課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1 場所の表現（2）（前置詞） 2 動詞の現在変化（2） 3 不規則動詞の現在変化 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞の格変化（1）生格 10-11 名詞の格変化（2）対格 12 動詞の過去変化 13-14 運動の動詞、方向の表現	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅰa 会話） ロシア語Ⅰa（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 ロシアは政治的にはもちろん、近年経済的なプレゼンスを高めつつあり、日本もそうした面で深く関わりをもつようになってきています。その意味でロシア語はますます重要性を増してゆく言語だといえるでしょう。しかしロシアはそれだけでなく実に多様で奥深い文化的足跡を残してきた国です。ロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。		1. ガイダンス 2. 文字と発音（1） 3. 文字と発音（2） 4. 文字と発音（3） 5. 名詞の性、代名詞 6. 形容詞の変化 7. 名詞の複数形 8. 所有代名詞 9. 人称代名詞 10. 動詞の現在形（1） 11. 名詞の対格（1） 12. 願望の表現 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間を持ちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅰb 会話） ロシア語Ⅰb（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
ロシア語Ⅰaの続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。		1. 春学期の復習 2. 方向と場所の表現 3. 時間の表現 4. 年齢の表現 5. 運動の動詞 6. 名詞の生格、所有の表現 7. 曜日の表現 8. 未来の表現 9. 形容詞の変化 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 動詞の過去 12. 名詞の対格（2） 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間を持ちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱa 総合） ロシア語Ⅱa（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
昨年度の「ロシア語Ⅰ 総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期、および秋学期の最初のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎をしっかりとマスターすることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ 会話」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 大学を卒業してしまうとロシア語を学ぶ機会も少なくなります。迷っている人は、とにかく最初の授業に足を運んでみてください。春学期までの内容をマスターすれば、ロシア語検定4級に合格することが十分可能になります。		教科書の第18課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめである「格変化」（日本語の助詞に相当）が中心になります。授業ではこの「格変化」について、習得のコツも含め、できるだけ分かりやすく解説してゆくつもりです。 1-2 運動の動詞、方向の表現 3-4 格変化・生格 5-6 格変化・前置格 7 まとめと応用（数詞） 8-9 格変化・与格 10-11 状態の表現（無人称文） 12 未来の表現 13-14 数詞と名詞 さらに、ロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、プリント教材を用いて簡単な文章の読解練習も始めます。 その他、春・秋学期を通じて、ロシアの映画を何本か見る予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱb 総合） ロシア語Ⅱb（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅱa 総合」の続編の授業です。最終的に、辞書を引きながら、自力でロシア語の文章を読めるだけの力をつけることを目標にします。		教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて、ロシア語の文章の読解練習、および新たな文法事項の習得を行なってゆきます。これまでの復習や、基本単語の習得にも多く時間を割くつもりです。 1-2 格変化・造格 3-4 まとめと応用（前置詞と格変化） 5-7 動詞の体（不完了体と完了体） 8-10 読解練習、格変化の総まとめ 11 読解練習、形容詞短語尾 12 読解練習、比較級・最上級 13 読解練習、関係代名詞 14 読解練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱa 会話） ロシア語Ⅱa（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅰ 会話」の続きの授業ですが、「ロシア語Ⅰ」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語Ⅰ 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。 毎年 10 月に行われるロシア語能力検定試験を受験してみることをお勧めします。受講生から希望があれば、受験に向けた対策も授業のなかで行いたいと思います。		1. ガイダンス 2. 名詞の生格 3. 所有の表現 4. 曜日の表現 5. 未来の表現（1） 6. 名詞の前置格と場所の表現 7. 過去の表現 8. 名詞の対格 9. 名詞の与格 10. 名詞の造格 11. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 12. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間を持ちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱb 会話） ロシア語Ⅱb（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅱa 会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。		1. 春学期の復習 2. 動詞の未来 3. 形容詞の格変化 4. 「暑い」「寒い」等の表現 5. 運動の動詞 6. 前置詞のまとめ 7. 仮定の表現 8. 関係代名詞 9. 順序数詞（1） 10. 順序数詞（2） 11. 会話文を作る（1） 12. 会話文を作る（2） 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間を持ちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅰa） タイ語Ⅰa	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 文字は基礎タイ語Ⅱ（タイ語Ⅱa）で学ぶ。時間に余裕のある人は両方履修してもよい。		1 導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音）	
		2 会話1（挨拶、所在に関する表現）	
		3 会話2（ものの性質などに関して）	
		4 会話3（家族）、タイ語を聞いて書く	
		5 会話4（所有、存在）、タイ語を聞いて書く	
		6 会話5（職業、国名）タイ語を聞いて書く	
		7 会話6（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く	
		8 会話7（名前、所在、手段などに関する表現）	
		9 会話8（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く	
		10 会話9（類別詞の用法1）、タイ語を聞いて書く	
		11 会話10（お金の計算）タイ語を聞いて書く	
		12 会話11（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く	
		13 タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）	
		14 タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験の成績および出席状況	

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅰb） タイ語Ⅰb	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
Ⅰaに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。		1 会話1（類別詞の用法2）、タイ語を聞いて書く	
		2 会話2（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く	
		3 会話3（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く	
		4 会話4（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く	
		5 会話5（レストランで）、タイ語を聞いて書く	
		6 会話6（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く	
		7 会話7（類別詞の用法3）、タイ語を聞いて書く	
		8 会話8（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く	
		9 会話9（電話をかける）、タイ語を聞いて書く	
		10 会話10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く	
		11 会話11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く	
		12 会話12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く	
		13 タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）	
		14 タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験の成績および出席状況	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（タイ語Ⅱ a） タイ語Ⅱ a	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。		1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？	
		2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音	
		3 文字の読み書き 1（中子音・高子音）	
		4 文字の読み書き 2（低子音と長母音）	
		5 文字の読み書き 3（真正二重子音・平音節・促音節）	
		6 文字の読み書き 4（声調符号、短母音）	
		7 文字の読み書き 5（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）	
		8 文字の読み書き 6（一字再読字）	
		9 文字の読み書き 7（タイ数字など）	
		10 文字の読み書き 8（特殊な表記）	
		11 タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定）	
		12 タイ事情（映画などのビジュアル教材）	
		13 講読 1（読み方、文章のつながり方など）	
		14 講読 2（読み方、タイ語らしい言い回し）	
テキスト、参考文献		評価方法	
「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント		定期試験の成績および出席状況	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（タイ語Ⅱ b） タイ語Ⅱ b	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
Ⅱ a で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。		1 講読 1（読み方、文章のつながり方など）	
		2 講読 2（平易な物語など）	
		3 文法 1（指示詞の用法）	
		4 文法 2（一般動詞の用法）	
		5 文法 3（形容詞の用法）	
		6 講読 3（平易な物語など）	
		7 文法 4（類別詞の用法・比較）	
		8 講読 4（タイの文化・祭り）	
		9 講読 5（首都バンコクについて）	
		10 文法 5（否定の表現）	
		11 講読 6（子どもの夢）	
		12 講読 7（書店）	
		13 タイ事情（現代映画の鑑賞）	
		14 タイ事情（現代映画の鑑賞）	
テキスト、参考文献		評価方法	
「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント		定期試験の成績および出席状況	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語 I a 会話と文化） アラビア語 I a（会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、ディスカッションを通して「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 また授業の半分を文化にあて、アラブの文学や古典音楽、ポップス、映画、演劇、書道芸術などに触れてアラブ人の感性や表現の世界に触れ、アラブの歴史や現代を生きるアラブ人の社会や日常についても広く取り上げていく計画です。 この講義は、「アラビア語 IIa 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。		1. Introduction 2. 文字と発音の基礎 3. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 4. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 5. 「ご機嫌いかがですか？」「元気です。おかげさまで」 6. 「あなたの名前は？」「私の名前は～」 7. 「私は東京出身の日本人です」国籍を述べる 8. 「私は学生です」職業の色々 9. 「これは何ですか」よく使う名詞 10. 「私は音楽が好きです」 11. 「私は映画が好きではありません」 12. 「トイレはどこですか？」 13. DVD 演劇鑑賞 14. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）		常時会話の小テストを行うほか、期末にレポートを提出してもらいます。積極的にディスカッションに参加してもらうことを期待します。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語 I b 会話と文化） アラビア語 I b（会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 またアラブ文学の作品を邦訳で講読します。取り上げる作品については、授業で詳しく述べます。 この講義は、「アラビア語 IIb 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。		1. 前期の復習 2. 「アレppo石鹸ありますか？」 3. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 4. 数と数字 5. 「私はアラビア語を勉強しています」 6. 「アスワンに行きたいです」 7. 「アラビア語を話すことができますか？」 8. 「水を下さい」「コーヒーがほしいです」 9. 「いくらですか？」「高いですね」 10. 「～さんはいますか？」「銀行ありますか？」 11. 「なぜ？」「なぜなら」 12. 「早く！」便利なとっさの一言 13. 映画鑑賞 14. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）		常時会話の小テストを行うほか、期末にレポートを提出してもらいます。積極的にディスカッションに参加してもらうことを期待します。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語Ⅱ a 読み書きと文法の基礎） アラビア語Ⅱ a（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見て、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は「アラビア語Ⅰa 会話と文化」と同時に履修することができます。		1. Introduction 2. アラビア文字を覚える (1) 挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える (2) 挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える (3) 自己紹介 5. アラビア文字に覚える (4) 「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える (5) アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 定冠詞の使い方「そのバスに乗りたいです」 12. 男性形と女性形「私は学生です」 13. 疑問詞「それは何ですか？」「それは誰ですか？」 14. 復習・テストなど	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）		授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語Ⅱ b 読み書きと文法の基礎） アラビア語Ⅱ b（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語Ⅰb 会話と文化」と同時に履修することができます。		1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 辞書の引き方の基礎 13. 辞書の引き方の基礎・復習 14. テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）		授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。	

08年度以降 05～07年度	外国語(現代ヘブライ語 Ia 基礎) 現代ヘブライ語 Ia	担当者	阿部 望
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムード、カバラー・ユダヤ神秘主義などの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を語彙や概念として現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけでなく、ユダヤ学全体への入口となります。 フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字がどのように生まれたのか、ギリシア文字、ローマ字がどう発展したかの歴史をたどります。 ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。皆さんは説明を聞きながら練習問題を解き、それを毎回授業の最後に提出します。 次回までに添削をして、返却および補足解説をおこない文法知識を身に付けていきます。		1. アルファベットの歴史・発音練習 2. ヘブライ文字の書き方・発音練習 3. ヘブライ語発音練習・会話練習 4. ヘブライ語会話練習 ヘブライ語起源の人名・地名 5. 名詞と形容詞、日本に進出するイスラエル企業 6. 名詞と形容詞の複数形 7. 動詞の現在形（1） 神名について「エホバ、ヤハウエ、アドナイ」 8. 動詞の現在形（2） 9. 動詞の現在形（3） フォークダンス「マイム・マイム」 10. 所有・所在・所持の表現 11. 不定詞の用法（1）手紙の書き方 12. 不定詞の用法（2） 会話練習「私はヘブライ語を話すことができます」 13. 総復習 14. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストはプリントで配布。 『ヘブライ語入門』改版 日本ヘブライ文化協会		授業毎のプリント提出（60%） 筆記試験（40%）	

08年度以降 05～07年度	外国語(現代ヘブライ語 Ib 基礎) 現代ヘブライ語 Ib	担当者	阿部 望
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続き、ヘブライ語文法を学びながら、基礎フレーズを盛り込んだ会話練習をし、ヘブライ語の物語を読みます。 セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点をピックアップして学びます。 1. バビロン捕囚によってヘブライ語は変わったのか。 2. イエス・キリスト時代の言語はアラム語か、ヘブライ語か。 3. ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 4. 現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の、エチケットを学びます。 ヘブライ語やユダヤにまつわる珍説・奇説などを紹介し、“俗本”がヘブライ語だと主張する日本語をヘブライ語学の観点から解説を加え、正しい知識を身に付けます。		1. 復習・会話練習 2. 会話練習、ユダヤ人の祭り（1） 3. パール動詞とピエル動詞、ユダヤ人の祭り（2） 4. 数詞、ユダヤ人の祭り（3） 住所と電話番号の言い方 5. 数詞、ユダヤ人のファミリーネーム（1） カバラー神秘主義に応用されたヘブライ数字 6. 不定詞の用法、名詞の用法（連結語） ユダヤ人のファミリーネーム（2） 7. 曜日の表し方（序数）、ヘブライ語の歴史 8. 再帰動詞の用法・名詞の不規則な複数形 9. 使役動詞の用法、 日・ユ同祖論について（本当か、嘘か） 10. 動詞の受動態・総復習 11. 動詞の構造 12. 動詞の過去形（1） 13. 動詞の過去形（2） 14. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストはプリントで配布。		授業毎のプリント提出（60%） 筆記試験（40%）	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅰa) 古典ギリシア語Ⅰa	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講義は、春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 <講義概要> 授業は毎回各単元1～2つずつ学習するペースで進みますが、途中10分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの諸情勢を映像などを交えて紹介しながら、アート・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとすることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。		1 字母・発音・音韻などの分類 (この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける) 2 音節・アクセント・句読点 (この時点で、古典ギリシア語の単語が読める) 3 動詞の変化・直接法能動相現在 (この時点で、単文が理解できる) 4 名詞の第一変化 (この時点で、名詞の規則変化が理解できる) 5 動詞の変化・直接法能動相未来 (この時点で、未来形の文章が読める) 6 動詞の変化・直接法能動相未完了過去 (この時点で、動詞の三時制がマスターできる) 7 名詞の第二変化 (この時点で、スペルがすらすら書けるようになる) 8 形容詞の変化(第一・第二変化)(性・数・格の一致) 9 前置詞(前置詞が格支配をすることを理解する) 10 動詞の変化・直接法能動相アオリスト 11 動詞の変化・現在完了と過去完了 12 指示代名詞・強意代名詞(強意代名詞の用法に注意) 13 新約聖書を読む(聖書が読める喜びを実感できる) 14 春学期まとめ * () 内は到達度チェックの際の目安です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト>田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、1648円)。初回時に持参すること。 <参考文献>なし。時々、プリントを配布します。		出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、時々小テストを実施して確認します。試験は行いません(つまり、厳格な平常点評価)。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅰb) 古典ギリシア語Ⅰb	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上 *なお、受講生は春学期に「古典ギリシア語Ⅰa」を履修していることが前提となります。		1 ε ι μ ι 動詞と φ η μ ι 動詞 (この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる) 2 疑問代名詞と不定代名詞(この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる) 3 動詞の変化・直接法中動相の各時制(1) (この時点で、中動相独特の用法が理解できる) 4 動詞の変化・中動相の各時制(2) (この時点で、微妙な文章表現が理解できる) 5 人称代名詞(この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる) 6 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞(この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる) 7 第二アオリストの用法(この時点で、動詞のいわゆる不規則変化が理解できる) 8 動詞の変化・直接法受動相 (この時点で、受け身の文章表現が理解できる) 9 名詞の第三変化(1)(この時点で、名詞の不規則変化の「変化の規則性」が理解できる) 10 名詞の第三変化(2) 11 能相欠如動詞と約音動詞 12 形容詞の第三変化(不規則変化の理解ができる) 13 接続法の用法(直接法と接続法の違いの理解) 14 秋学期まとめ(古典ギリシア語習得の意義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱa) 古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講義は、一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的としています。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、そして文章理解を、一語一語かつ一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容理解や解説を丁寧にゆっくり、かつじっくり取り組むよう心掛けます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたいと考えています。 <講義概要> 毎回、楽しい読み物(『イソップ物語』『人さまざま』など)のごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの手書き、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識(中・受動相、分詞の用法など)、裏話やエピソード、関連する映像などさまざまな工夫をこらして授業を進めていきます。後半、慣れてきたら、古典作品の原典の一部の読解や大理石碑文の読解にも挑戦してみましょう。出席は毎回心掛けて下さい。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしもそれにこだわりません。		1 はじめに (辞書の引き方、ノートの作り方の指導) 2 『イソップ物語』の機知と教訓 (アイソーボスの知恵) にわとりと泥棒(その1) 3 にわとりと泥棒(その2) 4 にわとりと泥棒(その3) 5 亀とそのねぐら(その1) 6 亀とそのねぐら(その2) 7 亀とそのねぐら(その3) 8 狼の叫び(その1) 9 狼の叫び(その2) 10 狼の叫び(その3) 11 ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より 12 ギリシア大理石碑文より(その1) 13 ギリシア大理石碑文より(その2) 14 春学期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、プリントを配布します。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介します。		毎回の出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行ないます(平常点評価)。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱb) 古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1 『人さまざま』の人間類型の面白さ (テオフラストスの鋭い人間観察) おべっか使い(その1) 2 おべっか使い(その2) 3 おべっか使い(その3) 4 不平たらたら(その1) 5 不平たらたら(その2) 6 不平たらたら(その3) 7 信用できない人(その1) 8 信用できない人(その2) 9 信用できない人(その3) 10 クセノポン、ヘロドトスの諸作品より(その1) 11 クセノポン、ヘロドトスの諸作品より(その2) 12 プラトン『ソクラテスの弁明』より 13 アリストテレス『政治学』より 14 秋学期まとめ (古典ギリシア語習得の意義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(ラテン語I a) ラテン語I a	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン語とは今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したもののなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語(そしてギリシア語)の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課題ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。		I. 文字と発音、アクセント II. 規則動詞の現在形 III. 第一・第二変化名詞 IV. 第一・第二変化形容詞 V. 第一・第二変化名詞および形容詞 ---その2--- VI. 未完了過去形 VII. 未来形 VIII. 不定詞 IX. 第三変化名詞および形容詞 X. 第三変化名詞および形容詞 ---その2--- XI. 過去完了形 XII. 未来完了形 XIII. 規則動詞の受動態 XIV. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ラテン語初歩』改訂版 田中利光著 岩波書店		毎回、添削を20点満点で評価し、平均して6割(12点)を合格の最低ラインとします。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(ラテン語I b) ラテン語I b	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。ただし、秋学期から受講するという場合は、春学期で学ぶ内容を終えている必要があります。		I. 受動態の未完了過去形および未来形 II. 動詞の過去形 III. 過去形の受動態 IV. 過去完了形および未来完了形の受動態 V. 第四および第五変化名詞 VI. デポネンティア VII. 代名詞 VIII. 疑問代名詞 IX. 不定代名詞 X. 非人称動詞および分詞 XI. 比較級 XII. 動名詞 XIII. 動形容詞 XIV. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じです。		春学期と同じです。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(ラテン語Ⅱa) ラテン語Ⅱa	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。		左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。いわゆる古典期と呼ばれる時代の作品を考えていますが、最初の授業で決めたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原典はプリントを配布します。また、辞書は『羅和辞典』（田中秀央著、研究者）を用意して下さい。また、ラテン語Ⅰで使った教科書を参考書とします。		平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(ラテン語Ⅱb) ラテン語Ⅱb	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
上記のとおりです。		上記の通りです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の通りです。		上記の通りです。	

08年度 07年度以前	日本語(総合 IAa)/ 日本語(総合 IBa)/ 日本語(総合 ICa) 日本語 Ia	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースは、タイトルにもあるように日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修上において必要とされる日本語力を向上させるためのものである。週3コマで構成されており、この3コマは1セットで、連続して履修しなければならない。 授業内容は以下のとおりである。 ①プレゼンテーション： 具体的な方法を学んだ後、学期中少なくとも2回は、プレゼンテーションを準備し、発表する。 ②読解：読解教材は、トピックに基づき本、雑誌、新聞等から抜粋した生教材で構成される。内容理解はもちろん文中の表現、語彙を学習し、豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ③作文：作文の課題は各トピック毎に宿題として課されるが、コースでは文献からの引用の仕方について学習した上で、レポート作成の具体的な指導を行なう。 語学教育においては、予習、復習が重要であることは当然であるが、3コマ1セットになっている本コースでは、出席を非常に重視している。また、宿題等についても指定された期日を厳守しなければならない。		読解教材：1つのトピックには、4～5コマが当てられる。 1. [若者のライフスタイル] 2. 「高齢化・少子化」 3. 「起業」 4. 「医療問題」 各トピック修了時にテストがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
①テキスト： プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。		①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度 ③宿題 ④プレゼンテーション	

08年度 07年度以前	日本語(総合 IAb)/ 日本語(総合 IBb)/ 日本語(総合 ICb) 日本語 Ib	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		読解教材：1つのトピックには、4～5コマが当てられる。 トピックについては多少の変更あり。 1. 「食文化・食生活」 2. 「日本を知る」 3. 「情報化社会」 4. 「国際社会」 各トピック修了時にテストがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
①テキスト： プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。		①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度 ③宿題 ④プレゼンテーション	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	斎藤 明
講義目的、講義概要		授業計画	
〔1〕教材 公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。 〔2〕授業のねらい 外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したもののためにより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。 〔3〕教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。 〔4〕その他 この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置される。		1 文書と文章1 文章を書くとはどういうことか 2 文書と文章2 文章の種類 3 文書と文章3 文書の形式 4 文書と文章4 文書の役割と目標 5 文書と文章5 主題と与えられた課題 6 文書と文章6 材料 参考書 メモ カード チャート 7 表記の技術1 現代仮名遣い 常用漢字 送りがな 8 表記の技術2 地名 人名 数字 記号 9 表記の技術3 図表 写真 10 表記の技術4 原稿用紙 レポート用紙 ワープロ 11 表記の技術5 訂正 校正 12 文章の構造1 文章の構成法 13 文章の構造2 記述の順序 14 文章の構造3 序論 本論 結論	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時間中に指示する。		文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。 前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	斎藤 明
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		15 表現と論理1 表現の方法 16 表現と論理2 論理の展開 17 表現と論理3 題目 要約 キーワード 18 表現と論理4 文章の流れ 19 表現と論理5 ディスコース パラグラフ 段落 20 表現と論理 弁証法 21 表現と論理 序破急 22 事実と意見1 事実とはなにか 23 事実と意見2 意見とはなにか 24 わかりやすさ1 明確な主張 25 わかりやすさ2 簡潔な表現 26 わかりやすさ3 句や節の接続 27 わかりやすさ4 破格文 ねじれ文 28 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	江添 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
【 目的 】 これから皆さんは専門のゼミに入り、発表したり日本人教官や学生とディスカッションしたりする機会が増えると思います。この授業では、それらの機会に対応できる力を養うことを目標とします。 【 概要 】 事前に発表資料の作り方・発表のしかたについて学んだ後で、自分の興味ある新聞記事について発表してもらいます。発表と質疑応答が終わった後は、全員でディスカッションをします。発表・質疑応答の様子はビデオにとって、よりよい発表ができるように指導します。 はじめに練習のための発表（1回目—発表・質疑応答）を行い、ビデオでの指導を受けたあと、もう一度同じ発表（2回目—発表・質疑応答・ディスカッション）をしてもらいます。そのときにもビデオ録画し、改善されているかどうか確かめます。		1. 発表までのプロセス・新聞記事の要約のしかた 2. 自分たちの記事の要約を作る 3. 新聞記事の発表の構成・ハンドアウトの作り方 4. 自分たちの記事のハンドアウトを作る 5. 発表のしかた 6. 質疑応答のしかた・発表メモ作り 7. 発表の練習 8. 1回目の発表・質疑応答（1人15分） 9. 1回目の発表・質疑応答（1人15分） 10. 2回目の発表のための個別指導 11. 2回目の発表のための個別指導 12. 2回目の発表・質疑応答・ディスカッション（1人30分） 13. 2回目の発表・質疑応答・ディスカッション（1人30分） 14. 2回目の発表・質疑応答・ディスカッション（1人30分）	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教官配布のプリント		出席 14%、提出物 20%、発表 50%、授業への参加等 16%	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	坂谷 佳子								
講義目的、講義概要		授業計画									
講義目的：現在上級レベルの日本語能力ではあるが、さらにより話し手・聞き手として日本語でコミュニケーションができるようになりたいと考えている留学生のためのクラスです。そんなあなたが克服すべき点を少しずつ認識させ、様々な話題について、論理的で説得力のある意見を表明したり、複雑な物の描写や説明をしたり、場面や相手に応じた効果的な話し方をしたりできる等の言語運用能力のステップアップを目標にして展開していきます。 講義概要：教師が一方向的に講義を行うのではなく、ペアワーク・グループワーク・発表など、学生の皆さんが主体になり、講義が進められていきます。ある程度のクラス外での予習・復習・準備を前提とし、以下の流れで学んでいきます。 ・様々な話題について、話す内容と順序の意識化 ・話題にふさわしい語彙や表現の学習 ・上記を基に準備と発表・課題の提出		1. 授業についてオリエンテーション等 2.～14. 話題1～12の提示・活動・発表 （主な内容例） ①社会的・専門的な話題の詳細な説明、描写をする ②相手との関係を損なうことなく相手の意見に反論したり、裏付けを伴った意見を述べたりする ③相手に配慮しながら、説得・助言・交渉をする ※ 授業計画は学生の皆さんの要望や状況に応じて変更する場合があります。									
テキスト、参考文献		評価方法									
開講後指示します。		<table> <tr> <td>まとめの活動（発表）</td><td>35%</td><td>毎回の課題の提出と達成度</td><td>20%</td></tr> <tr> <td>授業での参加度</td><td>15%</td><td>出席率</td><td>30%</td></tr> </table>		まとめの活動（発表）	35%	毎回の課題の提出と達成度	20%	授業での参加度	15%	出席率	30%
まとめの活動（発表）	35%	毎回の課題の提出と達成度	20%								
授業での参加度	15%	出席率	30%								

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
さまざまな文章を読むことにより、情報の集め方が上手くなる方法、情報ソースの広げ方が上手くなる方法を搜していく。 読む文章の材料としては、新聞、ニュース週刊誌、市販されている単行本などを対象とし、出席者の意見も確認しながら、多読による情報収集を訓練する。		1 情報収集を文字から得る必要性 2 何を読めば情報通になるか 3 同じ情報を異種の新聞で確認してみる(1) 4 同じ情報を異種の新聞で確認してみる(2) 5 同じ情報を異種の雑誌で確認してみる(1) 6 同じ情報を異種の雑誌で確認してみる(2) 7 ベストセラーの動向を探る 8 ベストセラーからどんな情報が読みとれるか 9 ベストセラーに挑戦してみる(1) 10 ベストセラーに挑戦してみる(2) 11 ベストセラーを分析してみる(1) 12 ベストセラーを分析してみる(2) 13 情報を得る技術をまとめる 14 情報を得る技術を使ってみる	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回生データ、生文章を用意する。		出席 70% 授業への参加 30%	

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
収集した情報をいかにしたら的確に人に伝達できるかについて考えていく。このために「仕事の文章」とはどのようなものを学んでいく。 いわゆるうまい文章、的確ではあるが結論が分からない文章、簡潔にして分かりやすい文章などを実読してことから、簡潔な分かりやすい文章で情報を伝える術に習熟していく。		1 伝達(1) 歯切れ良く 2 伝達(2) 簡潔に 3 伝達(3) 分かりやすく 4 伝達(4) 大きな心で 5 受信(1) 長すぎる文ではないか 6 受信(2) 指標がうまく働いているか 7 受信(3) 正しい要約になっているか 8 受信(4) 情報が受け止められたか 9 話題を提供するとはどういうことか 10 意見を提示するとはどういうことか 11 根拠を提示するとはどういうことか 12 結論はまとめられるものなのか 13 伝達の背景にあるものを自覚しよう 14 発信者にも受信者にもなった経験を示そう	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席 70% 授業参加 30%	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	岩沢 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
言語文化学科以外の留学生を対象とし、日本語での情報・資料収集の力がつくよう学習していく。 この授業を選択する学生は、専門の勉学に多くの時間をさかれ、現実におこっている日本や世界の出来事、抱える問題等に接する機会が少ないことが多々ある。そのような学生に対して、日本語で情報を得、理解し、背景を考え、意見を言えるような技術・日本語力を高める授業を考えている。 取り扱う内容・教材に関しては、学生の要望も考慮し、選ぶ。		①オリエンテーション ②新聞記事から - 新聞記事1 - 新聞記事2 - 新聞記事3 - 新聞記事4 - 雑誌1 - 雑誌2 - 雑誌3 - 雑誌4 - 雑誌1 - 専門誌2 - 専門誌3 - 専門誌4 - 専門誌5	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布予定。		- 授業参加度 - 担当部分の準備と実践 - 出席 - テスト	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	野村 美知子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的、講義概要 授業計画 〔講義目的〕 新聞記事・録画ビデオ等により現代日本事情及び世界事情に関する知識を増やすとともに、そのテーマについて各自意見を整理し、口頭で、また文章で表現できるように練習する。 〔講義概要〕 新聞記事・録画ビデオ等を使用し、はじめは教師が共通のテーマを提示、学生はその課題についてさらに自分で調べ、レポートにまとめ、レジュメを作成して発表する。次の段階では、各自がテーマを選び、同様のことを学生主体で行う。		- 授業についてのガイダンス 等 - 課題提示（ビデオ）、レジュメ作成練習 - 課題提示（新聞）、レジュメ作成練習 - レポート課題提示、レポート作成の手順説明 - レポート作成経過報告 - グループ内発表、レジュメ・小レポート提出 - フィードバック - 課題提示（ビデオ） - 課題提示（新聞記事） - 課題提示（ビデオ） - 課題提示（新聞記事） - レポート作成経過報告 - プレゼンテーション、レジュメ・レポート提出 - フィードバック	
テキスト、参考文献		評価方法	
清水明美・他著『Practical 日本語 文章表現編——成功する型——』おうふう		・課題提出、授業での発表 ・出席状況、授業への参加度・取り組み姿勢	